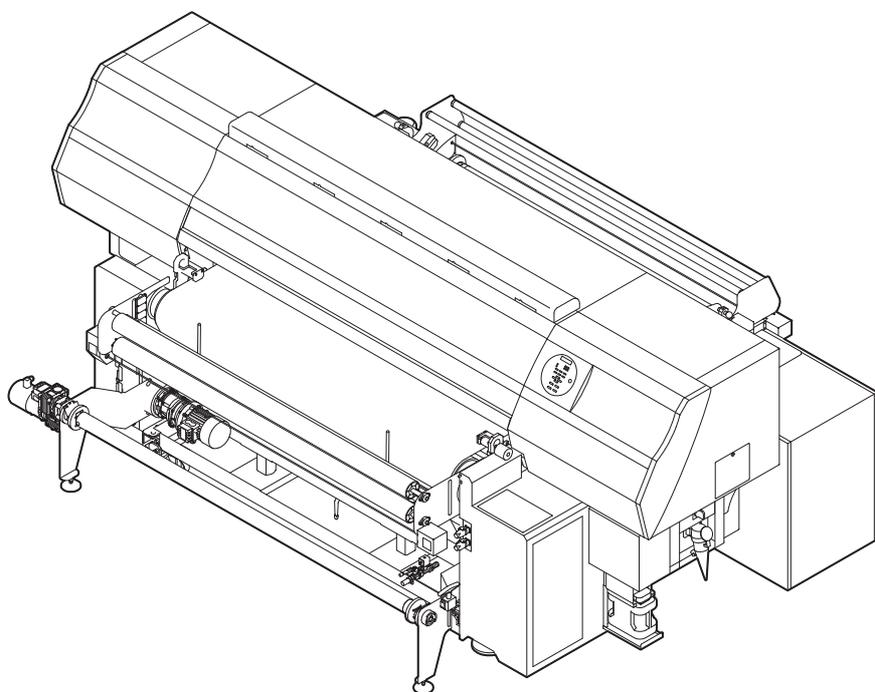


カラーインクジェットプリンタ

Tx500-1800B**取扱説明書**

取扱説明書の最新版は、弊社ホームページからもダウンロードできます。

目次

ご注意	v
ご注意	v
おねがい	v
電波障害自主規制	v
テレビ/ラジオの受信障害について	v
はじめに	vi
取扱説明書について	vi
安全にお使いいただくために	vii
マーク表示について	vii
安全インターロックについて	xi
非常停止スイッチについて	xii

第1章 ご使用の前に

本装置の設置について	1-2
設置場所について	1-2
使用環境温度について	1-2
装置の固定について	1-3
本装置の移動	1-3
各部の名称とはたらきについて	1-4
装置前面	1-4
装置背面/側面	1-5
操作パネル	1-6
操作タッチパネル	1-7
操作パネル(メディア搬送部 前面)	1-8
操作パネル(メディア搬送部 背面)	1-9
メディア搬送部電源	1-9
キャリッジ	1-10
表示灯	1-10
キャッピングステーション	1-10
セットアップをする	1-11
メディア搬送部のセットアップ	1-11
ケーブルを接続する	1-15
USB2.0 インターフェイスケーブルを接続する	1-15
電源ケーブルの接続について	1-16
インクボトルをセットする	1-17
インクについて	1-22
インクの種類	1-22
インクボトル取り扱い上のご注意	1-22
メディアについて	1-23
使用可能なメディアについて	1-23
使用可能な布と取り扱いについて	1-23
使用制限のあるメディアについて	1-23

第2章 基本的な使い方

作業の流れ	2-2
電源を入れる/切る	2-3
電源を入れる	2-3
電源を切る	2-5
自動機能	2-6

補助機能	2-7
センタリング機能のオン/オフを切り替える	2-7
メディア検出機能のオン/オフを切り替える	2-8
ベルト洗浄のオン/オフを切り替える	2-9
エアブレードのオン/オフを切り替える	2-9
ベルトヒータのオン/オフを切り替える	2-10
メディアをセットする	2-11
最大プリントエリアについて	2-11
メディアセットに関する注意事項	2-11
メディアセットの概要	2-12
メディア経路について	2-12
布巻きローラを取り付ける	2-13
メディアを繰り出す	2-15
メディアを巻き取る	2-21
ヘッドギャップを設定する	2-23
メディアを検出する	2-24
原点を変更する場合は	2-25
オプションヒータ MTA-190 を使用する場合	2-26
ヒータ使用時の注意事項	2-26
電源を入れる	2-27
電源を切る	2-27
ヒータの角度を調整する	2-28
ヒータの温度を調整する	2-29
テストフィードをする	2-30
テストプリントをする	2-31
テストプリントを行う	2-32
ヘッドクリーニング	2-33
ヘッドクリーニングについて	2-33
テストプリントの結果に合わせてヘッドクリーニングを行う	2-33
メディアの送りを設定する	2-34
フィード補正の設定	2-34
双方向プリントのドット位置を調整する	2-36
データをプリントする	2-38
プリントを開始する	2-38
プリントを中断する	2-39
受信したデータを消去する (データクリア)	2-39

第3章 便利な使い方

設定機能一覧表	3-2
ロジカルシークの設定をする	3-3
乾燥時間の設定をする	3-4
パス間のシマを軽減する設定をする	3-5
メディア送り量を変更して画質を向上させる	3-7
オートクリーニングの設定をする	3-8
ノズル面の清掃頻度を設定する	3-9
その他の設定	3-10
マシン設定	3-11
オートパワーオフの設定をする	3-13
メディア残量表示の設定をする	3-14
ジコクの設定をする	3-16
タンイの設定をする	3-17
キープザーの設定をする	3-18

使用ヘッドラインを選択する	3-19
言語の設定をする	3-20
メディアケンシュツの設定をする	3-21
乾燥フィードの設定をする	3-22
確認フィードの設定をする	3-23
余白部分のフィード方式を設定する	3-24
ネットワークの設定をする	3-25
イベントメール機能の設定	3-27
設定ロックの設定をする	3-37
設定した内容を初期状態に戻す	3-39
装置情報を確認する	3-40
装置の使用状況を確認する	3-40
装置のバージョン情報を確認する	3-42
本機の情報を表示する	3-43

第4章 お手入れ

日常のお手入れ	4-2
お手入れ上のご注意	4-2
メンテナンス洗浄液について	4-2
外装のお手入れ	4-3
メディアセンサーの清掃	4-3
長期間使用しないときは	4-4
本機を2日間使用しない場合(週末など)	4-4
本機を3日以上使用しない場合	4-5
長期間使用しなかった後に本機を使うときは	4-5
キャッピングステーションのメンテナンス	4-6
ワイパーとキャップの清掃	4-6
ワイパーインク受けの清掃	4-9
インク排出路の洗浄(ハイロセンジョウ)	4-11
長期間使用しない場合(ホカンセンジョウ)	4-12
ヘッド周辺の清掃	4-15
ノズル詰まりが復旧しない場合	4-17
ヘッドノズルの洗浄	4-17
ノズル抜けが直らないとき、かわりのノズルでプリントする	4-19
オートメンテナンス機能	4-23
リフレッシュ間隔を設定する	4-23
クリーニング間隔を設定する	4-24
Yモーターの清掃	4-25
消耗品の交換	4-26
ワイパーを交換する	4-26
廃インクタンク確認メッセージが表示されたら	4-27
洗浄ユニットの清掃	4-29
引き剥がしセンサのクリーニング	4-30
地張り剤の接着力が弱くなったら	4-31
地張り剤を塗り直す前に必ずご確認ください	4-32
弱くなった地張り剤を剥がす	4-34
新しい地張り剤を塗布する	4-38

第5章 困ったときは

故障?と思う前に	5-2
電源が入らない	5-2
プリントできない	5-2
メディアに問題が発生したときは	5-3
画質不良が発生したときは	5-3
ノズル詰まりを解消したいとき	5-4
インクボトルに異常が発生したら	5-4
サブタンク関連のエラー(エラー 618 ~ 61b)が発生したら	5-5
インクの混色や空気混入によるノズル抜けが発生したら	5-6
圧力異常が発生したら	5-8
ヘッド故障エラーを表示したら	5-10
メッセージを表示するトラブル	5-12
ワーニングメッセージ	5-12
エラーメッセージ	5-15

第6章 付録

仕様	6-2
本体仕様	6-2
インク仕様	6-3
インク種によるセットの違いについて	6-4
インクボトルのセット順	6-4
お問い合わせシート	6-5
警告ラベルについて	6-6
機能フローチャート	6-8

ご注意

株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。

また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。

一例として、本製品を使用したメディア等の損失や、作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。

本装置を使用したことによる金銭上の損害および逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

おねがい

- この取扱説明書は、内容について十分注意しておりますが、万一ご不審な点などがありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- この取扱説明書は、改良のため予告なく変更する場合があります。

電波障害自主規制

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

テレビ/ラジオの受信障害について

本装置は、使用時に高周波が発生します。このため、本装置が不適切な条件下で設置または使用した場合、ラジオやテレビの受信障害を発生する可能性があります。したがって特殊なラジオ/テレビに対しては保証しておりません。

本装置がラジオ/テレビ受信の障害原因と思われる場合は、本装置の電源を切り、ご確認ください。電源を切り受信障害が解消すれば、本製品が原因と考えられます。

次の手順のいずれか、またはいくつかを組み合わせることでお試しください。

- テレビやラジオのアンテナの向きを変え、受信障害の発生しない位置をさがしてください。
- この製品から離れた場所にテレビやラジオを設置してください。
- この製品とは別の電源供給路にあるコンセントにテレビやラジオを接続してください。

この度は、カラー インクジェットプリンタ Tx500 シリーズ をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。 「Tx500-1800B」は、捺染インクでプリントする、高速・高画質に対応したカラーインクジェットプリンタです。

取扱説明書について

- 本書は、「カラーインクジェットプリンタ Tx500-1800B」（以後本装置と称します）の操作やメンテナンスなどの取り扱いについて説明いたします。
- 本書をお読みになり、十分理解してからお使いください。また、本書をいつも手元に置いてお使いください。
- 本書は、本装置をお使いになる担当者のお手元に確実に届くようお取りはからいください。
- 本書は、内容について十分注意して作成していますが、万一不審な点がありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- 本書は、改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。
- 取扱説明書の最新版は、弊社ホームページからもダウンロードできます。

安全にお使いいただくために

マーク表示について

本書では、マーク表示により操作上の注意内容を説明しています。注意内容により表示するマークは異なります。各マーク表示の持つ意味をご理解し、本装置を安全に正しくお使いください。

マーク表示の例

内 容	
	「警告」マークは、指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。必ずよくお読みになり、正しくお使いください。
	「注意」マークは、指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。
	「重要」マークは、本装置をお使いいただく上で、知っておいていただきたい内容が書かれています。操作の参考にしてください。
	「ヒント」マークは、知っておくと便利なことが書かれています。操作の参考にしてください。
	関連した内容の参照ページを示しています。
	△マークは、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。中に具体的な注意事項（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。具体的な指示内容がある場合は、⊘記号の中や近傍に図示しています。
	●記号は、行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。具体的な指示内容がある場合は、●記号の中に図示しています。

使用上の警告

 警告

- ・換気の悪い部屋、または密閉された部屋で使用しないでください。
- ・付属の電源ケーブルを使用してください。
- ・電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重い物をのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源ケーブルが破損し、火災・感電の原因になります。
- ・表示された電源仕様で使用してください。本装置の電源電圧は、3相 AC380 ~ 420V 20A 以下です。(100V系では、使用できません。)
- ・湿気の多い場所の使用や、装置に水をかけないでください。火災や感電、故障の原因になります。
- ・万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常事態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに、電源スイッチをオフにして、その後必ず配電盤のブレーカーをオフにしてください。煙が出なくなるのを確認してから、販売店または弊社営業所に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。
- ・本装置やインクボトルの分解・改造は、絶対にしないでください。感電や故障の原因になります。
- ・ベルトのヒーターにホコリやゴミ等が付着しないようにしてください。発火、火災の原因になります。
- ・湿気の多い場所の使用や、装置に水をかけないでください。火災や感電、故障の原因になります。
- ・危険な可動部に、指や体の他の部分を近づけないでください。

使用上のご注意

 注意

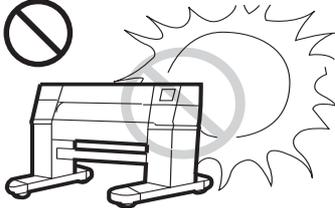
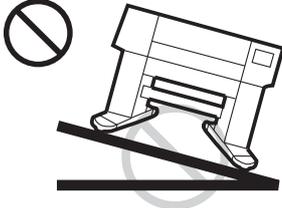
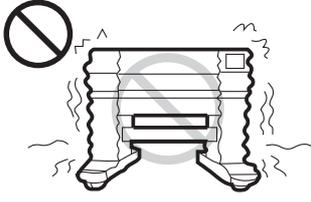
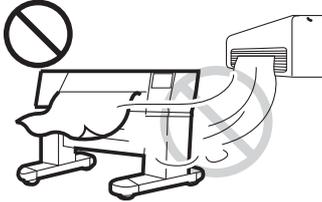
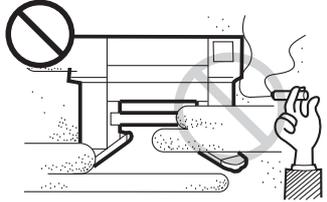
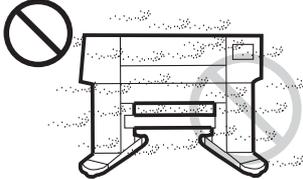
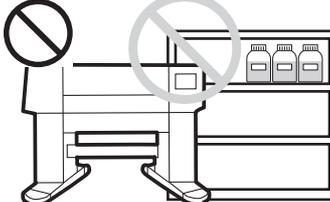
電源供給について	電源ケーブルについて
 <ul style="list-style-type: none"> ・ブレーカーは常時 ON にしておいてください。 ・側面にある主電源スイッチはOFF にしないでください。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・付属の電源ケーブルを使用してください。 ・電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重い物をのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源ケーブルが破損し、火災・感電の原因になります。
ヒーターについて	インクの取り扱い
 <ul style="list-style-type: none"> ・ベルトヒーター上に液体をかけないでください。ヒーターの故障や発火の原因になります。 ・ベルトヒーターが熱いうちに素手で触らないでください。火傷の原因になります。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・万一、インクが目に入った場合は、直ちに大量の清浄な水で15分以上洗い流し、まぶたの裏まで完全に洗い流してください。また、できるだけ早く医師の診察を受けてください。 ・誤ってインクを飲み込んだ場合は、安静にして直ちに医師の診察を受けてください。嘔吐物は、飲み込ませないでください。その後、毒物管理センターに連絡してください。 ・蒸気を大量に吸い込んで気分が悪くなった場合は、直ちに空気の新鮮な場所に移り、暖かくして安静にしてください。また、直ちに医師の診察を受けてください。
メンテナンス上の注意	
 <ul style="list-style-type: none"> ・外部インク供給ユニットやヘッドを清掃する際は、必ず付属の手袋を着用してください。 	

ご注意とお願い

 警 告	
インクボトルの取り扱い <ul style="list-style-type: none"> • Tx500 専用インクをお使いください。専用インク以外を使用して故障した場合の修理は、お客様の負担になりますのでご了承ください。 • Tx500 専用インク以外のインクを使用すると、装置保護のため、動作しません。 • Tx500 専用のインクは、他のプリンタで使用しないでください。プリンタが壊れます。 • ボトル内のインクを詰め替えないでください。 • インクボトルを寒い所から暖かい所に移した場合は、3 時間以上室温環境下に放置してから使用してください。 • インクボトルは、取付直前に開封してください。開封した状態で長時間放置しておくと、正常にプリントできない場合があります。 • インクボトルは、冷暗所で保存してください。 • インクボトルや廃インクタンクは、子供の手の届かない場所に保管してください。 • インクボトルは、開封してから 3 カ月以内に使い切ってください。開封後、長時間経過したものは、プリント品質が低下します。 • インクボトルを強くたたいたり、激しく振り回さないでください。ボトルからインクが漏れる場合があります。 • IC チップの基板接点部分は、手で触れたり、汚したりしないでください。基板の故障の原因になります。 • 空になったインクボトル・廃インクは、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください 	フロントカバーについて <ul style="list-style-type: none"> • プリント中にフロントカバーを開けないでください。プリントが終了してしまいます。 メディアの取り扱い <ul style="list-style-type: none"> • 推奨メディアをご使用ください。安定した高画質でプリントするには、弊社推奨のメディアをご使用ください。 • メディアの伸縮にご注意ください。包装を開けて間もないメディアは、使用しないでください。室内の温度や湿度によって、メディアが伸縮する場合があります。包装を開けて、使用する場所で 30 分以上さらしてから装置に取り付けてください。 • カールしたメディアは使用しないでください。カールのきついメディアは、カールを取り除いてから使用してください。プリント品質に影響を及ぼしたり、ヘッドノズル面と接触し、吐出不良の原因となります。 • メディアをセットしたまま、ヒーターオン状態で長時間放置しないでください。 メディアとホコリについて <ul style="list-style-type: none"> • メディアは袋に入れて保管してください。メディアに付着したホコリを拭き取ると、静電気により逆効果になります。 • 夜帰宅する際は、メディアをロールハンガーに掛けっぱなしにしないでください。メディアの上にホコリが付着してしまいます。

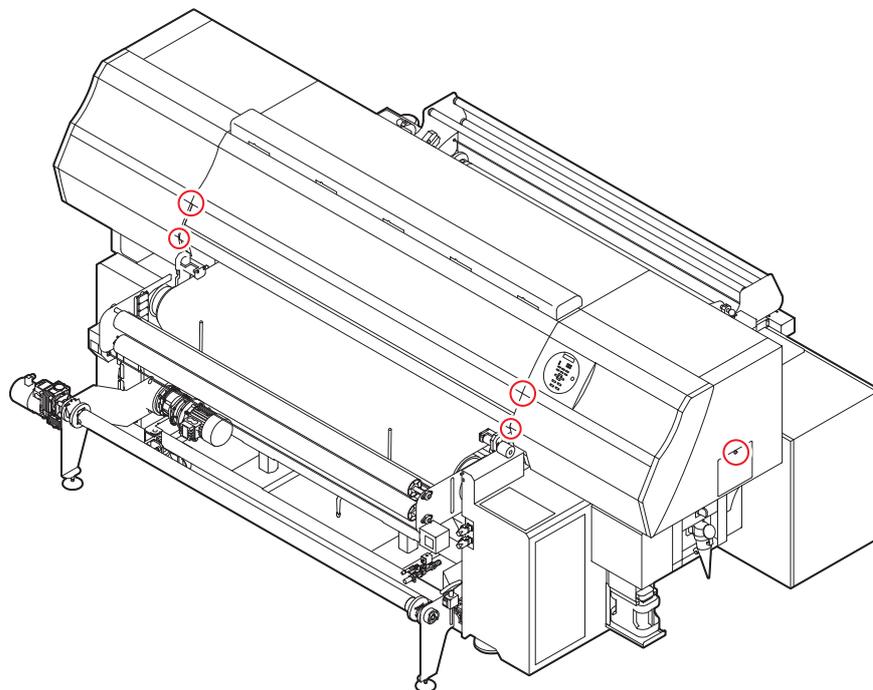
 警 告	
メンテナンス上の注意 <ul style="list-style-type: none"> • できるだけホコリの少ない部屋で利用してください。 • プリントしないときも必ずフロントカバーは閉めておいてください。ホコリがヘッドノズルに付着する原因になります。 • プリント中に、突然インクの雫がヘッドからメディアに落ちるのもホコリが原因です。この場合は、ヘッド周辺の清掃を実行してください。(P.4-15 「ヘッド周辺の清掃」) • インクステーションやヘッドをクリーニングする際は、必ず付属の手袋を着用してください。 • キャッピングステーション、およびワイパーの拭き掃除 (ホコリ、紙粉) は、こまめに行ってください。 	
定期交換部品 <ul style="list-style-type: none"> • 本装置には定期的に交換する部品があります。機材を末永くご利用いただくためにも、必ず、年間保守契約にご加入ください。 	
本装置の廃棄処分について <ul style="list-style-type: none"> • 本装置を廃棄する際は、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。 • 各地域の自治体の法律に基づき、適切に処理を行ってください。 	

設置上のご注意

 注 意		
直射日光が当たる場所	水平でない場所	温度や湿度の変化が激しい場所
		 <ul style="list-style-type: none"> • 次の環境下でお使いください。 • 使用環境： 20 ~ 30 °C (68°F ~ 86°F) 35 ~ 65 % (Rh)
振動が発生する場所	エアコンなどの風が直接当たる場所	火を使う場所
		
埃が多い場所	周囲に化学薬品がある場所	
		

安全インターロックについて

本機は安全のため、プリント中などにカバーが開いた場合に動作を中断させるためのインターロックがついています。(下図の赤丸部分)



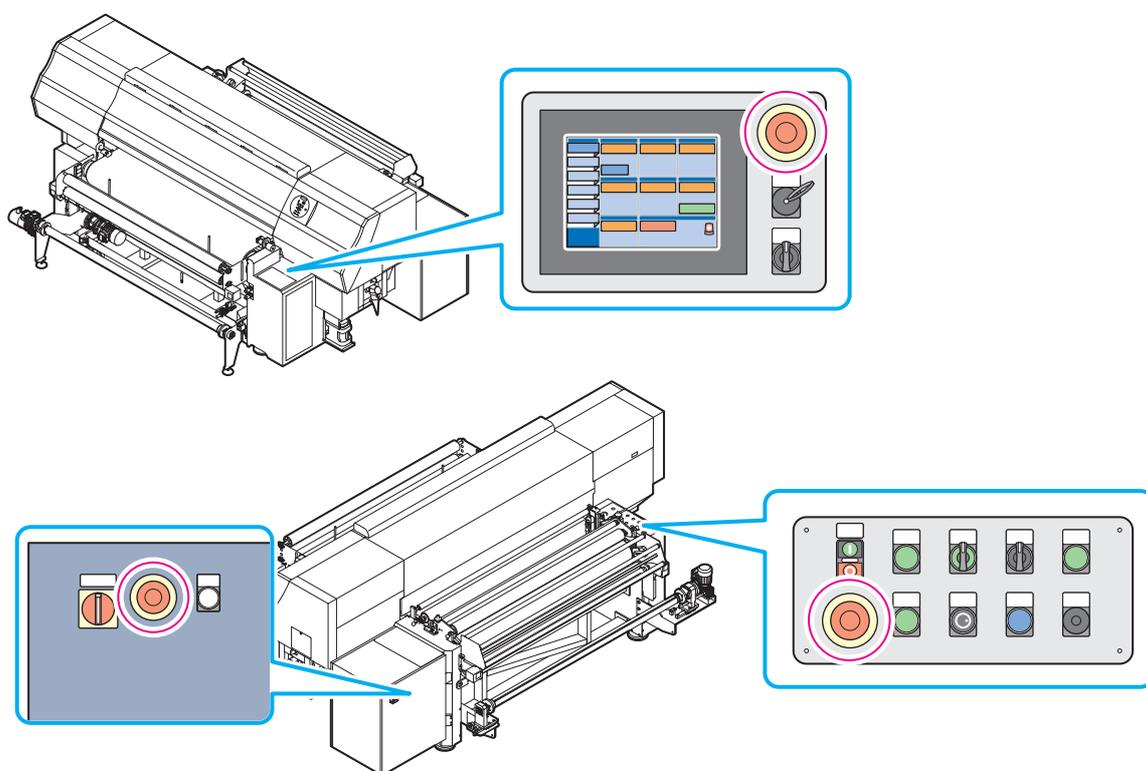
非常停止スイッチについて

安全上の理由で、本機を緊急停止したいときに使います。
非常停止スイッチには、「押しボタン式」と「ワイヤー式」の2通りがあります。

非常停止スイッチ(押しボタン式)の使い方

1 作業中に非常事態が起こったら、非常停止スイッチ(押しボタン式)を押す

- 押しボタン式の非常停止スイッチ(赤いスイッチ)は、メディア搬送部の操作パネル(前面/背面)に1箇所ずつとメディア搬送部電源ユニットに1箇所あります。



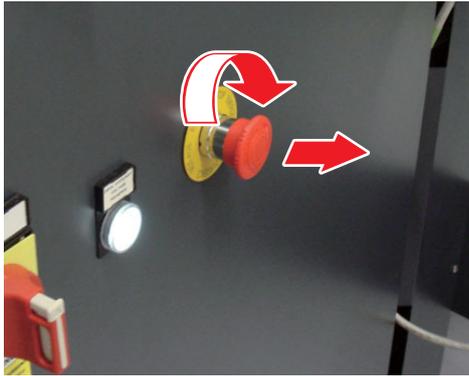
2

装置が停止してから、異常原因を取り除き安全確認を行う

3

非常停止を解除する

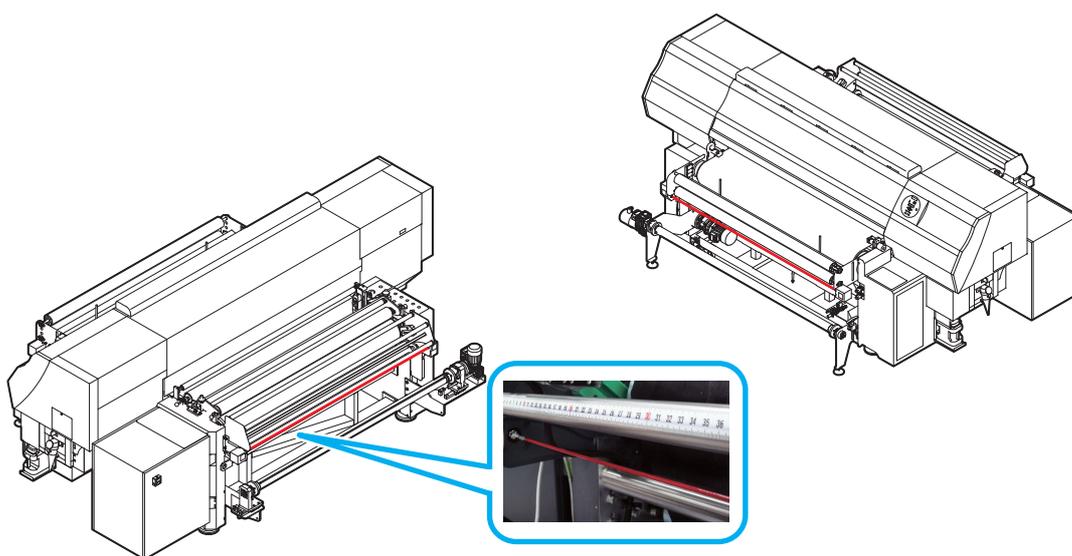
- 非常停止スイッチを回して解除してください。



非常停止スイッチ(ワイヤー式)の使い方

1 作業中に非常事態が起こったら、非常停止スイッチ(ワイヤー式)を引っ張る

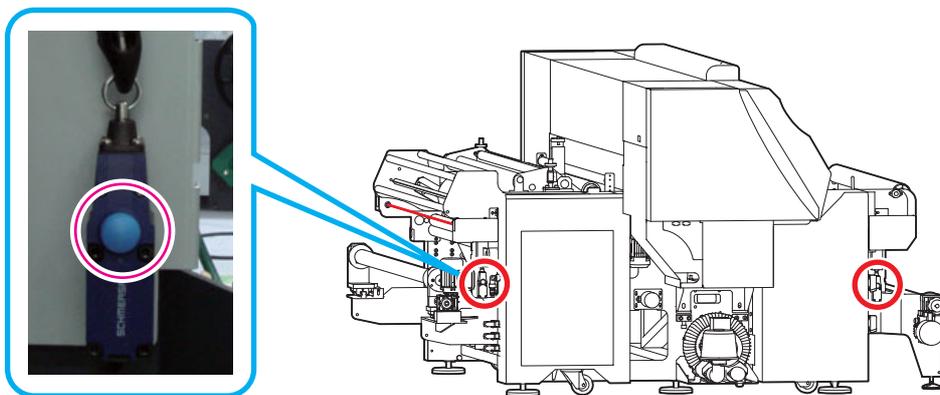
- ワイヤー式の非常停止スイッチ(赤いワイヤー)は、本体のローラー(前面/背面)に沿って取り付けられています。
- ワイヤーを引くときは、手前または下に強く引いてください。



2 装置が停止してから、異常原因を取り除き安全確認を行う

3 非常停止を解除する

- 本体の横に設置されている青いボタンを押して解除してください。



第1章 ご使用前に



この章では ...

本装置の各部の名称や設置方法など、ご使用前に知っておいていただきたいことについて説明します。

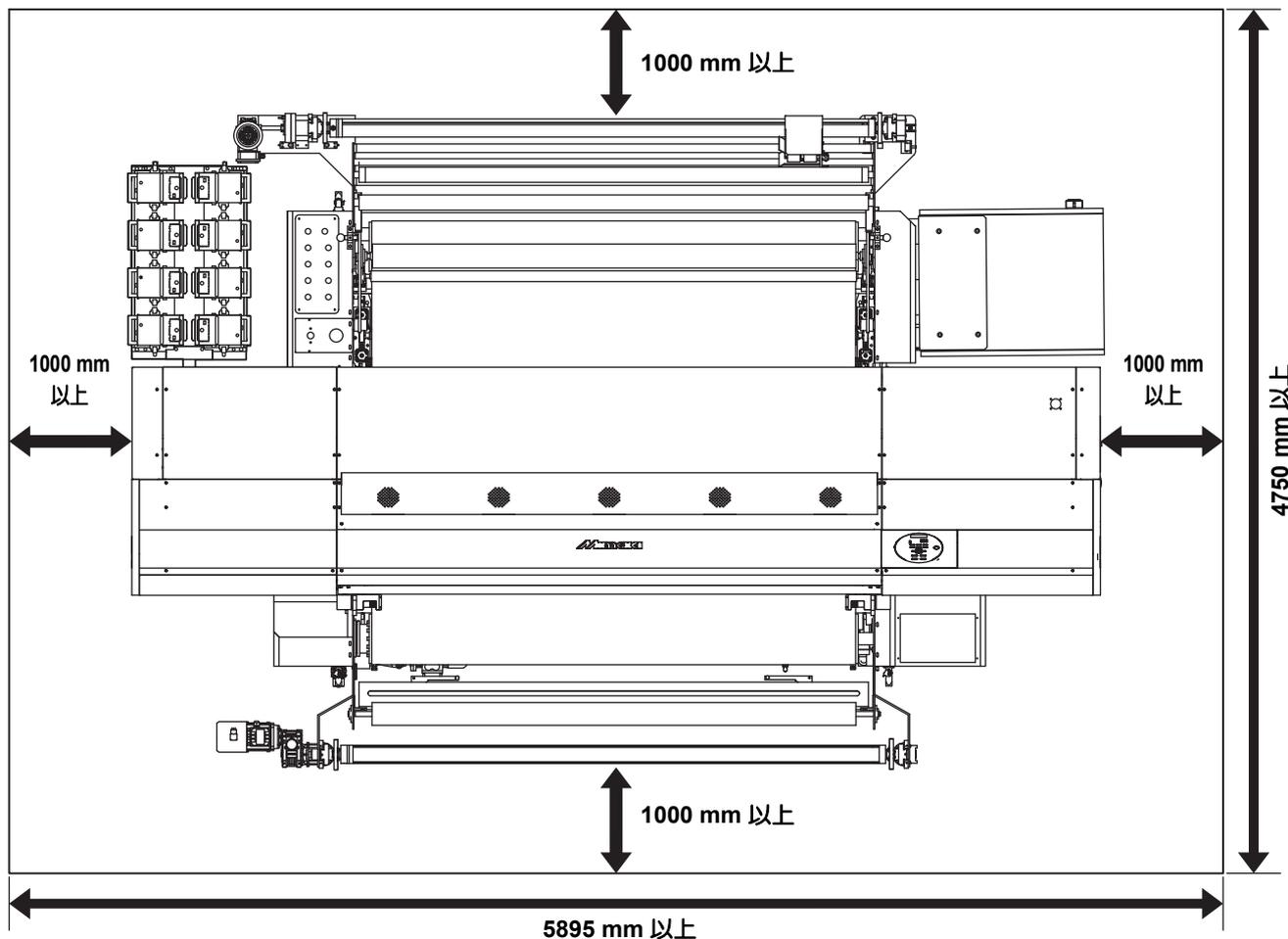
本装置の設置について	1-2	USB2.0 インターフェイスケーブルを	
設置場所について	1-2	接続する	1-15
使用環境温度について	1-2	電源ケーブルの接続について	1-16
装置の固定について	1-3	インクボトルをセットする	1-17
本装置の移動	1-3	インクについて	1-22
各部の名称とはたらきについて	1-4	インクの種類	1-22
装置前面	1-4	インクボトル取り扱い上のご注意	1-22
装置背面 / 側面	1-5	メディアについて	1-23
操作パネル	1-6	使用可能なメディアについて	1-23
操作タッチパネル	1-7	使用可能な布と取り扱いについて	1-23
操作パネル (メディア搬送部 前面)	1-8	使用制限のあるメディアについて	1-23
操作パネル (メディア搬送部 背面)	1-9		
メディア搬送部電源	1-9		
キャリッジ	1-10		
表示灯	1-10		
キャッピングステーション	1-10		
セットアップをする	1-11		
メディア搬送部のセットアップ	1-11		
ケーブルを接続する	1-15		

本装置の設置について

設置場所について

本装置を組み立てる前に、設置するスペースを確保してください。
本体の大きさとプリントのために必要なスペースを考慮して設置します。

機種	横幅	奥行き	高さ	全体重量
Tx500-1800B	3895mm	2750mm	1640mm	1840kg



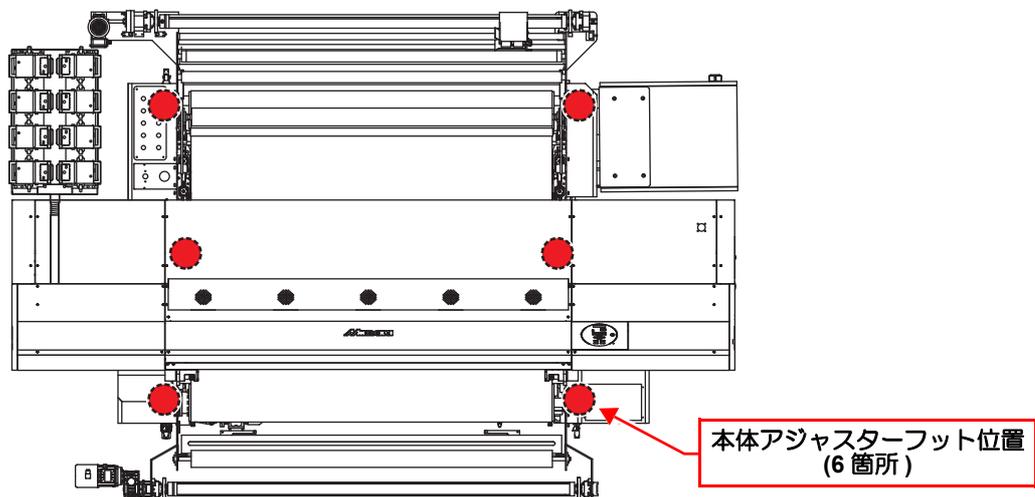
使用環境温度について

本装置は安定したプリントを行うために、20～30℃の環境でご使用ください。
周囲の温度条件により、ヒーター温度が設定値まで上昇しない場合があります。

装置の固定について

本機の脚には、装置を固定するためのアジャスターフットが付いています。本機の電源を投入する前に、必ず、本機がアジャスターフットで固定されていることを確認してください。アジャスターフットで固定されていない状態でプリントをすると、本機が動き出す場合があります。

上面図



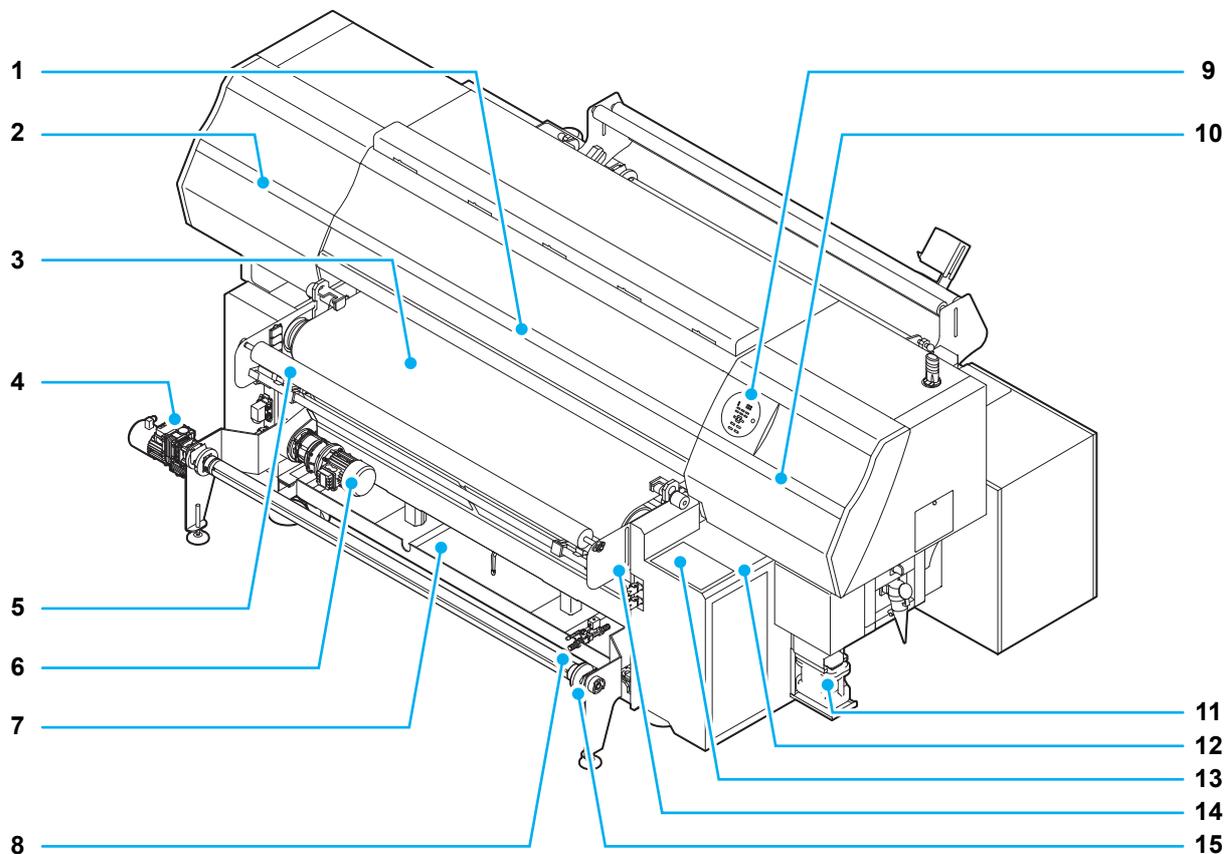
本装置の移動

重要!

- 本装置の移設の際は、弊社営業所または販売店までご連絡ください。お客様が本装置の移設を行うと、故障や破損の原因になります。本装置の移設は、必ず専門の担当者におまかせください。

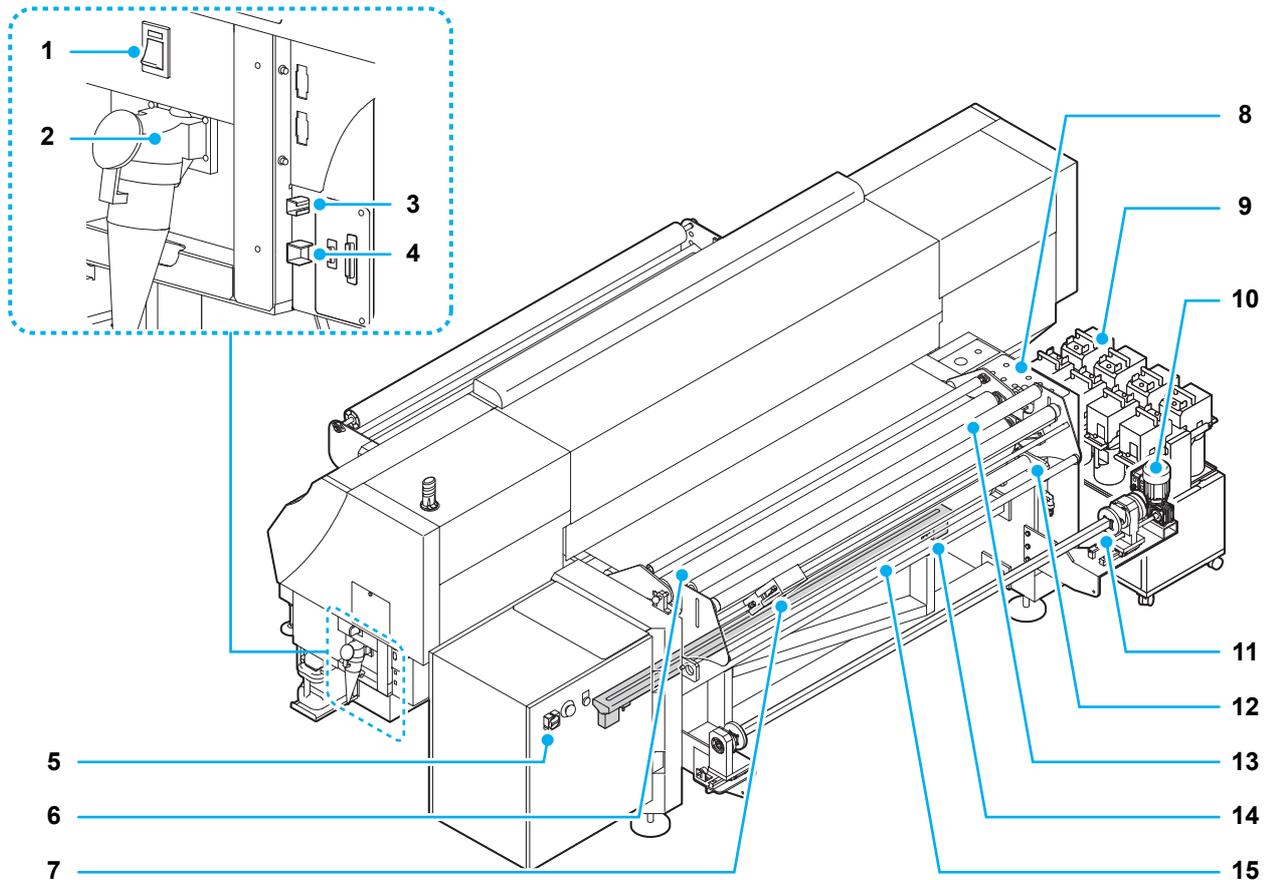
各部の名称とはたらきについて

装置前面



	名称	はたらき
(1)	フロントカバー	メディアのセット、メディア詰まりの処置およびステーション内部のメンテナンス時に開けます。電源ボタンがオフの場合でも、カバーは閉じておいてください。
(2)	左メンテナンスカバー	メンテナンス時にカバーを開けます。電源ボタンがオフの場合でも、カバーは閉じておいてください。
(3)	搬送ベルト	布を搬送します。
(4)	巻取ユニット	プリントした布を巻き取る装置です。
(5)	引き剥がしローラ	布を搬送ベルトより引き剥がします。
(6)	洗浄ブラシモータ	ベルト洗浄用ブラシを回転させます。
(7)	ベルト洗浄ユニット	ベルト表面に付着した、インク、糸くず等を水で洗浄します。
(8)	洗浄水バルブ	ベルト洗浄水を送水するバルブです。
(9)	操作パネル	本装置に必要な設定を行う操作キーや、操作項目を表示するディスプレイがあるパネルです。
(10)	右メンテナンスカバー	メンテナンス時にカバーを開けます。
(11)	廃インクタンク	廃インクを溜めるタンクです。
(12)	操作パネル(前面)	巻取装置の手動/自動での操作、及び [Emergency] ボタンがあります。
(13)	操作タッチパネル	本装置に必要な設定を行う操作キーや、操作項目を表示するパネルです。
(14)	引き剥がしセンサ	布の引き剥がし位置を監視します。
(15)	ロールホルダ	2～3インチの紙管に対応しています。

装置背面 / 側面



	名称	はたらき
(1)	プリンタ側電源	プリンタの電源スイッチです。
(2)	AC インレット	プリンタ部の電源ケーブルを接続します。
(3)	USB コネクタ	USB2.0 インターフェイスコネクタです。
(4)	LAN コネクタ	イベントメール機能をお使いになるときに使用します。
(5)	メディア搬送部側電源	メディア搬送部の電源スイッチです。
(6)	加圧ローラ	圧力を掛け、搬送ベルトにメディアを貼付けます。
(7)	センタリングセンサ / メディアエンドセンサ	メディアの巻きズレを検出し、センタリング動作に変えます。 メディアエンドをセンサで検出します。
(8)	操作パネル (背面)	センタリング機能、加圧ローラ等の手動 / 自動動作を行うことができます。 メディアセット時に、前側操作パネルまで移動せずに操作が可能になります。
(9)	外部インク供給ユニット	インクボトルをセットします。
(10)	繰出ユニット	プリント前のロールメディアを繰出す装置です。
(11)	ロールホルダ	2 ~ 3 インチの紙管に対応しています。
(12)	シワ取りローラ	布のシワを伸ばします。
(13)	布巻ローラ	搬送ベルト上に残った、水滴を吸い取ります。定期的に、巻いてある布の交換が必要です。
(14)	ベルトヒータ	ベルトを加温して、地張り剤の接着力を高めます。
(15)	エアブレード	ベルトにエアを吹き付けて、水滴を除去します。

操作パネル

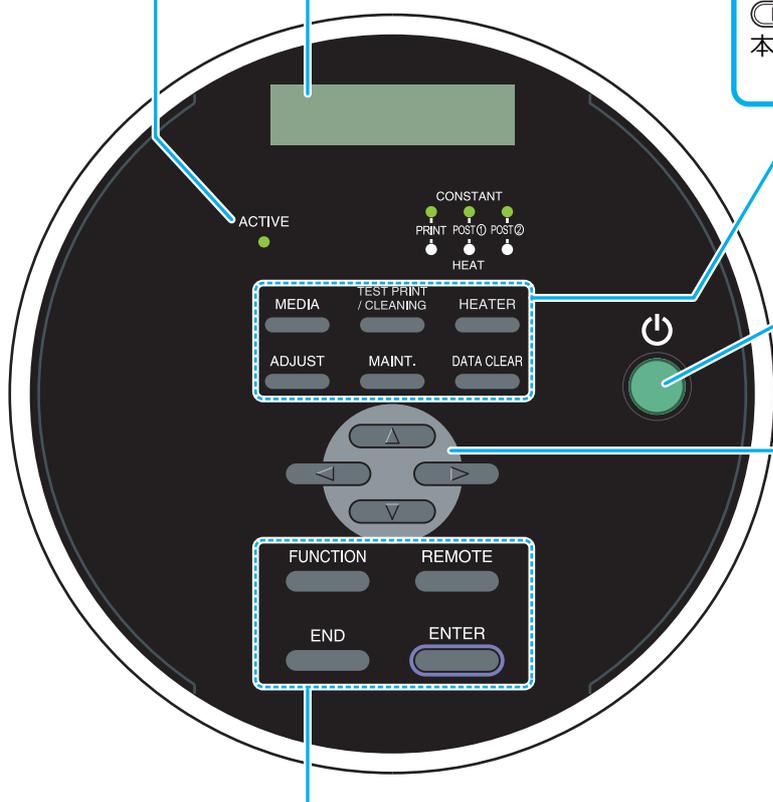
操作パネルは、プリント方法の設定、各種操作に使用します。

ACTIVE ランプ

電源をオンにすると点灯します。

ディスプレイ

本装置の状態、設定項目、エラーなどを表示します。



MEDIA キー

ヘッドギャップの設定をするときに使用します。

TEST PRINT/CLEANING キー

インク詰まりなどのプリント不良がないか確認するためにテストパターンをプリントします。また、インク詰まりを起こしている場合のヘッドのクリーニングを実行します。

ADJUST キー

ドットイチ補正、フィード補正などの調整機能を実行します。

MAINT. キー

ステーションメンテナンスなどのメンテナンス機能を実行します。

DATA CLEAR キー

本装置が受信したデータを消去します。

電源ボタン*1

本装置プリンタ部の電源をオン/オフします。

ジョグキー

ローカルモードでのヘッドやメディアの移動、プリント条件の項目選択に使用します。

FUNCTION キー

各種機能設定メニューに入ります。

END キー

直前に入力した設定のキャンセルや、設定メニューを1つ前の階層に戻す場合に使用します。

REMOTE キー

ローカルとリモートを切り替えます。

ENTER キー

1段下の階層メニューに移動する場合や、設定値の確定に使用します。

*1: 電源ボタンをオンにすると緑色に点灯し、オフにすると消灯します。主電源スイッチ (P.1-5) をオンにしておくと、電源ボタンをオフにしても定期的にインク詰まり防止動作を行います。(オートメンテナンス機能)

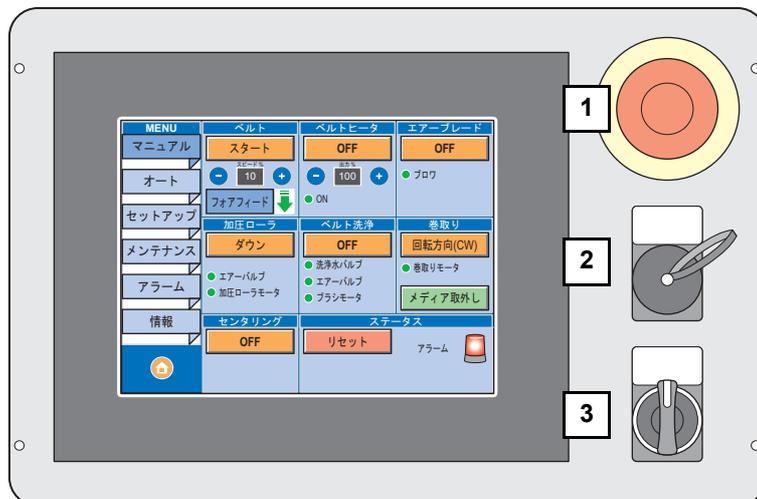
操作タッチパネル



機能

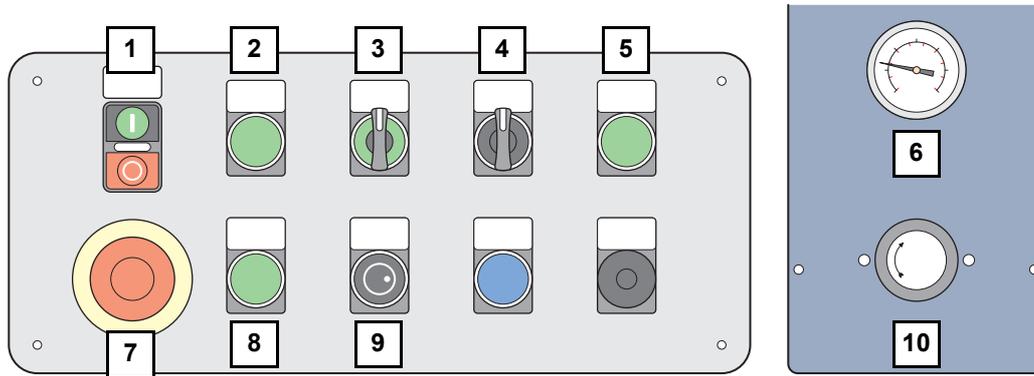
(1)	マニュアル	マニュアル画面を表示します。 マニュアル画面ではプリンタ部を操作せずにベルトを動作させることができます。
(2)	オート	オート画面を表示します。 オート画面ではプリンタ部に連動してベルトを動作させることができます。
(3)	セットアップ	セットアップ画面を表示します。 タッチパネルの言語設定、各機能の設定を行うことができます。
(4)	メンテナンス	メンテナンス画面を表示します。 地張り剤を塗ったり、ベルトを洗浄する場合に使用します。
(5)	アラーム	メディア搬送ユニットのアラーム内容を表示します。 本書の内容に従ってアラームの解除を行ってください。
(6)	情報	メディア搬送部のファームウェアバージョンを確認できます。
(7)	ホームボタン	ホームボタンを押すとオート画面に戻ります。
(8)	ベルト	メディア搬送ベルトを動作させます。 スタートを押すとベルトが動きます。ストップを押すとベルトが停止します。ベルトの動作速度、動作方向を設定することができます。
(9)	ベルトヒータ	ベルトヒータを動作させます。 ON を押すとベルトヒータが動作します。OFF を押すとベルトヒータが停止します。ベルトヒータの出力を設定することができます。
(10)	エアブレード	エアブレードを動作させます。 OFF を押すとエアブレードが動作します。ON を押すとエアブレードが停止します。
(11)	加圧ローラ	加圧ローラを上げ下げします。 ダウンを押すと加圧ローラが下がります。アップを押すと加圧ローラが上がります。
(12)	ベルト洗浄	ベルト洗浄を動作させます。 OFF を押すとベルト洗浄が動作します。ON を押すとベルト洗浄が停止します。
(13)	巻取り	巻取りモータの回転方向を設定します。 メディア取外しを押すと、メディアシャフトが自動的に取外し可能な位置まで回転します。
(14)	メディア検出	メディア検出機能を有効 / 無効にします。OFF を押すとメディアエンドセンサがメディアエンドを確認します。ON を押すとメディアエンドセンサは機能しません。
(15)	センタリング	センタリング機能を有効 / 無効にします。 OFF を押すとメディア送り時に繰出しユニットがメディア位置を調整します。
(16)	ステータス	リセットを押すとプリンタ部のメディア幅検出を解除します。 アラームが赤色の場合はメディア搬送ユニットに異常が発生しています。アラーム画面でアラーム内容を確認してください。

操作パネル(メディア搬送部 前面)



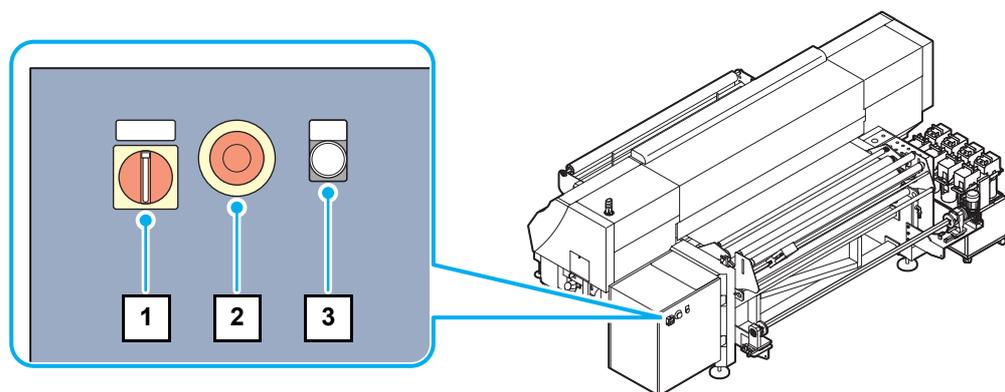
	名称	はたらき
(1)	[Emergency] ボタン	動作中の本機 を即時停止します。
(2)	USB コネクタ	サービスマンテナンス用の USB コネクタです。お客様はご使用になれません。
(3)	[TAKE-UP MANUAL] レバー	レバーの方向に合わせて巻き取りモーターが回転します。

操作パネル (メディア搬送部 背面)



	名称	はたらき
(1)	[BELT] ボタン	“I” を押すとベルトが動き、“O” を押すと停止します。
(2)	[FEED BACKFEED] ボタン	押して緑色が消灯すると、ベルトの動作方向がバックフィード方向に変わります。
(3)	[CENTERING MANUAL] レバー	左か右に回してメディアの位置を手動で調節します。AUTOMATIC モードではレバーを操作しても調節できません。MANUAL モード時に位置を調節してから AUTOMATIC モードに変更してください。
(4)	[PRESSURE ROLLER UP DOWN] レバー	UP 側に回すとローラが上がり、DOWN 側に回すとローラが下がります。
(5)	[MEDIA END] スイッチ	押して緑色が点灯すると、メディアエンドの検出が有効になります。
(6)	エア圧力計	加圧ローラの圧力を表示します。
(7)	[Emergency] ボタン	動作中の本機 を即時停止します。
(8)	[AUTOMATIC] ランプ	AUTOMATIC モードになると、緑色に点灯します。
(9)	[CLUTCH TUNING] ダイアル	繰出メディアの回転する重さを調整します。
(10)	エア圧力調整ダイアル	加圧ローラの圧力を調整します。

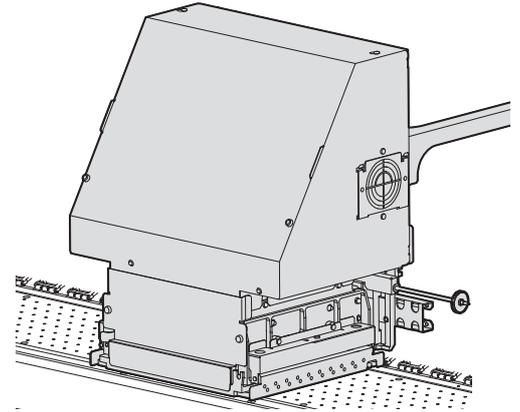
メディア搬送部電源



	名称	はたらき
(1)	メディア搬送部電源スイッチ	メディア搬送部の電源をオン/オフします。
(2)	[Emergency] ボタン	動作中の本機 を即時停止します。
(3)	[POWER ON] ランプ	点灯時、メディア搬送部の電源がオンであることを示します。

キャリッジ

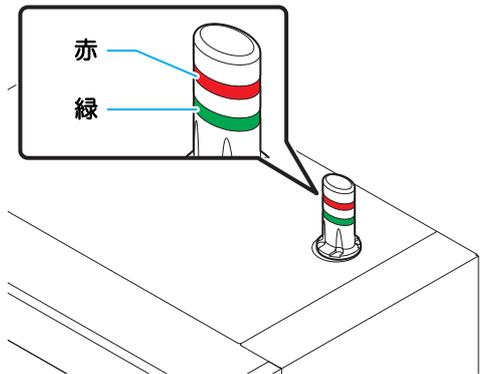
キャリッジには、プリント用のインクヘッドが付いています。



表示灯

本体右上にある表示灯の動作について説明します。
表示灯には緑と赤の2色のランプがあります。

ランプ色	ランプの状態	本装置の状態
緑	点灯	リモート
	点滅	リモート(プリント中)
	消灯	ローカル
赤	点灯	エラー発生中(システムダウン)
	点滅	エラー/ワーニング発生中
	消灯	正常

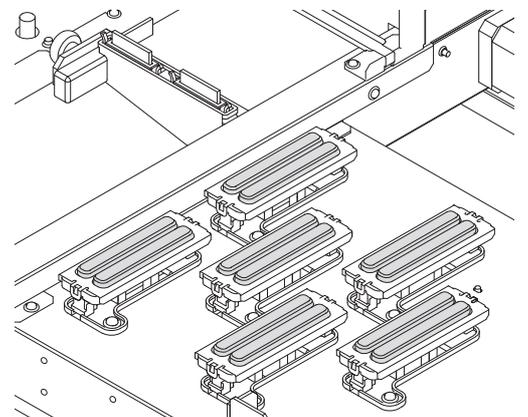


キャッピングステーション



- キャッピングステーション内をクリーニングする場合は、必ず付属のゴーグルを着用してください。目にインクが入る危険があります。

キャッピングステーションは、インクキャップやヘッドのメンテナンスに必要なワイパなどで構成されています。
インクキャップは、インクヘッドのノズル乾きを防ぎます。
ワイパは、ヘッドのクリーニングに使用します。
ワイパは、消耗品です。ワイパが変形したりメディアが汚れる場合は、新しいワイパに交換してください。(P.4-26)



セットアップをする

メディア搬送部のセットアップ

セットアップでは次の項目を設定できます。
操作タッチパネル上の [セットアップ] を押して設定してください。

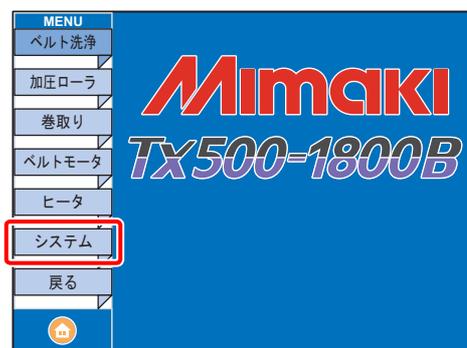
- 操作タッチパネルに表示される言語の設定
- 通常設定
- 各機能の設定

言語の設定

1 操作タッチパネルの [セットアップ] を押す



2 操作タッチパネルの [システム] を押す
• キャンセルする場合は [戻る] を押してください。



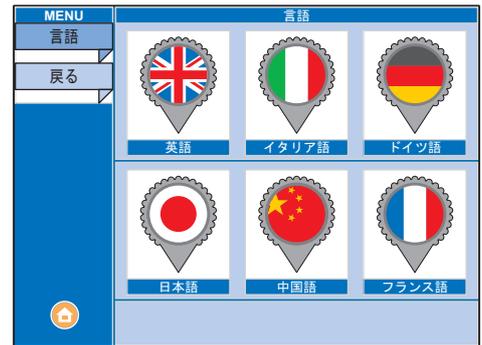
3 [言語] を押す
• キャンセルする場合は [戻る] を押してください。



4

表示する言語を選択する

- 言語の種類 : 英語, イタリア語, ドイツ語, 日本語
中国語, フランス語
- キャンセルする場合は [戻る] を押してください。



5

[ホームボタン] を押して、オート画面に戻る

各機能の設定

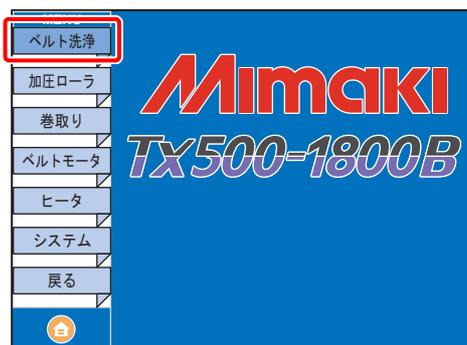
MENU 名	機能名	項目名	内容
ベルト洗浄	ベルト洗浄	有効 / 無効	ベルト洗浄を使用するかしないかを設定します。有効に設定すると巻取りユニットが使用可能になります。また、オート画面を表示すると自動的にベルト洗浄がオンになります。
		自動停止時間	ベルト洗浄ユニットの下がるタイミングを設定します。ベルト洗浄ユニットが上昇した後、ベルトが停止してから、ベルト洗浄ユニットが下がるまでの時間を設定します。この設定は分で示されます。
	ブラシモータ	自動停止時間	ブラシモータの停止するタイミングを設定します。ブラシモータが動作した後、ベルトが停止してから、ブラシモータが停止するまでの時間を設定します。この設定は分で示されます。
		スピード	ブラシモータの回転速度を設定します。この値は動作パーセンテージで示されます。
	エアブレード	有効 / 無効	エアブレードを使用するかしないかを設定します。有効に設定するとエアブレードが使用可能になります。
		自動停止時間	エアブレードの停止するタイミングを設定します。エアブレードが動作した後、ベルトが停止してから、エアブレードが停止するまでの時間を設定します。この設定は分で示されます。
		洗浄水バルブ	開放間隔
	開放時間		洗浄水バルブの閉じるタイミングを設定します。洗浄水バルブが開放した後、自動的に閉じるまでの時間を設定します。この設定は分で示されます。
加圧ローラ	加圧ローラ	自動アップ時間	加圧ローラの上がるタイミングを設定します。加圧ローラを下げた後、ベルトが停止してから加圧ローラが上がるまでの時間を設定します。この設定は分で示されます。
	加圧ローラモータ		本装置では使用しない機能であるため、設定できません。
巻取り	巻取り	有効 / 無効	巻取ユニットを使用するかしないかを設定します。有効に設定すると巻取りユニットが使用可能になります。
		回転方向	巻取りモータの回転方向を設定します。
	巻取りモータ		サービスマンテナンス用の項目であるため、お客様は設定できません。
ベルトモータ	パラメータ		サービスマンテナンス用の項目であるため、お客様は設定できません。
ヒータ	ベルトヒータ	出力	ベルトヒータ温度を設定します。この値は動作パーセンテージで示されます。
		自動停止時間	ベルトヒータの停止するタイミングを設定します。ベルトヒータが動作した後、ベルトが停止してから、ベルトヒータが停止するまでの時間を設定します。この設定は秒で示されます。

1 操作タッチパネルの[セットアップ]を押す



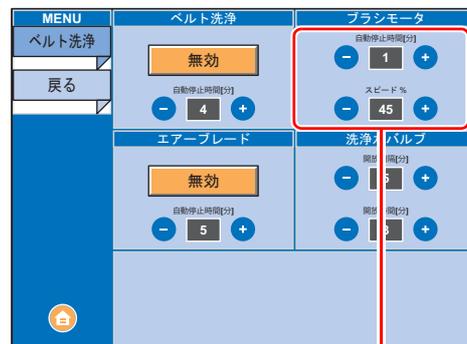
2 設定する MENU を押す

・キャンセルする場合は [戻る] を押してください。



3 設定する項目または [+]/[-] を押して設定する

・キャンセルする場合は [戻る] を押してください。



設定を行う項目の [+]/[-] を押す

4 [ホームボタン] を押して、オート画面に戻る

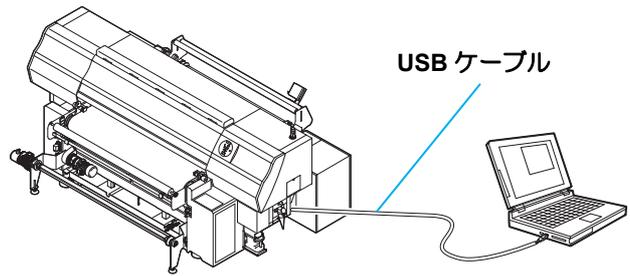
ケーブルを接続する

USB2.0 インターフェイスケーブルを接続する

コンピュータと本装置をUSB2.0インターフェイスケーブルで接続します。



- ご使用の RIP が USB2.0 インターフェイスに対応している必要があります。
- USB2.0 インターフェイスがコンピュータに付いていない場合は、お近くの RIP メーカーまたは弊社営業所までお問い合わせください。



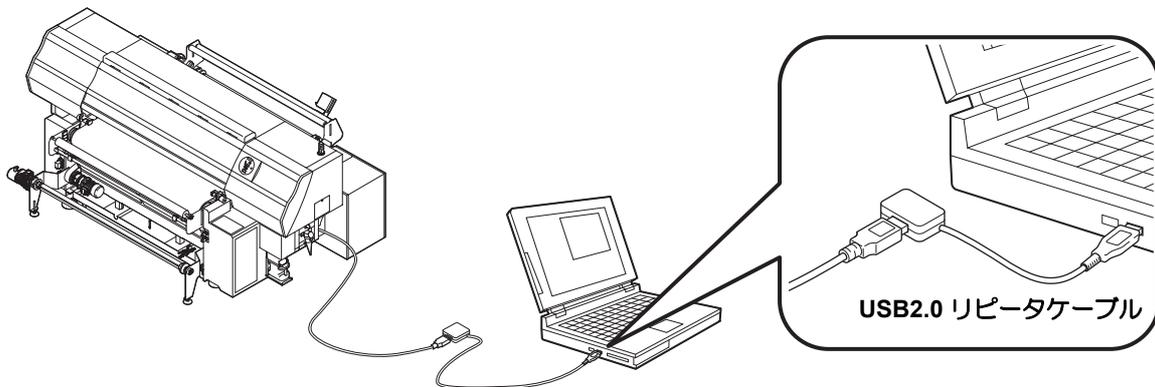
USB 2.0 インターフェイスについての注意事項



- ご使用の RIP が、USB 2.0 に対応している必要があります。

● 1 台のパソコンに複数の Tx500 を接続する場合

1 台のパソコンに Tx500 を複数台接続する場合、Tx500 を正常に認識できない場合があります。複数の USB ポートが付いているパソコンの場合は、他の USB ポートに接続して Tx500 を認識できるか確認してください。USB ポートを変えても Tx500 を認識しない場合は、市販の USB2.0 リピータケーブルを使用してください。



● USB ハイスピードモードの周辺機器について

Tx500 と USB ハイスピードモードで動作する周辺機器 (USB メモリ、USB-HDD など) を併用した場合、USB 機器が認識できない場合があります。

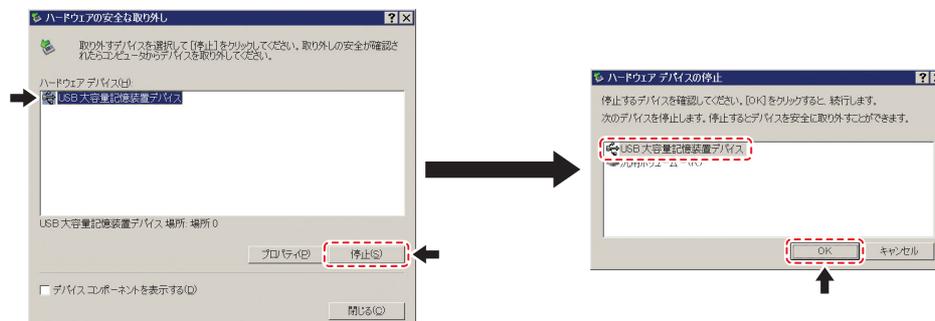
外付けの USB のハードディスクドライブなどを接続したパソコンに Tx500 を接続した場合、Tx500 へのデータ出力速度が遅くなる場合があります。よって、プリント中にヘッドが右端または左端でいったん停止する原因になります。

● USB メモリの抜きかた

Tx500 を接続してあるパソコンに USB メモリを差してある場合は、「ハードウェアの安全な取り外し」により「停止」させてから抜いてください。

[ERROR 201 コマンドエラー] 発生の原因になります。

スプールデータをハードディスクにコピーした後、プリント出力してください。



電源ケーブルの接続について

以下の仕様の配電盤に、電源ケーブルを接続してください。

電 圧	AC380-420V ± 10% (3 相 Y 結線)
周波数	50/60Hz ± 1Hz
容 量	20A 以上

重要! ・ 100V 系の電源コンセントは、使用できません。



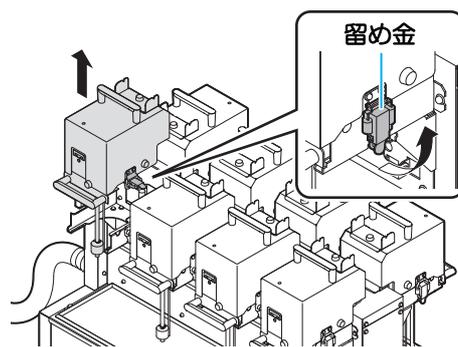
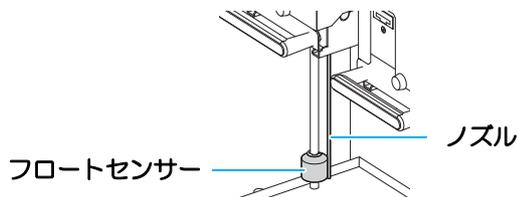
- ・ 本装置の設置は、お客様が行うことはできません。電気工事業者にお任せください。
- ・ 本体への電源供給は、以下の電気工事が必要となります。工事は電気工事業者に依頼してください。
ブレーカーへのソケット工事
C 種接地工事 (特別第 3 種接地工事)
- ・ 電源ブレーカは必ず本装置の近くにあるようにしてください。また、容易に電源の遮断が可能な場所に置いてください。
- ・ 本装置の電気工事は、感電防止のため電気工事士の免許を持った人以外が行うことを禁止します。
- ・ 誤配線をしないようにご注意ください。火災や感電の恐れがあります。
- ・ 電源ケーブルは、アース処理された配電盤に接続してください。
感電および本装置が破損する恐れがあります。
- ・ 電源ブレーカーが、突入電流 50A・0.01 秒以上に対応した配電盤に接続してください。

インクボトルをセットする

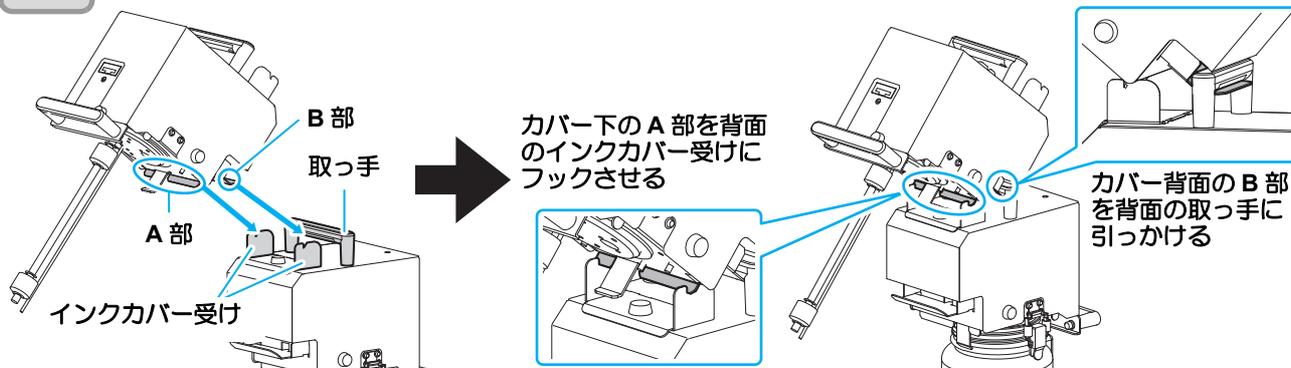
外部インク供給ユニットにインクボトルをセットします。

1 インクカバーを外す

- ・インクカバー両脇の留め金を外して、カバーを取り外します。
- ・インクカバーの裏側には、インク吸引用のノズル(棒状)とインク残量検出用のフロートセンサーが付いています。



2 取り外したインクカバーを背面側のインクカバーの上に乗せておく



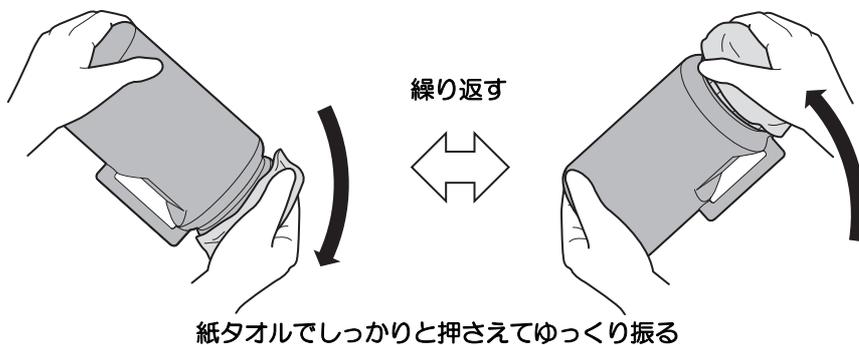
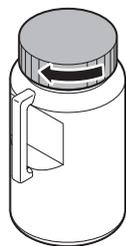
3 インクボトルを取り出し、20回以上ゆっくりと左右に振る

- ・振ったときにインクが漏れ出すのを防ぐため、手袋を着用して紙タオルなどでインクボトルのフタをしめた状態で、ゆっくりとインクを流すように左右に20回以上振ります。

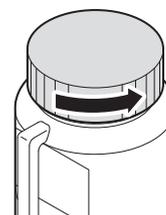


- ・強く振りすぎるとインク漏れの原因となることがあるため、慎重に行ってください。
- ・インク残量が少ないと十分にかくはできない場合があるので、インクボトルが縦になるまで傾けてください。

フタがしっかりと閉まっていることを確認してから振る



4 インクボトルのフタを外す



5

図のようにボトルの天面に切り込みを入れ、アルミシートを下へ押し広げる

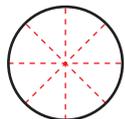
- カッターなどを使って、天面に切り込みを入れてください。



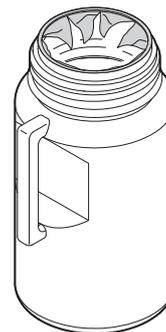
切り込みの入れ方

- アルミシートに切り込みを入れるときは、下図のように細かく八分割に切り込みを入れるか、ボトルの内側に沿ってアルミシートを切り取ってください。

細かく八分割に
切り込みを入れ
る



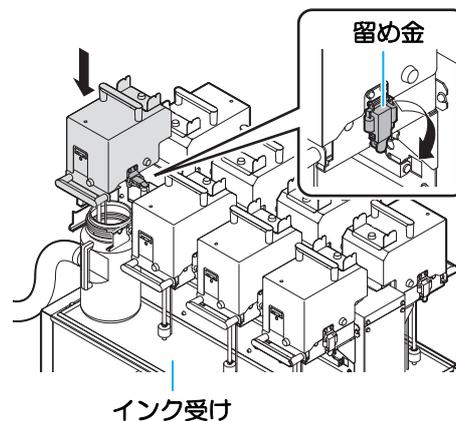
ボトルの内側(点
線部)を切り取る



6

インクボトルをボトルホルダーにセットし、インクカバーを取り付ける

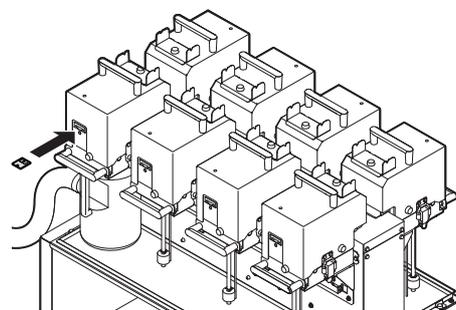
- インクボトルの中に、インク吸引用のノズル(棒状)とインク残量検出用のフロートセンサーが入るようにしてください。
- インク受けがインク等で汚れた場合、ウェス等で拭き取ってください。



7

IC チップを差し込む

- IC チップは金属が付いている方を上にして差し込んでください。間違えて差し込むと、故障や IC チップ 破損の原因となります。
- IC チップ の金属部分には触れないでください。静電気による IC チップ 破損や、汚れ・傷による IC 読み取り不良の原因となります。
- インクボトルのセット順は P.6-4「インクボトルのセット順」を参照してください。



重要!

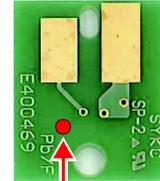
IC チップについて

- IC チップには、インクカラーやインク残量・使用期限などの情報が書き込まれています。インクボトルをセットするときは、インクボトルと一緒に梱包されている IC チップをインクカバーに付いている IC チップ挿入口に差し込んでください。
- インクボトルと対になっていない IC チップをセットすると、画質不良などの原因となります。
- IC チップにはカラー情報を表すマークが貼られています。

インクカラーと表示マーク

インクカラー	表示マーク
ブラック	● (黒丸がひとつ)
ブルー	●● (青丸ひとつと赤丸ひとつ)
マゼンタ	● (赤丸がひとつ)
イエロー	● (黄丸がひとつ)
ライトブルー	●●● (青丸ふたつと赤丸ひとつ)
ライトマゼンタ	●● (赤丸がふたつ)
オレンジ	● (橙丸がひとつ)
レッド	●● (赤丸ひとつと黄丸ひとつ)
ライトブラック	●● (黒丸がふたつ)

IC チップ



マーク表示場所

インクボトルを交換する

ディスプレイに[インクエンド]や[インクニアエンド]などが表示されたときは、次のようにしてください。

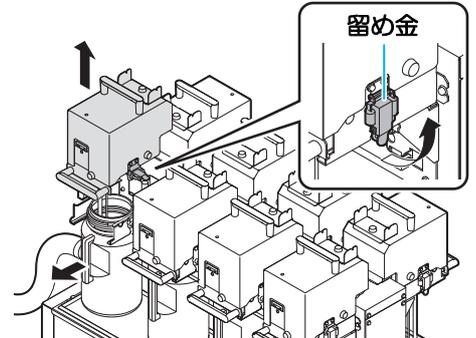
● [インクエンド]が表示されたとき

1

交換するインクボトルのインクカバーを外し、使用済みのインクボトルを取り除く



- ボトル内に残っているインクは、新しいインクボトルに継ぎ足してください。その際、インクボトルからインクが溢れないように注意してください。
- インクボトル交換時に、インクが飛び散ることがあります。目に入らないようにご注意ください。
- インクボトルを交換するときは、ウェス等で周囲を養生してから行ってください。フロート部からのインク垂れにより周囲が汚れてしまいます。

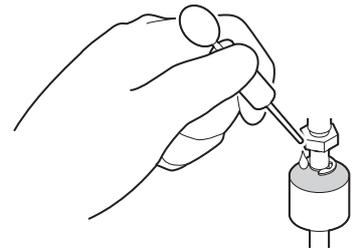


2

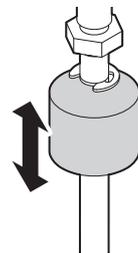
フロートの上下動を確認する

- 乾燥したインクが付着するなどフロートの動きに異常がある場合は、以下のようにしてください。

(1) フロートの上部に洗浄液を数滴垂らす

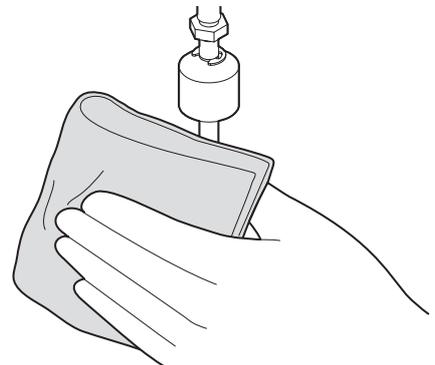


(2) フロートを上下に動かし、洗浄液をなじませる



(3) フロートが正常に動くようになったら、フロートや管に付着した洗浄液をウェス等で拭き取る

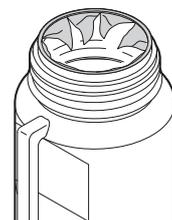
- 再度、フロートを上下させ、異常がないか確認してください。



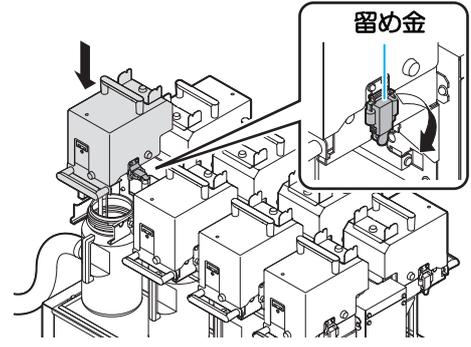
3

新しいインクボトルのフタを外し、ボトルの天面に切り込みを入れ、アルミシートを下へ押し広げる

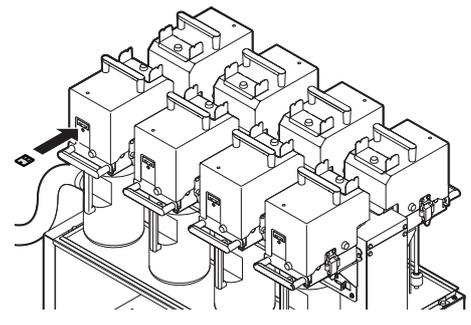
- アルミシートの切り込みの入れ方については、P.1-18「インクボトルをセットする」手順5を参照してください。



4 インクボトルをインクホルダーにセットし、インクカバーを取り付ける



5 IC チップを差し込む



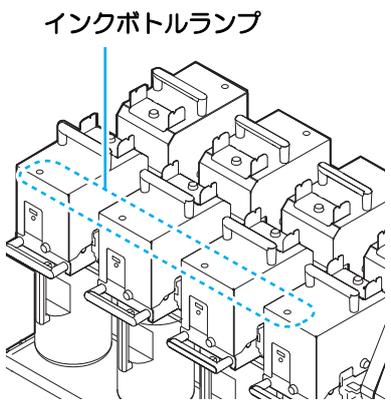
● [インクニアエンド]が表示されたとき

インク残量が少なくなっています。続けてプリントをすることはできますが、プリント中にインクがなくなる恐れがあります。早めにインクボトルの交換をすることをお勧めします。
ローカルで **ENTER** キーを押すと、交換対象ボトルをローカルガイドンスで確認できます。(P.3-43)

重要! ・ インクエンドになった場合でも、インクボトル内には 200cc 程インクが残ります。残っているインクは、インク交換時に新しいインクボトルに継ぎ足してください。

インクボトルランプについて

インクボトルの上にあるランプで、セット中のインクボトルの状態を確認することができます。



インクボトルランプの状態	説明
消灯	異常なし
赤色に点滅	インクボトルの残量が少ない(ニアエンド)、またはインク期限が切れて1ヶ月たっています。まもなく使用できなくなります。
赤色に点灯	インク残量がない、または、その他のインクエラー (P.5-4) でインクボトルが使用できません。
赤色に早い点滅	インク期限が切れてから2ヶ月たっているため、インクボトルが使用できません。
緑色に点灯	インクを供給していることを示します。4色インクセットでお使いのとき、本機はインク期限の短いインクボトルからインク供給を行います。
赤色 / 緑色交互点滅	赤色点滅と緑色点灯の両方の状態が発生しています。

インク使用期限について

インクボトルには使用期限があります。
インクボトルに記載してある期限の翌々月までは使用可能ですが、3か月後になった時点で使用できなくなります。
使用不可になると、インクボトルランプが赤色に早く点滅してお知らせするので交換してください。

- 例) 消費期限の記載が 2014 年 4 月の場合
- 5 月：使用可能
 - 6 月：使用可能 (インクボトルランプ赤色点滅)
 - 7 月：使用不可 (インクボトルランプ赤色早点滅)

インクエンド、インクニアエンドについて

インクニアエンド (残量わずか) の場合、インクボトルランプが赤色に点滅してお知らせします。早めの交換をおすすめします。
インクエンド (残量なし) の場合、インクボトルランプが赤色に点灯してお知らせします。インクボトルを交換してください。

インクの種類

本装置では以下の 3 種類の捺染用インクが使用可能です。

酸性染料インク	羊毛・絹などの動物系繊維やナイロンなどに適しています。
反応染料インク	綿・レーヨンなどの他に、羊毛・絹などの繊維にも適しています。
昇華染料インク	ポリエステル・アクリルなどの繊維に適しています。

- 重要!** ・いずれのインクを使用する場合も、プリントする布には弊社推奨の前処理・後処理を行ってください。

インクボトル取り扱い上のご注意



- ・万一、インクが目に入った場合は、直ちに大量の清浄な流水で 15 分以上洗い流し、まぶたの裏まで完全に洗い流してください。できるだけ早く医師の診察を受けてください。
 - ・本装置には専用のインクボトルをお使いください。本装置は、専用のインクボトルを認識して動作します。インクボトル等の改造により故障した場合は、保証期間内であっても保証の対象外になります。
 - ・インクボトルを寒い所から暖かい所に移した場合は、3時間以上、室温環境下に放置してから使用してください。
 - ・インクボトルは冷暗所で保存してください。
 - ・インクボトルは、子供の手の届かない場所に保管してください。
 - ・空になったインクボトルは、産業廃棄物の処理業者に処理を依頼してください。
 - ・インクボトルは、開封してから 3 カ月以内に使い切ってください。開封後、長時間経過したものは、プリント品質が低下します。
-  ・インクボトルを強く振らないでください。強く振ったり、振り回したりすると、ボトルからインクがもれることがあります。
- ・IC チップの基板接点部分は、手で触れたり汚したりしないでください。基板の故障の原因になります。

使用可能なメディアについて

本機で使用できるメディアの仕様は以下のとおりです。

最大幅	1830mm
最小幅	210mm
最大プリント幅	1820mm
厚さ	5mm 以下
ロール外径	φ420mm
ロール重量	60kg 以下
ロール内径	2～3 インチ
プリント面	外巻き / 内巻き不問
巻き取り方向	外巻き / 内巻き不問
巻き終わり処理	弱固定
セット位置	センター基準



- メディア搬送部の右側にはメディアを正確に送るためのベルトエンコーダユニットが取り付けられています。メディア搬送部の右端から 25mm の位置にはメディアがかからないように注意してください。
- ベルトエンコーダユニットの上にメディアがかかった状態でプリントをすると、正確にメディアを送れなくなり、プリント品質に悪影響を及ぼします。特に幅の広いメディア (幅が 1800mm 以上のメディア) をお使いになる場合はご注意ください。

使用可能な布と取り扱いについて

ここでは、使用可能な布の取り扱い方法や注意事項などを説明します。内容をよく理解し、布の種類や特性に応じて使用してください。



- 弊社推奨の前処理をした布をご使用ください。
- 布のセット時は、必ずヘッドの高さを調整してください。布やヘッドを破損する恐れがあります。
- 左右端がカールした布は使用しないでください。ヘッドノズル面と接触し、吐出不良の原因になります。
- 布の左右端が中央に比べて著しく弛んでいる布は使用しないでください。地張り部で折れてシワとなり、ヘッドノズル面と接触する原因になります。
- 厚みがあり堅い布は無人運転できません。デニム地のような布を使用する場合は、定期的にスキュー (斜行) チェックを行ってください。スキューを始めると、布自体の自己復旧作用が働きません。放置すると搬送ベルト左右端までスキューが進み、布が詰まる原因となります。
- 布の左右端に毛羽のある布は、布端ガイドを使用できません。毛羽部分で引き剥がしセンサーが反応して、布を正確に送れなくなります。

使用制限のあるメディアについて

下記のようなメディアは、プリンタ側での補正が困難な素材です。使用する場合は、任意のテストデータによるプリントを行い、使用可能かどうかを判断してください。

- 伸縮性の大きい素材 (ストレッチ材、縦方向に伸縮するニット等)
- 印字によって濡れると、伸び縮みの度合いが大きい素材
- 幅のバラツキが大きい素材
- 平坦面に広げた時、部分的にシワ、タルミが発生している素材、全体に曲がっている素材
- ロール状態でのメディア幅端面の巻きズレが大きい素材
- 使用している紙管の強度が不足し、繰出し装置に取り付けた時、たわんでいるもの



- 上記以外のメディアを使用する場合も、必ず任意のテストデータによるプリントを行ってください。プリント結果を確認してから、使用が可能か判断してください。

プリントできる布の条件

項目	条件	備考
幅バラツキ	片側側面で $\pm 5\text{mm}$ 以下	
広げた時の湾曲	一方向曲がり不可	
平坦面に広げたときのシワ(弛み)高さ	2mm 以下	
ロールエッジのズレ	$\pm 15\text{mm}$ 、 反物(幅 500mm 以下)は $\pm 2\text{mm}$	
ロール内径	2 ~ 3 インチ	
紙管強度	セット時のロール曲がり 5mm 以下 (紙管肉厚 5mm 以上)	
布端からの紙管露出長	20mm 以上	
紙管との固定	テープ 3 点以下または弱接着	
ロール外径	$\phi 420\text{mm}$ 以下	
ロール重量	60kg 以下	
プリント面	外巻き / 内巻き不問	
巻きシワ	不可	

第2章 基本的な使い方



この章では ...

プリントするためのインク／メディアの準備や、プリントまでの手順や設定方法について説明します。

作業の流れ	2-2	オプションヒータ MTA-190 を	
電源を入れる / 切る	2-3	使用する場合	2-26
電源を入れる.....	2-3	ヒータ使用時の注意事項	2-26
電源を切る	2-5	電源を入れる	2-27
自動機能	2-6	電源を切る.....	2-27
補助機能	2-7	ヒータの角度を調整する	2-28
センタリング機能のオン / オフを		ヒータの温度を調整する	2-29
切り替える	2-7	テストフィードをする	2-30
メディア検出機能のオン / オフを		テストプリントをする	2-31
切り替える	2-8	テストプリントを行う.....	2-32
ベルト洗浄のオン / オフを切り替える.....	2-9	ヘッドクリーニング	2-33
エアブレードのオン / オフを切り替える..	2-9	ヘッドクリーニングについて.....	2-33
ベルトヒータのオン / オフを切り替える..	2-10	テストプリントの結果に合わせて	
メディアをセットする	2-11	ヘッドクリーニングを行う.....	2-33
最大プリントエリアについて	2-11	メディアの送りを設定する	2-34
メディアセットに関する注意事項	2-11	フィード補正の設定	2-34
メディアセットの概要	2-12	双方向プリントのドット位置を調整する ..	2-36
メディア経路について	2-12	データをプリントする	2-38
布巻きローラを取り付ける	2-13	プリントを開始する	2-38
メディアを繰り出す	2-15	プリントを中断する	2-39
メディアを巻き取る.....	2-21	受信したデータを消去する	
ヘッドギャップを設定する	2-23	(データクリア).....	2-39
メディアを検出する.....	2-24		
原点を変更する場合は	2-25		

作業の流れ

- 1** 電源を入れる / 切る
「電源を入れる / 切る」(☞ P.2-3) を参照してください。
- 2** メディアをセットする
「メディアをセットする」(☞ P.2-11) を参照してください。
- 3** オプションヒータMTA-190を使用する場合
「オプションヒータ MTA-190 を使用する場合」(☞ P.2-11) を参照してください。
- 4** テストフィードをする
「テストフィードをする」(☞ P.2-30) を参照してください。
- 5** テストプリントをする
「テストプリントをする」(☞ P.2-31) を参照してください。
- 6** ヘッドクリーニング
「ヘッドクリーニング」(☞ P.2-33) を参照してください。
- 7** メディアの送りを設定する
「メディアの送りを設定する」(☞ P.2-34) を参照してください。
- 8** 双方向プリントのドット位置を調整する
「双方向プリントのドット位置を調整する」(☞ P.2-36) を参照してください。
- 9** データをプリントする
「データをプリントする」(☞ P.2-38) を参照してください。

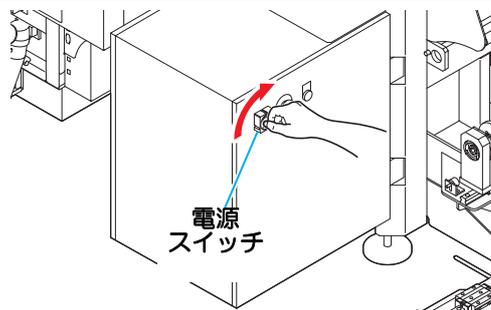
電源を入れる / 切る

電源を入れる

重要! ・フロントカバー / メンテナンスカバーを閉じてから電源を入れてください。

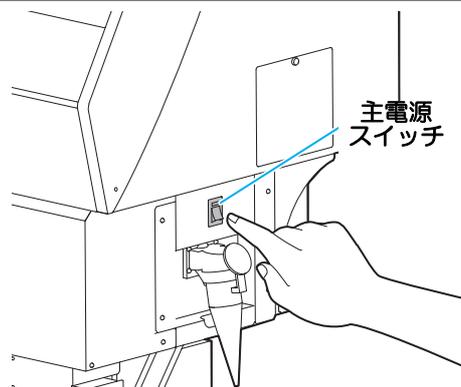
1 メディア搬送部の電源スイッチを入れる

・装置背面にある電源スイッチを「I」側にひねります。



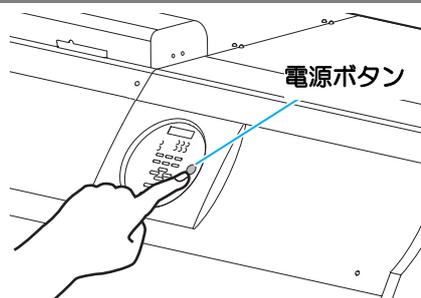
2 プリンタ部の主電源スイッチを入れる

・装置側面にある主電源スイッチを「I」側に倒します。



3 電源ボタンを押す

・操作パネルにある電源ボタンを押します。



- ・電源をオンにするとファームウェアのバージョンを表示します。
- ・初期動作を実行します。

Tx500B Start-up
Ver 1.00

4 ローカルになる

<ローカル>

5 接続しているコンピュータの電源をオンにする



- ・本装置は、プリンタ部とメディア搬送部の電源スイッチが独立しています。
- ・プリンタ部の主電源スイッチは通常オンにしておいてください。プリンタ部の主電源スイッチをオフにしたまま放置すると、ヘッドのノズルが目詰まりを起こす原因になります。症状によっては、復旧が困難になる場合があります。

重要!

- 電源 ON 時にフラッシング又はクリーニングが自動で実行される場合はその動作の前に 1 分間の脱気動作が入ります。
脱気動作中は以下の表示の 2 行目の「ゲンテンケンシュツチュウ」をブリング表示させながらブザーを一定間隔で鳴動させています。

シハ`ラクオマチクタ`サイ
ケ`ンテンケンシュツチュウ

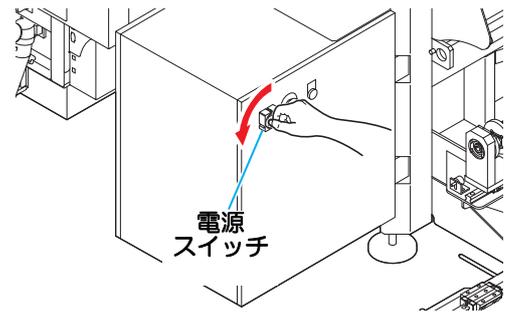
電源を切る

プリンタの使用が終了したら、装置前面にある電源ボタンを押して電源をオフにします。電源を切るときは、次のことを確認してください。

- コンピュータからデータを受信中ではないか、また、未出力のデータが残っていないか。
- ヘッドはキャッピングステーションに戻っているか。
- エラーは発生していないか。(P.5-15「エラーメッセージ」)

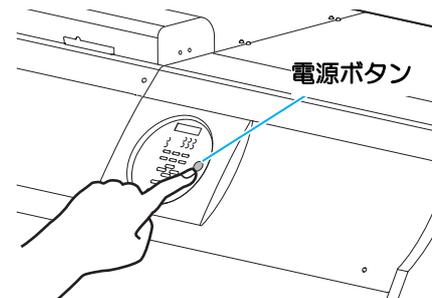
1 接続してあるコンピュータの電源をオフにする

2 メディア搬送部の電源を切る



3 プリンタ部の電源ボタンを押して、電源を切る

- 電源ボタンが消灯します。
- 装置側面にある主電源スイッチは、切らないでください。
- 次に、本機をご使用になるときは、電源ボタンを押して緑色ランプを点灯させてからお使いください。



プリンタ部の電源を切るときのご注意

● 主電源スイッチは切らないでください。

主電源スイッチが入っていると、定期的に電源が入りノズル詰まり防止機能（フラッシング機能）および圧力調整機能が働きます。

主電源スイッチを切っていると、フラッシング等のオートメンテナンス機能が働かず、ノズル詰まりの原因となります。

● フロントカバー/メンテナンスカバーは閉めた状態にしてください。

カバーが開いていると、フラッシング等のオートメンテナンス機能が働かなくなります。

● ヘッドの位置を確認してから電源を切ってください。

ヘッドがキャッピングステーションに戻っていない状態で電源を切ると、ヘッドが乾燥してノズル詰まりの原因となります。

このときは、再度、電源を入れ、ヘッドがキャッピングステーションに戻ったことを確認してから電源を切ってください。

● プリント中は電源を切らないでください。

ヘッドがキャッピングステーションに戻らないことがあります。

● 電源ボタンを切ってから、主電源スイッチを切ってください。

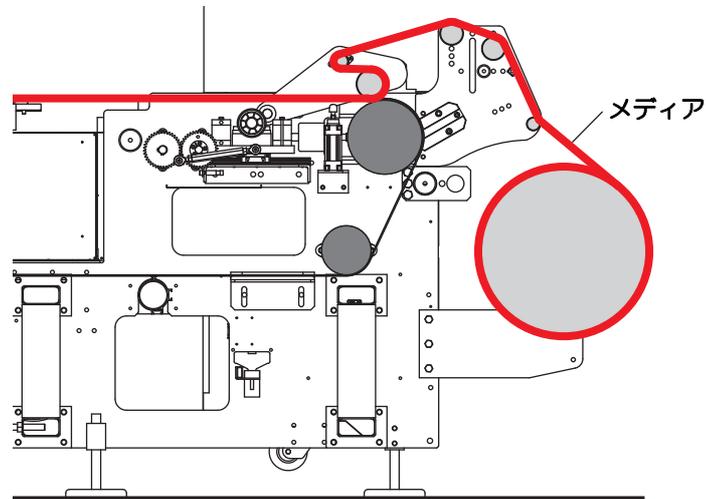
装置の移動や装置のエラー対処等で主電源スイッチを切る場合、必ず、装置前面にある電源ボタンを押し、操作パネルのディスプレイ表示が消えていることを確認してから主電源スイッチを切ってください。

自動機能

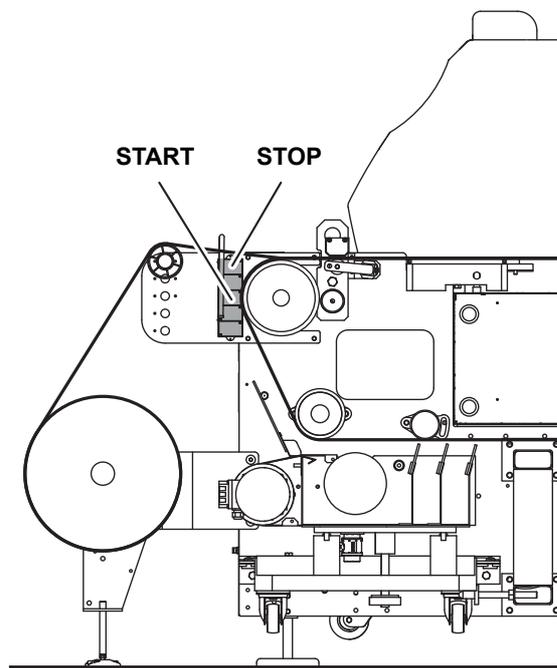
繰出しユニットにはセンタリング機能があるため、メディア位置を自動的に調整します。



- 自動機能中は本装置に触らないようにしてください。加圧ローラが自動的に下がるなどして指などを挟み、怪我をする恐れがあります。



引き剥がしローラのすぐ後ろに配置された引き剥がしセンサ (START) でメディアが検出されるまで、巻き取りユニットはアイドル状態です。検出されると、引き剥がしセンサ (STOP) が反応するまで巻き取りユニットがメディアを巻き取ります。



センタリング、ベルトヒータ、ベルト洗浄、メディアヒータなど、本装置に用意されている補助機能には、メディアの種類に応じてオン/オフを切り替えることができます。

センタリング機能のオン/オフを切り替える

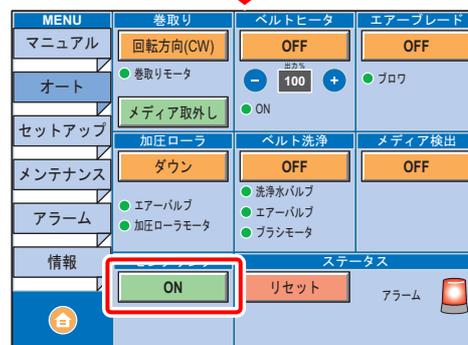
センタリング機能を使用すると、プリント中、メディアをまっすぐに保つことができます。しかし、メディアの巻かれ方によっては、このセンタリング動作のためにメディアが折り重なってしまう場合があります。

1 操作タッチパネルのセンタリングの ON/OFF を押して切り替える

- ・オンにする場合 : [OFF] を押して [ON] に切り替える (緑色に点灯)



- ・オフにする場合 : [ON] を押して [OFF] に切り替える (オレンジ色に点灯)



メディア検出機能のオン/オフを切り替える

メディア検出機能“オン”にすると、メディアエンドセンサがメディアエンドを検出すると、自動的にプリント動作を停止します。

1

操作タッチパネルのメディア検出の ON/OFF を押して切り替える

- ・オンにする場合 : [OFF] を押して [ON] に切り替える (緑色に点灯)



- ・オフにする場合 : [ON] を押して [OFF] に切り替える (オレンジ色に点灯)



ベルト洗浄のオン/オフを切り替える

ベルト洗浄を使用すると、搬送ベルト上にある裏抜けしたインクを拭き取ることができます。

1

操作タッチパネルのベルト洗浄の ON/OFF を押し
て切り替える

- ・オンにする場合 : [OFF] を押して [ON] に切り替える
(緑色に点灯)

重要!

- ・ベルト洗浄は搬送ベルトが動作中のみオン
になります。操作タッチパネル上でオンに
なっても搬送ベルトが動作していない
場合は動作しません。

- ・オフにする場合 : [ON] を押して [OFF] に切り替える
(オレンジ色に点灯)



- ・オート画面の場合は、ベルト洗浄は自動的
にオンになります。



エアブレードのオン/オフを切り替える

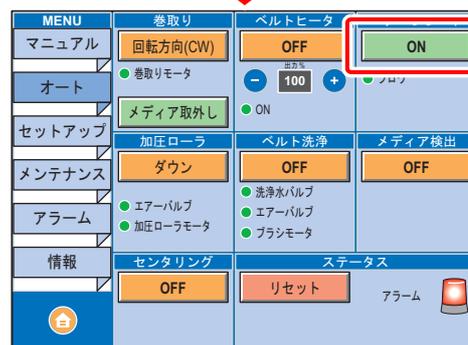
エアブレードを使用すると、搬送ベルト上のベルト洗浄による水滴をより強力に除去することができます。

1

操作タッチパネルのエアブレードの ON/OFF を
押し切り替える

- ・オンにする場合 : [OFF] を押して [ON] に切り替える
(緑色に点灯)

- ・オフにする場合 : [ON] を押して [OFF] に切り替える
(オレンジ色に点灯)

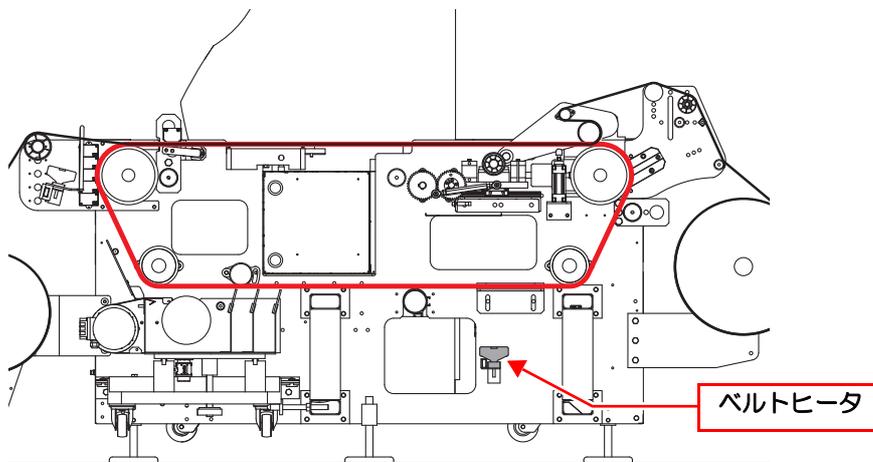


2

基本的な使い方

ベルトヒータのオン/オフを切り替える

ベルトヒータを使用すると、搬送ベルトの粘着性と乾燥を維持することができます。



1 操作タッチパネルのベルトヒータの ON/OFF を押して切り替える

- ・オンにする場合：[OFF] を押して [ON] に切り替える
(緑色に点灯)

重要! ・地張り剤の塗り替え作業時は、必ず OFF にしてください。

- ・オフにする場合：[ON] を押して [OFF] に切り替える
(オレンジ色に点灯)



2 操作タッチパネルのベルトヒータの [+]/[-] を押して設定する

- ・温度を上げる場合：[+] を押す
- ・温度を下げる場合：[-] を押す

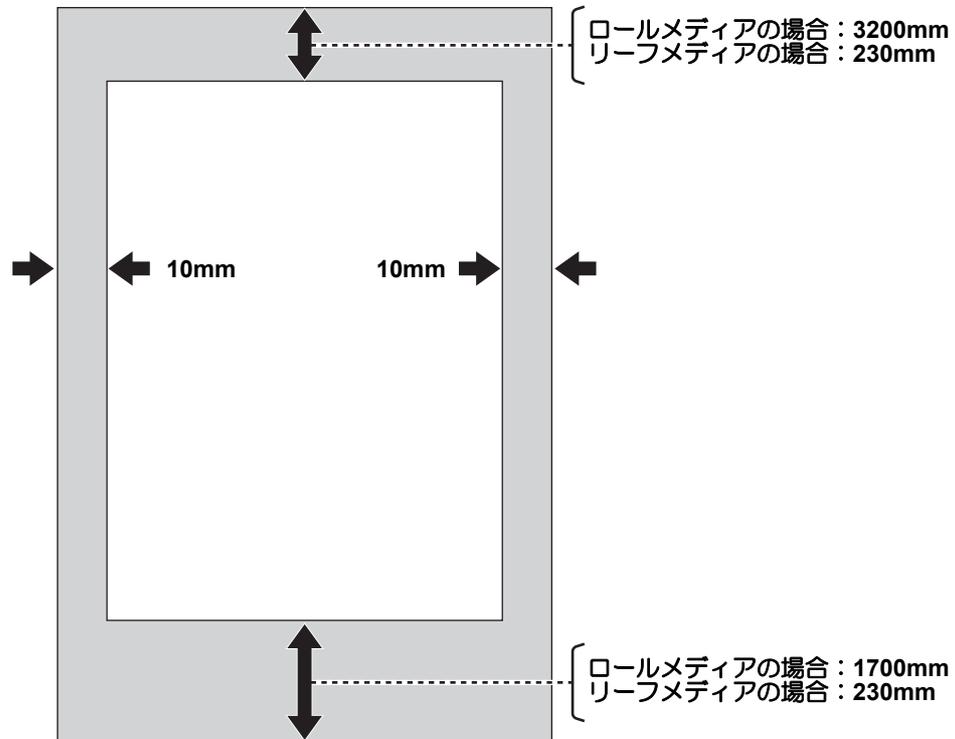


設定を行う項目の [+]/[-] を押す

メディアをセットする

最大プリントエリアについて

下図の白部が最大プリントエリアとなります。
それ以外のプリントできない範囲が、マージンとなります。



- 布の前後端のマージンは、導布の使用により小さくすることもできます。

使用できるメディアについては、P.1-23「使用可能なメディアについて」を参照してください。

メディアセットに関する注意事項



- ロールメディアセット用のロールシャフトは、シャフト自体だけでも8～10Kgの重量があります。セットするときは、メディアやロールシャフトを足などに落とさないように注意してください。重みで怪我をすることがあります。
- ロールメディアをロールシャフトに取り付けると、かなり重くなりますので、取り付け・取り外しは、2人以上で作業してください。

メディアセットの概要

メディアをセットするときは、作業性の面から2人以上の人員で作業を行うことをお勧めします。



- ・加圧ローラは、重量があるため、メディアセット中のローラ落下による挟まれには十分ご注意ください。

布巻きローラを取り付ける
(P.2-13)

メディア汚れ防止のため、布巻きローラの準備をしてください。

メディアを繰り出す (P.2-15)

メディアをセットし、巻取装置側へ繰り出します。

メディアを巻き取る (P.2-21)

メディアを紙管に固定し、巻き取ります。

ヘッドギャップを設定する
(P.2-23)

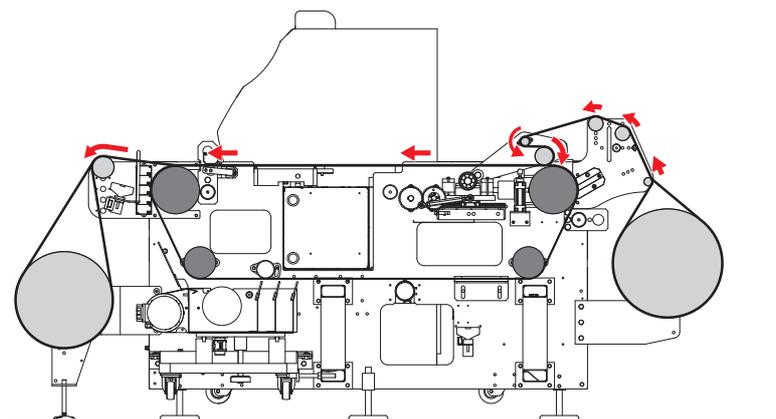
P.2-23 「ヘッドギャップを設定する」を参照してください。

メディアを検出する (P.2-24)

P.2-24 「メディアを検出する」を参照してください。

メディア経路について

本機に布メディアをセットするときの経路は右図のようになります。メディアをセットする前に、メディアの経路をご理解いただくと、メディアのセットをスムーズに行うことができます。



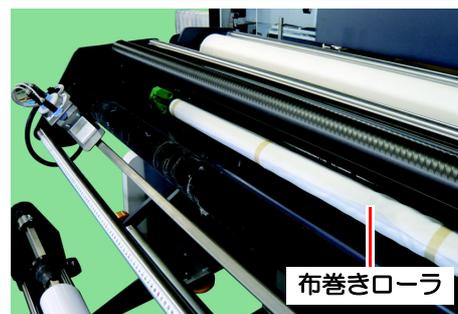
布巻きローラを取り付ける

ベルト洗浄後に、洗浄ユニットのワイパーで除去しきれなかった水滴が残る場合があります。その水滴が、ベルト表面まで伝わると、プリント前のメディアを汚してしまう恐れがあります。布巻きローラを取り付けておけば、ベルトに付着した水滴を取り除くことができます。

- 重要!**
- 出荷時には、布巻きローラに布は巻かれていません。以下のサイズの吸水性の良い布をご用意ください。
 - 素材** : 素材綿天竺、綿ブロード等（吸水性の良い素材）
 - サイズ** : 195cm X 100cm

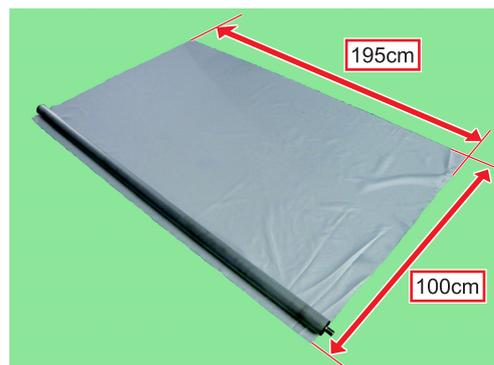
1 布巻きローラを取り外す

- 布巻きローラは、本体背面、搬送ベルトのローラ付近にあります。



2 布巻きローラに布を巻きつける

- (1) 右図のように布とローラを合わせる



- (2) 布とローラを粘着テープで固定する



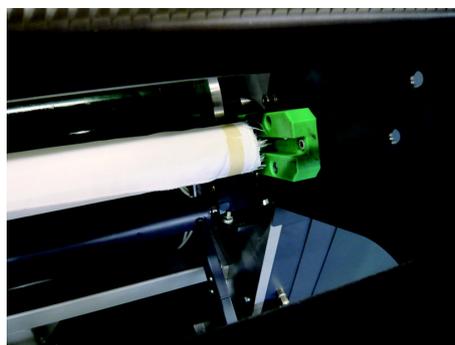
- (3) 布をローラに巻き付け、粘着テープで固定する



3

布を巻いた布巻きローラを取り付ける

• 本体背面の搬送ベルトローラ付近の樹脂ブロックの溝に合わせて布巻きローラを取り付けてください。



4

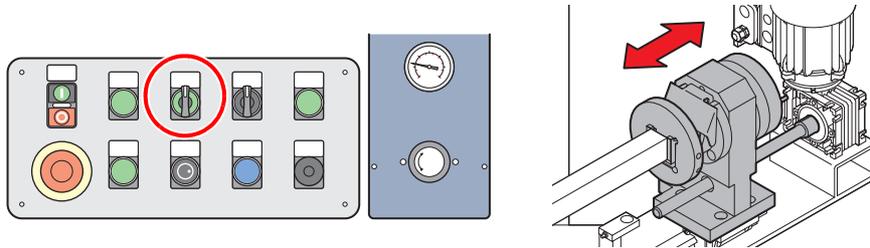
搬送ベルトを回転させて、スムーズに布巻きローラが回転することを確認する

メディアを繰り出す

1 操作タッチパネルの[マニュアル]を押してマニュアル画面にする

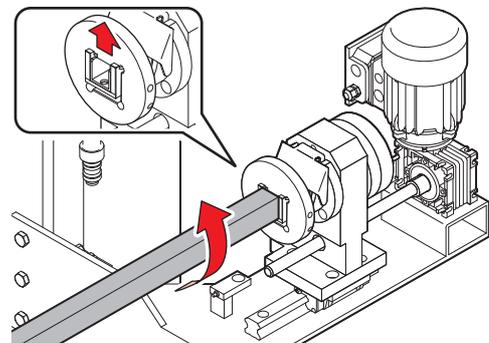


2 繰出しユニットをセンタリング範囲のほぼ中央になるように、背面コントロールパネルの [MANUAL CENTERING] レバーを回転させ調節する



3 メディアをロールシャフトにセットする

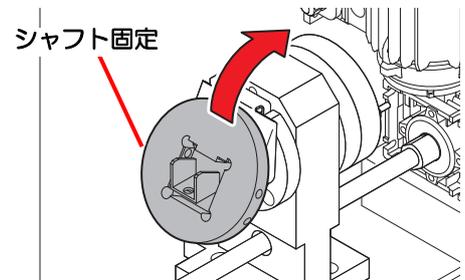
(1) ロールシャフトを回転させ、ロールシャフト挿入口を上に向ける



(2) シャフト固定を傾ける



• シャフト固定を移動させる前に、必ず、ロールシャフト挿入口が上を向いていることをご確認ください。ロールシャフト挿入口が下を向いている状態でシャフト固定を移動させると、ロールシャフトが落下して危険です。



(3) ロールシャフトを取り外す

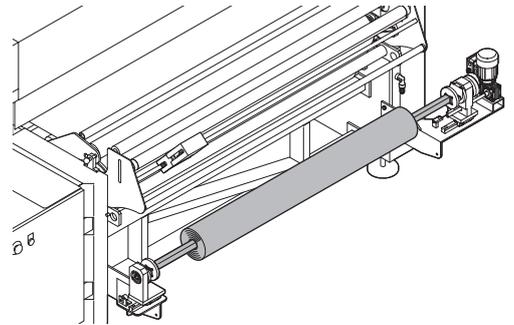
(4) メディアをロールシャフトに通し、ロールホルダで固定する

- ロールホルダセット後、メディアを手で回し、ロールホルダと紙管の間でスリップしないことを確認してください。
- プリント中どうしてもスリップしてしまう場合は、ロールホルダと紙管をテープで固定してください。



(5) ロールシャフトを繰出ユニットにセットする

(6) シャフト固定を元の位置に戻す

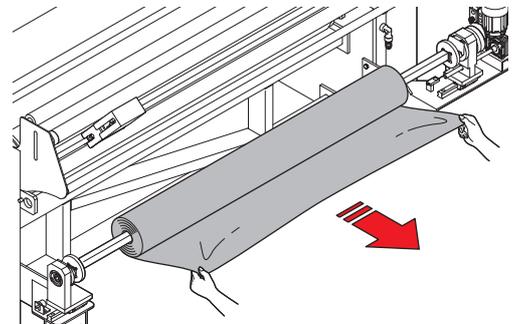


- シャフト固定は必ず確実に固定してください。固定せずにメディアを回転させると、ロールシャフトが脱落し、大変危険です。

4

メディアを手で引き出す

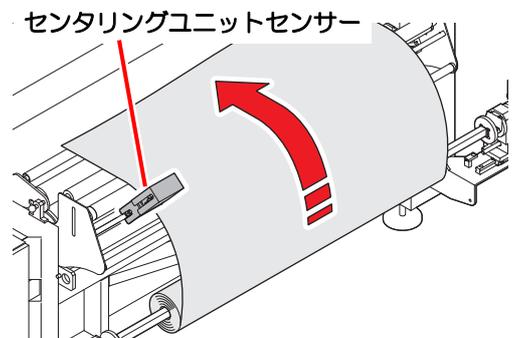
- 約 2m 程度引き出してください。



5

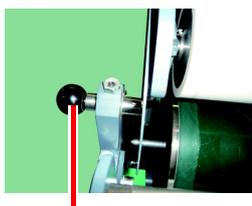
メディアをセンタリングユニットセンサーに通す

- 幅 1000mm 以下のメディアでは、センター基準でメディアをセットしたときに、センタリングセンサーユニットの左右移動の調整範囲を超えてしまう場合があります。その場合は、センタリングセンサーの調整範囲内になるようにメディアのセット位置を調整してください。

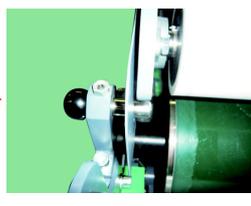


6

加圧ローラ両端の落下防止ピンを押し込む



落下防止ピン



落下防止ピン

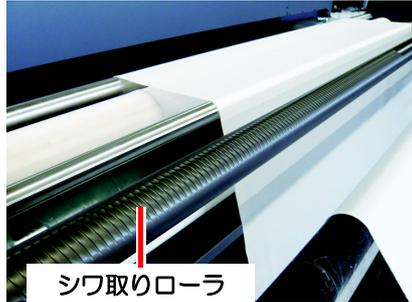


- 不意の加圧ローラ落下による怪我を防止するために、必ず、落下防止ピンをしっかりと押し込んでください。
- 落下防止ピンのピン先が確実に突き出した状態になっていることを確認してください。ピンが出切っていない状態では、加圧ローラの落下を防止できません。

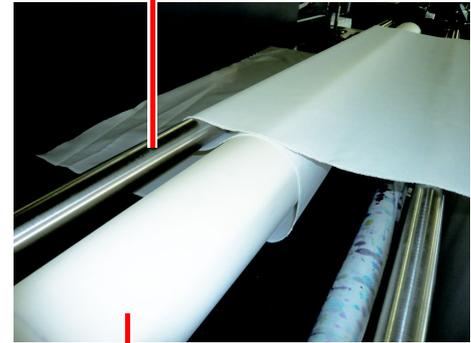
7 加圧ローラ上側の折り返しバーにメディアを通した後、折り返しバーローラにメディアを巻きつける

重要!

- シワ取りローラはセンター基準でメディアをセットした場合に機能します。
- 右端基準でメディアをセットした場合、シワ取りローラは機能しません。この場合は、シワ取りローラを使用しないでください。



折り返しバーローラ

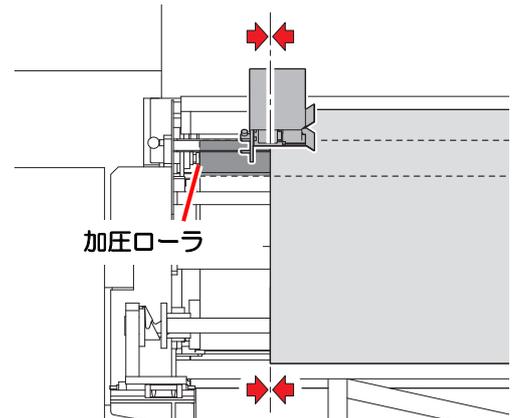


加圧ローラ

8 メディアロール端、センタリングセンサ、加圧ローラ間でメディアが斜めにセットされていないか確認する

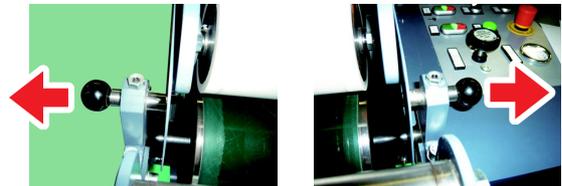
重要!

- 最大幅（1860mm）のメディアをセットする場合は、ベルトエンコーダにかからない位置にメディアをセットしてください。ベルトエンコーダにメディアが挟まると、正常にプリントできなくなってしまいます。
- メディアが斜めにセットされている場合は、ずれている箇所のメディアを左右にずらし調節してください。
- 最大幅（1860mm）のメディアをセットした場合は、ベルトエンコーダへの干渉も含め、注意が必要です。メディアをずらすだけでは、修正しきれない場合がありますので、センタリング位置の調整、等を行い、メディアの斜めセットをできるだけ防止してください。



装置の後方から見て、メディアがまっすぐにセットされていることを確認する

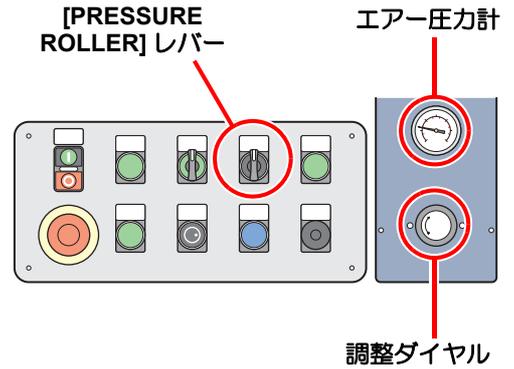
9 落下防止ピンを戻す



10

PRESSURE ROLLERレバーをDOWN側に回し、加圧ローラを下げる

- 調整ダイヤルを回転させて、加圧ローラの圧力を調整します。(下表参照)
- 調整ノブの上にあるエア圧力計を確認し、使用するメディアに合わせて圧力を調整してください。
- 使用するメディア種、前処理、地張り剤の状態により圧力の調整が必要となりますが、目安として、ストレッチ系素材は圧力を軽く、非ストレッチ系素材は圧力を重くしてください。
- プリント開始後には、併せて本体巻取り側の布の引き剥がし状態を確認して、圧力の微調整を行ってください。



調整ダイヤルの回転方向	加圧ローラ	エア圧力計表示
時計方向	軽くなる	エア圧が上がる
反時計方向	重くなる	エア圧が下がる

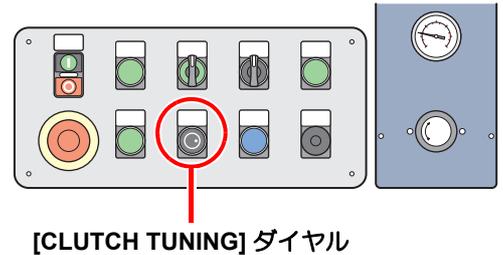


- 加圧ローラは重量ローラです。
- 加圧ローラを下げる時は、加圧ローラ近くに作業者がいないか確認してから行ってください。
- 加圧ローラに手等を挟まれると怪我の恐れがあり、大変危険です。

11

必要に応じて [CLUTCH TUNING] ダイアルを調整する

- 調整ダイヤルを回転させて、繰出しメディアの回転する重さを調整します。(下表参照)
- 繰出しメディアにたるみが発生する場合は重くしてください。
- 繰出しメディアに縦じわが発生する場合は軽くしてください。



調整ダイヤル	回転する重さ
時計方向	重くなる
反時計方向	軽くなる

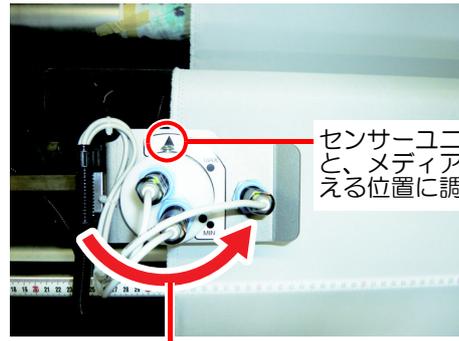
12 センタリングセンサーの位置を調整する

- センタリングセンサユニットを回転させて、センタリング検出幅を調整します。
最大：約 30mm のメディアズレを許容します。
最小：約 10mm のメディアズレを許容します。
- 最大値から最小値の間で任意の位置に調整して使用してください。

- 重要!**
- センタリング機能は、巻きズレの大きい物、ストレッチ素材等は、センタリングの効果が期待できない場合があります。必ず、テストプリントを行い、センタリングが有効に機能しているか確認してからご使用ください。
 - メディアが蛇行する、地張り時にシワが入るなどの不具合が発生した場合は、センタリング機能は OFF にしてプリントしてください。



センサーユニット裏面にあるつまみねじを緩め、センサーユニットを左右移動可能にする。



センタリングセンサーの検出幅を調整する。

センサーユニットの矢印と、メディア端面をそろえる位置に調整する。

13 操作タッチパネルのセンタリングの OFF を押してセンタリング機能を ON に切り替える



14 必要に応じて、ベルト洗浄の OFF を押してベルト洗浄を ON に切り替える

- 必要に応じて、エアブレード、ベルトヒータも ON に切り替えます。



15

ベルトスピードの [-][+] を押して 10m/min 程度の速度設定にする

- ベルト動作方向は、フォアフィードに設定してください。



16

ベルトのスタートを押してベルトを動作させ、メディアを搬送する



重要!

- プリンタ部のジョグキーにより、300mm 単位でのメディアのバックフィードは可能ですが、メディアのシワや折れの発生、ベルト洗浄水によるメディア汚染などの恐れがありますので出来る限り、バックフィードは行わないでください。
- やむをえずバックフィードを行う際は、巻取側メディアを十分弛ませる、繰出側メディアを巻取りながらキー操作を行うなどの処置を行った上でメディアの状態に注意しながら実施してください。
- バックフィードを行ったことによる、プリンタの破損、メディア損傷、プリント品質低下等の損害については、保障致しかねますのでご注意ください。

17

ベルトのストップを押してベルトを停止させる

- メディアを巻取りユニットの紙管に止めるのに十分な量のメディアを繰り出したら、ベルトを停止させてください。



メディアを巻き取る

繰り出したメディアを空の紙管に巻き取ります。

1 巻取ユニットに空紙管をセットする

- 繰出ユニットのロールシャフトのセットと同様に巻取ユニットに空の紙管をセットしてください。
- 空の紙管は、肉厚 5mm 以上の物を推奨します。
- 紙管の肉厚が薄いと巻取り途中で、紙管が折れる、たわむなどの影響により正常に巻取りができなくなる恐れがあります。

2 メディアを空紙管に固定する

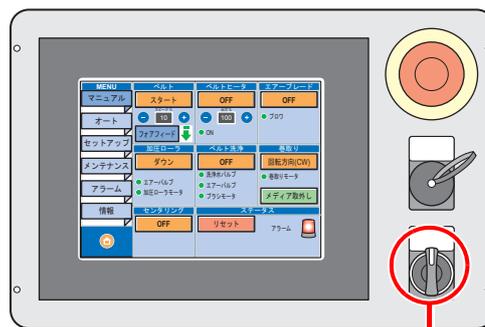
- 空紙管にかかるくらいまでメディアを繰り出し、粘着テープで紙管に固定します。

- 重要!**
- メディアを空紙管に固定するときは、巻取り時に剥がれないように、なるべく 30cm 以上の間隔で固定してください。



3 正面コントロールパネルの[TAKE-UP MANUAL]レバーを操作して、メディアを巻き付ける

- 最低 2 周以上は巻き付けて、紙管からのメディア落下を防止してください。



[TAKE-UP MANUAL] レバー

4

操作タッチパネルの[オート]を押してオート画面にする



5

メディア巻取り方向に合わせて、操作タッチパネルの巻取り回転方向を押して切り替える(下表参照)

巻取り方向	回転方向
外巻き	CW
内巻き	CCW



6

操作タッチパネルのセンタリングのOFFを押してセンタリング機能をONに切り替える



7

必要に応じて、ベルト洗浄のOFFを押してベルト洗浄をONに切り替える

- 必要に応じて、エアブレード、ベルトヒータもONに切り替えます。



ヘッドギャップを設定する

ヘッドギャップ(メディアからヘッドノズル面までの高さ)を設定します。
プリント時やメンテナンス機能などでヘッドがベルト上へ移動する動作が行われる際に、設定されているヘッドギャップ位置に移動します。

ヘッドギャップの上限は、メディア厚により変化します。

設定値 : [1.5 mm ~ 7.0 mm] (0.1 mm単位 / 初期値 : 2.0 mm)

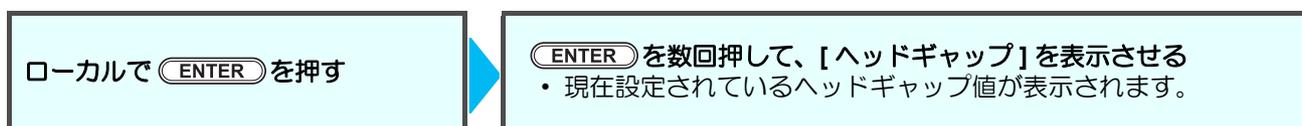
重要!

- ヘッド高さは3mm以下にしてお使いになることをおすすめします。3mm以上にして使用した場合、プリント画像のボヤケやプリント経過での色味の変化・インクミストによるノズル抜けなどが起こる可能性があります。
- ヘッド高さを3mm以上で使用したことによるプリント品質について、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

1	ローカルで、 MEDIA キーを押す	ヘッドギャップ° [ENT]
2	ENTER キーを押す	ヘッドギャップ° = 2.0mm
3	▲▼ を押して、ヘッドギャップ値を設定する ・設定値 : 1.5 ~ 7.0mm	ヘッドギャップ° = 2.0mm
4	ENTER キーを押す	セッテイ ヘッドギャップ° [ENT]
5	終了するとき、 END キーを数回押す	

ヘッドギャップ値を確認する

現在設定されているヘッドギャップ値を確認したいときは、次の操作をしてください。



MEDIA を使わないでヘッドギャップを設定するには

MEDIA キーを押さなくても、ローカルから**FUNCTION**キーを使ってヘッドギャップを設定することができます。



メディアを検出する

メディア検出は、プリントできるエリアを設定するための機能です。

1

メディア選択画面で   を押し、ロール/リーフを選択する

メディア センタク
ロール < > リーフ

• “リーフ” を選択した場合は、手順 2 へ進みます。

2

プリントエリアの幅を入力する

• Y 方向のプリントエリアを設定します。

プリント幅が予め分かっている場合

- (1)   を押して数値を入力する
 - (2)  キーを押す
- キャリッジが移動します。

プリント エリア [mm]
1860mm

重要! •   でプリント幅を入力した場合、手順 3 で設定する原点位置によってはメディア外に印刷をすることがあるのでお気をつけください。

プリント幅が分からない場合は

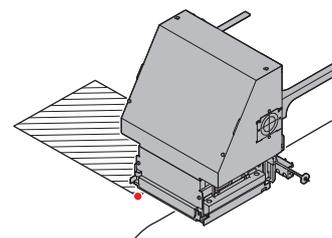
- (1)   を押して “MANUAL” を選択する
 - (2)  キーを押す
- キャリッジが移動します。

プリント エリア [mm]
MANUAL

3

プリント原点を決定する

- (1)   を押してプリント開始位置 (原点) までキャリッジを移動する
- キャリッジに付いている矢印マークを設定したい位置に合わせてください。
- (2)  キーを押す

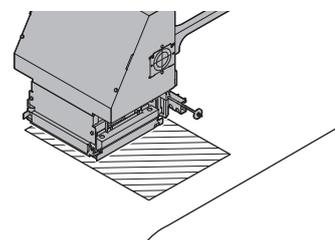


- 手順 2 で “MANUAL” に設定した場合は、手順 4 へ進みます。
- 手順 2 でプリント幅を数値入力した場合は、入力した数値に合わせて自動的にプリントエリアの左端が設定され、ローカルに戻ります。手順 4 の操作をする必要はありません。

4

プリントエリア幅を決定する

- (1)   を押してプリントエリアの左端にキャリッジを移動する
 - キャリッジに付いている矢印マークを設定したい位置に合わせてください。
 - (2)  キーを押す
- キャッピング動作のあと、ローカルに戻ります。



• プリントエリアの設定を間違えた場合は、次の操作をしたあと手順 1 から検出し直してください。

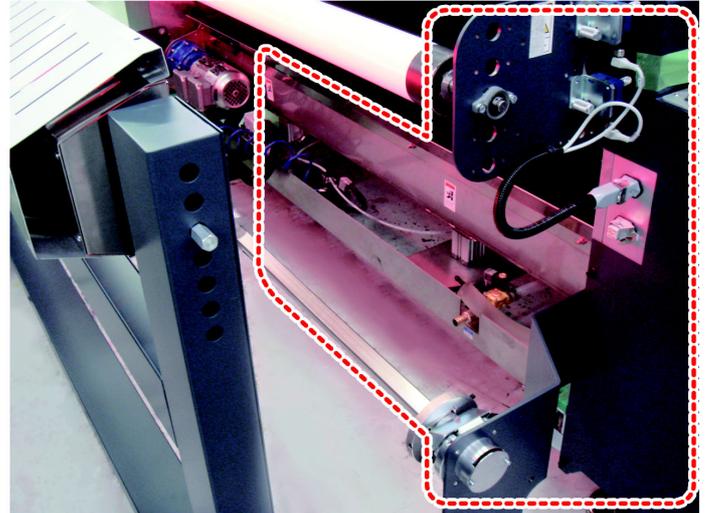
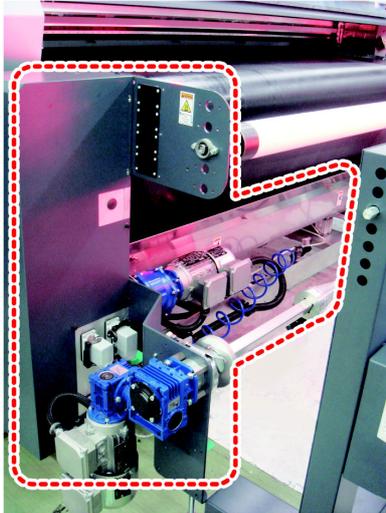
- (1)  キーを押す
- (2)   を押して、[メディアリセット] を選ぶ
- (3)  キーを押す
- (4)  キーを押す

オプションヒータ MTA-190 を使用する場合

オプションヒータ MTA-190 は、Tx500-1800B と連動してプリントに合わせて自動でヒータをオン/オフします。



- オプションヒータ MTA-190 は乾燥を補助する装置のため、乾燥が不完全の場合があります。インクが乾燥せず裏移りや汚れが発生する場合、間紙を使用して裏移りを防止してください。
- ヒータ使用時にヒータが照射されている周りの板金が熱くなります。特に下記の個所は発熱するので注意してください。ヒータ使用後は触らないように注意してください。

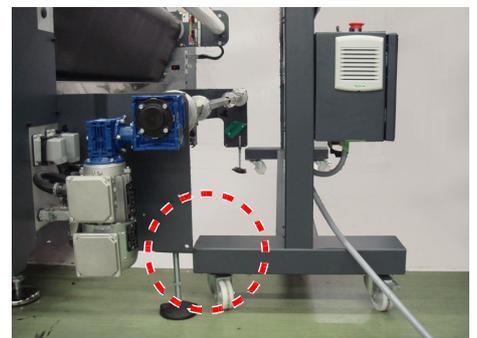


ヒータ使用時の注意事項

キャスターはロックしてお使いください。



オプションヒータ MTA-190 - メディア間の距離は、400mm で以上お使いになることを推奨します。
ヒータ脚と巻取り板金を接触させた位置が約 350mm です。



電源を入れる

1

電源スイッチを入れる

- ・装置背面にある電源スイッチを「ON」側に回します。



電源を切る

使用が終了したら、装置背面にある電源スイッチを回して電源をオフにします。

1

電源スイッチを回して、電源を切る



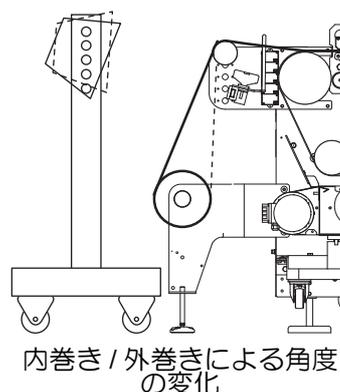
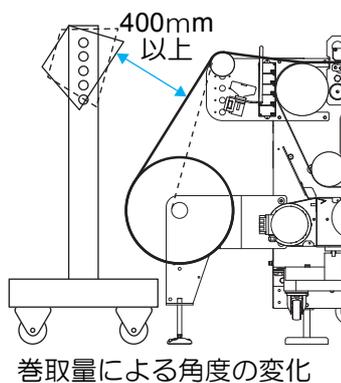
2

基本的な使い方

ヒータの角度を調整する

オプションヒータ MTA-190 を使用する場合は、プリント後のメディアを正常に乾燥させるためにメディアの角度に合わせてヒータの角度を調整してください。

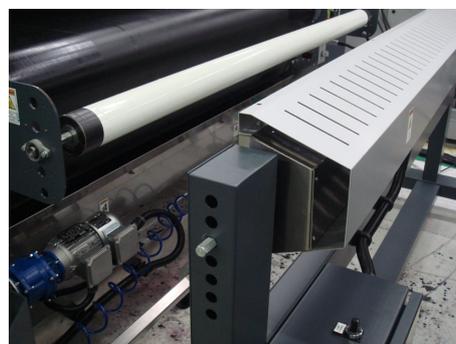
- 重要!**
- オプションヒータ MTA-190 を使用するときは、フリーローラから巻取装置までのメディア面に平行になるようにしてください。
 - メディア面の角度は、巻取方法（内巻き / 外巻き）や巻き取ったメディア量によって変化します。



- メディアとヒータを近づけすぎると、メディアを痛めるだけでなく焦げが発生する場合があります。メディアとヒータの距離は、400mm 程度離してお使いください。

1

オプションヒータ MTA-190 側面の六角ボルトを、Tx500-1800B に付属のモンキーレンチを使用して緩める



2

ヒータの角度を調整し、六角ボルトを締める

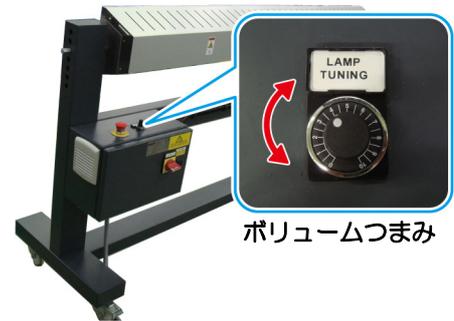
- 重要!**
- ヒータの角度調整は、必ず 2 人以上で行ってください。



ヒータの温度を調整する

ヒータの温度は、ボリュームつまみを回して調整します。
距離 400mm、ボリュームは 40%（綿の場合）での使用を推奨します。

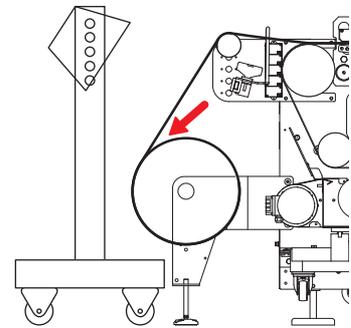
メディアや前処理剤によっては、温度が高すぎると変色する場合があります。変色が発生した場合、ヒータ出力を下げるか、ヒータと Tx500-1800B の距離を広げてください。



印字率の高いデータをプリントした場合、インクが乾燥せず裏移りすることがあります。裏移りが発生したら、乾燥時間の設定を行うか（☞ P.3-4 「乾燥時間の設定をする」）、間紙を使用して裏移りを防止してください。



- 裏移りの確認をする
プリント中に右記矢印箇所（紙の裏面）に紙（コピー用紙等）を挟みこみ、紙にインクが付着しているかで裏移り（乾燥性）の確認を行ってください。
紙にインクが付着する場合は裏移りしている可能性があります。この場合、ご使用のヒータ条件を再度確認してください。または、乾燥時間の設定を行ってください。



テストフィードをする

プリント前に本機能を実施し、正常にメディアが搬送できることを確認します。

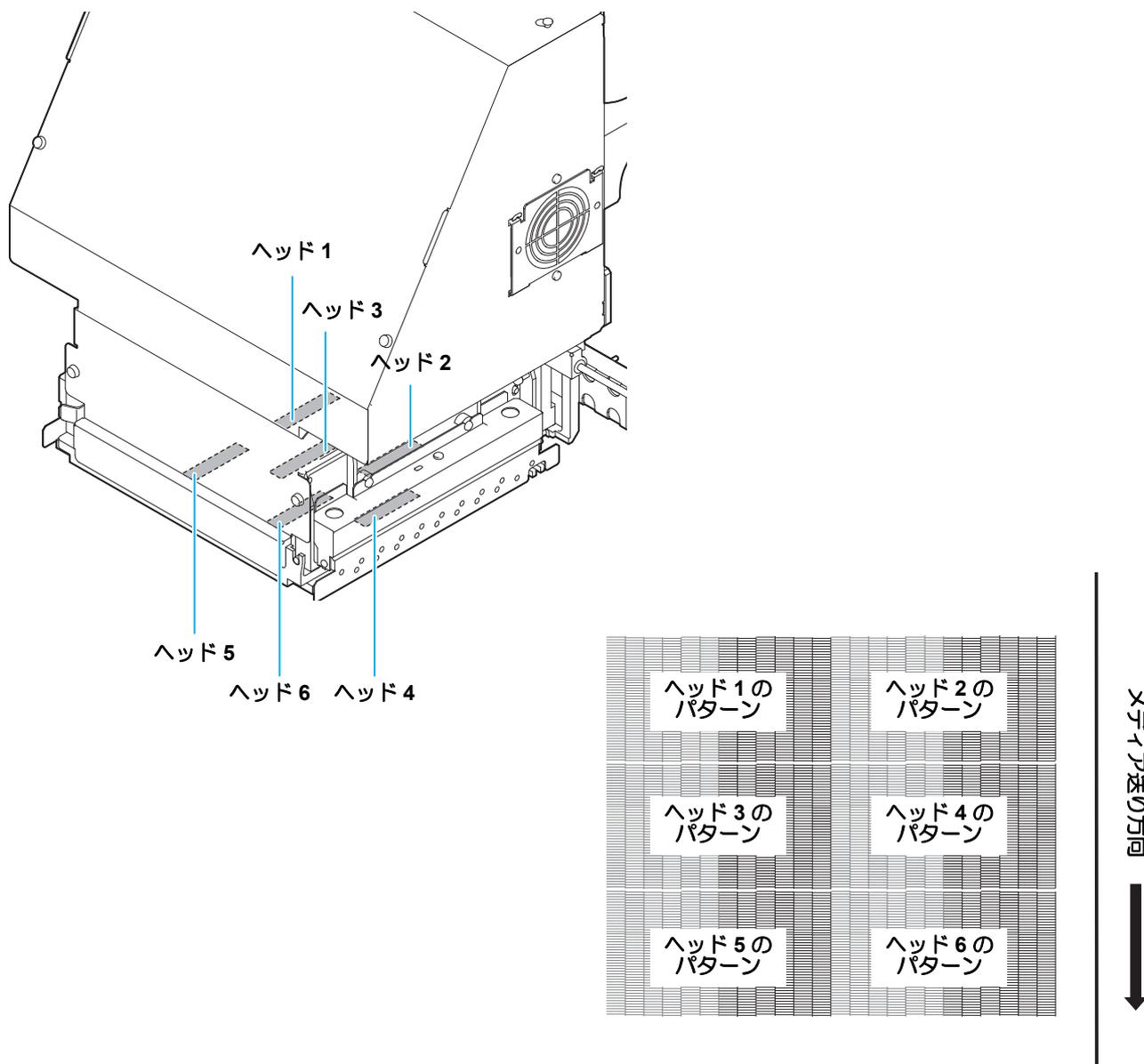
-
- | | | |
|----------|--|-----------------------------------|
| 1 | ローカルで、 TEST PRINT/CLEANING キーを 3 回押す | テスト フィード`
[ENT] |
| 2 | ENTER キーを押す | テスト フィード`
カイン [ENT] |
| 3 | ENTER キーを押す
・テストフィードを開始します。 | ** テスト フィード` **
シハ`ラク オマチクダ`サイ |
| 4 | END キーを押す
・ END キーを押すまで、フィード動作を継続します。
・ある程度フィードさせて搬送状況を確認してから、 END キーを押して終了します。 | |
-

テストプリントをする

テストパターンをプリントして、ノズル詰まりなどの吐出不良（カスレや抜け）がないか確認します。

ヘッドの配列とテストパターンの関係

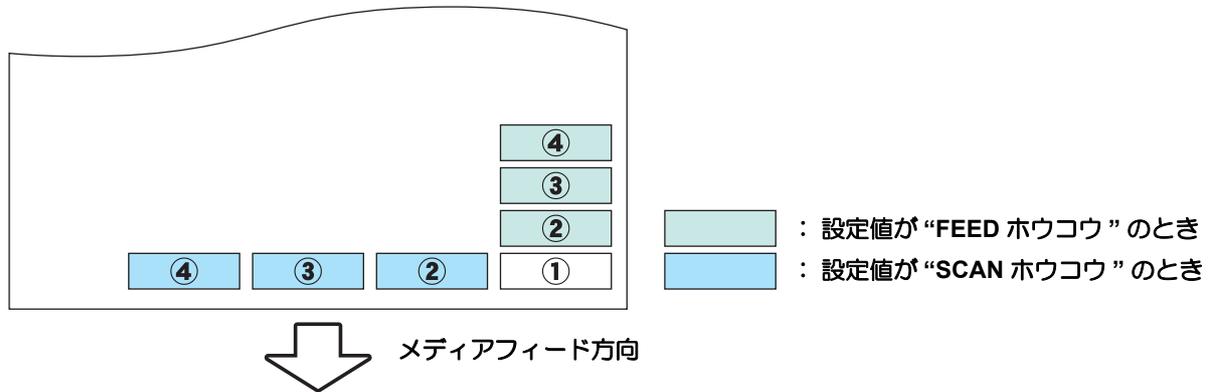
ヘッドの配列とプリントしたテストパターンのプリント位置は、下図の通りです。



テストプリントを行う

テストパターンをプリントして、ノズル詰まりなどの吐出不良（カスレや抜け）がないか確認します。

また、テストプリントを繰り返し実行するときのために、プリントするテストパターンの配置方向を次の2種類から選択することができます。使い方に合わせて選択してください。



テストプリントの前に確認してください	<ul style="list-style-type: none"> メディアをセットしているか (P.2-11) 原点位置をセットしているか ヘッド高さを調整しているか (P.2-23)
--------------------	---

- 1** ローカルで、**TEST PRINT/CLEANING** キーを押す

 - ▲▼を押して、テストパターンの配置方向を変更できます。

テスト サクス`
(FEED ホウコウ) [ENT]

2 **ENTER** キーを押す

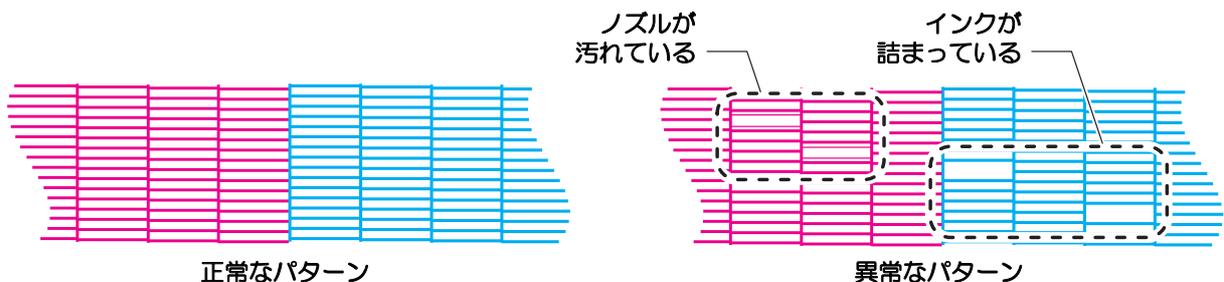
 - テストプリントを開始します。
 - プリントが終わると、手順 1 の表示に戻ります。

** プリント **
シハ`ラク オマチクタ`サイ

テスト サクス`
(FEED ホウコウ) [ENT]

3 プリント結果を確認する

 - 正常な場合は、操作を終了します。
 - 異常があった場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。(P.2-33)



ヘッドクリーニング

ヘッドクリーニングについて

プリントしたテストパターンの結果を確認して、症状に合わせたクリーニングを行います。次の3種類から選んでください。

- ソフト : 線の曲がり、抜けがある時
- ノーマル : 線の抜けがある時、混色している時
- ハード : ノーマル、ソフトでクリーニングを実行しても画質不良が改善しない時

テストプリントの結果に合わせてヘッドクリーニングを行う

ヘッドクリーニングには、3種類あります。パターンプリントの結果によって使い分けてください。

1 ローカルモードで、**TEST PRINT/CLEANING** キーを2回押す

クリーニング [*] ソフト	[ENT]
----------------------------	-------

2 **▲** **▼** を押して、クリーニングタイプを選択する

クリーニング [*] ノーマル	[ENT]
-----------------------------	-------

ソフト : 線の曲がり、抜けがある時
ノーマル : 線の抜けがある時、混色している時
ハード : ノーマル、ソフトでクリーニングを実行しても画質不良が改善しない時

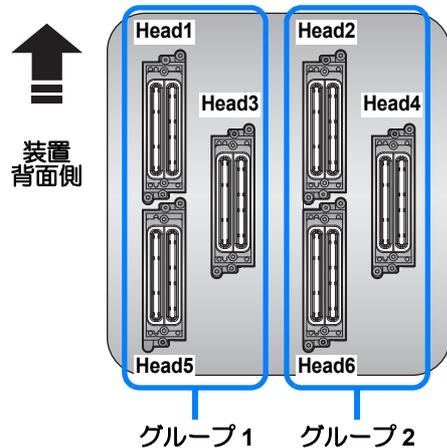
3 **ENTER** キーを押す

ヘッド [*] センタク : 12

4 **▲** **▼** を押して、クリーニングするヘッドを選択する

ヘッド [*] センタク : 1_

・設定値 : 12 (全てのヘッド)
1_ (グループ1のヘッド)
_2 (グループ2のヘッド)



5 **ENTER** キーを押す

** クリーニング [*] ** 00:00:00

6 再度テストプリントを実行し、プリント結果を確認する

- ・プリント結果が正常になるまで、クリーニングとテストプリントを繰り返してください。



ヘッドクリーニングを実行しても画質品質が改良されない場合

- ・ワイパーとインクキャップのクリーニングをする (☞ P.4-6)
- ・「ノズル詰まりが復旧しない場合」を参照して、ヘッドノズルの洗浄 (☞ P.4-17) とノズルリカバリの設定をする (☞ P.4-19)

2 基本的な使い方

メディアの送りを設定する

メディアの送り量を補正してください。

補正值が適切でないと、プリントした画像に縞が入るなど、きれいにプリントできない場合があります。

重要!

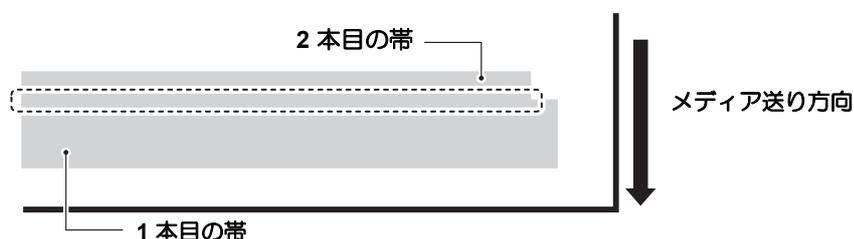
- メディアの種類を変更した場合、パターンを確認し状況に応じて調整を行う必要があります。
- 巻取ユニットを使用してのプリントの場合、あらかじめメディアをセットした状態でメディア補正を行ってください。

フィード補正の設定

補正パターンをプリントして、メディア送り量の補正を行います。



- 補正パターンでは2本の帯をプリントします。
- 2本の帯の境が均等の濃さになるように調整してください。



1

メディアをセットする (🔧 P.2-11)

2

メディア搬送部をプリント可能な状態にする

操作タッチパネルで次の各項目を切り替えてください。

- [オート] を押して、オート画面にする
- 補助機能 (🔧 P.2-7) を参照して、必要な機能をONにする。



3

ローカルで、**ADJUST** キーを押す

フィード` ホセイ [ENT]

4

ENTER キーを押す

フィード` ホセイ
フ`リント カイシ [ENT]

5

ENTER キーを押して、補正パターンをプリントする

** フ`リント **
シハ`ラク オマチクタ`サイ

6 補正パターンを確認し、補正値を入力する

"+" に入力すると: 2本の帯の間隔が広がる方向に移動します。
 "-" に入力すると: 2本の帯の間隔が近づく方向に移動します。



- 補正値を“20”変更すると帯が約 0.01mm 移動します。この補正量を参考にして補正値を決定してください。

フィード` ホセイ
 = 0

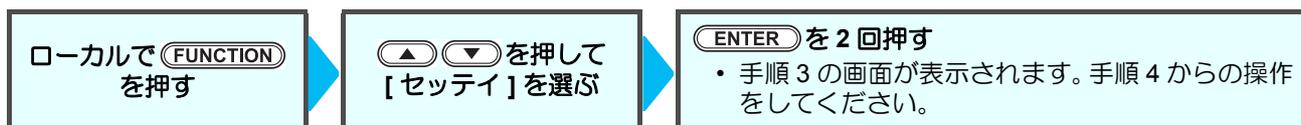
7 **ENTER** キーを押す

- 再度、補正パターンをプリントして確認します。
- 補正の必要がある場合は、手順 5 の操作をして補正してください。

フィード` ホセイ
 プリント カイシ [ENT]

8 終了するとき、**END** キーを数回押す**ADJUST** を使わないでフィード補正をするには

ADJUST キーを押さなくても、ローカルから **FUNCTION** キーを使ってフィード補正を選ぶことができます。



プリント中にメディア送りを補正したいときは

リモートモードや画像データのプリント中でもメディア送り量の補正ができます。

1 リモートで、**ADJUST** キーを押す

リモート **.*mm

フィード` ホセイ
 0 ▶ 0

現在の [フィードホセイ] の値

2 ▲ ▼ を押して、補正量を入力する

- 補正量: -9999 ~ 9999
- ここで入力した値は、すぐに補正量に反映されます。

3 **ENTER** キーを押す

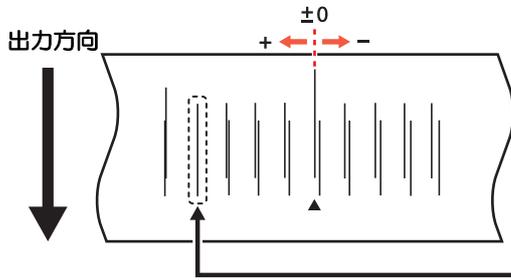
- 変更した値が登録されます。
- ENTER** キーの代わりに **END** キーを押すと、ここで補正した内容は無効となります。

リモート **.*mm

双方向プリントのドット位置を調整する

プリント時の条件（メディアの厚み／ヘッドの高さなど）を変えたときは、次の操作をして双方向（Bi）プリント時のインクの落下位置を補正し、適正なプリント結果を得られるようにしてください。

ドット位置補正パターンプリント例



プラス方向に 0 位置から 4 本目が、直線で表示されています。この場合のドット位置補正値は 4.0 です。

1

メディアをセットし、プリント原点を設定する (👉 P.2-11)

2

メディア搬送部をプリント可能な状態にする

操作タッチパネルで次の各項目を切り替えてください。

- [オート] を押して、オート画面にする
- 補助機能 (👉 P.2-7) を参照して、必要な機能を ON にする。



3

ローカルで、**ADJUST** キーを 2 回押す

トット イチ ホセイ [ENT]

4

ENTER キーを押す

トット イチ ホセイ
プリント カイシ [ENT]

5

ENTER キーを押して、パターンプリントを開始する

- 複数のテストパターンをプリントします。(プリント順にパターン 1,2,3... と呼ぶ)

** プリント **
シバラク オマチクタサイ

6

▲ ▼ を押して、パターン 1 ~ のドット位置を補正する

ハ° ターン1
= 0.0

- 補正値：-40.0 ~ 40.0
- テストパターンを確認し、往路と復路が 1 本の直線になっている位置が補正値となります。
- 補正値が -40.0 ~ 40.0 の間にない場合は、ヘッドギャップを調整後、手順 2 から操作をし直してください。

7

ENTER キーを押して、補正値を確定する

- 次のパターンを補正する画面が表示されます。手順 5 からの操作を繰り返して全てのパターンの補正をしてください。
- すべてのパターンを補正したら、手順 7 の操作をしてください。

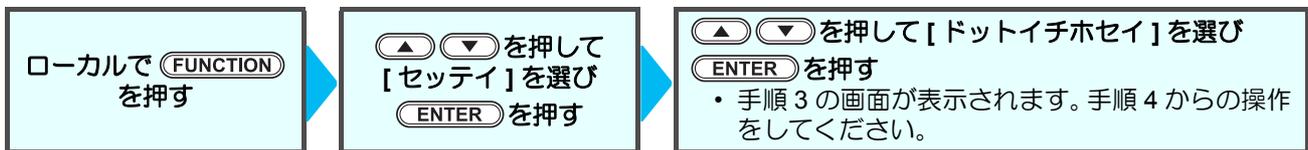
ハ° ターン2	
=	0.0

8

終了するとき、**END** キーを数回押す

ADJUST を使わないでドット位置補正をするには

ADJUST キーを押さなくても、ローカルから **FUNCTION** キーを使ってドット位置補正を選ぶことができます。



2

基本的な使い方

データをプリントする

プリントを開始する

- 重要!** ・ロールメディアを使用する場合、プリントを開始する前にロールメディアを手で巻き戻し、たるみのない状態にしてください。画質不良の原因になります。

1 メディアをセットする (☞ P.2-11)

2 メディア搬送部をプリント可能な状態にする

- 操作タッチパネルで次の各項目を切り替えてください。
- ・[オート]を押して、オート画面にする
 - ・補助機能 (☞ P.2-7)を参照して、必要な機能をONにする。



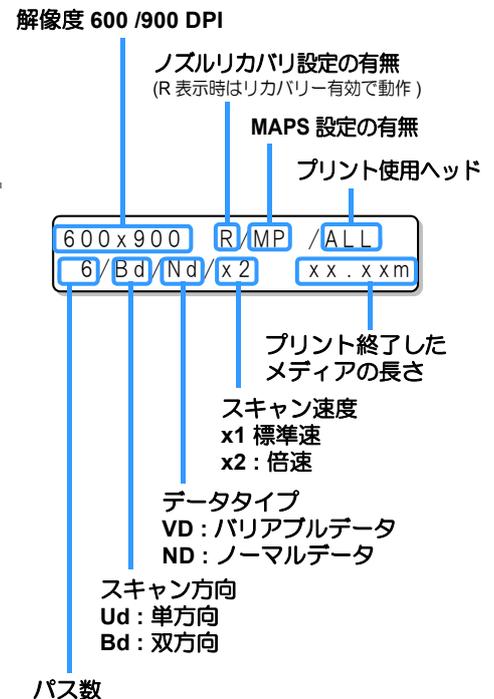
3 ローカルで、(REMOTE) キーを押す

- ・リモートモードになり、コンピュータからのデータを受信できるようになります。

4 コンピュータからプリントするデータを送信する

- ・プリント条件を表示します。
- ・データの送信方法については、出カソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

5 プリント開始



プリントを中断する

プリントを途中で止める場合、次の操作をしてください。

1 プリント中に、**REMOTE** キーを押す

- プリント動作を中止します。
- コンピュータからデータを送信している場合は、コンピュータ側でデータ送信を止めます。
- 再度**REMOTE** キーを押すと、中断したデータからプリントを再開します。

<ローカル>
プリントデータ アリ

受信したデータを消去する (データクリア)

プリントを中止したいときは、受信済みのデータを消去してください。

1 ローカルで、**DATA CLEAR** キーを押す

データ クリア [ENT]

2 **ENTER** キーを押します。

- 受信データを消去し、ローカルモードに戻ります。

** データ クリア **

第3章 便利な使い方



この章では ...

本機をより便利に使うための操作方法や、各種設定方法について説明しています。

設定機能一覧表	3-2	言語の設定をする	3-20
ロジカルシークの設定をする	3-3	メディアケンシュツの設定をする	3-21
乾燥時間の設定をする	3-4	乾燥フィードの設定をする	3-22
パス間のシマを軽減する設定をする	3-5	確認フィードの設定をする	3-23
メディア送り量を変更して画質を 向上させる	3-7	余白部分のフィード方式を設定する	3-24
オートクリーニングの設定をする	3-8	ネットワークの設定をする	3-25
ノズル面の清掃頻度を設定する	3-9	イベントメール機能の設定	3-27
その他の設定	3-10	設定ロックの設定をする	3-37
マシン設定	3-11	設定した内容を初期状態に戻す	3-39
オートパワーオフの設定をする	3-13	装置情報を確認する	3-40
メディア残量表示の設定をする	3-14	装置の使用状況を確認する	3-40
ジコクの設定をする	3-16	装置のバージョン情報を確認する	3-42
タンイの設定をする	3-17	本機の情報を表示する	3-43
キーブザーの設定をする	3-18		
使用ヘッドラインを選択する	3-19		

設定機能一覧表

各設定機能の概要と設定値について説明します。

重要!

- 初期値「ホスト」の機能について
RIPソフトウェアで指定した設定値によって、動作させることができます。
「ホスト」以外に設定した場合、RIPソフトウェアからの指示によらずその設定値で動作します。
RIPソフトウェアによっては指示できない機能があります。その場合、「RIPからの指示がない場合」の設定値で動作します。
- RIPソフトウェアでの指定方法については、RIPソフトウェアの取扱説明書をご参照ください。

機能名称	設定値	初期値	RIPから指示がない場合 ^{*1}	概要
フィードホセイ (☞ P.2-34)	-9999 ~ 9999	0	————	メディアの送り量を補正するためのパターンをプリントし、補正します。
ドットイチホセイ (☞ P.2-36)	-40.0 ~ 40.0	0	————	往復プリントにおける、着弾位置の調整を行います。
ロジカルシーク (☞ P.3-3)	ホスト / ON/OFF	ホスト	ON	プリント中のスキャン可動範囲を設定します。
カサネヌリ (☞ P.3-10)	ホスト / 1 ~ 9	ホスト	1	インクの重ね塗りをを行います。
カンソウジカン (☞ P.3-4)	ホスト / 0.0 ~ 9.9 sec	ホスト	0 sec	スキャン毎のインクの乾燥時間を設定します。
リフレッシュ (☞ P.3-10)	ホスト / Lv.0 (リフレッシュ間隔長い) ~ 3 (間隔短い)	ホスト	Lv.3	プリント中に、インクヘッドのリフレッシュを行います。
フィードソクド (☞ P.3-10)	ホスト / 10 ~ 200% ^{*2}	ホスト	100%	プリント中などにメディア送りをする速度を変更します。
MAPS (☞ P.3-5)	プリントソクド	OFF/ON	OFF	パス間のシマを軽減する設定をします。
	チョウセイ	-50 ~ +50%	0%	
ベルトエンコーダ (☞ P.3-5)	OFF/ON	OFF	————	送りムラを軽減して、プリント品質を向上する設定をします。
オートクリーニング (☞ P.3-8)	OFF、ページ、キョリ、ジカン		OFF ^{*3}	プリント前またはプリント中に行う、ヘッドの自動クリーニング動作を設定します。
	ページ カンカクタイプ	1 ~ 1000 ページ	1 ページ	
		ノーマル / ソフト / ハード	ソフト	
	キョリ カンカクタイプ	0.1 ~ 100.0m	0.5m	
		ノーマル / ソフト / ハード	ソフト	
ジカン カンカクタイプ	10 ~ 120min	10min		
	ノーマル / ソフト / ハード	ソフト		
テキワイピング (☞ P.3-9)	3 ~ 255 分, OFF	OFF	————	プリント中に行う、ワイピング動作を設定します。
ヘッドギャップ (☞ P.2-23)	1.5 ~ 7.0mm	2.0 mm	————	ヘッド高さを設定します。

*1. 本機のタイプ登録で“ホスト”を設定しているのに、RIPソフトウェア(ホスト)側で設定値の指定がないまたは、装置側の設定値を優先する設定にしている場合の、プリント時に使用される設定値です。

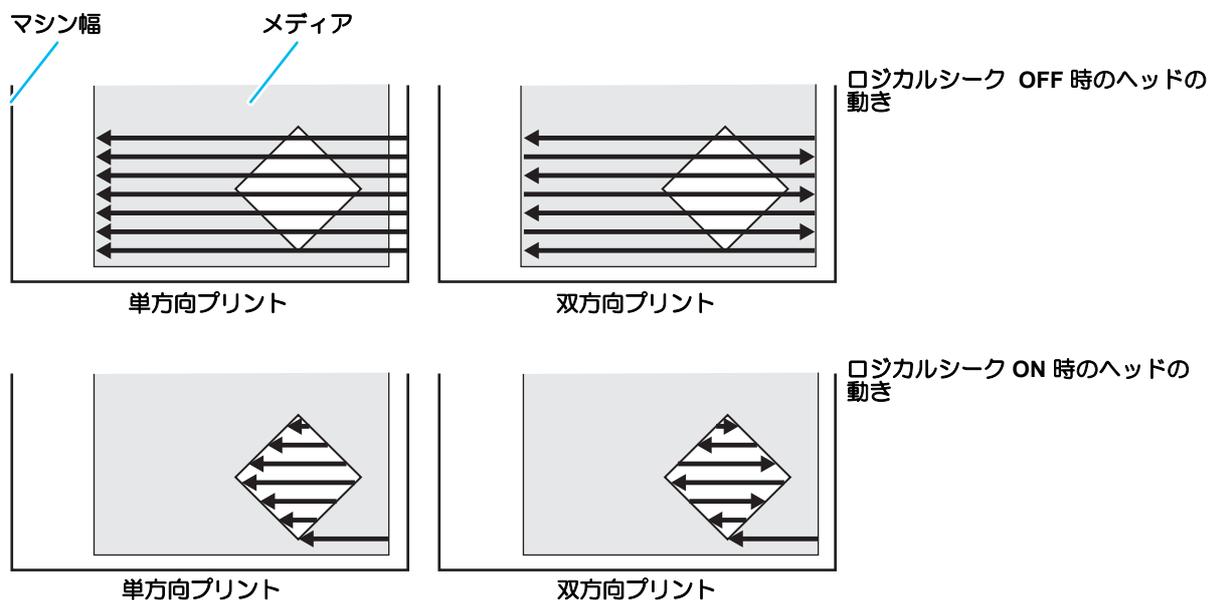
*2. 100%以上に設定した場合、プリント完了までの時間は短くなりますが、十分な乾燥時間が得られずに画質に影響する場合があります。

*3. Sb300 充填時のみ初期値が“距離 (20.0mm)、ソフト”になります。

ロジカルシークの設定をする

ロジカルシークの設定により、ヘッドの動作が変わります。

- 重要!** ・ロジカルシークの設定については、RasterLink 側での指定ができません。本機の設定で“ホスト”に設定した場合は、プリント時“ロジカルシーク =ON”の状態ですべてのプリントが実行されます。



- 1** ローカルで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
 セッテイ [ENT]
- 2** **ENTER** キーを押す

セッテイ
 フィート* ホセイ [ENT]
- 3** **▲** **▼** を押して、**[ロジカルシーク]** を選ぶ

セッテイ
 ロジカルシーク [ENT]
- 4** **ENTER** キーを押す

ロジカルシーク
 : ホスト
- 5** **▲** **▼** を押して、設定値を選ぶ
 ・設定値：ホスト /ON/OFF

ロジカルシーク
 : ON
- 6** **ENTER** キーを押す

セッテイ
 ロジカルシーク [ENT]
- 7** 終了するとき、**END** キーを数回押す

乾燥時間の設定をする

乾燥時間の設定では、スキャン毎のインク乾燥時間を設定します。(双方向プリントの場合は、往路 / 復路のスキャン毎に設定した時間だけ一時停止する)

- 重要!**
- RasterLink 側の設定を優先させたいときは、設定値を “ ホスト ” にしてください。
 - RasterLink では、本機で設定する “ スキャン ” は “ スキャン毎の乾燥時間 ” と表示しています。

1	ローカルで、 FUNCTION キーを押す	FUNCTION セッテイ [ENT]
2	ENTER キーを押す	セッテイ フイート` ホセイ [ENT]
3	▲ ▼ を押して、 [カンソウジカン] を選ぶ	セッテイ カンソウ シ`カン [ENT]
4	ENTER キーを押す	スキャン = ホスト
5	▲ ▼ を押して、スキャン時の乾燥時間を設定する • お使いの RIP で指定している乾燥時間を有効にする場合は “ ホスト ” を選択してください。 • スキャンの設定値： ホストまたは 0.0 ~ 9.9 秒	スキャン = ホスト
6	ENTER キーを押す	セッテイ カンソウ シ`カン [ENT]
7	終了するとき、 END キーを数回押す	

パス間のシマを軽減する設定をする

フィード補正 (P.2-34) をしても送りシマが解消できない場合 “MAPS” (Mimaki Advanced PassSystem) を有効にしてください。パスの境界を分散させることにより、送りシマが目立ちにくくなります。
(ファームウェア Ver.1.10 以降に対応)



- MAPS の効果は、プリント速度の設定値で変化します。あらかじめ効果の確認を行った上で使用してください。
- プリント速度を上げた場合、プリント時間は短くなりますが、MAPS の効果は弱くなります。
- プリント速度を下げた場合、プリント時間は長くなりますが、MAPS の効果が上がり送りシマが目立ちにくくなります。
- 以下の条件でプリントを行う場合、プリント速度を 0% 以上に設定すると MAPS が無効になり、また 0% の速度でプリントを行います。MAPS を使用したい場合、プリント速度を “マイナス (-)” に設定してください。

4 色時

解像度	パス	スキャン速度
300 x 300	1 pass	標準速
300 x 300 HQ	2 pass	標準速
300 x 450 HQ	3 pass	標準速
600 x 600	2 pass	標準速
	4 pass	高速
600 x 900	3 pass	標準速
	6 pass	高速
600 x 1200	4 pass	標準速
	8 pass	高速

6 色以上時

解像度	パス	スキャン速度
300 x 300	2 pass	標準速
300 x 300 HQ	4 pass	標準速
600 x 450	3 pass	標準速
	6 pass	高速
600 x 600	4 pass	標準速
	8 pass	高速
600 x 900	6 pass	標準速
	12 pass	高速
600 x 1200	8 pass	標準速
	16 pass	高速

1

ローカルで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
セッテイ [ENT]

2

ENTER キーを押す

セッテイ
フィート` ホセイ [ENT]

3

▲ **▼** を押して、**[MAPS]** を選ぶ

セッテイ
MAPS [ENT]

4

ENTER キーを押す

MAPS
: OFF

5

▲ **▼** を押して、**ON/OFF** を設定する

• 設定値 : ON/OFF

MAPS
: ON

6

ENTER キーを押す

• OFF を選択した場合、手順 9 へ進みます。

プリント ソクト` チョウセイ
= 0%

7

▲ **▼** を押して、**プリント速度を変更する**

• 設定値 : -50 ~ +50%

プリント ソクト` チョウセイ
= 10%

重要! • 速度を変更した場合、ノズルリカバリの効果が出ない場合があります。あらかじめ確認を行った上で、使用してください。

3

便利な使い方

8

ENTER キーを押す

セッテイ
MAPS [ENT]

9

終了するとき、END キーを数回押す

メディア送り量を変更して画質を向上させる

ベルトエンコーダの設定を ON にすると、プリント品質を向上させることができます。プリントしたときの送りムラが気になるときや、ベルトのつなぎ目が気になるときに“ON” に設定してください。

- 重要!** ・ベルトエンコーダの設定を“ON”にすると、プリント品質は向上しますが、“OFF”設定時よりもプリント速度が10%程度遅くなります。

1	ローカルで、 FUNCTION キーを押す	FUNCTION セッテイ [ENT]
2	ENTER キーを押す	セッテイ フィード ホセイ [ENT]
3	▲ ▼ を押して、[ベルトエンコーダ] を選ぶ	セッテイ ベルト エンコーダ [ENT]
4	ENTER キーを押す	ベルト エンコーダ :OFF
5	▲ ▼ を押して、ON/OFF を設定する ・設定値：ON/OFF	ベルト エンコーダ :ON
6	ENTER キーを押す	セッテイ ベルト エンコーダ [ENT]
7	終了するとき、 END キーを数回押す	

オートクリーニングの設定をする

プリント終了後に今までプリントしたファイル数または長さまたは時間をカウントし、クリーニングが必要な場合は自動的にクリーニングを行うよう設定できます。

オートクリーニングの設定は、次の3種類から選択できます。

- ページ：プリントファイル数でクリーニング間隔を設定する
- キョリ：プリントした長さでクリーニング間隔を設定する
- ジカン：プリントした時間でクリーニング間隔を設定する

ヘッドを常に清潔に保つことで、安定した出力結果を持続することができます。

1	ローカルで、 FUNCTION キーを押す	FUNCTION セッテイ [ENT]
2	ENTER キーを押す	セッテイ フィート* ホセイ [ENT]
3	▲▼ を押して[オートクリーニング]を選び、 ENTER キーを押す	オート クリーニング* : OFF
4	▲▼ を押して、オートクリーニングの種類を選ぶ ・オートクリーニングの種類には“ページ”、“キョリ”と“ジカン”があります。 ページ：設定した回数のプリントが終了したら、自動的にヘッドクリーニングを行う キョリ：設定した長さを経過したら、自動的にヘッドのクリーニングを行う ジカン：設定した時間を通過したら、自動的にヘッドのクリーニングを行う ・オートクリーニングの設定をしない場合は、“OFF”を選んでから手順10へ進んでください。	オート クリーニング* : キョリ
5	ENTER キーを押す	
6	▲▼ を押して、クリーニング間隔を設定する ・手順5で選択したオートクリーニングの種類によって、設定値は異なります。 ページの場合：1～1000 ページ キョリの場合：0.1～100.0m (0.1m 単位で設定) ジカンの場合：10～120min (10min 単位で設定)	カンカク = 10.0m
7	ENTER キーを押す	タイプ° : ソフト
8	▲▼ を押して、クリーニングタイプを設定する 設定値：ノーマル/ソフト/ハード	タイプ° : ノーマル
9	ENTER キーを押す	
10	終了するとき、 END キーを数回押す	

重要!

- ・ヘッド等の状態によっては、本機能を実行してもプリント不良が復旧しない場合があります。この場合は、弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。

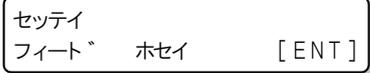
ノズル面の清掃頻度を設定する

設定した時間が経過すると、自動的にヘッドのノズル面の清掃を行い、ノズル面に付着したインク滴を取り除きます。
飛行曲がりやノズル抜け、インク滴が落ちるなどの症状が出た場合、動作間隔を短くします。

1	ローカルで、 FUNCTION キーを押す	FUNCTION セッテイ [ENT]
2	ENTER キーを押す	セッテイ フィード` ホセイ [ENT]
3	▲ ▼ を押して、[テイキ ワイピング] を選ぶ	セッテイ テイキ ワイピ`ング` [ENT]
4	ENTER キーを押す	テイキ ワイピ`ング` :OFF
5	▲ ▼ を押して、動作間隔を設定する ・設定値：3～255分，OFF ・[OFF] にすると、定期ワイピングを行いません。	テイキ ワイピ`ング` :OFF
6	ENTER キーを押す	セッテイ テイキ ワイピ`ング` [ENT]
7	終了するとき、 END キーを数回押す	

その他の設定

使い方に合わせて設定を変えてください。

- 1** ローカルで、**FUNCTION** キーを押す
 FUNCTION
セッテイ [ENT]
- 2** **ENTER** キーを押す
 セッテイ
フィード* ホセイ [ENT]
- 3** **▲** **▼** を押して設定する項目を選ぶ
・P.3-2「設定機能一覧表」を参照して選んでください。
- 4** **ENTER** キーを押す
- 5** **▲** **▼** を押して設定値を選ぶ
・P.3-2「設定機能一覧表」を参照して選んでください。
- 6** **ENTER** キーを押す
- 7** 終了するとき、**END** キーを数回押す

重要! ・設定した値は、電源を“OFF”にしても保持しています。

マシン設定

本装置を快適に使用するための各種設定です。
マシン設定で設定できる内容は、次の項目です。

項目		設定値	初期値	内容
オートパワーオフ (☞ P.3-13)		ナシ /10 ~ 600min	ナシ	設定した時間、操作がない場合、自動的にメディア搬送部の電源を“OFF”にします。
メディアザンリョウ (☞ P.3-14)		ON / OFF	OFF	メディアの残量を管理することができます。
ジコクセッテイ (☞ P.3-16)		+4h ~ -20h	日本時間	現在の日付と時刻を設定します。
タンイ (☞ P.3-17)	温度	°C (摂氏) / °F (華氏)	°C	温度の表示単位を設定します。
	長さ	mm / inch	mm	長さ、面積の表示単位を設定します。
キーブザー (☞ P.3-18)		ON / OFF	ON	キーを押したときのブザー音を設定します。
ヘッドセンタク (☞ P.3-19)		ALL HEAD line 1 HEAD line 2 HEAD line 3 HEAD line 1&2 HEAD line 2&3	ALL	ノズル詰まりなどのトラブルが解消しない場合、トラブルが発生していないヘッドのみを使用してプリントすることができます。
LANGUAGE (☞ P.3-20)		English ニホンゴ Deutsch Français Español Italiano Português	English	表示言語を変更します。
メディアケンシュツ (☞ P.3-21)		AUTO/MANUAL	AUTO	メディアをセットしたときに任意のメディア厚さを入力したいとき、または、メディア厚さセンサーの使用に問題があるとき“MANUAL”に設定します。
カンソウフィード (☞ P.3-22)		OFF/100 ~ 1000mm	OFF	プリントデータの後端まで均一に乾燥させるために、プリント完了後にフィードする長さを設定します。
カクニンフィード (☞ P.3-23)		ON/OFF	ON	テストプリントなどのプリント結果を確認するために、メディアのフィードを行うか設定します。
ヨハクフィードハウシキ (☞ P.3-24)		カンケツ / レンゾク	カンケツ	画像データに含まれる余白部分のフィード方式を変更します。
ネットワーク & メール	ネットワーク (☞ P.3-25)	ネットワークの設定をします。		
		IP アドレス	現在、本装置が使用中の IP アドレスを表示します。	
		MAC アドレス	現在、本装置が使用中の MAC アドレスを表示します。	
		DHCP	オン / オフ	オンの場合、DHCP サーバーより与えられた IP アドレスを使用します。
		AutoIP	オン / オフ	オンの場合、AutoIP プロトコルにより使用する IP アドレスを決定します。ただし、DHCP が ON の場合は DHCP を優先します。
		IP アドレス*1	本装置が使用する IP アドレスを設定します。	
		デフォルトゲートウェイ*1	本装置が使用するデフォルトゲートウェイを設定します。	
		DNS アドレス*1	本装置が使用する DNS サーバーのアドレスを設定します。	
		サブネットマスク*1	本装置が使用するサブネットマスクの桁数を設定します。	

項 目		設定値		初期値	内 容	
ネットワーク & メール	メール ソウシン	オン/オフ		オフ	設定したイベントが起こった際に、メールを送信する機能を設定します。	
		ソウシン イベント センタク	プリントスタート イベント	オン/オフ	オフ	プリント開始時にメールを送信する/しないを設定します。
			プリントエンド イベント	オン/オフ	オフ	プリント終了時にメールを送信する/しないを設定します。
			エラーイベント	オン/オフ	オフ	エラー発生時にメールを送信する/しないを設定します。
			ワーニングイベ ント	オン/オフ	オフ	ワーニング発生時にメールを送信する/しないを設定します。
			ソノタイイベント	オン/オフ	オフ	上記以外のイベント発生時にメールを送信する/しないを設定します。
	メール アドレス	イベントメールを送信する メールアドレスを設定しま す。		英数字、記号 (96 文字)		
	イベント メール (☞ P.3-25)	ケンメイ	イベントメールの件名に記 載する文字を設定します。		英数字、記号 (8 文字)	
	サーバー セッテイ	SMTP アドレス		SMTP サーバーを設定します。		
		SMTP ポート No.		SMTP のポート番号を設定します。		
		ニンショウホウ シキ	POP before SMTP	SMTPサーバーの認証方式を設定します。(SMTP認証)		
			SMTP Auth			
			オフ			
		ユーザーメイ *2		認証に使用するユーザー名を設定します。		
		パスワード *2		認証に使用するパスワードを設定します。		
		POP3 アドレス *3		POP サーバーを設定します。		
		APOP *3		APOP の ON/OFF を設定します。		
テストメールの送信を実行します。						
テスト メール ソウシン	オン/オフ		オフ	設定したイベントが起こった際に、メールを送信する機能を設定します。		
セッテイ ロック (☞ P.3-37)	ロック (パスワード 未設定時)	0000 ~ 9999		0000	ネットワーク、メール設定を管理者以外が できないよう、任意に 4 桁のパスワードが 設定できます。	
	カイジョ (パスワード 設定時)					
リセット (☞ P.3-39)		—————		—————	すべての設定項目を初期値に戻します。	

*1. [DHCP]、[AutoIP] が両方オフの場合のみ設定可能

*2. [ニンショウホウシキ] がオフでない場合のみ設定可能

*3. [ニンショウホウシキ] が POP before SMTP の場合のみ設定可能

オートパワーオフの設定をする

設定した時間、操作がない場合、自動的にメディア搬送部の電源を“OFF”にします。

1 ローカルで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
セッテイ [ENT]

2 **▲** **▼** を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ

FUNCTION
マシン セッテイ [ENT]

3 **ENTER** キーを2回押す

オート パワーオフ
= 30min

4 **▲** **▼** を押して、電源をオフにする時間を設定する
・設定値：ナシ, 10 ~ 600 min

オート パワーオフ
= 60min

5 **ENTER** キーを押す

マシン セッテイ
オート パワーオフ [ENT]

6 終了するとき、**END** キーを数回押す

重要! ・オートパワーオフした状態でパソコンからデータを受信すると電源オンしますが、自動でプリントを開始しません。

メディア残量表示の設定をする

メディア残量表示の設定をします。

メディア残量表示を ON にすると	リモートでメディア残量が表示されます。 (ただし、リーフメディアを使用した場合は、プリント長を表示します。)
メディア残量表示を OFF にすると	リモートでメディア残量は表示されません。



- プリント、JOG キーによるフィード量が、メディア残量に反映されます。
- メディア長 (残量初期値) はロールメディア検出時に入力します。(P.2-25)
- ここで行う設定は、設定終了後にメディア検出を行わないと有効になりません。

1

ローカルで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
セッテイ [ENT]

2

▲▼ を押して、**[マシンセッテイ]** を選ぶ

FUNCTION
マシン セッテイ [ENT]

3

ENTER キーを押す

マシン セッテイ
オート パワーオフ [ENT]

4

▲▼ を押して、**[メディアザンリョウ]** を選ぶ

マシン セッテイ
メディア ザンリョウ [ENT]

5

ENTER キーを押す

メディア ザンリョウ
: OFF

6

▲▼ を押して、**ON/OFF** を選ぶ

メディア ザンリョウ
: ON

7

ENTER キーを押す

マシン セッテイ
メディア ザンリョウ [ENT]

8

終了するとき、**END** キーを数回押す

メディア残量をプリントする

現在のメディア残量をプリントすることができます。



- メディア残量表示の設定を“ON”にしてください。
- メディア交換時には、今現在お使いのメディアに残量をプリントしておくことをお勧めします。あらかじめメディア残量をプリントしておくことで、交換したメディアを再度使うとき、メディア検出後のメディア残量入力画面 (P.2-25) で正確な数値を入力できます。

1

ローカルで、 を押す

- 原点設定モードになります。

ケンテン セッテイ
0.0 _____

2

を押して、原点を変更したい位置へ合わせる

- でキャリッジとメディアを移動させて選びます。
- 原点を変更しない場合は、 を押さずに手順3へ進んでください。

- ここで **ENTER** キーを押すと、原点が変更されローカルに戻ります。

ケンテン セッテイ
0.0 0.0
原点位置 原点位置
(長さ) (幅)

3

REMOTE キーを押す

- を押すと、手順2の画面に戻ります。
- **END** キーを押すと、ローカルに戻ります。

メディア サンリョウ プリント
[ENT]

4

ENTER キーを押す

- メディア残量のプリントを開始します。
- プリントが終わると、ローカルに戻ります。

重要!

- 原点を変更してプリントすると、以降のデータのプリントをするときもここで設定した原点が有効になります。

3

便利な使い方

ジコクの設定をする

お使いの国に合わせた時刻（時差）に設定することができます。

- 1 ローカルで、**FUNCTION** キーを押す
FUNCTION
セッテイ [ENT]
- 2 **▲** **▼** を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ
FUNCTION
マシン セッテイ [ENT]
- 3 **ENTER** キーを押す
マシン セッテイ
オート パワーオフ [ENT]
- 4 **▲** **▼** を押して、[ジコクセッテイ] を選ぶ
マシン セッテイ
ジコクセッテイ [ENT]
- 5 **ENTER** キーを押す
ジコクセッテイ
2012.10.05 21:30:00
- 6 **▲** **▼** **◀** **▶** を押して、時刻を入力する
年月日時分の選択： **◀** **▶** で選ぶ
年月日時分の入力： **▲** **▼** で入力
- 7 **ENTER** キーを押す
ジコクセッテイ
2012.10.05 15:30:00
・入力した時刻が表示されます。
- 8 終了するとき、**END** キーを数回押す



・ -20 ~ +4 時間の間で、設定できます。

タニイの設定をする

本装置で使用する単位を設定します。

- | | | |
|----|---|-----------------------------|
| 1 | ローカルで、 FUNCTION キーを押す | FUNCTION
セッテイ [ENT] |
| 2 | ▲ ▼ を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ | FUNCTION
マシン セッテイ [ENT] |
| 3 | ENTER キーを押す | マシン セッテイ
オート パワーオフ [ENT] |
| 4 | ▲ ▼ を押して、[タニイ] を選ぶ | マシン セッテイ
タニイ [ENT] |
| 5 | ENTER キーを押す | オント
: °C |
| 6 | ▲ ▼ を押して、温度の単位を選ぶ
・設定値 : °C/°F | |
| 7 | ENTER キーを押す | ナカ`サ
: mm |
| 8 | ▲ ▼ を押して、長さの単位を選ぶ
・設定値 : mm/inch | |
| 9 | ENTER キーを押す | マシン セッテイ
タニイ [ENT] |
| 10 | 終了するとき、 END キーを数回押す | |

キーブザーの設定をする

キーを押したときのブザー音を消すことができます。

- 1 ローカルで、**FUNCTION** キーを押す
FUNCTION
セッテイ [ENT]
- 2 **▲** **▼** を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ
FUNCTION
マシン セッテイ [ENT]
- 3 **ENTER** キーを押す
マシン セッテイ
オート パワーオフ [ENT]
- 4 **▲** **▼** を押して、[キーブザー] を選ぶ
マシン セッテイ
キー ブザー [ENT]
- 5 **ENTER** キーを押す
キー ブザー
: ON
- 6 **▲** **▼** を押して、ON/OFF を選ぶ
キー ブザー
: OFF
- 7 **ENTER** キーを押す
マシン セッテイ
キー ブザー [ENT]
- 8 終了するとき、**END** キーを数回押す



• 設定を "OFF" にしても、エラー / 警告 / 動作完了等のブザー音を消すことはできません。

使用ヘッドラインを選択する

ノズル詰まりなどのトラブルが解消しない場合、トラブルが発生していないヘッドを使用してプリントすることができます。

- | | | |
|---|--|-----------------------------|
| 1 | ローカルで、 FUNCTION キーを押す | FUNCTION
セッテイ [ENT] |
| 2 | ▲ ▼ を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ | FUNCTION
マシン セッテイ [ENT] |
| 3 | ENTER キーを押す | マシン セッテイ
オート パワーオフ [ENT] |
| 4 | ▲ ▼ を押して、[ヘッドセンタク] を選ぶ | マシン セッテイ
ヘッド センタク [ENT] |
| 5 | ENTER キーを押す | ヘッド センタク
:ALL |
| 6 | ▲ ▼ を押して、使用するヘッドを選ぶ
設定値 : ALL/ HEAD line 1/ HEAD line 2/ HEAD line 3/
HEAD line 1&2/ HEAD line 2&3 | ヘッド センタク
:HEAD line1 |
| 7 | ENTER キーを押す | マシン セッテイ
ヘッド センタク [ENT] |
| 8 | 終了するとき、 END キーを数回押す | |

言語の設定をする

表示言語を変更します。

- 1 ローカルで、**FUNCTION** キーを押す
FUNCTION
セッテイ [ENT]
- 2 **▲ ▼** を押して、**[マシンセッテイ]** を選ぶ
FUNCTION
マシン セッテイ [ENT]
- 3 **ENTER** キーを押す
マシン セッテイ
オート パワーオフ [ENT]
- 4 **▲ ▼** を押して、**[LANGUAGE]** を選ぶ
マシン セッテイ
LANGUAGE [ENT]
- 5 **ENTER** キーを押す
LANGUAGE
: English
- 6 **▲ ▼** を押して、言語を選ぶ
LANGUAGE
: ニホンゴ
・設定値：ニホンゴ / English / Deutsch / Français / Español / Italiano / Português
- 7 **ENTER** キーを押す
マシン セッテイ
LANGUAGE [ENT]
- 8 終了するとき、**END** キーを数回押す



・操作タッチパネルの表示言語の設定は、P.1-11「言語の設定」を参照してください。

メディアケンシュツの設定をする

メディアをセットしたときに任意のメディア厚さを入力したいときや、メディア厚さセンサーに問題があるとき“MANUAL”に設定します。

- | | | |
|---|--|-------------------------------|
| 1 | ローカルで、 FUNCTION キーを押す | FUNCTION
セッテイ [ENT] |
| 2 | ▲ ▼ を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ | FUNCTION
マシン セッテイ [ENT] |
| 3 | ENTER キーを押す | マシン セッテイ
オート ハ°ワーオフ [ENT] |
| 4 | ▲ ▼ を押して、[メディアケンシュツ] を選ぶ | マシン セッテイ
メデ ィア ケンシュツ [ENT] |
| 5 | ENTER キーを押す | アツサ ケンシュツ
: AUTO |
| 6 | ▲ ▼ を押して、“AUTO” または “MANUAL” を選ぶ | アツサ ケンシュツ
: MANUAL |
| 7 | ENTER キーを押す | マシン セッテイ
メデ ィア ケンシュツ [ENT] |
| 8 | 終了するとき、 END キーを数回押す | |

乾燥フィードの設定をする

プリントデータの後端まで均一に乾燥させるために、プリント完了後にフィードする長さを設定します。お使いの外部ヒーターの位置に合わせ、データ後端が外部ヒーターを通過する位置までフィードするように設定してください。

1	ローカルで、 FUNCTION キーを押す	FUNCTION セッテイ [ENT]
2	▲ ▼ を押して、 [マシンセッテイ] を選ぶ	FUNCTION マシン セッテイ [ENT]
3	ENTER キーを押す	マシン セッテイ オート パワーオフ [ENT]
4	▲ ▼ を押して、 [カンソウフィード] を選ぶ	マシン セッテイ カンソウ フィード* [ENT]
5	ENTER キーを押す	カンソウ フィード* = 300mm
6	▲ ▼ を押して、フィードする長さを選ぶ ・設定値：OFF/100 ~ 1000mm	カンソウ フィード* = 600mm
7	ENTER キーを押す	マシン セッテイ カンソウ フィード* [ENT]
8	終了するとき、 END キーを数回押す	

確認フィードの設定をする

テストプリントなどのプリント結果を確認するために、メディアのフィードを行うか設定します。

- | | | |
|---|--|------------------------------|
| 1 | ローカルで、 FUNCTION キーを押す | FUNCTION
セッテイ [ENT] |
| 2 | ▲ ▼ を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ | FUNCTION
マシン セッテイ [ENT] |
| 3 | ENTER キーを押す | マシン セッテイ
オート ハ°ワーオフ [ENT] |
| 4 | ▲ ▼ を押して、[カクニンフィード] を選ぶ | マシン セッテイ
カクニン フィード° [ENT] |
| 5 | ENTER キーを押す | カクニン フィード°
= OFF |
| 6 | ▲ ▼ を押して、ON/OFF を選ぶ
・設定値：ON/OFF | カクニン フィード°
= ON |
| 7 | ENTER キーを押す | マシン セッテイ
カクニン フィード° [ENT] |
| 8 | 終了するとき、 END キーを数回押す | |

余白部分のフィード方式を設定する

画像データに含まれる余白部分（プリントするデータの無い部分）のフィード方式を変更します。余白部分の多いデータをプリントする場合、「連続」に設定することで、プリント時間を短縮することができます。

- 1 ローカルで、**FUNCTION** キーを押す
FUNCTION
セッテイ [ENT]
- 2 **▲** **▼** を押して、**[マシンセッテイ]** を選ぶ
FUNCTION
マシン セッテイ [ENT]
- 3 **ENTER** キーを押す
マシン セッテイ
オート パワーオフ [ENT]
- 4 **▲** **▼** を押して、**[ヨハクフィードハウシキ]** を選ぶ
マシン セッテイ
ヨハク フィート`ハウシキ [ENT]
- 5 **ENTER** キーを押す
ヨハク フィート`ハウシキ
= カンケツ
- 6 **▲** **▼** を押して、フィード方式を設定する
ヨハク フィート`ハウシキ
= レンゾク
カンケツ : パス分割単位での間欠フィード動作を行う
レンゾク : データがない部分を一度にフィードする
- 7 **ENTER** キーを押す
マシン セッテイ
ページ`カン ヨハク [ENT]
- 8 終了するとき、**END** キーを数回押す

ネットワークの設定をする

ネットワークの設定は、ミマキ製品のネットワーク設定を行うツール「Network Configurator」でも行うことができます。Network Configurator は、ミマキエンジニアリングダウンロードページ (<http://www.mimaki.co.jp/download>) より“ドライバ/ユーティリティ”をチェックしてダウンロードしてください。

1	ローカルで、 FUNCTION キーを押す	FUNCTION セッテイ [ENT]
2	▲▼ を押して、 [マシンセッテイ] を選ぶ	FUNCTION マシン セッテイ [ENT]
3	ENTER キーを押す	マシン セッテイ オート パワーオフ [ENT]
4	▲▼ を押して、 [ネットワーク & メール] を選ぶ	マシン セッテイ ネットワーク & メール [ENT]
5	ENTER キーを2回押す	ネットワーク IP アドレス カクニン [ENT]
6	ENTER キーを押す <ul style="list-style-type: none"> 現在、本装置が使用中の IP アドレスを表示します。  ネットワークに接続後、IP アドレスが確定するまで時間がかかります。IP アドレス未確定の場合、「0.0.0.0」と表示します。 	IPアドレス カクニン 10.16.168.235
7	ENTER キーを押す	ネットワーク IP アドレス カクニン [ENT]
8	▲▼ を押して、 [MAC アドレスカクニン] を選ぶ	ネットワーク MAC アドレス カクニン [ENT]
9	ENTER キーを押す <ul style="list-style-type: none"> 現在、本装置が使用中の MAC アドレスを表示します。 	MACアドレス カクニン 00:0d:1b:00:00:00
10	ENTER キーを押す	ネットワーク MAC アドレス カクニン [ENT]
11	▲▼ を押して、 [DHCP] を選ぶ	ネットワーク DHCP [ENT]

12**ENTER** キーを押す

-   を押して、オン/オフを設定します。
- オンの場合、DHCP サーバーより与えられた IP アドレスを使用します。

DHCP
: ON**13****ENTER** キーを押すネットワーク
DHCP [ENT]**14**  を押して、[AutoIP] を選ぶネットワーク
AutoIP [ENT]**15****ENTER** キーを押す

-   を押して、オン/オフを設定します。
- オンの場合、AutoIP プロトコルにより使用する IP アドレスを決定します。ただし、DHCP が ON の場合は DHCP を優先します。

AutoIP
: ON**16****ENTER** キーを押すネットワーク
AutoIP [ENT]**17**  を押して次の各項目を選択する

- DHCP、AutoIP が両方オフの場合、IP アドレス/デフォルトゲートウェイ/DNS アドレス/サブネットマスクの設定ができます。それ以外の場合、手順 21 へ進みます。

18**ENTER** キーを押す**19**    を押して設定する**20****ENTER** キーを押して、設定値を確定する**21**終了するとき、**END** キーを数回押す

- ネットワークの設定を反映するには、一度電源をオフにし、再度電源をオンにしてください。

イベントメール機能の設定

プリントの開始 / 終了や、エラーによる中断などのイベントが発生した際に、設定したメールアドレスにメールを送信する機能を設定します。

イベントメールの設定は、ミマキ製品のネットワーク設定を行うツール「Network Configurator」でも行うことができます。Network Configurator は、ミマキエンジニアリングのダウンロードページ(<http://www.mimaki.co.jp/download>)より“ドライバ/ユーティリティ”をチェックしてダウンロードしてください。

免責事項

- メール通知その他、インターネットの通信が発生した場合の通信費用は、お客様負担となります。
- イベントメール機能による通知は、インターネット環境や機器の故障、電源の故障などの要因により、不達となることがあります。不達や遅延があった場合などにおいて発生した損害について、当社では責任を負いかねます。

- 重要!**
- イベントメール機能は本機を LAN 接続することによって使用できます。あらかじめ LAN ケーブルの接続をしておいてください。
 - SSL 通信には対応していません。

イベントメール機能を有効にする

1	ローカルで、 FUNCTION キーを押す	FUNCTION セッテイ [ENT]
2	▲ ▼ を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ	FUNCTION マシン セッテイ [ENT]
3	ENTER キーを押す	マシン セッテイ オート パワーオフ [ENT]
4	▲ ▼ を押して、[ネットワーク & メール] を選ぶ	マシン セッテイ ネットワーク & メール [ENT]
5	ENTER キーを押す	ネットワーク & メール ネットワーク [ENT]
6	▲ ▼ を押して、[イベントメール] を選ぶ	ネットワーク & メール イベント メール [ENT]
7	ENTER キーを押す	イベント メール メール ソウジン [ENT]
8	ENTER キーを押す	メール ソウジン : オフ
9	▲ ▼ を押して、“オン” を選ぶ	メール ソウジン : オン

10**ENTER** キーを押す

イベント メール メール ソウシン	[ENT]
----------------------	-------

11終了するとき、**END** キーを数回押す

イベントメールを送るイベントを設定する

1ローカルで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION セッテイ	[ENT]
------------------	-------

2**▲** **▼** を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ

FUNCTION マシン セッテイ	[ENT]
----------------------	-------

3**ENTER** キーを押す

マシン セッテイ オート パワーオフ	[ENT]
-----------------------	-------

4**▲** **▼** を押して、[ネットワーク & メール] を選ぶ

マシン セッテイ ネットワーク & メール	[ENT]
--------------------------	-------

5**ENTER** キーを押す

ネットワーク & メール ネットワーク	[ENT]
------------------------	-------

6**▲** **▼** を押して、[イベントメール] を選ぶ

ネットワーク & メール イベント メール	[ENT]
--------------------------	-------

7**ENTER** キーを押す

イベント メール メール ソウシン	[ENT]
----------------------	-------

8**▲** **▼** を押して [ソウシンイベントセンタク] を選択する

イベント メール ソウシン イベント センタク	[ENT]
----------------------------	-------

9**ENTER** キーを押す

- ・プリント開始時にメールを送信する / しないを設定します。
- ・**▲** **▼** を押して、オン / オフを設定します。

プリントスタート イベント : オフ

10**ENTER** キーを押す

- ・プリント終了時にメールを送信する / しないを設定します。
- ・**▲** **▼** を押して、オン / オフを設定します。

プリントエンド イベント : オフ

- | | | |
|----|---|---------------------------------|
| 11 | ENTER キーを押す
・エラー発生によるプリント中断時にメールを送信する / しないを設定します。
・ ▲ ▼ を押して、オン / オフを設定します。 | エラー イベント
: オフ |
| 12 | ENTER キーを押す
・プリント中のワーニング発生時にメールを送信する / しないを設定します。
・ ▲ ▼ を押して、オン / オフを設定します。 | ワーニング イベント
: オフ |
| 13 | ENTER キーを押す
・上記以外のイベント発生時にメールを送信する / しないを設定します。
・ ▲ ▼ を押して、オン / オフを設定します。 | ソノタ イベント
: オフ |
| 14 | ENTER キーを押す | イベント メール
ソウシン イベント センタク[ENT] |
| 15 | 終了するとき、 END キーを数回押す | |

メールアドレスを設定する

- | | | |
|---|--|--------------------------------|
| 1 | ローカルで、 FUNCTION キーを押す | FUNCTION
セッテイ [ENT] |
| 2 | ▲ ▼ を押して、[マシンセッテイ]を選ぶ | FUNCTION
マシン セッテイ [ENT] |
| 3 | ENTER キーを押す | マシン セッテイ
オート パワーオフ [ENT] |
| 4 | ▲ ▼ を押して、[ネットワーク & メール]を選ぶ | マシン セッテイ
ネットワーク & メール [ENT] |
| 5 | ENTER キーを押す | ネットワーク & メール
ネットワーク [ENT] |
| 6 | ▲ ▼ を押して、[イベントメール]を選ぶ | ネットワーク & メール
イベント メール [ENT] |

7	ENTER キーを押す	イベント メール メール ソウシ [ENT]
8	▲ ▼ を押して [メールアドレス] を選ぶ	イベント メール メール アドレス [ENT]
9	ENTER キーを押す	メール アドレス
10	▲ ▼ ◀ ▶ を押してアドレスを設定する <ul style="list-style-type: none"> • イベントメールを送信するメールアドレスを設定します。 • 英数字、記号、96文字以内で設定します。 	
11	ENTER キーを押す	イベント メール メール アドレス [ENT]
12	終了するとき、 END キーを数回押す	

件名を設定する

1	ローカルで、 FUNCTION キーを押す	FUNCTION セッテイ [ENT]
2	▲ ▼ を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ	FUNCTION マシン セッテイ [ENT]
3	ENTER キーを押す	マシン セッテイ オート パワーオフ [ENT]
4	▲ ▼ を押して、[ネットワーク & メール] を選ぶ	マシン セッテイ ネットワーク & メール [ENT]
5	ENTER キーを押す	ネットワーク & メール ネットワーク [ENT]
6	▲ ▼ を押して、[イベントメール] を選ぶ	ネットワーク & メール イベント メール [ENT]

7	ENTER キーを押す	イベント メール メール ソウシン [ENT]
8	▲ ▼ を押して [ケンメイ] を選択する	イベント メール ケンメイ [ENT]
9	ENTER キーを押す	ケンメイ T x 5 0 0 - # 1 [ENT]
10	▲ ▼ ◀ ▶ を押して件名を設定する ・イベントメールの件名に記載する文字を設定します。 ・英数字、記号、8文字以内で設定します。	
11	ENTER キーを押す	イベント メール ケンメイ [ENT]
12	終了するとき、 END キーを数回押す	

サーバーを設定する

1	ローカルで、 FUNCTION キーを押す	FUNCTION セッテイ [ENT]
2	▲ ▼ を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ	FUNCTION マシン セッテイ [ENT]
3	ENTER キーを押す	マシン セッテイ オート パワーオフ [ENT]
4	▲ ▼ を押して、[ネットワーク & メール] を選ぶ	マシン セッテイ ネットワーク & メール [ENT]
5	ENTER キーを押す	ネットワーク & メール ネットワーク [ENT]
6	▲ ▼ を押して、[イベントメール] を選ぶ	ネットワーク & メール イベント メール [ENT]

7	[ENTER] キーを押す	イベント メール メール ソウシ [ENT]
8	[▲][▼]を押して[サーバー セッテイ]を選択する	イベント メール サーバー セッテイ [ENT]
9	[ENTER] キーを押す	サーバー セッテイ SMTP アドレス [ENT]
10	[ENTER] キーを押す • [▲][▼][◀▶]を押して、SMTP サーバーを設定します。 • SMTP サーバー名を入力してください。	SMTP アドレス
11	[ENTER] キーを押す	サーバー セッテイ SMTP アドレス [ENT]
12	[▲][▼]を押して[SMTP ポート]を選択する	サーバー セッテイ SMTP ポート [ENT]
13	[ENTER] キーを押す	SMTP ポート No. : 25 [ENT]
14	[▲][▼]を押して[SMTP ポート]を設定する • SMTP のポート番号を設定します。	
15	[ENTER] キーを押す	サーバー セッテイ SMTP ポート [ENT]
16	[▲][▼]を押して[ニンショウ ホウシキ]を選択する	サーバー セッテイ ニンショウ ホウシキ [ENT]
17	[ENTER] キーを押す	サーバー セッテイ : POP before SMTP
18	[▲][▼]を押して認証方式を設定する • SMTP サーバーの認証方式を設定します。 • [オフ]を選択した場合、手順 32 に進みます。	サーバー セッテイ : POP before SMTP
19	[ENTER] キーを押す	サーバー セッテイ ニンショウ ホウシキ [ENT]

- 20**   を押して [ソウシンモトメールアドレス] を選択する
- サーバー セッテイ
ソウシンモト メールアドレス [ENT]
-
- 21**  キーを押す
- ソウシンモト メールアドレス
-     を押して、送信元メールアドレスとして使用するアドレスを設定します。
 - 英数字、記号、64 文字以内で設定します。
-  • 使用するサーバーによっては、アカウントに対応したメールアドレスを設定しないとメールを送信できない場合があります。
-
- 22**  キーを押す
- サーバー セッテイ
ソウシンモト メールアドレス [ENT]
-
- 23**   を押して [ユーザーメイ] を選択する
- サーバー セッテイ
ユーザー メイ [ENT]
-
- 24**  キーを押す
- ユーザー メイ
-     を押して、認証に使用するユーザー名を設定します。
 - 英数字、記号、30 文字以内で設定します。
-
- 25**  キーを押す
- サーバー セッテイ
ユーザー メイ [ENT]
-
- 26**   を押して [パスワード] を選択する
- サーバー セッテイ
パスワード [ENT]
-
- 27**  キーを押す
- パスワード

-     を押して、認証に使用するパスワードを設定します。
 - 英数字、記号、15 文字以内で設定します。
-  • パスワードの設定画面では、現在入力中の値のみ確認が可能です。
-
- 28**  キーを押す
- サーバー セッテイ
パスワード [ENT]
- 手順 16 で [POP before SMTP] を選択した場合、手順 27 ~ 31 を設定します。
-
- 29**   を押して [POP3 アドレス] を選択する
- サーバー セッテイ
POP3 アドレス [ENT]

30

ENTER キーを押す

- **▲** **▼** **◀** **▶** を押して、POP サーバーを設定します。
- POP サーバー名を入力してください。

POP3 アドレス

31

ENTER キーを押す

サーバー セッテイ
POP3 アドレス [ENT]

32

▲ **▼** を押して **[APOP]** を選択する

サーバー セッテイ
APOP [ENT]

33

ENTER キーを押す

- **▲** **▼** を押して、APOP のオン/オフを設定します。

APOP
: オン

34

ENTER キーを押す

サーバー セッテイ
APOP [ENT]

35

終了するとき、**END** キーを数回押す

テストメールを送信する

1	ローカルで、 FUNCTION キーを押す	FUNCTION セッテイ [ENT]
2	▲ ▼ を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ	FUNCTION マシン セッテイ [ENT]
3	ENTER キーを押す	マシン セッテイ オート ハ°ワーオフ [ENT]
4	▲ ▼ を押して、[ネットワーク & メール] を選ぶ	マシン セッテイ ネットワーク & メール [ENT]
5	ENTER キーを押す	ネットワーク & メール ネットワーク [ENT]
6	▲ ▼ を押して、[イベントメール] を選ぶ	ネットワーク & メール イベント メール [ENT]
7	ENTER キーを押す	イベント メール メール ソウシン [ENT]
8	▲ ▼ を押して [テストメールソウシン] を選択する	イベント メール テストメール ソウシン [ENT]
9	ENTER キーを押す	テストメール ソウシン シッコウ :ent
10	ENTER キーを押す	テストメール ソウシン カンリョウ
	<ul style="list-style-type: none"> 送信結果を表示します。 テストメールの送信に失敗した場合、エラーコードを表示します。次ページを参照し、対処してください。 	テストメール ソウシン シッパ°イ : 12345 :ent エラーコード
11	終了するとき、 END キーを数回押す	

重要!

- テストメールの送信結果は、本装置がメールサーバーに対して行ったメール送信処理の結果です。メールが宛先に届いたことを示すものではありません。
- メールを受信する端末側で迷惑メールフィルタなどを設定している場合、「ソウシンカンリョウ」となってもメールが届かない場合があります。
- テストメールの送信に失敗した場合、以下のエラーコードを表示します。
- エラーが解消されない場合、時間をおいてから試してみてください。
- サーバーの設定等については、ネットワーク管理者またはプロバイダにご相談ください。

エラーコード	予想される原因	対処方法
10	ネットワーク接続エラー	<ul style="list-style-type: none"> • 装置がネットワークに接続されていることを確認してください。 • 装置の IP アドレスが正しいことを確認してください。 • 装置が DNS を利用することのできる環境であることを確認してください。
20	有効なメールアドレスがありません	<ul style="list-style-type: none"> • 正しいメールアドレスを入力してください。
11003 11004	POP サーバーが見つかりません または、DNS サーバーにアクセスできません	<ul style="list-style-type: none"> • POP サーバーのアドレスを確認してください。 • 装置が DNS を利用することのできる環境であることを確認してください。
11021	POP サーバーに接続できません	<ul style="list-style-type: none"> • POP サーバーの設定を確認してください。 • ファイアウォールの設定を確認してください。
12010	POP サーバーからエラーが返答されました	<ul style="list-style-type: none"> • POP サーバーの設定を確認してください。
13000	POP 認証に失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザー名とパスワードを確認してください。 • APOP の設定を確認してください。 • 認証方式を確認してください。
10013 10014	SMTP サーバーが見つかりません または、DNS サーバーにアクセスできません。	<ul style="list-style-type: none"> • SMTP サーバーのアドレスを確認してください。 • 装置が DNS を利用することのできる環境であることを確認してください。
10021	SMTP サーバーに接続できません	<ul style="list-style-type: none"> • SMTP サーバーの設定を確認してください。 • SMTP ポート番号を確認してください。 • ファイアウォールの設定を確認してください。
10*** 11*** 20*** 21***	SMTP サーバーからエラーが返答されました	<ul style="list-style-type: none"> • SMTP サーバーの設定を確認してください。 • SSL 通信が必須のサーバーとは通信できません。 • プロトコルフィルタの設定を確認してください。
12***	無効な送信元メールアドレスです	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザー名、パスワードに入力したアカウントに対応したメールアドレスが送信元メールアドレスに設定されているか、確認してください。
13***	メールの宛先が見つかりません	<ul style="list-style-type: none"> • メールアドレスを確認してください。 • メールアドレスに間違いがあっても、本エラーが検出できない場合があります。
22000 22008	SMTP 認証エラー	<ul style="list-style-type: none"> • 認証方式を確認してください。
23*** 24*** 25***	SMTP 認証に失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザー名とパスワードを確認してください。

“***” はメールサーバーから返答されたエラーコード

設定ロックの設定をする

ネットワーク、メール設定を管理者以外ができないよう、任意に4桁のパスワードが設定できます。

ネットワーク、イベントメール機能のパスワードを設定する

- 1** ローカルで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
セッテイ [ENT]
- 2** **▲** **▼** を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ

FUNCTION
マシン セッテイ [ENT]
- 3** **ENTER** キーを押す

マシン セッテイ
オート パワーオフ [ENT]
- 4** **▲** **▼** を押して、[ネットワーク & メール] を選ぶ

マシン セッテイ
ネットワーク & メール [ENT]
- 5** **ENTER** キーを押す

ネットワーク & メール
ネットワーク [ENT]
- 6** **▲** **▼** を押して、[セッテイロック] を選ぶ

ネットワーク & メール
セッテイ ロック [ENT]
- 7** **ENTER** キーを押す

セッテイ ロック
ロック : 0000
- 8** 任意のパスワード(4桁)を設定し、**ENTER** キーを押す
・設定開始通知を一定時間表示します。

セッテイ ロック
ロック カイシ : ?????
- 9** 終了するとき、**END** キーを数回押す

ネットワーク、イベントメール機能のパスワードを解除する

- 1** ローカルで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
セッテイ [ENT]

2 **▲** **▼** を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ

FUNCTION
マシン セッテイ [ENT]

3 **ENTER** キーを押す

マシン セッテイ
オート ハ°ワーオフ [ENT]

4 **▲** **▼** を押して、[ネットワーク & メール] を選ぶ

マシン セッテイ
ネットワーク & メール [ENT]

5 **ENTER** キーを押す

ネットワーク & メール
ネットワーク [ENT]

6 **▲** **▼** を押して、[セッテイロック] を選ぶ

ネットワーク & メール
セッテイ ロック [ENT]

7 **ENTER** キーを押す

セッテイ ロック
カイン°ヨ :****

8 4桁のパスワードを入力し、**ENTER** キーを押す

 - 解除が成功すると、右の画面を表示します。
 - 解除が失敗すると、右の画面を表示してお知らせします。

セッテイ ロック
カイン°ヨ セイコウ

9 終了するとき、**END** キーを数回押す

セッテイ ロック
カイン°ヨ & ショキカ [ENT]

重要!

- パスワードを忘れてしまった場合には、手順7の画面を表示中に**FUNCTION** キーを押すことで、パスワード強制解除画面となります。
- **ENTER** キーを押すとパスワードの強制解除はできますが、ネットワーク & イベントメールで設定した項目も初期化してしまいますので、再設定が必要となりますのでご注意ください。

セッテイ ロック
カイン°ヨ & ショキカ [ENT]



カイン°ヨ & ショキカ
ショキカ シマスカ ? [ENT]

設定した内容を初期状態に戻す

「セッテイ」「メンテナンス」「マシンセッテイ」で設定した内容を、お買い上げ時の状態に戻します。

- 1 ローカルで、**FUNCTION** キーを押す
FUNCTION
セッテイ [ENT]
- 2 **▲** **▼** を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ
FUNCTION
マシン セッテイ [ENT]
- 3 **ENTER** キーを押す
マシン セッテイ
オート パワーオフ [ENT]
- 4 **▲** **▼** を押して、[リセット] を選ぶ
マシン セッテイ
リセット [ENT]
- 5 **ENTER** キーを押す
セッテイチ スペ`テリセツトサレマス
ヨロシイデ`スカ? [ENT]
- 6 **ENTER** キーを押す
リセット
シ`ッコウ [ENT]
・設定を初期化します。
- 7 終了するとき、**END** キーを数回押す

装置情報を確認する

本装置の装置情報を確認できます。
確認できる装置情報は、次の項目です。

項目	内容
エラー履歴	現在までに発生したエラー、ワーニング履歴を表示します。 (▲)(▼)を押して、発生順に発生日時(年月日時分)とエラー、ワーニング情報を切り替えて表示します。
シヨウ ジョウキョウ	装置の使用状況を確認します。
	ワイピング
	プリント チョウ
	プリント メンセキ
	シヨウ シカン
	ヘッドメンテナンス
	ステーションメンテナ ンス
	ノズルセンジョウ
	ハイロセンジョウ
	ホカンセンジョウ
バージョン	装置のファームウェアバージョン及びMain基板の情報を確認します。
リスト	装置の設定内容をプリントします。
インクコウカンレポート	装置で使用したインクの履歴をプリントします。

装置の使用状況を確認する

ワイピング情報や本機でプリントした長さなど、装置の情報を確認できます。

- ローカルで、**(FUNCTION)** キーを押す

FUNCTION
セッテイ [ENT]
- (▲)(▼)** を押して、**[シヨウホウ]** を選ぶ

FUNCTION
シ`ヨウホウ [ENT]
- (ENTER)** キーを押す

シ`ヨウホウ
シヨウ シ`ヨウキョウ [ENT]
- (ENTER)** キーを押す
 - ワイピング情報を表示します。
 - (ENTER)** キーを押すごとに、次の装置情報が順次が表示されます。

ワイピング ワイピング情報 を表示 プリント面積 これまでにプリン トした面積を表示	プリント長 これまでにプリン トした長さを表示 使用時間 装置の使用時間 情報を表示
ワイピ`ンク` = 0	プ`リント` チョウ = 0m
プ`リント` メンセキ = 0m ²	シヨウ シ`カン = 0h

ヘッドメンテナンス

最後にヘッドメン
テナンスを実行し
てからの経過時間
を表示

ヘッドメンテナンス
= 0h

ノズルセンジョウ

最後にノズルセン
ジョウを実行して
からの経過時間を
表示

ノズルセンジョウ
= 0h

ホカンセンジョウ

最後にホカンセン
ジョウを実行して
からの経過時間を
表示

ホカンセンジョウ
= 0h

ステーションメンテナンス

最後にステーショ
ンメンテナンスを
実行してからの経
過時間を表示

ステーションメンテナンス
= 0h

ハイロセンジョウ

最後にハイロセン
ジョウを実行して
からの経過時間を
表示

ハイロセンジョウ
= 0h



- ワイパーの使用カウントをリセットしたい場合、ワイピング表示中に **MAINT.** キーを押します。
ENTER キーを押すと、ワイピング回数をリセットします。

ワイピング
クリア シマスカ? [ENT]

装置のバージョン情報を確認する

1	ローカルで、 (FUNCTION) キーを押す	FUNCTION セッテイ [ENT]
2	(▲) (▼) を押して、 [シヨウホウ] を選ぶ	FUNCTION シ`ヨウホウ [ENT]
3	(ENTER) キーを押す	シ`ヨウホウ シヨウ シ`ヨウキョウ [ENT]
4	(▲) (▼) を押して、 [バージョン] を選ぶ	シ`ヨウホウ ハ`ージョン [ENT]
5	(ENTER) キーを押す ・装置のバージョン情報を表示します。	Tx500-1800B V3.30 MRL-III V2.20

エラー履歴を確認する

エラー履歴の見方を説明します。

エラー履歴	
発生年月日を 表示	[00000] 2014/09/26 22:13:00
(◀) (▶)	
エラー内容を 表示	ERROR 12a ***** HDC SPEED

基板情報を確認する

基板情報の見方を説明します。

シ`ヨウホウ ハ`ージョン	[ENT]
------------------	-------

Tx500-1800B V3.30 MRL-III V2.20

F/W などのバージョンを表示

MAIN PCB EPL2B

基板の種別を表示

Main 基板の種類を表示します。
EPL/EPL2/EPD2B のいずれかを表示します。

本機の情報を表示する

1

ローカルで、**ENTER** キーを押す

Sb300	12345678
サンリョウ	99999999

2

ENTER キーを押すごとに、順次情報が表示される

・以下のような情報が表示されます。

インク残量	エラー表示 (インクエラー発生時)	ワーニング表示 (ワーニング発生時)
Sb300 12345678 サンリョウ 99999999	インク IC ナン 12345678	ワーニング ワイパー コウカン [MNT]
メディア幅	ヘッドギャップ	メディアアツサ
メディア幅 = 1000mm	ヘッドギャップ = 2.0mm	メディアアツサ = 0.1mm
シリアル番号	バージョン	メイン基板情報
シリアル No. :*****	Tx500-1800B V3.30 MRL-111 V2.20	MAIN PCB EPL
ノズルリカバリ		
ノズルリカバリ カクニン [MNT]		

MAINT. キーを押して詳細を確認

3

ENTER キーを押して、ローカルに戻る

3

便利な使い方

第4章 お手入れ



この章では ...

日常行っていただくお手入れ方法やインクユニットのメンテナンスなど、本機を快適にお使いいただくために必要な項目を説明します。

日常のお手入れ	4-2	オートメンテナンス機能	4-23
お手入れ上のご注意	4-2	リフレッシュ間隔を設定する	4-23
メンテナンス洗浄液について	4-2	クリーニング間隔を設定する	4-24
外装のお手入れ	4-3	Y モーターの清掃	4-25
メディアセンサーの清掃	4-3	消耗品の交換	4-26
長期間使用しないときは	4-4	ワイパーを交換する	4-26
本機を2日間使用しない場合(週末など) ..	4-4	廃インクタンク確認メッセージが	
本機を3日以上使用しない場合	4-5	表示されたら	4-27
長期間使用しなかった後に本機を		洗浄ユニットの清掃	4-29
使うときは	4-5	引き剥がしセンサーのクリーニング	4-30
キャッピングステーションのメンテナンス ..	4-6	地張り剤の接着力が弱くなったら	4-31
ワイパーとキャップの清掃	4-6	地張り剤を塗り直す前に必ず	
ワイパーインク受けの清掃	4-9	ご確認ください	4-32
インク排出路の洗浄		弱くなった地張り剤を剥がす	4-34
(ハイロセンジョウ)	4-11	新しい地張り剤を塗布する	4-38
長期間使用しない場合			
(ホカンセンジョウ)	4-12		
ヘッド周辺の清掃	4-15		
ノズル詰まりが復旧しない場合	4-17		
ヘッドノズルの洗浄	4-17		
ノズル抜けが直らないとき、かわりの			
ノズルでプリントする	4-19		

日常のお手入れ

本装置の精度を保ちながら末永くお使いいただけるよう、使用頻度に応じて、または定期的にお手入れをしてください。

お手入れ上のご注意

本装置のお手入れをするとき、次の各事項にご注意ください。

	<ul style="list-style-type: none">メンテナンス用洗浄液を使用する場合は、必ず付属の保護メガネを使用してください。
	<ul style="list-style-type: none">本装置を、絶対に分解しないでください。感電および破損する原因になります。また、お手入れは電源ボタン・主電源スイッチをオフにし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。思わぬ事故が発生する原因となります。
	<ul style="list-style-type: none">本装置の内部に水気が入らないようにしてください。内部が濡れると、感電および破損する原因になります。
	<ul style="list-style-type: none">本装置はインクの吐出安定性を確保するために、長時間ご使用（出力）されないときには、定期的に微量のインクを吐出（フラッシング）させる必要があります。長時間使用されないときには、前面の電源ボタンのみを OFF とし、側面の主電源スイッチは ON（↑の状態）およびコンセントは挿入した状態にしておいてください。
	<ul style="list-style-type: none">ベンジン、シンナーや研磨剤の入った薬品は使用しないでください。カバーの表面が変質・変形する恐れがあります。本装置の内部に潤滑油などを注油しないでください。故障する恐れがあります。メンテナンス用洗浄液やインクが、カバーに付着しないように注意してください。カバーの表面が変質、変形します。

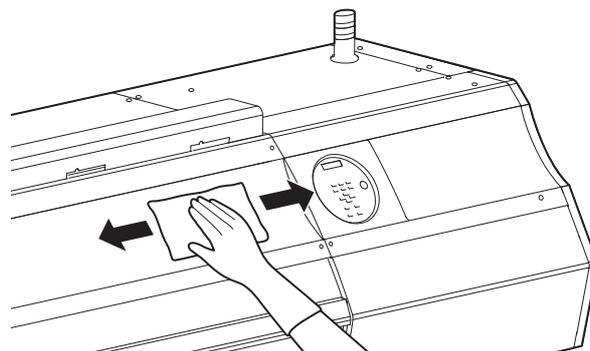
メンテナンス洗浄液について

メンテナンス洗浄液は、お使いになるインクに対応したものをお使いください。

インクの種類	対応するメンテナンス洗浄液
昇華染料インク 反応染料インク 酸性染料インク	洗浄液 03 メンテナンスキット (ML003-Z-K1)

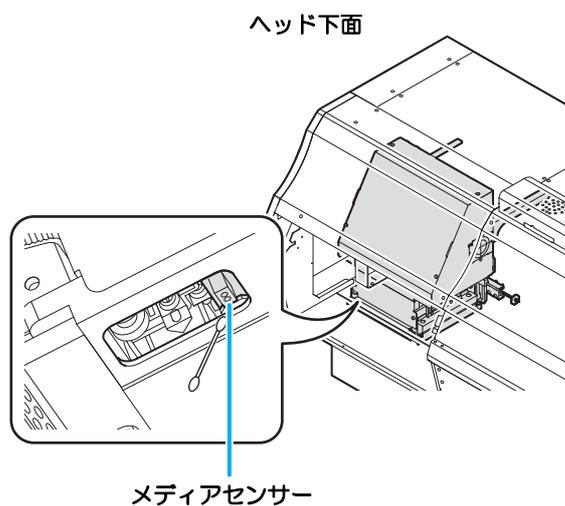
外装のお手入れ

本体の外装が汚れた場合は、柔らかい布に水、または水で薄めた中性洗剤を含ませ、強くしぼってから拭き取ってください。



メディアセンサーの清掃

ヘッド下面のセンサーを清掃するときは、P.4-15「ヘッド周辺の清掃」手順1の操作をして、キャリッジを左端に移動させてから清掃してください。



長期間使用しないときは

重要!

- 本機の主電源は切らないでください。定期的にインク詰まりを防止するオートメンテナンス機能が働かなくなります。電源を切りたい場合は、操作パネル右側にある電源ボタンを押してランプを消灯させてください。

本機を2日間使用しない場合(週末など)

週末など、2日間本機を使用しないときは、次のようにしてください。

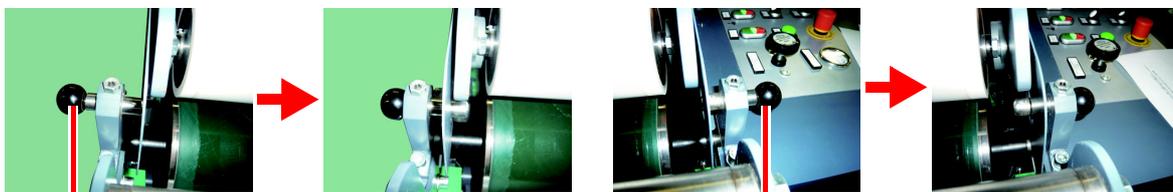
1

日常のお手入れの各項目を行う

- P.4-3 を参照して、お手入れを行ってください。

2

加圧ローラ両端にある落下防止ピンを押し込む



落下防止ピン

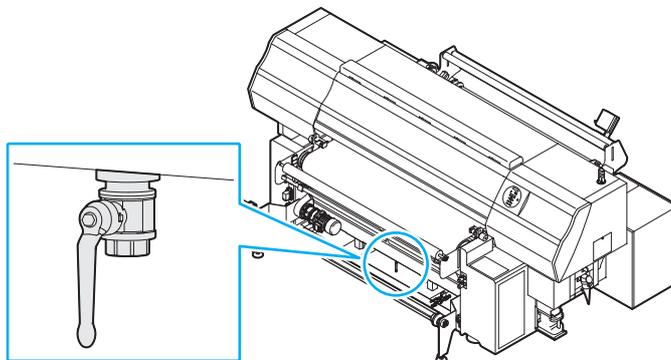
落下防止ピン

- 不意の加圧ローラ落下による怪我を防止するために、必ず落下防止ピンをしっかりと押し込んでください。

3

排水バルブを開け、洗浄ユニットの水を抜く

- 排水バルブの下にバケツなどを置いてから排水をしてください。



4

「ベルト洗浄」の設定と「ベルトヒータ」の設定を [OFF] にする

- P.2-9、P.2-10 を参照して設定してください。

本機を3日以上使用しない場合

本機を3日以上使用しない場合は、次のようにしてください。

1 「本機を2日間使用しない場合(週末など)」の作業を行う

2 新しい廃インクタンクと交換する

- P.4-27「廃インクタンク確認メッセージが表示されたら」を参照して、新しい廃インクタンクと交換してください。

長期間使用しなかった後に本機を使うときは

本機を長期間使用しなかった後、再度使う場合には、次の作業をしてください。

1 ヘッドクリーニング(ハード)を行い、ノズルの状態を確認する

- P.2-33「ヘッドクリーニング」を参照して、ヘッドクリーニングを行ってください。

2 抜けがある場合は、ノズル洗浄を行う

- P.4-17「ヘッドノズルの洗浄」を参照してください。

キャッピングステーションのメンテナンス

キャッピングステーションにあるインクキャップやワイパー等のメンテナンスをします。
(ステーションメンテナンス)

インクキャップやワイパーは、それぞれ次のような働きをしています。

- ・ワイパー : ヘッドのノズルに付着したインクを拭き取る
- ・インクキャップ : ヘッドのノズルが乾燥により、目詰まりするのを防止する

本装置を使用していると、インクやホコリ等でワイパーやキャップが汚れてきます。
ヘッドクリーニングを実行 (P.2-33) しても、ノズル抜けが解消されない場合は、洗浄液 03 メンテナンス
キットとクリーンスティックを使用して清掃を行います。

メンテナンスに 必要な道具	・洗浄液 03 メンテナンスキット (品番 :ML003-Z-K1)		
	・クリーンスティック (品番 : SPC-0527)	・手袋	・ゴーグル



- ・キャッピングステーションのメンテナンスを行うときは、必ず付属のゴーグルと手袋を着用して作業を行ってください。インクが目に入る場合があります。
- ・キャリッジを手でキャッピングステーションから出さないでください。キャリッジを移動させたいときは、**MAINT.** キーを押して、キャリッジアウトを実行してください。(P.4-6 手順 1 ~ 2)
- ・キャッピングステーションにあるインクキャップやワイパーは、必ず毎日メンテナンスをおこなってください。汚れたままにした場合、ノズル面に汚れが付着したり、ノズルにゴミや凝固インクをこすりつけ、吐出不良が発生する恐れがあります。

ワイパーとキャップの清掃

画質や本装置の状態を良好に保つため、こまめに清掃されることをお勧めします。

重要!

- ・週に 2 回程度 (プリンタの使用頻度により異なります)、ワイパーと周辺の清掃をしてください。
- ・ワイパーの汚れ、曲がりが多い場合は、新しいワイパーと交換してください。(P.4-26)
- ・清掃の際は、クリーンスティックの繊維が残らないように注意してください。繊維が残っていると、プリント不良の原因になります。

1

ローカルで、**MAINT.** キーを押す

キャリッジ アウト

[ENT]

2

ENTER キーを押す

イトウ イチ

: ステーション メンテナンス

3

▲ ▼ を押して、[ステーション メンテナンス] を選ぶ

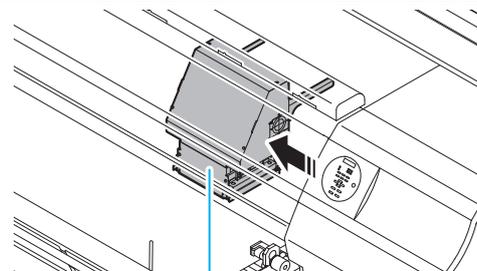
イトウ イチ

: ステーション メンテナンス

4

ENTER キーを押す

- ・キャリッジがベルト上に移動します。

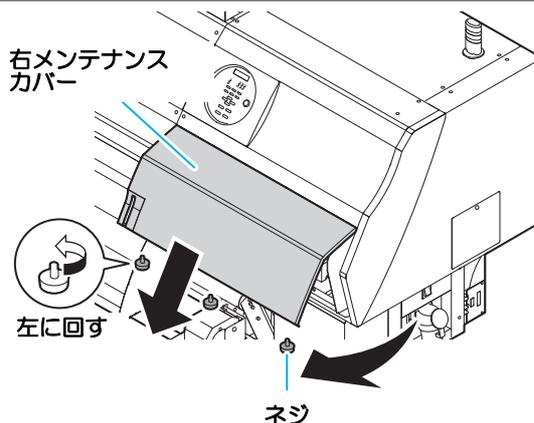


キャリッジ

5 右メンテナンスカバーを開ける

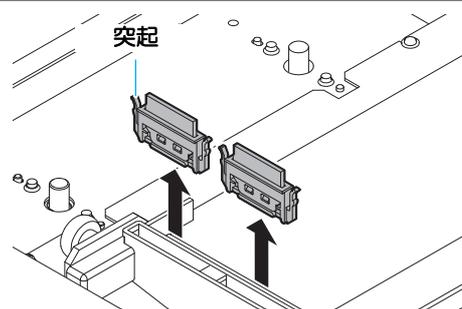
- (1) 右メンテナンスカバー下のネジ (3箇所) を左に回して取り除く
- (2) 右メンテナンスカバーの下側を持ち、手前に引く
- (3) 下に引くようにして、右メンテナンスカバーを取り外す

・右メンテナンスカバーが開けづらい場合は、付属のドライバーを使って開けてください。



6 ワイパーを取り出す

・ワイパー両端の突起を持ち、引き抜きます。

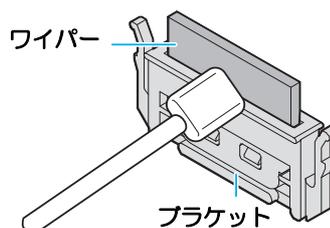


7 ワイパーとブラケットを清掃する

・ワイパーとブラケットに付着したインクを、メンテナンス洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。メンテナンス洗浄液は、残らないように拭き取ってください。

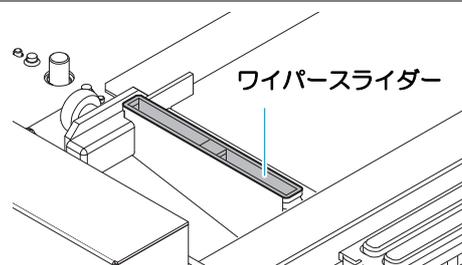
重要!

- ・右の写真のような状態になるまで、清掃してください。
- ・清掃後はブラケットとワイパーが水平になっていることを確認してください。



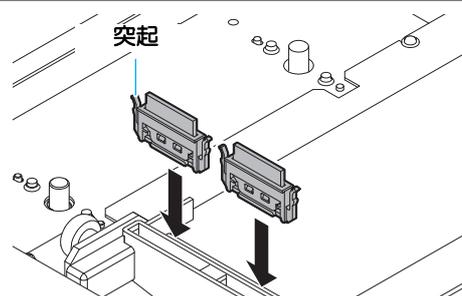
8 ワイパーライダーを清掃する

・ワイパーライダーに付着したインクを、メンテナンス洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。



9 ワイパーを元の位置に戻す

・ワイパーの両端を持って差し込みます。



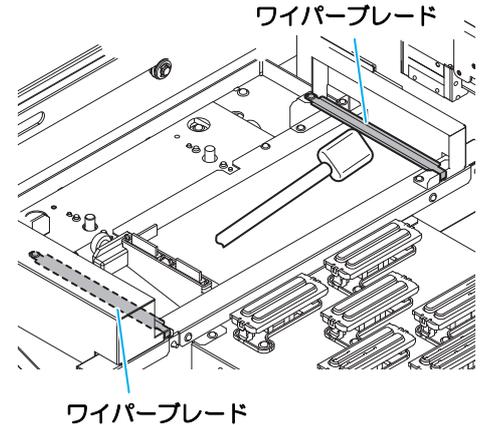
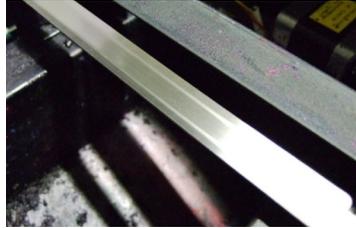
10

ワイパーブレードを清掃する

・クリーンスティックにメンテナンス洗浄液を含ませ、ワイパーブレードに付着したインクを拭き取ります。

重要!

- ・ワイパーブレードのエッジ部分に注意し、ワイパーが接触する側(裏側)を念入りに清掃してください。
- ・下の写真のような状態になるまで、清掃してください。



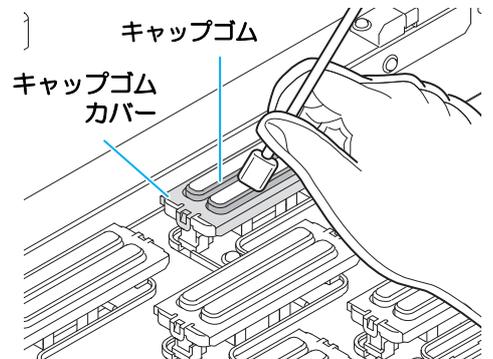
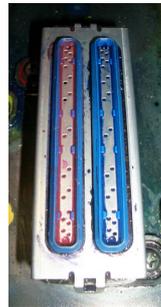
11

キャップゴム、キャップゴムカバーを清掃する

・キャップゴム、キャップゴムカバーに付着したインクを、メンテナンス洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。
メンテナンス洗浄液は、残らないように拭き取ってください。

重要!

- ・右の写真のような状態になるまで、清掃してください。
- ・清掃後は、キャップゴムやキャップ内メッシュが外れていないことを確認してください。



12

清掃が終了したら、**ENTER** キーを押す

カバーヲ シメテクタ`サイ
シュウリョウ [ENT]

13

右メンテナンスカバーを閉じ、**ENTER** キーを押す

・初期動作後、手順 1 の表示に戻ります。

MAINT. を使わないでステーションメンテナンスをするには

MAINT. キーを押さなくても、ローカルから **FUNCTION** キーを使ってステーションメンテを選ぶことができます。

ローカルで **FUNCTION** を押す

▲ ▼ を押して [メンテナンス] を選ぶ

ENTER を 2 回押す

- ・ローカルから **MAINT.** を押したときと同じ状態になります。

ワイパーインク受けの清掃

水性インクは流動性が悪く、乾燥し固着したインクが堆積します。ワイパー下のインク受けに溜まったインクは、ゴムヘラ等を使用してこまめに廃路へ流してください。

1 ローカルで、**MAINT.** キーを押す

キャリッジ アウト
[ENT]

2 **ENTER** キーを押す

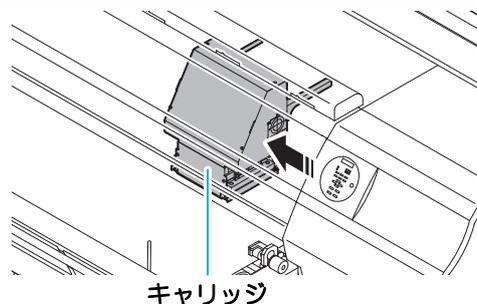
イトウ イチ
:ステーション メンテナンス

3 **▲** **▼** を押して、[ステーション メンテナンス] を選ぶ

イトウ イチ
:ステーション メンテナンス

4 **ENTER** キーを押す

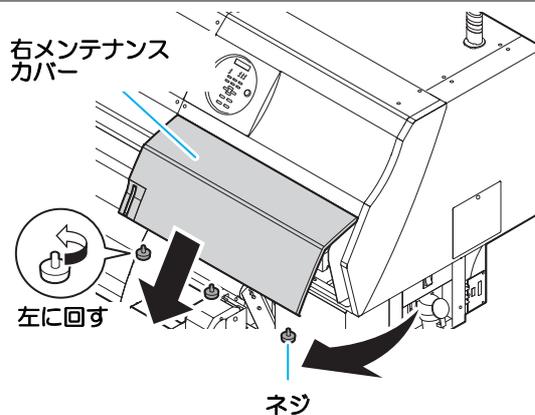
- キャリッジがベルト上に移動します。



5 右メンテナンスカバーを開ける

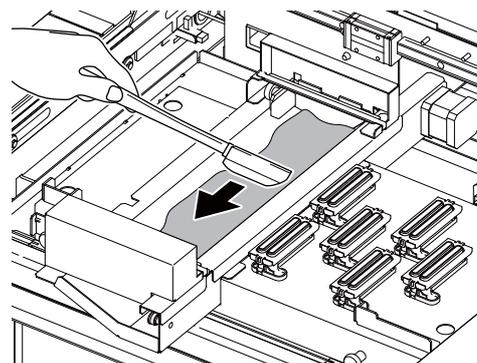
- (1) 右メンテナンスカバー下のネジ (3箇所) を左に回して取り除く
- (2) 右メンテナンスカバーの下側を持ち、手前に引く
- (3) 下に引くようにして、右メンテナンスカバーを取り外す

- 右メンテナンスカバーが開けづらい場合は、付属のドライバーを使って開けてください。



6 ワイパーインク受けを清掃する

- ワイパー下のインク受けに溜まったインクを、ゴムヘラ等を使用してこまめに廃路へ流してください。



7

清掃が終了したら、**ENTER** キーを押す

カバー シメテクターサイ
シュウリョウ [ENT]

8

右メンテナンスカバーを閉じ、**ENTER** キーを押す

・初期動作後、手順 1 の表示に戻ります。

インク排出路の洗浄 (ハイロセンジョウ)

インク排出路内でのインクの凝固によるインク詰まりを防止するため、定期的にインク排出路の洗浄をしてください。

1 ローカルで、**MAINT.** キーを押す

キャリッジ アウト [ENT]

2 **▲** **▼** を押して、[ハイロセンジョウ] を選ぶ

ハイロ センジョウ [ENT]

3 **ENTER** キーを押す

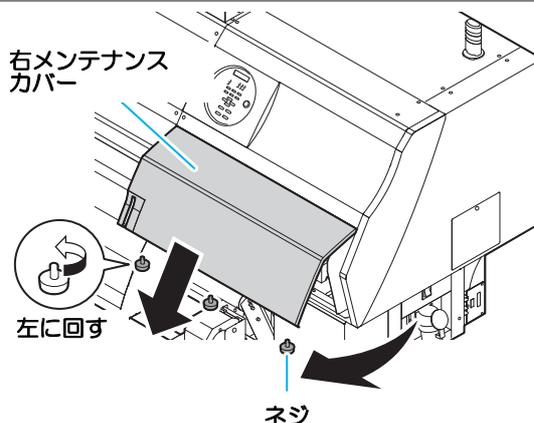
- キャリッジがベルト上に移動します。
- 空吸引動作を洗浄の作業が終わるまで繰り返し行います。

ハイロ センジョウ
シュウリョウ(ツギへ) [ENT]

4 右メンテナンスカバーを開ける

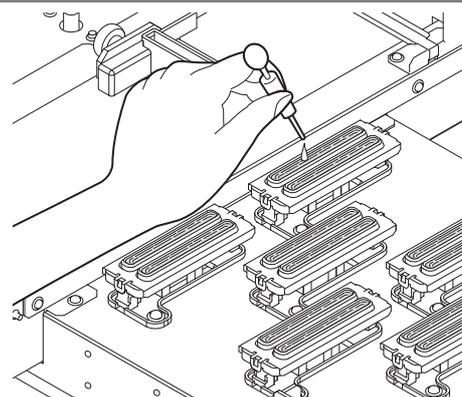
- (1) 右メンテナンスカバー下のネジ(3箇所)を左に回して取り除く
- (2) 右メンテナンスカバーの下側を持ち、手前に引く
- (3) 下に引くようにして、右メンテナンスカバーを取り外す

- 右メンテナンスカバーが開けづらい場合は、付属のドライバーを使って開けてください。



5 スポイトにメンテナンス洗浄液をとり、キャップ一杯になるまで満たす

- キャップからあふれる寸前まで洗浄液を満たしてください。



6 右メンテナンスカバーを閉じ、**ENTER** キーを押す

- 30 秒間空吸引を実行した後、手順 2 の表示に戻ります。

ハイロ センジョウ
シバラク オマチクタサイ

長期間使用しない場合 (ホカンセンジョウ)

1 週間以上使用しない場合は、保管洗浄機能を使用し、ヘッドのノズルとインクの排出路をクリーニングしてください。その後、本装置を保管してください。

事前を確認 してください	[インクエンド]は表示していませんか？ <ul style="list-style-type: none">・洗浄動作の際に、インクの吸引を行います。 このとき、インクエンドを検出していると、洗浄動作が行えなくなります。・インクエンドを、未検出のインクボトルに交換してください。
-----------------	---

1 ローカルで、**(MAINT.)** キーを押す

キャリッジ アウト [ENT]

2 **(▲)** **(▼)** を押して、**[ホカンセンジョウ]** を選ぶ

ホカン センジョウ [ENT]

3 **(ENTER)** キーを押す

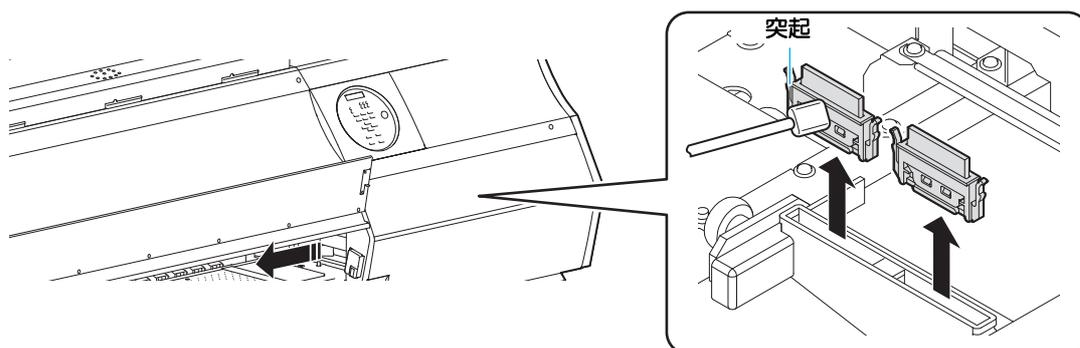
ワイパー クリーニング シュウリョウ [ENT]

・キャリッジがベルト上に移動します。

重要! ・ワイパーとブラケットの清掃が終了するまで、ディスプレイには **[シュウリョウ (ツギへ) :ENT]** が表示されます。手順 4 の作業が完了してから **(ENTER)** キーを押してください。クリーニングが終了する前に **(ENTER)** キーを押すと、次の洗浄手順に移行します。

4 ワイパーとブラケットを清掃する

- (1) 右メンテナンスカバーを開け、ワイパー両端の突起を持って引き抜く
- (2) クリーンスティックにメンテナンス洗浄液を含ませて清掃する (ML003-Z-K1)
メンテナンス洗浄液は、残らないように拭き取ってください。
- (3) ワイパー両端の突起を持ち、元の位置に差し込む



5

ENTER キーを押す

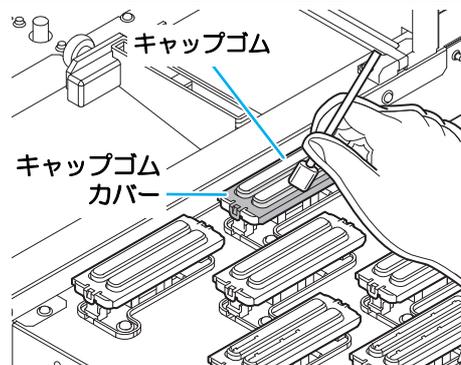
キャップ° クリーニング°
シュウリョウ(ツギへ) [ENT]

- 重要!**
- キャップのクリーニングが終了するまで、ディスプレイには[シュウリョウ(ツギへ) :ENT]が表示されます。手順6の作業が完了してから**ENTER**キーを押してください。クリーニングが終了する前に**ENTER**キーを押すと、次の洗浄手順に移行します。

6

キャップゴム、キャップゴムカバーを清掃する

- キャップゴム、キャップゴムカバーに付着したインクを、メンテナンス洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。メンテナンス洗浄液は、残らないように拭き取ってください。
- このとき、自動的に排出路が洗浄されます。



7

ENTER キーを押す

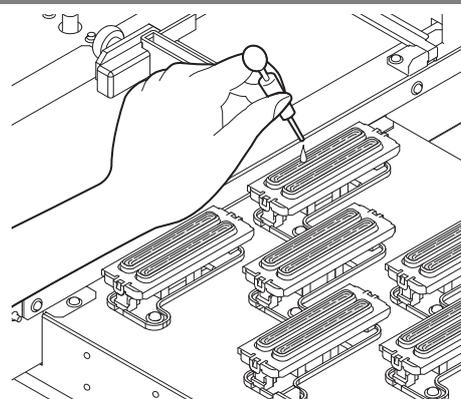
センシ° ヨウエキ ラ ミタス
シュウリョウ(ツギへ) [ENT]

- 重要!**
- 洗浄液を満たすまで、ディスプレイには[シュウリョウ(ツギへ) :ENT]が表示されません。手順8の作業が完了しフロントカバーを閉じてから**ENTER**キーを押してください。洗浄液を満たす前に**ENTER**キーを押すと、キャリッジが元の位置に戻ります。

8

スポイトにメンテナンス洗浄液をとり、キャップ一杯になるまで満たす

- キャップからあふれる寸前まで洗浄液を満たしてください。



9

右メンテナンスカバーを閉め、**ENTER** キーを押す

ホカン センシ° ヨウ
ホウチ シ° カン : 1min

10

▲ ▼ を押して、洗浄液の放置時間を設定する

- 設定値 : 1 ~ 99 分 (1分単位)

ホカン センシ° ヨウ
ホウチ シ° カン : 2min

11

ENTER キーを押す

- ノズルの洗浄を実行します。
- ノズルの洗浄が終了すると、ヘッドがベルト上に移動します。

シハ`ラク オマチクタ`サイ
00:00



** クリーニング **
シハ`ラク オマチクタ`サイ

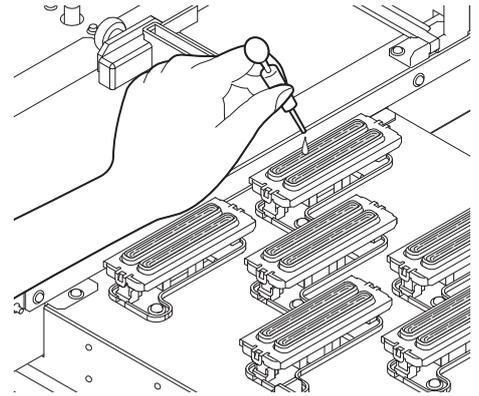
12

右メンテナンスカバーを開ける

13

スポイトにメンテナンス洗浄液をとり、キャップ一杯になるまで満たす

- キャップからあふれる寸前まで洗浄液を満たしてください。



14

右メンテナンスカバーを閉じ、**ENTER** キーを押す

- 初期動作後、手順2の表示に戻ります。

ハイロ センシ`ョウ
シハ`ラク オマチクタ`サイ

ヘッド周辺の清掃

ヘッドそのものは非常に微細なメカニズムを採用しておりますので、お手入れの際には十分な注意が必要です。
スライダ下部、ヘッド周辺にゲル状になったインクや、ホコリが付着することがありますので、クリーンスティックなどでこすり落としてください。その際、ヘッドのノズル部分は絶対にこすらないようにしてください。

清掃に必要な道具	・クリーンスティック (SPC-0527)	・手袋	・ゴーグル
----------	-----------------------	-----	-------



- ・清掃を行うときは、必ず付属のゴーグルと手袋を着用して作業を行ってください。インクが目に入る場合があります。
- ・インクが皮膚や目に入った場合は、直ちに水で十分に洗い流してください。
- ・キャリッジ下面がインクやホコリの付着により汚れないように、必ず毎日清掃をおこなってください。汚れたままの状態にしておくと、ヘッドクリーニング時のワイプ動作でノズルにゴミや凝固インクをこすり付けてしまう恐れがあります。
- ・キャリッジ下面を清掃する場合、ノズル面をこすらないよう、十分に注意してメンテナンスをおこなってください。

1

ローカルで、**MAINT.** キーを押す

キャリッジ アウト

[ENT]

2

ENTER キーを押す

イトゥ イチ

:ステーション メンテナンス

3

▲ ▼ を押して、[ヘッド メンテナンス] を選ぶ

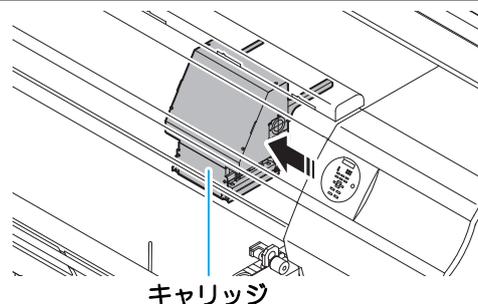
イトゥ イチ

:ヘッド メンテナンス

4

ENTER キーを押す

- ・キャリッジが、本装置の左端まで移動します。

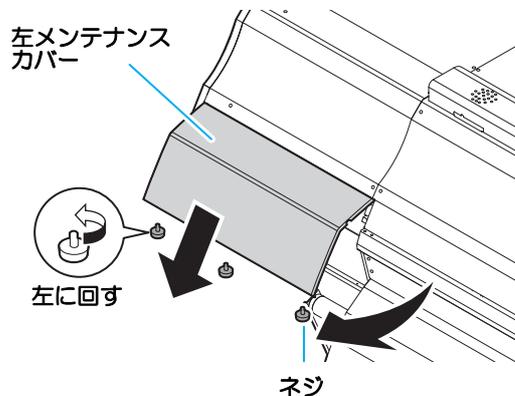


5

左メンテナンスカバーを外す

- (1) 左メンテナンスカバー下のネジ (3箇所) を左に回して取り除く
- (2) 左メンテナンスカバーの下側を持ち、手前に引く
- (3) 下に引くようにして、左メンテナンスカバーを取り外す

- ・左メンテナンスカバーが開けづらい場合は、付属のドライバーを使って開けてください。



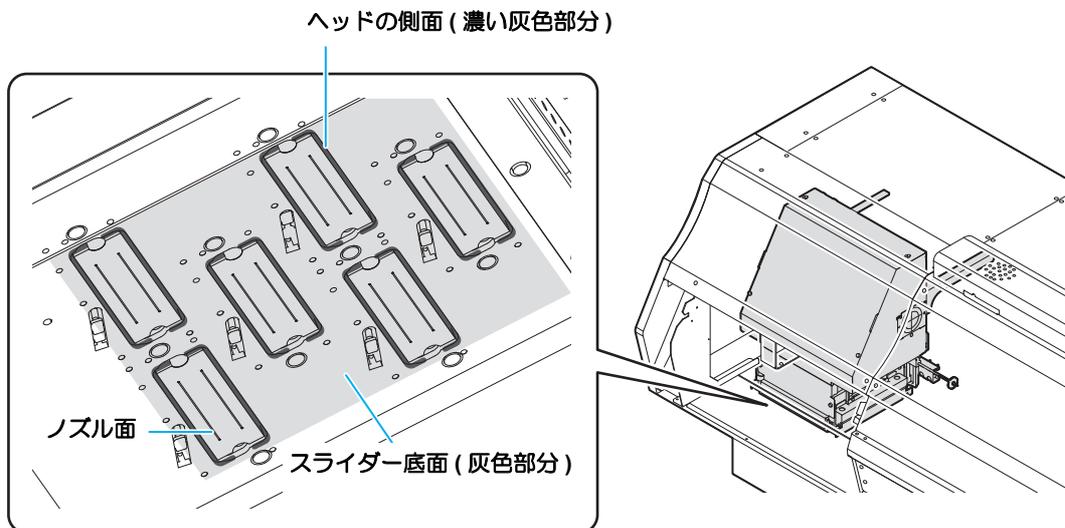
4

お
手
入
れ

6

クリーンスティックまたはウェスにメンテナンス洗浄液を含ませ、ヘッドの側面、スライダ底面に溜まったインクを拭き取る

- ・ノズル部分は、手順7で清掃するのしてください。



- 重要!** ・右の写真のような状態になるまで、清掃してください。



7

コットンシーガル®にメンテナンス洗浄液を含ませ、奥から手前に向かってノズル面に付着したキャップゴム跡を拭き取る

コットンシーガル®



【清掃前】



【清掃後】



キャップ跡

- 重要!**
- ・メンテナンス洗浄液がしたたり落ちるくらい十分に含ませてください。
 - ・コットンシーガル®が乾いた状態で、ノズル面を拭かないでください。
 - ・コットンシーガル®がケバ立ってきたら交換してください。
 - ・コットンシーガル®にインクの固形物が付着した場合、清掃面を変えるか、コットンシーガル®を交換してください。

8

清掃が終了したら、**ENTER** キーを押す

- ・左メンテナンスカバーを閉じ、**ENTER** キーを押してください。

カバー シメテクタサイ
シュウリョウ [ENT]

ノズル詰まりが復旧しない場合

ヘッドクリーニング (P.2-33) をしても、ノズル詰まりが改善しない場合、次の 2 機能を実行してください。

ノズルセンジョウ	・ヘッドノズルを洗浄します。(P.4-17)
ノズルリカバリ	・ノズル抜けが直らないとき、かわりのノズルで作図します。(P.4-19)

ヘッドノズルの洗浄

インクの凝固によるインク詰まりのを防止するため、ヘッドノズルの洗浄を行います。

事前に確認してください	[インクエンド]は表示していませんか？ <ul style="list-style-type: none">・洗浄動作の際に、インクの吸引を行います。このとき、インクエンドを検出していると、洗浄動作が行えなくなります。・インクエンドを検出していない、新品のインクボトルに交換してください。
-------------	--

1 ローカルで、**[MAINT.]** キーを押す

キャリッジ アウト [ENT]

2 **[▲]** **[▼]** を押して、**[ノズルセンジョウ]** を選ぶ

ノズル センジョウ [ENT]

3 **[ENTER]** キーを押す

・キャリッジがベルト上に移動します。

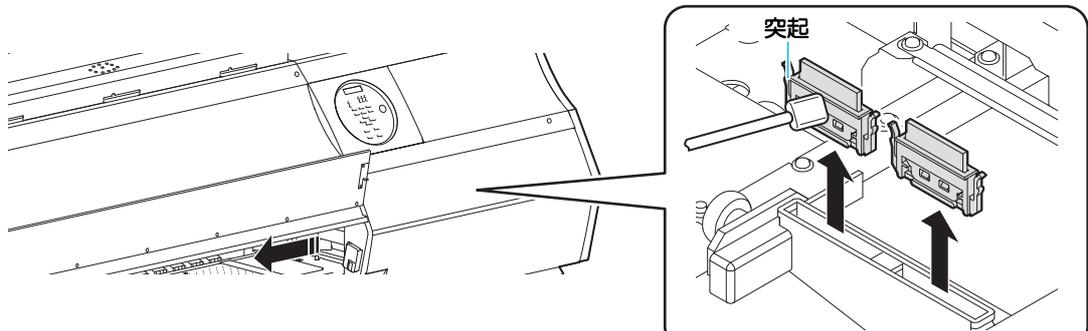
ワイパー クリーニング シュウリョウ(ツギへ) [ENT]

重要!

・ワイパーのクリーニングが終了するまで、ディスプレイには**[シュウリョウ(ツギへ):ENT]**が表示されます。手順 4 の作業が完了してから**[ENTER]** キーを押してください。クリーニングが終了する前に**[ENTER]** キーを押すと、次の洗浄手順に移行します。

4 ワイパーとブラケットを清掃する

- (1) 右メンテナンスカバーを開け、ワイパー両端の突起を持って引き抜く
- (2) クリーンスティックにメンテナンス洗浄液を含ませて清掃する (ML003-Z-K1)
メンテナンス洗浄液は、残らないように拭き取ってください。
- (3) ワイパー両端の突起を持ち、元の位置に差し込む



5 **[ENTER]** キーを押す

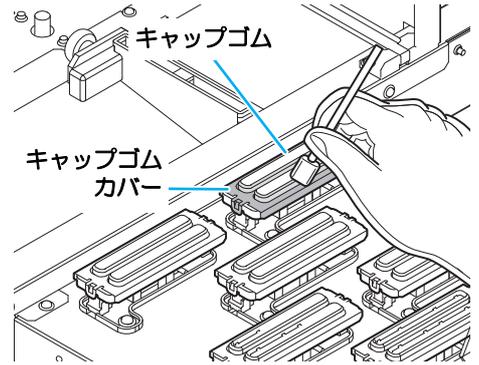
キャップ クリーニング シュウリョウ(ツギへ) [ENT]

重要!

・キャップのクリーニングが終了するまで、ディスプレイには**[シュウリョウ(ツギへ):ENT]**が表示されます。手順 6 の作業が完了してから**[ENTER]** キーを押してください。クリーニングが終了する前に**[ENTER]** キーを押すと、次の洗浄手順に移行します。

6**キャップゴム、キャップゴムカバーを清掃する**

- キャップゴム、キャップゴムカバーに付着したインクを、メンテナンス洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。メンテナンス洗浄液は、残らないように拭き取ってください。
- このとき、自動的に排出路が洗浄されます。

**7****ENTER キーを押す**

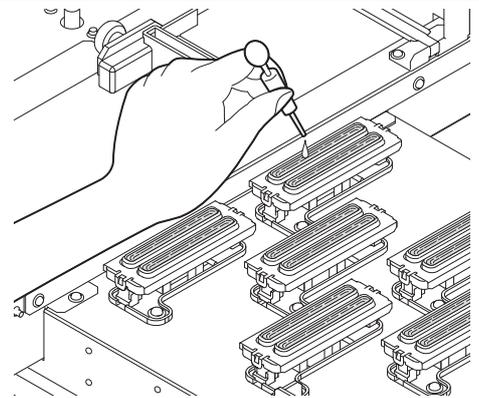
センシ ヨウエキ ヲ ミタス
シュウリョウ(ツギへ) [ENT]

重要!

- 洗浄液を満たすまで、ディスプレイには[シュウリョウ(ツギへ) :ENT]が表示されます。手順8の作業が完了しフロントカバーを閉じてから**ENTER**キーを押してください。洗浄液を満たす前に**ENTER**キーを押すと、キャリッジが元の位置に戻ります。

8**スポイトにメンテナンス洗浄液をとり、キャップ一杯になるまで満たす**

- キャップからあふれる寸前まで洗浄液を満たしてください。

**9****右メンテナンスカバーを閉め、ENTER キーを押す**

ホウチ シ`カン
= 1min

10**▲ ▼ を押して、洗浄液の放置時間を設定する**

設定値:1 ~ 15分(1分単位)

ホウチ シ`カン
= 2min

11**ENTER キーを押す**

- キャップに満たした洗浄液を吸引します。
- 手順10で設定した時間だけ、右の画面を表示します。
- 放置時間が過ぎると、手順2の表示に戻ります。

シハ`ラク オマチクタ`サイ
00:00



** クリーニング **
シハ`ラク オマチクタ`サイ

重要!

- この洗浄を何回か実行してもノズル抜けが解消されない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡(サービスコール)ください。

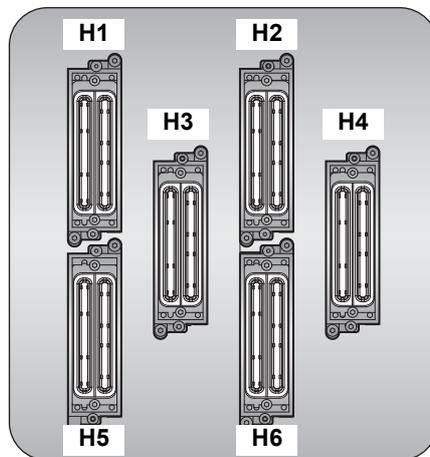
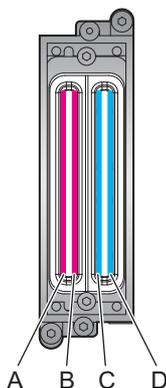
ノズル抜けが直らないとき、かわりのノズルでプリントする

特定ノズルのノズル抜けが直らない場合、そのノズルは使用せず他の正常なノズルをかわりに使用 (ノズルリカバリ) してプリントすることができます。

本機のヘッドは右のように構成されています。
ノズルリカバリ機能では、H1-2(ヘッド 1-2)、H3-4(ヘッド 3-4)、H5-6(ヘッド 5-6) それぞれのノズル列を指定して、リカバリの設定をすることができます。



- ノズル列について**
- 本機は、1つのヘッドに対して4つのノズル列(A列・B列・C列・D列)で構成されています。



1 メンテナンスメニューの [ノズルリカバリ] を選ぶ

- ローカルで、**FUNCTION** キーを押す
- ▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- ▲** **▼** を押して [ノズルリカバリ] を選ぶ
- ENTER** キーを押す

2 **▲** **▼** を押して [プリント] を選び、**ENTER** キーを押す

ノズルリカバリ
: フォント



ヘッド センタク
: H1-2

3 **▲** **▼** を押してノズルリカバリをするヘッド (H1-2/H3-4/H5-6) を選ぶ

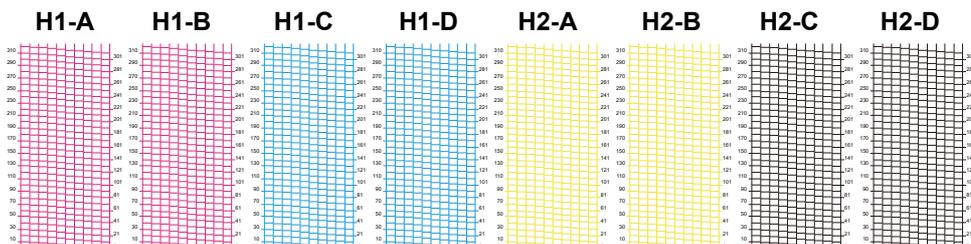
ヘッド センタク
: H3-4

4 **ENTER** キーを 2 回押す

- 選んだユニットのノズルパターンがプリントされます。
- 手順 2 で [トウロク] を選択したときは、ノズルパターンのプリントをしないでノズル列選択手順 (手順 5) に移ります。

** フォント **
シハラク オマチクタサイ

H1-2 を選択した場合のノズルパターン



5

▲▼ を押してノズルリカバリをするノズル列を選び、ENTER キーを押す

ノズルセンタク
: H1-A

ノズル列 : A,B,C,D

ヘッド番号 : H1~H2

6

リカバリが必要なノズル番号を登録し、ENTER キーを押す

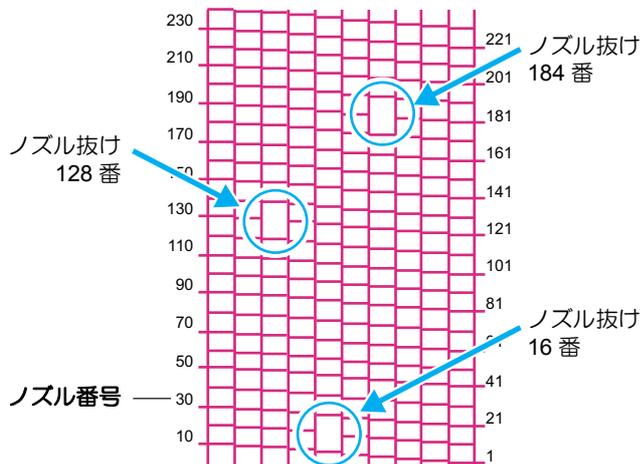
- (1) ▲▼ を押して登録番号 (1~10) を選択し、ENTER キーを押す
- (2) ▲▼ を押してリカバリするノズル番号を登録し、ENTER キーを押す
 - 登録したノズルがリカバリできない場合、P4-21「ノズルリカバリできないプリント条件を確認する」の手順 3 の画面が表示されます。

H1-A
No. 1 184

リカバリノズル番号
(1~320) または OFF

登録番号 : 1~10

リカバリノズル登録例



登録番号	リカバリノズル番号	状態
1	16	ノズルリカバリする
2	128	ノズルリカバリする
3	184	ノズルリカバリする
4	OFF	登録無し
5	OFF	登録無し

7

終了するとき、END キーを数回押す

重要!

- 1 ノズル列あたり 10 個までノズルを登録できます。
- 本機能を使用しても、作図時間は変わりません。
- 倍速・標準速モードそれぞれの最低バス数では、ノズルリカバリ機能は無効です。
- ノズルリカバリを登録しても、テストプリントなどのパターンはリカバリされません。

ノズルリカバリできないプリント条件を確認する

登録したノズルによっては、リカバリが反映されないモードがあります。リカバリできないプリント条件を確認してください。



- 登録されているノズルが多い場合、チェック結果を表示するまでに時間がかかります。

1

メンテナンスメニューの[ノズルリカバリ]を選ぶ

- (1) ローカルで、**FUNCTION**キーを押す
- (2) **▲** **▼**を押して[メンテナンス]を選び、**ENTER**キーを押す
- (3) **▲** **▼**を押して[ノズルリカバリ]を選ぶ
- (4) **ENTER**キーを押す

2

▲ **▼**を押して[チェック]を選ぶ

ノズルリカバリ
: チェック

3

ENTERキーを押す

- ノズルリカバリが無効なモードを表示します。
- ノズルリカバリが無効なモードがない場合、「ナシ」と表示します。

リカバリ フカ ショウケン
: 600 x 900 6 p H

解像度 パス数 スキャン速度

4

終了するとき、**END**キーを数回押す

設定値をクリアする

1

メンテナンスメニューの[ノズルリカバリ]を選ぶ

- (1) ローカルで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して [ノズルリカバリ] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

2

▲ **▼** を押して [クリア] を選び、**ENTER** キーを押すノズルリカバリ
: クリアヘッド センタク
: H1-2

3

▲ **▼** を押してノズルリカバリの設定をクリアする
ヘッド (H1-2/H3-4/H5-6) を選ぶヘッド センタク
: H3-4

4

ENTER キーを押すクリアノズル センタク
: H1-A

5

▲ **▼** を押して、設定値をクリアするノズル列を選
び、**ENTER** キーを押すクリアノズル センタク
: H1-AH1-A クリア?
シッコウ [ENT]

6

ENTER キーを押す

7

終了するとき、**END** キーを数回押す

オートメンテナンス機能

本機を快適にお使いになるため、自動的に各種メンテナンスを行うように設定できます。ここでは、各種自動メンテナンスの実行間隔を設定します。定期的に自動メンテナンスを行うことにより、インク詰まりなどのトラブルを防止することができます。(オートメンテナンス機能)
オートメンテナンス機能には、以下の項目があります。

- 重要!** ・手動で各種メンテナンスを行った場合、手動メンテナンス終了後、オートメンテナンス機能で設定した時間が経過したら自動的に各種メンテナンスを開始します。

機能名	説明
リフレッシュ	リフレッシュを実行するまでの間隔を設定します。
クリーニング	クリーニングタイプと、実行するまでの間隔を設定します。

- 重要!** ・右のメッセージが表示されている場合、オートメンテナンス機能で設定した動作は実行されません。必要に応じてP.4-27の操作をしてください。
・装置前面の電源ボタンをオフにする場合は、廃インクタンクの確認をしてください。

<ローカル>
ハイ インクタンク フル

リフレッシュ間隔を設定する

ノズル詰まり防止のため、ノズルから若干のインクを吐出する間隔を設定します。

1 メンテナンスメニューの【オートメンテナンス】を選ぶ

- (1) ローカルで、**FUNCTION**キーを押す
- (2) **▲** **▼**を押して【メンテナンス】を選び、**ENTER**キーを押す
- (3) **▲** **▼**を押して【オートメンテナンス】を選ぶ

2 **ENTER**キーを押す

オート メンテナンス
リフレッシュ [ENT]

3 **ENTER**キーを押す

リフレッシュ
: Lv. 1

4 **▲** **▼**を押して、リフレッシュ間隔を設定する

- ・設定値：OFF、Lv.1、Lv.2、Lv.3
- ・レベルを上げるごとに動作間隔は短くなります。

リフレッシュ
: Lv. 1

5 **ENTER**キーを押す

オートメンテナンス
リフレッシュ [ENT]

6 終了するとき、**END**キーを数回押す

クリーニング間隔を設定する

クリーニングタイプと、クリーニングを実行するまでの間隔を設定します。

- 1** メンテナンスメニューの[オート メンテナンス]を選ぶ

(1) ローカルで、**FUNCTION** キーを押す
 (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
 (3) **▲** **▼** を押して [オート メンテナンス] を選ぶ
 (4) **ENTER** キーを押す

- 2** **▲** **▼** を押して、[クリーニング] を選ぶ

オート メンテナンス
 クリーニング [ENT]

- 3** **ENTER** キーを押す

クリーニング°
 : レベル1

- 4** **▲** **▼** を押して、クリーニングを行う間隔を設定する

クリーニング°
 : Lv.1

• 設定値 : OFF、Lv.1、Lv.2、Lv.3
 • レベルを上げるごとに動作間隔は短くなります。

- 5** **ENTER** キーを押す

• 手順 4 で “OFF” 以外に設定したとき、クリーニングタイプの選択画面が表示されます。

タイプ°
 : ノーマル

- 6** **▲** **▼** を押して、クリーニングタイプを選ぶ

• 設定値 : ノーマル、ソフト、ハード

タイプ°
 : ソフト

- 7** **ENTER** キーを押す

オート メンテナンス
 クリーニング° [ENT]

- 8** 終了するとき、**END** キーを数回押す

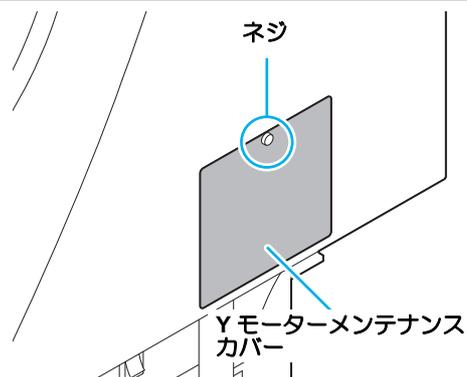
Y モーターの清掃

ワーニングメッセージ [Y モーターセイソウ] が表示されたら、次の手順で Y モーターの清掃をしてください。

1

電源を切ってから、Y モーターメンテナンスカバーを開ける

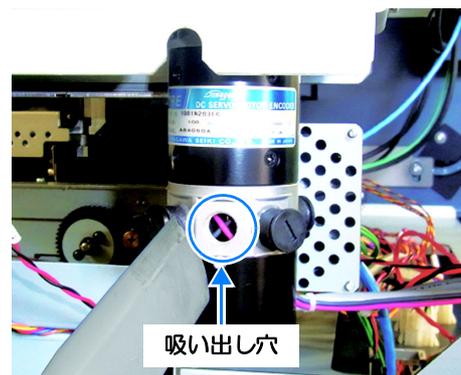
- Y モーターメンテナンスカバーのネジを外して、カバーを開けてください。



2

摩耗粉吸い出し用のフタを開け、摩耗粉吸い出し穴に溜まった摩耗粉を掃除機で吸い出す

- マイナスドライバーを使って、フタを開けてください。



3

摩耗粉吸い出し用のフタを元の状態に戻し、電源を入れる

- ディスプレイにはワーニングメッセージ [Y モーターセイソウ] が表示されます。

4

MAINT. キーを押して、ワーニングメッセージをクリアする

- ローカルに戻ります。

4

お
手
入
れ

消耗品の交換

ワイパーを交換する

ワイパーは消耗品です。右のメッセージが表示されたら、速やかにワイパーを交換してください。
また、スライダー下面に付着したインクの清掃をしてください。

<ローカル>
ワイパー コウカン [MNT]

重要! ・クリーニングワイパー (SPA-0193) は別売品です。お近くの販売店、または弊社営業所でお求めください。

1 メッセージが表示されたら、**MAINT.** キーを押す

ワイパー コウカン
シッコウ [ENT]

2 **ENTER** キーを押す

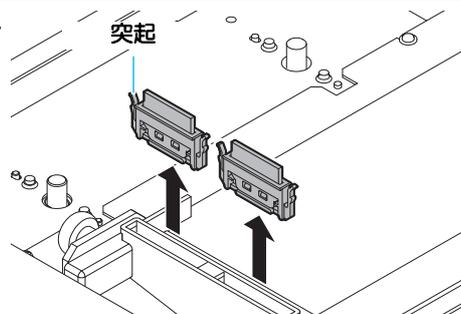
・キャリッジがベルト上に移動します。

ワイパー コウカン
シュウリョウ [ENT]

重要! ・交換作業が終了するまで、ディスプレイには [シュウリョウ :ENT] が表示されます。手順3までの作業が完了し右メンテナンスカバーを閉じてから **ENTER** キーを押してください。

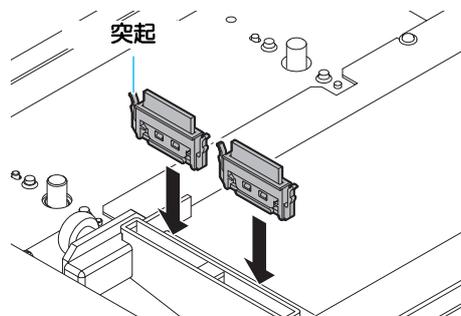
3 右メンテナンスカバーを開けて、ワイパーを取り出す

・ワイパー両端の突起を持ち、引き抜きます。



4 新しいワイパーを差し込む

・ワイパー両端の突起を持ち、差し込みます。



5 右メンテナンスカバーを閉じ、**ENTER** キーを押す

・初期動作後、ローカルに戻ります。

* ショキカ チュウ *
シバラク オマチクダサイ

廃インクタンク確認メッセージが表示されたら

ヘッドクリーニングなどで使用したインクは、本装置の右下にある廃インクタンクにたまります。本装置では、インクの排出量をセンサーで監視し、一定の量になったら確認を促すメッセージを表示します。（廃インクタンク交換の目安としてお使いください。）

ローカルでの確認メッセージ

1 右のメッセージが表示される

<ローカル>
ハイインクタンク フル マチ`カ

または

<ローカル>
ハイインクタンク フル

または

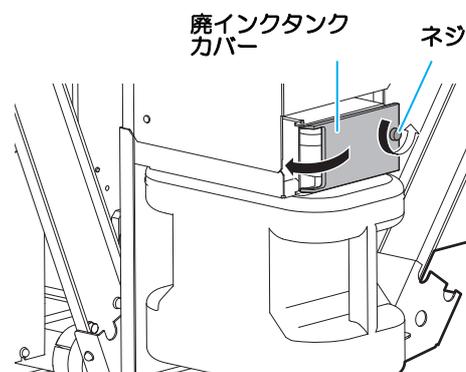
<ローカル>
ハイインクタンク ナン

2 廃インクタンクを確認する

廃インクタンクを交換する

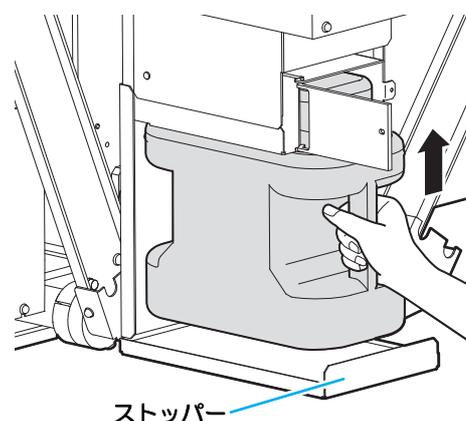
1 廃インクタンクカバーを開く

- ・廃インクタンクカバーについているネジを取り外し、カバーを手前に開けます。



2 廃インクタンクを少し持ち上げる

- ・ストッパーに当たらない程度まで、廃インクタンクを持ち上げてください。

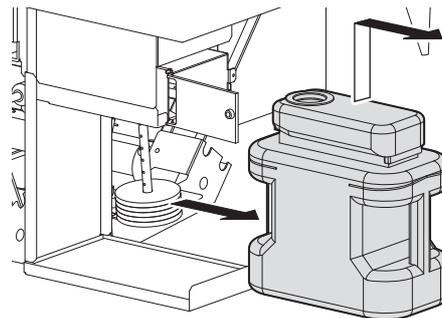
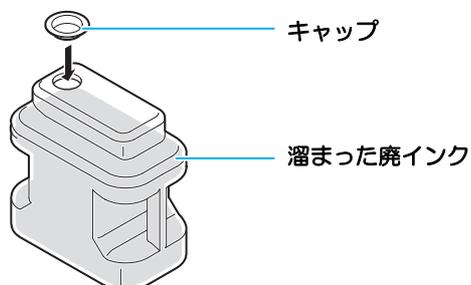


3

廃インクタンクを取り出す

- (1) 廃インクタンクの取っ手を持ち、手前に引き出す
- (2) 廃インクタンクを持ち上げて、取り出す

• 取り出した廃インクタンクにキャップをはめてください。



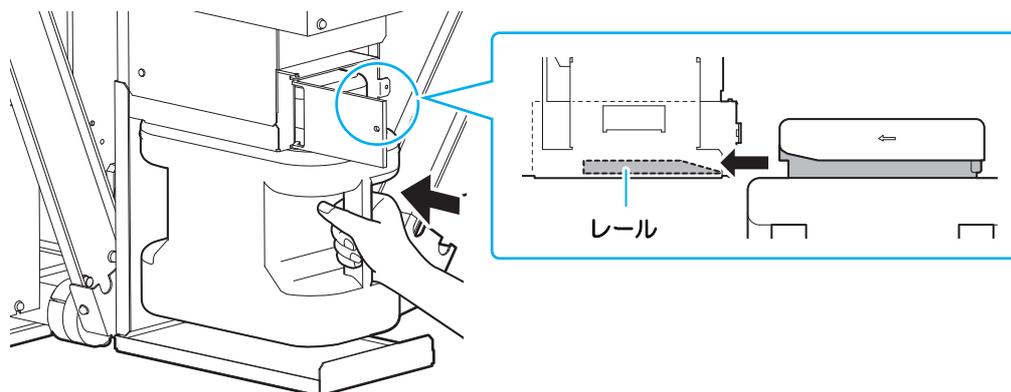
4

廃インクタンクを交換する

- (1) 新しい廃インクタンク (SPC-0197) を用意する
- (2) 廃インクタンクの取っ手を持ち、レールに沿って差し込む
- (3) 廃インクタンクを持ち上げる



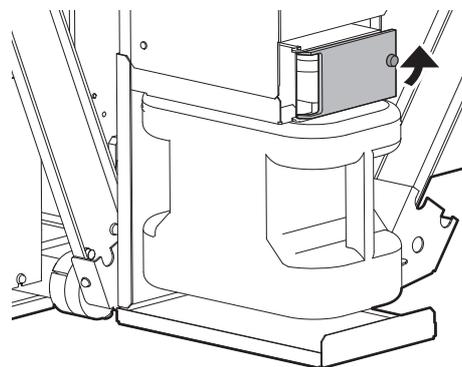
• 手順 3 で取り出した廃インクは、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。



5

廃インクタンクカバーを閉じる

• 新しい廃インクタンクを認識したら、ワーニングメッセージが解除されます。



洗浄ユニットの清掃

ベルト洗浄ユニットを定期的 (1ヶ月に1回程度) に清掃して、ベルト表面にインクや糸くずが残らないようにしてください。

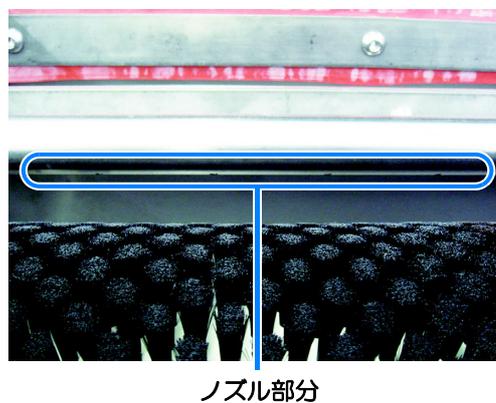
- 1 ベルト洗浄ユニットの左右に付いているレバーを回し、ロックを解除する



- 2 ベルト洗浄ユニットを手前に引き出す



- 3 シャワー部のノズル部分を綿棒で清掃する



重要! ・ 洗浄ユニットからの排水は、各地域の自治体の法律に基づき、適切に処理を行ってください。

引き剥がしセンサのクリーニング

汚れによる引き剥がしセンサの誤動作を防止するため、定期的(1週間に1回程度)に引き剥がしセンサのクリーニングを行ってください。

- 重要!** ・引き剥がしセンサは、プリント時に発生するインクミストや、布を乾燥するときに発生する蒸気などの影響で汚れます。

また、以下の症状が発生した場合にも、クリーニングを行ってください。

- ・布が引き剥がれずにアラームが鳴る。
- ・布がベルトに巻き込まれていないのにアラームが鳴る。

1 綿棒に洗浄液をしみこませ、反射板を拭く



2 手順1で拭いた反射板を、乾いた綿棒で拭き取る

3 洗浄液のしみこんだ綿棒で、引き剥がしセンサのレンズ(2つ)を拭く



4 手順3で拭いたレンズを、乾いた綿棒で拭き取る

地張り剤の接着力が弱くなったら

地張り剤の接着力が弱くなった場合は、地張り剤を塗り直す必要があります。本装置は工場出荷時に地張り剤を塗布してありますが、インク、糸くず、ほこりなどで接着力が低下した場合は地張り剤の塗り替えが必要です。出荷時に塗布してある地張り剤を剥離する場合は、本装置に添付の地張りリムーバーを使用して、地張り剤を取り除いてください。(特別な地張り剤を使用しているため、灯油や軽油では剥離できません。)
以下は弊社純正の地張り剤(ポリックスレジン SX)を使用する例を説明します。

- 古い地張り剤を剥がす接着力が低下した地張り剤を剥がします。
- 新しい地張り剤を塗る地張り剤を新しく塗布します。

塗り替えの目安

次のような場合は、地張り剤の塗り替え時期です。

- ・ プリントした布が正面カバーから出てきた時点で地張りに浮きが発生している場合
- ・ 地張りの左右で接着強度が違ってきている場合
- ・ 地張り剤が部分的に剥がれたなどでベルト表面が平滑でなくなり、洗浄水が洗浄ユニットのワイパでは取りきれず、ベルト上面まで水滴が残ってしまう状態となった場合
- ・ 引き剥がしローラ上で、メディアの自重によりメディアが剥がれていくことで巻取り装置が動作できず、メディアが床に垂れてしまう状態となった場合

● 純正の地張り剤ポリックスレジン SX を塗布した場合

弊社純正地張り剤、ポリックスレジン SX を 1 リットル塗布した場合に使用可能なプリント長さは、おおよそ、2500 ~ 3000m になります。

地張り接着力が落ちてきたら、メディア搬送部背面にある調整ダイヤルを回してエア圧力を 0bar 側に下げてください。加圧ローラの圧力が上がります。(MAX : 0bar 時)

また、地張り接着力が強過ぎる場合は、調整ダイヤル回してエア圧力を上げてください。加圧ローラの圧力が下がります。

重要!

- ・ 弊社純正の地張り剤は、溶剤系の地張り剤です。必ず有機溶剤用保護マスク、ゴーグル、手袋を着用して、地張り剤の塗り替えを行ってください。
- ・ 地張り剤塗り替え作業時は火気厳禁とし、ベルトヒータ・メインヒータは必ず OFF としてください。また、ヒータ OFF 後、1 時間以上経過してから作業を開始してください。
- ・ 塗り替え時に使用する手袋は、必ず耐薬品性(耐灯油性)のあるものを使用してください。
- ・ 換気の悪い部屋、または密閉された部屋で地張り剤の塗り替えを行う場合は、必ず換気装置を設けてください。
- ・ 地張り剤を使用する場合、有機溶剤中毒予防規則を遵守してください。また地張り剤の塗り替えを行う場合は、有機溶剤作業主任者技能講習を終了した方、または有機溶剤作業主任者が選任されている方で、作業を行ってください。
- ・ 布が使用前からたるんでいて、搬送ベルトに張り付けする(加圧ローラを通過した)時点で浮き、たるみが発生する場合は、地張り剤が原因ではありません。また、その布は使用できません。
(☞ P.1-23 「メディアについて」)

地張り剤を塗り直す前に必ずご確認ください

搬送ベルト上の地張り剤は、地張り剤の種類・使用経過時間・メディア種類や厚さ・気温や湿度などにより地張り力が異なります。

地張り剤の種類やその他の条件に合わせて、メディア搬送部の加圧ローラの設定値を調整する必要があります。

重要!

- ・搬送用ベルトはポリウレタン製です。ポリウレタンを膨潤させる溶剤を使用している地張り剤は使用できません。お手持ちの地張り剤が使用できるかを、地張り剤メーカーにお問い合わせください。



地張り剤塗り替え時のご注意

- ・地張り剤を取り扱う方は、付属の静電気除去リストバンドを装着の上、作業してください。
- ・地張り剤塗り替え作業時は火気厳禁とし、ベルトヒータ・メインヒータは必ず OFF としてください。また、ヒータ OFF 後、1 時間以上経過してから作業を開始してください。
- ・地張り剤の塗り替え作業時は、必ず換気を行ってください。
- ・誤ってベルト左右の外側に地張り剤やリムーバーを垂らしてしまった場合は、垂れた地張り剤やリムーバーを取り除いた上で作業を行ってください。

地張り剤の種類

使用環境や用途に合わせて、塗り替える地張り剤を選んでください。

タイプ	長 所	短 所
溶剤型地張り剤 (弊社推奨タイプ)	(1) 長寿命 (2) 塗布後、使用可能となるまでの乾燥・硬化時間が短時間で済む。	(1) 有機溶剤を使用しているため、中毒防止対策や火気対策が必要。 (2) 地張り剤を剥がすときに、有機溶剤が必要となる。
水性エマルジョン型 地張り剤	(1) 地張り剤を水やアルコールで薄めることができる。 (2) 有機溶剤の中毒の恐れがない。	(1) 寿命が短い。 (2) 塗布後の乾燥・硬化時間が長い。
スプレー式地張り剤	(1) 塗布後の乾燥・硬化時間が不要。	(1) 寿命が極端に短いため、臨時での使用しかできない。

地張り接着力を設定する

加圧ローラの圧力を調整して、地張り力を変更することができます。
本装置が以下の状態になるように、地張り接着力を調整してください。

● 地張り力設定の目安

- (1) プリント時にキャリッジ動作範囲でメディアやメディアのエッジで浮き上がりがないこと。
- (2) プリント時に巻取が開始されるまではメディアがベルトにしっかりと貼り付いていて、巻取が開始されたらスムーズにベルトがメディアが引き剥がされること。

1 メディアをセットする (☞ P.2-11)

2 ベルトヒータを“ON”にする (☞ P.2-10)

3 プリントを開始する (☞ P.2-38)

4 ベルトとメディアの貼り付き具合を確認して、加圧ローラの圧力を調整する

- ・加圧ローラの圧力を下げたい場合：
調整ダイヤルを右方向に回し、圧力計の表示を高くする。

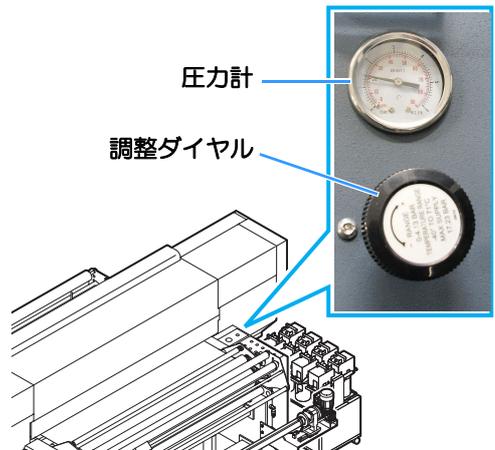


キャリッジ動作範囲でメディアが浮き上がっているときは

- ・加圧ローラの圧力を上げてください。
巻取が開始される前にメディアがベルトから離れている場合は
- ・加圧ローラの圧力を上げてください。
巻取が開始しても、メディアがベルトからスムーズに剥がれない場合
- ・加圧ローラの圧力を下げてください。



- ・圧力計の表示は 2bar 以上にしないでください。



重要!

- ・加圧ローラの調整をしても接着力が上がらない場合は地張り剤の寿命です。次ページからの作業をして、寿命となった地張り剤を剥がし、新しい地張り剤を塗布してください。

弱くなった地張り剤を剥がす

地張り剤を剥がす際には以下の物がが必要です。

- 重要!** ・本装置出荷時に塗布してある地張り剤を剥離させるには、添付品の地張りリムーバーを使用してください。特別な地張り剤を使用しているため、軽油や灯油では地張り剤を取り除くことはできません。



地張り剤剥離作業時のご注意

- ・リムーバーを取り扱う方は、付属の静電気除去リストバンドを装着の上、作業してください。
- ・リムーバー、灯油、軽油、エタノールは揮発性の危険物です。使い切れなかった場合は、フタをした上で冷暗所危険物保管庫に保管してください。
- ・地張り剤剥離作業時は火気厳禁とし、ベルトヒータ・メインヒータは必ず OFF としてください。また、ヒータ OFF 後、1 時間以上経過してから作業を開始してください。
- ・地張り剤剥離作業時は、必ず換気を行ってください。

使用する物	ご用意していただく物
ドクタ 手袋 プラスチックコマ（本装置 付属） リムーバー	ウェス 灯油または、軽油 約 1リットル エタノール 約1リットル 布切れ（2m x 2m 程度の長さの物） A4サイズ程度の樹脂板（端面にシャープエッジの無い1.0～3.0mm程度の板） エタノール、リムーバーで膨潤しない物である必要があります。（素材例：PVC、PP）

1

ドクタサポートに、ドクタを図のようにセットする

- 重要!** ・ドクタは重量物です。持ち運びやドクタサポートへセットする時は、必ず2人以上で作業を行ってください。



ドクタの歯は、左側面から見て写真の向きとしてください。



2

ドクタが、ベルトに均等に当たる最も低い位置に来るまで、ドクタ下の六角ナットを調整する

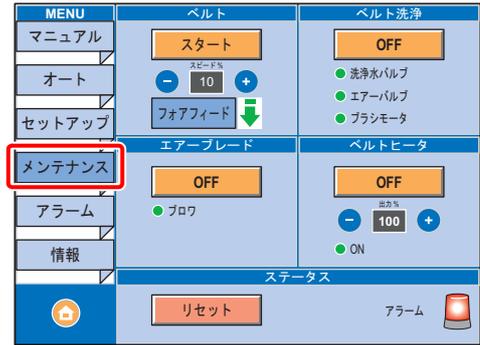
- 重要!** ・ドクタとベルトとの間にスキマが出来ないように注意してください。スキマがあるとそこから、リムーバーが大量に漏れてしまい、他の部品を汚してしまう恐れがあります。

3

ドクタを固定するため、調整ネジ部の丸形ナットを手で固定する

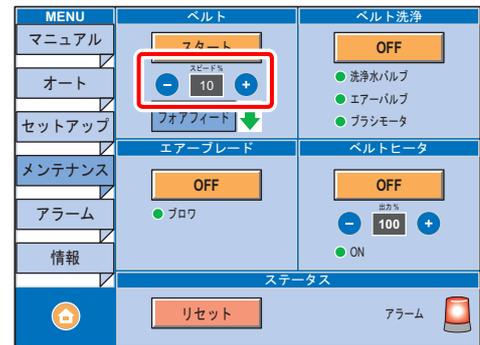
4

操作タッチパネルの[メンテナンス]を押してメンテナンス画面にする



5

ベルトスピード[-][+]キーを押し、10%に調整する



6

搬送ベルト上に布、その他の物がないことを確認してから[スタート]を押してベルトを動作させる

重要! ・ベルトヒータがOFF(オレンジ色)になっていることを確認してください。



7

灯油（軽油）を均等に染み込ませるため、ドクタの灯油（軽油）塗布側に準備した布切れをセットする



4

お
手
入
れ

8

布切れにまんべんなくリムーバーが行き渡るように、ベルト上に注ぐ

重要!

- リムーバーは、ベルトが1周する間に滴が床面にたれない程度に注いでください。リムーバーが洗浄ユニット等、他の部材に付着すると、地張り剤にリムーバーが再付着し、地張り不良の原因になります。
- 本装置右側（前面、背面 計2箇所）にあるベルトエンコーダローラに、灯油（軽油）が付着しないように注意してください。
- 標準添付しているリムーバーの場合、使用量は約5リットルになります。ポリックスレジンSXに対する灯油（軽油）の場合約1リットルを目安としてください。
- リムーバーがベルトからたれた場合はウェス等でよく拭き取ってください。リムーバーがしみこんだウェスは、乾燥させた後に廃棄してください。
- ベルトヒータ、メインヒータにリムーバーがかかった場合は、すぐに電源をOFFし、弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。



9

地張り剤が柔らかく、ゲル状になるまで、ベルトを回転させる

10

ドクタを取り外し、リムーバーを染み込ませたウエスで、ドクタに付着した地張り剤を取り除く

- 地張り剤塗布のための清掃です。剥離した地張り剤が再硬化する前に行ってください。



11

用意した樹脂板を用いて、ベルトから地張り剤を剥ぎ取る



12

樹脂板で、できる限り地張り剤を取り除いたら、エチルアルコールとウエスを用いてベルト表面に残った地張り剤を取り除く



重要!

- 上記の作業が終了したら、地張り剤の取り残しや大きなホコリなどが無いか再度確認してください。ベルト表面に地張り剤の取り残しなどがある状態で新しく地張り剤を塗布すると、その部分に凹凸ができ、プリントに影響が出ます。
- ベルト表面が乾燥したら、新しい地張り剤を塗布してください。(次ページ)
- 剥離したリムーバーを含むゲル状液体はウエス等にしみこませ、乾燥させた後で廃棄してください。

新しい地張り剤を塗布する

地張り剤を塗布する際には以下の物がが必要です。

使用する物	ご用意していただく物
ドクタ 手袋 プラスチックコマ（本装置 付属）	地張り剤（ポリックスレジン SX1000cc（別売品）） 灯油または、軽油 約 少々（ドクタに付着した地張り剤の除去用） ウェス 少量の中性洗剤を混ぜた水（霧吹き器）

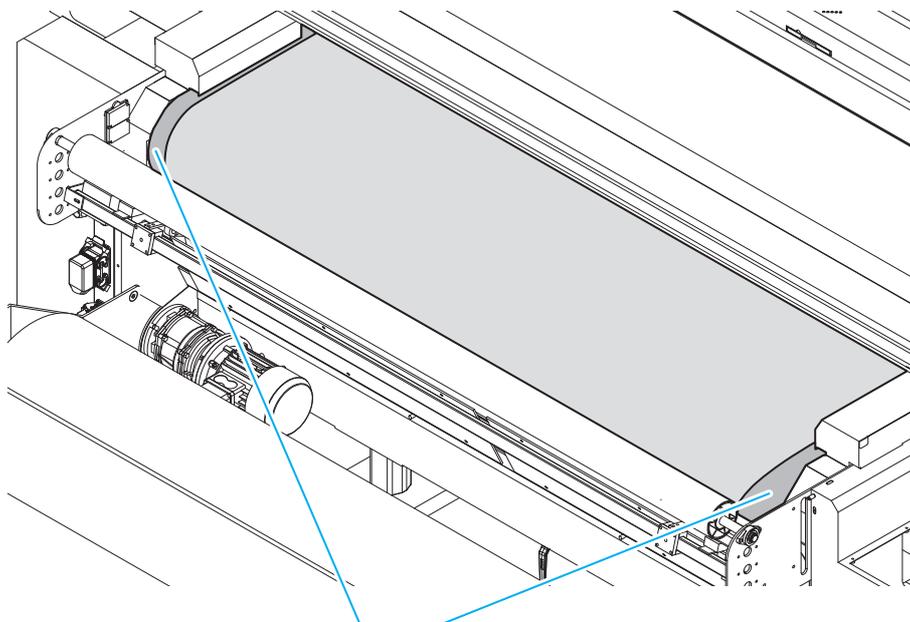


地張り剤塗布作業時のご注意

- ・地張り剤を取り扱う方は、付属の静電気除去リストバンドを装着の上、作業してください。
- ・地張り剤塗布作業時は火気厳禁とし、ベルトヒータ・メインヒータは必ず OFF としてください。また、ヒータ OFF 後、1 時間以上経過してから作業を開始してください。
- ・地張り剤、灯油、軽油は揮発性の危険物です。使い切れなかった場合は、フタをした上で冷暗所危険物保管庫に保管してください。
- ・地張り剤剥離作業時は、必ず換気を行ってください。換気の悪い部屋、または密閉された部屋で地張り剤の塗り替えを行う場合は、必ず換気装置を設けてください。

重要!

- ・弊社純正の地張り剤は、溶剤系の地張り剤です。必ず有機溶剤用保護マスク、ゴーグル、手袋を着用して、地張り剤の塗り替えを行ってください。
- ・塗り替え時に使用する手袋は、必ず耐薬品性（耐灯油性）のあるものを使用してください。
- ・地張り剤を使用する場合、有機溶剤中毒予防規則を遵守してください。また地張り剤の塗り替えを行う場合は、有機溶剤作業主任者技能講習を終了した方。または有機溶剤作業主任者が選任されている下で、作業を行ってください。
- ・市販の地張り剤を使用する場合は、その溶剤成分と本装置のベルト材質との相性を必ず確認してください。使用する場合は、弊社代理店または各営業所にご相談ください。
- ・地張り剤の重ね塗り（前の地張り剤の上に新しい地張り剤を塗布する）をする場合は、前の地張り剤表面の凹凸やほこり、糸くず等の付着により、きれいに塗布できない場合があります。
- ・本装置右側（前面、背面計 2 箇所）にあるベルトエンコーダローラの接触エリアには地張り剤が付着しないように注意してください。装置が正常に動作しなくなります。

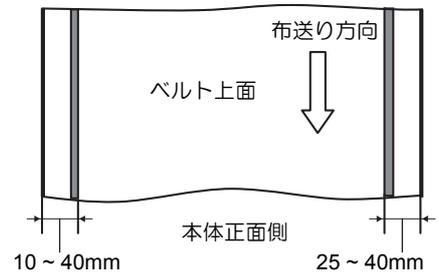
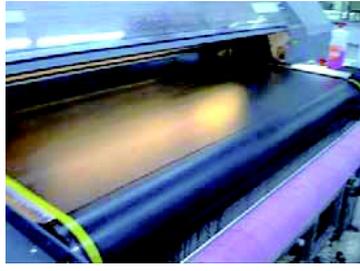


地張り剤を塗布しないエリア

1

粘着テープ（表面の滑りの良い物）をベルト表面に貼り付ける

- 図のように、ベルト左右端からの位置に粘着テープを貼り付けます。



重要!

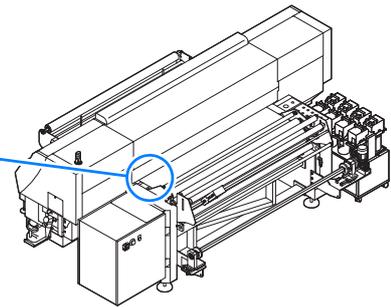
- 粘着テープは、ビニールテープ等の伸縮性のあるものを使用してください。
- 粘着テープは、使用する前に地張り剤との相性の確認を行ってください。（地張り剤でテープが溶けないことを確認する）
- 粘着テープは、ベルトが一周してもドクタによって剥がされないよう右図のように貼り付けてください。



2

「弱くなった地張り剤を剥がす」手順 2～3 を参照してベルト上にドクタをセットする

ドクタの歯は、右側面から見て写真の向きとしてください。



3

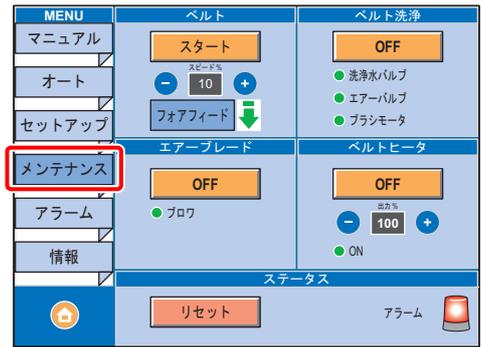
ドクタに本装置添付のプラスチックコマ (2 個) を粘着テープで固定する

- プラスチックコマは、ベルトに貼り付けた粘着テープ上で、ドクタの地張り剤塗布側に左右 1 個ずつ貼り付けてください。



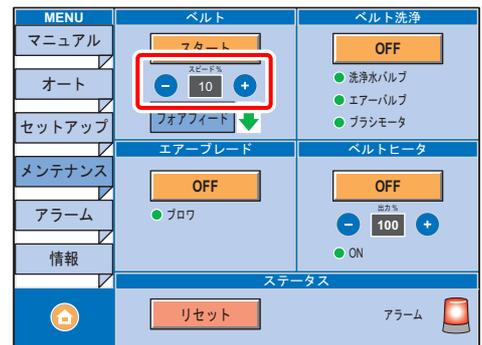
4

操作タッチパネルの[メンテナンス]を押してメンテナンス画面にする



5

ベルトスピード[-][+]キーを押し、10%に調整する



6

搬送ベルト上に布、その他の物がないことを確認してから[スタート]を押してベルトを動作させる

重要! ・ベルトヒータがOFF(オレンジ色)になっていることを確認してください。

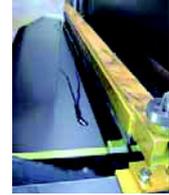


7 地張り剤をベルト上に幅方向に均等に注ぐ

- 地張り剤がベルト 1 周する間にわずかず乾燥して重ね塗りされていくので、地張り剤が少なくなってきたところに地張り剤を補充しながら、ベルト全面に塗布します。

重要!

- 地張り剤を 1 度に多量に流し込むと、地張り剤が左右から溢れ出したり、床にたれる場合があります。
- 溢れた地張り剤が直下のベルトヒータにたれると、火災の危険があります。
(1)地張り剤は一気に流し込まないでください。
(2)ベルトヒータ・メインヒータは、必ず OFF にしておいてください。
- ベルトヒータ、メインヒータに地張り剤がかかった場合は、すぐに電源を OFF し、弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。
- 地張り剤が床にたれた場合、樹脂の床材や塗装を溶かす場合があります。
- 地張り剤がベルトからたれた場合は、ウェス等でよく拭き取り、本機を 12 時間以上放置してからご使用ください。地張り剤がしみこんだウェスは、乾燥させた後に廃棄してください。



8 全ての地張り剤をベルト上に注ぎ終わったら、ドクタに地張り剤が溜まっている状態の内に、霧吹き器で水をドクタ幅全体にスプレーする

- 水をスプレーすることで、地張り剤がドクタから無くなった状態になった時の、地張り剤に入るスジを低減することができます。



9 ドクタに地張り剤が無くなったところで、ドクタを取り外し、ドクタに付着した地張り剤を灯油（軽油）を染み込ませたウェスでふき取る

重要!

- ドクタを取り外す際に、ドクタに地張り剤が残っていないか確認してください。地張り剤が残った状態でドクタを取り外すと、ドクタに付いた地張り剤がベルト上に垂れ、凹凸の原因になります。

10 ベルトスピードを変更する

- ベルトスピード[-][+] キーを押し、20% に調整してください。
- 地張り剤を乾燥させるため、そのまま 2～3 時間放置してください。(放置している間も、ベルトヒータ・メインヒータ共に OFF のままにしておいてください。)



11 [ストップ]を押し、ベルトを停止させる



第5章 困ったときは



この章では ...

故障かな?と思ったときの対処方法や、ディスプレイに表示するエラー番号の解消方法などを説明をしています。

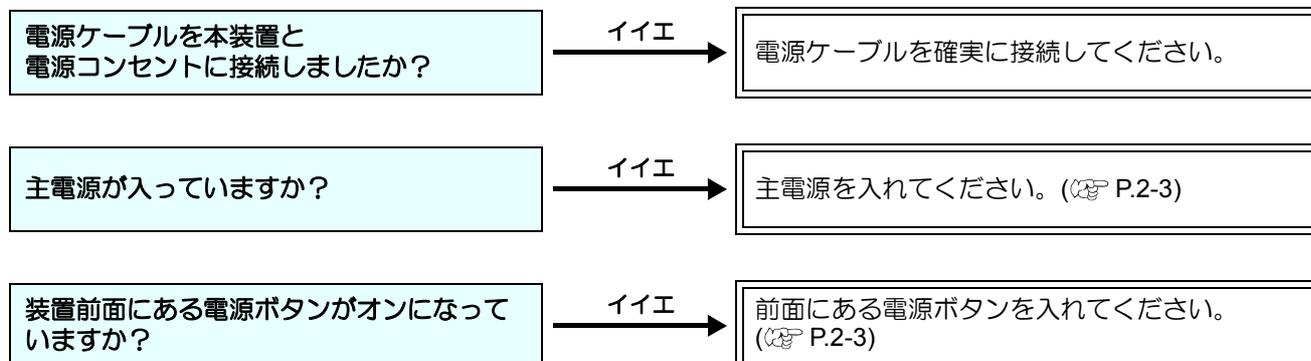
故障?と思う前に	5-2
電源が入らない	5-2
プリントできない.....	5-2
メディアに問題が発生したときは.....	5-3
画質不良が発生したときは	5-3
ノズル詰まりを解消したいとき	5-4
インクボトルに異常が発生したら.....	5-4
サブタンク関連のエラー(エラー 618 ~ 61b)が発生したら	5-5
インクの混色や空気混入によるノズル抜けが発生したら.....	5-6
圧力異常が発生したら.....	5-8
ヘッド故障エラーを表示したら	5-10
メッセージを表示するトラブル	5-12
ワーニングメッセージ.....	5-12
エラーメッセージ.....	5-15

故障？と思う前に

故障？と思う前にもう一度確認してください。対処しても正常に戻らない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

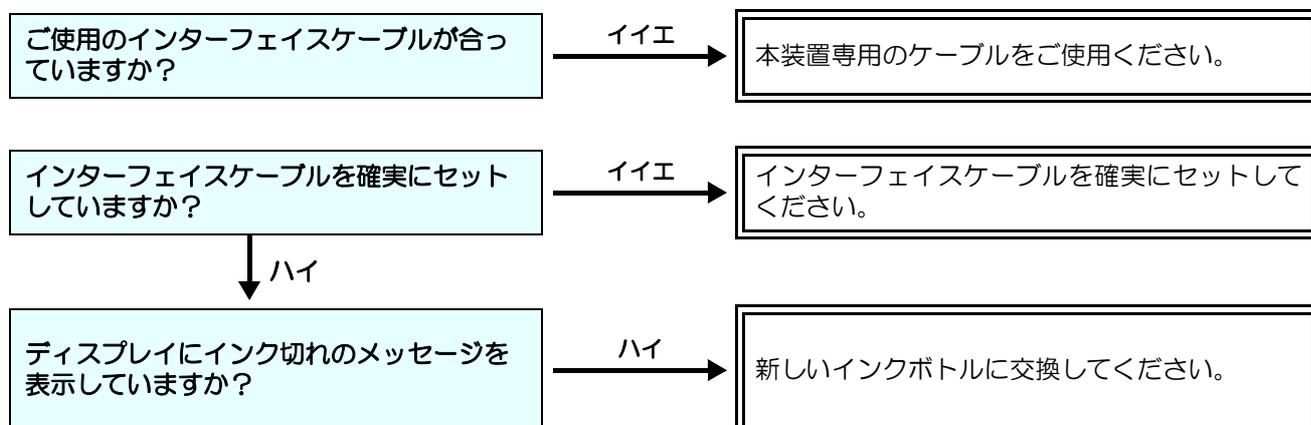
電源が入らない

電源が入らない場合の原因の多くは、電源やコンピュータのケーブル接続ミスによるものです。接続が適正かもう一度確認してください。



プリントできない

プリントができない場合は、データが適正に本装置に送られていない場合があります。また、プリント機能に不良がある場合や、メディアのセット方法に問題がある場合などが考えられます。



メディアに問題が発生したときは

メディアに問題があるときの対処方法を説明します。

現象	原因	対処方法
布が斜行する 布にシワが発生する 布が汚れる	使用するインクにあった前処理済みの布を使用していない	インクに合った前処理済みの布を使用する。
	布にシワが入っていたり、左右端が折れ曲がっている	シワが入っている布や、左右端が折れ曲がっている布は使用しない。
	水分で伸縮しやすい布を使用している	濡れによる伸縮の激しい布やストレッチ素材の布は使用しない。 (伸縮しにくい前処理済みの布をお使いください)
	ストレッチ素材の布を使用している	
	ロールメディア幅端面の巻ズレが大きい	巻ズレの大きなロールメディアは使用しない。
	使用するメディアに合ったメディア経路になっていない	メディアに合った経路にセットし直す。 P.2-12
	繰出しメディアの回転する重さが使用するメディアに合っていない	[CLUTCH TUNING] ダイヤルを調整する。

画質不良が発生したときは

ここでは、プリント品質に問題があるときの対処方法を説明します。症状に従って対処してください。対処しても改善しない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

現象	対処方法
白スジ/カスレ/色の濃いスジが発生する(ヘッド移動方向)	<ol style="list-style-type: none"> ヘッドクリーニングを行ってください。P.2-33 ステーション内部のメンテナンスをしてください。P.4-6 「フィード補正」機能を実行してください。P.2-34 メディア押さえの上などヘッドが通過する部分に、紙片などのゴミが付着している場合は、ゴミを取り除いてください。
文字が用紙送り方向に2重、3重に印刷	<ol style="list-style-type: none"> 「フィード補正」機能を実行してください。P.2-34
往復印字でズレが発生する	<ol style="list-style-type: none"> 「ドット位置補正」機能を実行してください。P.2-36
プリント中にインク滴が落ちる	<ol style="list-style-type: none"> ワイパーを清掃してください。P.4-6 インクキャップのクリーニングをしてください。P.4-6 ヘッドの周辺を清掃してください。P.4-15 ヘッドクリーニングの[ノーマル]を実行してください。P.2-33 ティキワイピングの動作間隔を、短く設定してください。P.3-9

ノズル詰まりを解消したいとき

P.2-33 の操作でヘッドのクリーニングをしてもノズル詰まりが解消しない場合は、次の2つの項目を確認してください。

- P.4-17 の操作をして、ヘッドノズルの洗浄をしてください。
- P.4-19 の操作をして、ノズルリカバリをしてください。

インクボトルに異常が発生したら

インクボトルに異常が発生したら、インクボトルランプが「赤」点灯し、ワーニングメッセージを表示します。プリント、クリーニング等、インク吐出に関する動作は全てできなくなります。

異常が発生したときは、次のようにしてください。

- ・ インクカバーにセットしている IC チップが正しくセットされているか確認してください。
- ・ 速やかに新しいインクボトルに交換してください。

重要! ・ インクボトル異常を表示したまま長時間放置しないでください。ノズル詰まりの防止機能が動作しなくなります。
ノズルが詰まった場合、サービスマンによる修理が必要になります。

インクボトル異常の詳細を表示する

次の操作をして、インクボトル異常の内容を確認できます。

1 ローカルモードで、**ENTER** キーを押す

Sb300	12345678
サンリョウ	34567899

2 **ENTER** キーを押す

インク IC ナン
12345678

- ・ 複数のインクボトル異常が発生している場合、**ENTER** キーまたは、**◀▶** を押すと、順番に表示します。

サブタンク関連のエラー (エラー 618 ~ 61b) が発生したら

エラー 618 ~ 61b は、サブタンクに関するエラーです。
サブタンク関連のエラーが発生した場合、またはクリーニングでノズル詰まりが解消しない場合に、実行してください。

1 メンテナンスメニューの [サブタンク] を選ぶ

- (1) ローカルで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して [サブタンク] を選ぶ

2 **ENTER** キーを押す

```
サブタンク センタク
:12345678
```

3 **▲** **▼** **◀** **▶** を押して、メンテナンスするサブタンクを選ぶ

```
サブタンク センタク
:1234_ _78
```

- **◀** **▶** : サブタンクを選択
- **▲** **▼** : メンテナンスする / しないを選択
- エラー 61b が発生した場合には、該当するサブタンクが選択されていますので、そのまま **ENTER** キーを押してください。

4 **ENTER** キーを押す

```
サブタンク
シッコウ [ENT]
```

5 **ENTER** キーを押す

- 自動で排出、充填動作を行います。
- その後、クリーニングを行います。

```
** シュウテン **
シハラク オマチクタサイ
```

```
** クリーニング **
シハラク オマチクタサイ
```

6 終了するとき、**END** キーを数回押す

インクの混色や空気混入によるノズル抜けが発生したら

ヘッド内でインクが混色してしまった場合や空気の混入によるノズル抜けが発生した場合は、ヘッド内のインクや混入してしまった空気をポートから押し出してください。

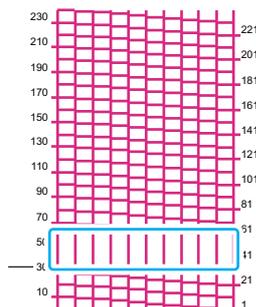


- 空気抜き作業中のまま長時間放置すると、キャップ部からインクが漏れる場合がありますのでご注意ください。
本機は、空気抜き作業が 20 分以上経過すると、インクあふれ防止のため空気抜き作業を強制終了します。

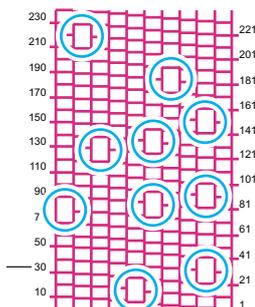


- ヘッド内に空気が混入すると、テスト作図をしたときに下図のような状態になります。このときは、以下の作業を行ってください。

数ノズルまとまって抜けている



抜けが点在していて、クリーニングをしても改善しない



- 以下の作業をしている間に、キャップ部からインクが漏れることがあります。
ウエスなどを使って、バルブ部のインク汚れ防止をしてください。

1

メンテナンスメニューの [クウキヌキ] を選ぶ

- (1) ローカルで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して [クウキヌキ] を選ぶ

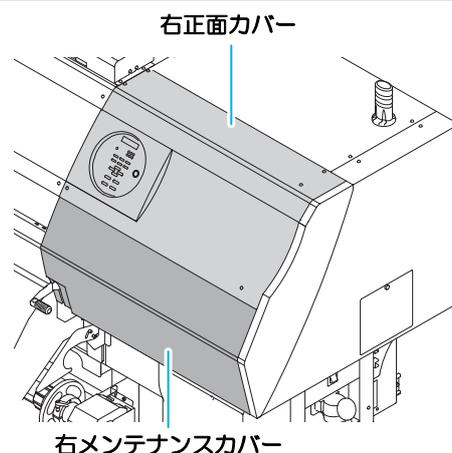
2

ENTER キーを押す

クウキヌキ シュンビ
カンリョウ [ENT]

3

右正面カバーと右メンテナンスカバーを外し、ヘッドカバーを外す



4

ENTER キーを押す

クウキヌキ
カイシ [ENT]

5 Yポートのバルブからインクを排出する

- Yポートのバルブにシリンジを差し込み、10cc程度のインクをゆっくりと吸い出します。

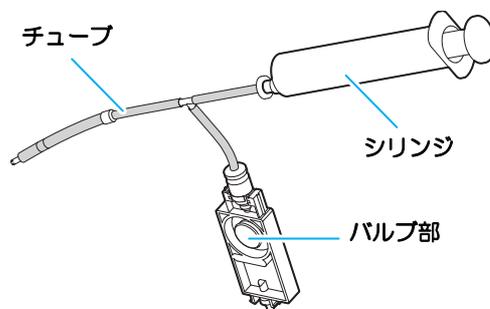
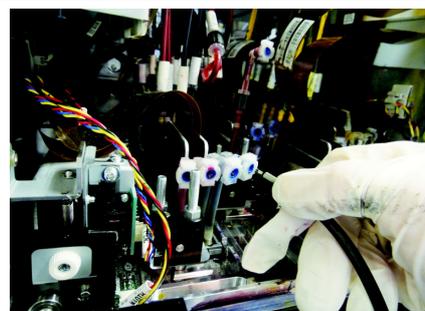
- 重要!**
- 作業をするときは、インクが飛び散らないようご注意ください。
 - 基板が近くにありますが、ウエスなどで養生してください。



6 インクポートのバルブへ、加圧ダンパ付きシリンジをセットする

- インクポートのバルブに加圧ダンパ付きシリンジを差し込み、5cc程度のインクをゆっくりと(1ccあたり3秒くらいの速さで)吸い出します。

- 重要!**
- 加圧ダンパ付きシリンジのバルブ部分は押さないでください。インクの吸引ができなくなります。
 - シリンジ内にたまったインクを廃棄するときは、シリンジ部分をチューブから取り外してから廃棄してください。シリンジ部分を取り外すと、チューブ内に残ったインクが流れ落ちます。周囲を汚さないようにウエス等で養生してから作業することをお勧めします。



7 混色したインクや混入した空気を排出させる

- 排出したインクや空気はエア抜き治具のボトルの中に溜まります。
- 混色したインクや混入した空気が完全に無くなるまで排出させてください。完全に排出されると、混色していないインクが排出されます。

8 空気抜きを行う全てのポートに対して、手順5~7の作業を行う

9 全ての作業が終わったら、**ENTER** キーを押す

クウキヌキ
シュウリョウ [ENT]

10 **ENTER** キーを押して空気抜きを終了する

- ポートを閉じます。
- 空気抜きをし忘れたポートがある場合、**▶**を押すと手順4に戻ります。

クウキヌキ
シュウリョウ < > リトライ

11 **◀** キーを押す

- クリーニングを行います。

** クリーニング **
シ`ラク オマチクタ`サイ

12 終了するとき、**END** キーを数回押す

圧力異常が発生したら

使用環境や経年変化により、本機で管理している圧力が制御範囲を超えてしまう場合があります。圧力異常に関するエラーが発生した場合、以下を実施してください。

重要! ・ 圧力異常が発生したら、速やかに次の手順で圧力を調整し、正常な値に戻してください。

1 メンテナンスメニューの[アツリョク チョウセイ]を選ぶ

- (1) **FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して [アツリョク チョウセイ] を選ぶ

2 **▲** **▼** を押して、セイアツ/フアツを選ぶ

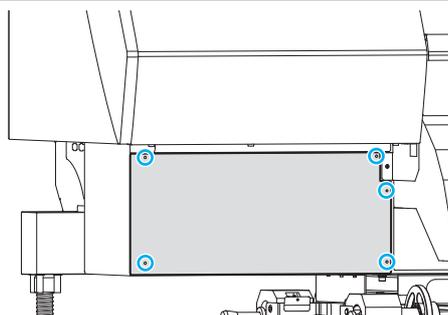
アツリョク チョウセイ
: フアツ

3 **ENTER** キーを押す

スロットル ハルブ* ヲ カイホウ
シュウリョウ [ENT]

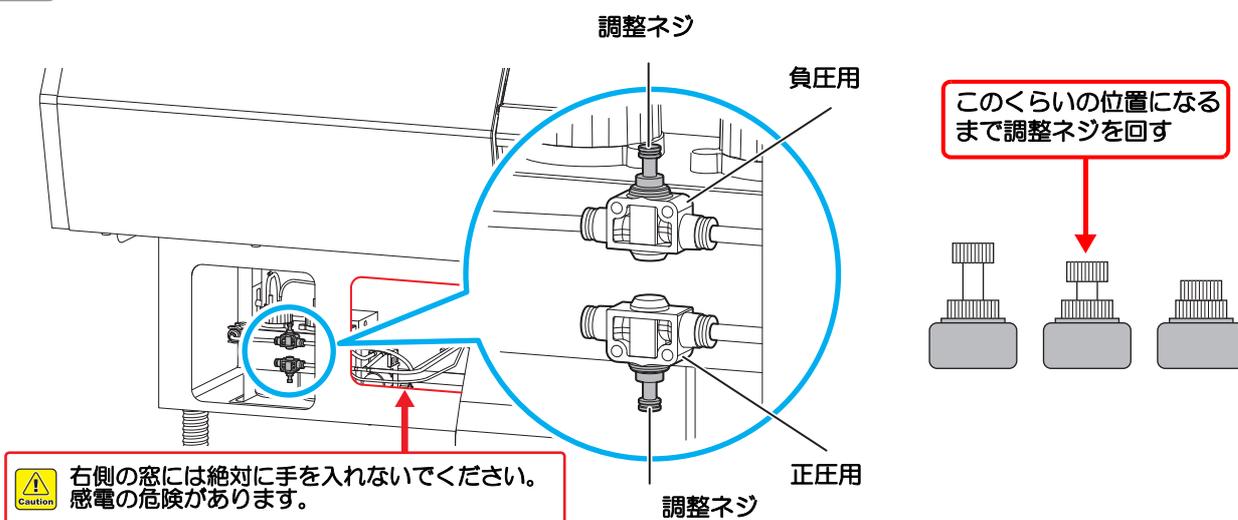
4 左メンテナンスカバー下のカバーを取り外す

- ・ 図の丸部分のネジ (5箇所) を外して、カバーを取り外します。



5 スロットルバルブの調整ネジを回し、空気が流れるように開放する

- ・ スロットルバルブの調整ネジが中間地点に来るまで回してください。



6

ENTER キーを押す

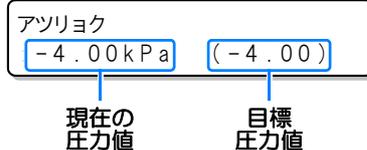
- ・センサの調整が始まります。

** チョウセイ **
シハ`ラクオマチクタ`サイ

7

スロットバルブ調整ネジを回して、圧力が適正値になるように調整する

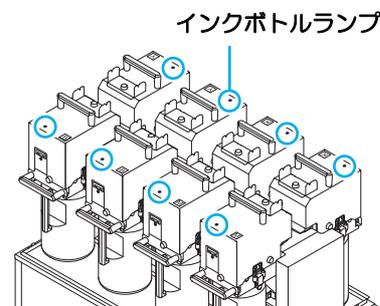
- ・負圧の適正值：-4.00kPa
- ・正圧の適正值：15.00kPa
- ・負圧では±0.1 kPa の範囲で変動するため、中間値が目標の圧力になるように調整してください。



- ・圧力はディスプレイ表示以外にも、ブザーとインクボトルランプでお知らせします。
- ・負圧では±0.1kPa の範囲でブザーが停止します。正圧では±1.0kPa の範囲でブザーが停止します。

・各圧力値でのランプとブザーの状態

	圧力		インクボトルランプ	ブザー
	正圧	負圧		
高い	~ 8.49	~ -3.35	○○○○●	鳴動
	8.50 ~ 9.49	-3.36 ~ -3.45	○○○○●	
	9.50 ~ 10.49	-3.46 ~ -3.55	○○○○●	
	10.50 ~ 11.49	-3.56 ~ -3.65	○○○○●	
	11.50 ~ 12.49	-3.66 ~ -3.75	○○○○●	
	12.50 ~ 13.49	-3.76 ~ -3.85	○○○○●	
	13.50 ~ 13.49	-3.86 ~ -3.95	○●●●●	停止
適正值	14.50 ~ 15.49	-3.96 ~ -4.05	Y Y K K ● ● ● ● B B M M	停止
低い	15.50 ~ 16.49	-4.06 ~ -4.15	●●●●●	停止
	16.50 ~ 17.49	-4.16 ~ -4.25	●●●●●	鳴動
	17.50 ~ 18.49	-4.26 ~ -4.35	●●●●●	
	18.50 ~ 19.49	-4.36 ~ -4.45	●●●●●	
	19.50 ~ 20.49	-4.46 ~ -4.55	●●●●●	
	20.50 ~ 21.49	-4.56 ~ -4.65	●●●●●	
	21.50 ~ 22.49	-4.66 ~ -4.75	●●●●●	
	22.50 ~ 23.49	-4.76 ~ -4.85	●●●●●	
	23.50 ~	-4.86 ~	●●●●●	



8

ENTER キーを押す

- ・エラーが解除され、負圧制御が始まります。

シハ`ラクオマチクタ`サイ

重要!

- ・圧力調整を実施してもエラーが発生する場合、弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。

ヘッド故障エラーを表示したら

本機の電源を入れたとき、ディスプレイに次のようなヘッド故障エラーが表示したときの対処方法を説明します。

対象となるヘッド故障エラー

ここに掲載していないヘッド故障エラーが表示した場合は、一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。再度、表示するときは弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。

エラー番号	原因	エラー番号	原因
ERROR 108 (HD CONNECT)	ヘッドの接続が確認できなかった。	ERROR 1ab (HD THERMIS)	ヘッドの温度が読み取れなかった
ERROR 12e (HEAD Failed/ HDD)	ヘッド、波形ドライバの異常が発生した。	ERROR 1ad (HD TYPE)	ヘッドタイプが異なる
ERROR 1ac (HD MEM EMP)	ヘッドメモリにデータがない		

重要!

ヘッド故障エラー発生中には、使用可能なヘッドのみを使用して、引き続き機能を継続できます。

- **ヘッドの一部が故障している場合**
 - ⇒ 故障していないヘッドを使用して、引き続きプリントできます。
 - ⇒ メディア補正 (☞ P.2-34)・ドット位置補正 (☞ P.2-36)・テストプリント (☞ P.2-31) は、故障ヘッドを使用しないでテストパターンのプリントを行います。
 - ⇒ 故障したヘッドでのフラッシング動作は行いません。
- **全てのヘッドが故障している場合**
 - ⇒ クリーニング等のメンテナンスのみ行うことができます。
 - ⇒ 故障したヘッドでのフラッシング動作は行いません。
 - ⇒ オートメンテナンス機能 (☞ P.4-23) の“リフレッシュ”は使用できなくなります。(クリーニングは行います。)

エラーが発生したときの対処方法

1 ディスプレイにエラー番号が表示される

ERROR 108
HD CONNECT [123456]



ERROR 108
[ENT]ヲ オシテクタ`サイ

2 **ENTER** キーを押す

ト`ウサ セイケン
ヘット` センタク [ENT]

重要! ・全てのヘッドが使用できない場合は、右の画面を表示します。
この場合、メンテナンス動作のみ可能となります。

ト`ウサ セイケン
フ`リント フカ [ENT]

3 **ENTER** キーを押す

・ヘッドラインの選択画面が表示されます。

ヘット` センタク
:HEADline1&2

4 **▲** **▼** を押して、使用するヘッドラインを選択する

・エラーのあるヘッドは選択できません。
(ヘッドライン2が故障している場合、“HEADline1&3”は選択できません)

ヘット` センタク
:HEADline1&2

5 メディア選択画面を表示し、使用可能な状態となる

重要! ・プリント中は、故障ヘッドを含むヘッドラインは“X”で表示されます。

メディア センタク
ロール < > リーフ

1200x1200 R/MP /12X
16/B/V/x2/W1 10.00m

メッセージを表示するトラブル

何らかの異常が発生すると、ブザーが鳴りディスプレイにメッセージを表示します。メッセージの内容によって対処してください。

ワーニングメッセージ

操作を実行したときに表示されるエラー

表示	原因	対処方法
シ`ッコウ テ`キマセン :カハ`ーオーフ`ン	フロントカバーまたはメンテナンスカバーが開いている。	• フロントカバー、メンテナンスカバーを確認してください。 カバーを閉めても、再度表示する場合は弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
シ`ッコウ テ`キマセン :メテ`ィア ミケンシュツ	メディア未検出。	• メディア検出を行ってください。
シ`ッコウ テ`キマセン :MOTOR POWER OFF	カバーオープン後など、モーターが OFF している。	• フロントカバーやメンテナンスカバー(左右)を閉めてください。
シ`ッコウ テ`キマセン :インク エラーアリ	インクエラーが発生している。	• 表示しているカラーに対応する供給経路のインクボトルを確認してください。
シ`ッコウ テ`キマセン :フ`プリントテ`ータ アリ	データを受信している。	• データクリアを実行してください。 (☎ P.2-39)

ローカルで表示されるメッセージ

表示	原因	対処方法
<ローカル> フ`プリントフカ/インクボ`トル[ENT]	複数のインクエラー(使用不可インク)が発生している。 インクの供給(プリントやクリーニングなど)が行えない。	• ENTER キーを押して、該当インクボトルとエラー内容を確認し、使用可能インクボトルと交換してください。
<ローカル> ハイインクタンク フル	廃インクタンクがフル状態。	• 廃インクタンクを確認してください。
<ローカル> ハイインクタンク フル マチ`カ	廃インクタンクがフル間近。	
<ローカル> ハイインクタンク ナシ	廃インクタンクがセットされていない。	• 廃インクタンクをセットしてください。
<ローカル> ワイパ`ー コウカン [MNT]	キャッピングステーションのワイパー交換時期 (ワイピング回数が規定値に達した。)	• MAINT. キーを押して、ワイパーを交換してください。(☎ P.4-26)
<ローカル> *メテ`ィアカ` アリマセン*	メディアがセットされていない。 センサーの故障。	• メディアをセットしてください。(☎ P.2-11) 再度表示される場合は、弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。
<ローカル> フ`プリントテ`ータ アリ	データ受信済み。	• REMOTE キーを押してプリントを実施してください。 またはデータクリアを実行してください。

表示	原因	対処方法
〈ローカル〉 フアツ イシ`ヨウ	負圧センサーの値が異常になっている。	<ul style="list-style-type: none"> メンテナンスの「アツリヨクチョウセイ (P.5-8)」を実施してください。正常な値に調整できない、または実施しても表示する場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターへ問い合わせください。
〈ローカル〉 セイヤツ イシ`ヨウ	正圧センサーの値が異常になっている。	
〈ローカル〉 フアツ チョウセイ	圧力調整が必要になっている。	
〈ローカル〉 インク ニアエント` [ENT]	インクボトルのインクが少なくなった。	<ul style="list-style-type: none"> ENTER キーを押し、該当するインクボトルを確認してください。間もなくインクエンドとなるので、注意してください。
〈ローカル〉 インク ケケンキ`レ [ENT]	インクボトルの使用有効期限が切れている。	<ul style="list-style-type: none"> 消費期限を過ぎました。ただし、翌月末まで使用することができます。
〈ローカル〉 ケケンキ`レ(1M) [ENT]	インクボトルの使用有効期限が切れている(期限切れから1ヶ月経過)。	<ul style="list-style-type: none"> 消費期限より1か月以上過ぎています。ただし、当月末まで使用することができます。(インクボトルランプが赤点減します)
〈ローカル〉 ケケンキ`レ(2M) [ENT]	インクボトルの使用有効期限が切れている(期限切れから2ヶ月経過)。	<ul style="list-style-type: none"> 消費期限より2か月以上過ぎています。ワーニングが発生しているカートリッジを交換してください。
〈ローカル〉 インク キョウキュウ : 12345678	サブタンクへのインク補充に失敗した。	<ul style="list-style-type: none"> メンテナンスの「サブタンク (P.5-5)」を実施してください。またインクボトル内のインク残量も確認してください。実施しても表示する場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターへ問い合わせください。
〈ローカル〉 サブ`タンク センサー: 12345678	サブタンクの液面センサの異常を検出した。	<ul style="list-style-type: none"> 1度電源を OFF にしてしばらくたってから再度電源を ON にしてください。再度表示する場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターへ問い合わせください。
〈ローカル〉 インクオーバ`ーフロー: 12345678	サブタンクからのオーバーフローを検出した。	<ul style="list-style-type: none"> メンテナンスの「サブタンク (P.5-5)」を実施してください。実施しても表示する場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターへ問い合わせください。
〈ローカル〉 タンクサ`ンリョウH : 12345678	一定量の消費があったにも関わらず、サブタンクセンサー High に変化がない。	
〈ローカル〉 タンクサ`ンリョウL : 12345678	一定量の消費があったにも関わらず、サブタンクセンサー Low に変化がない。	
〈ローカル〉 タ`ツキモジ`ュール コウカン	インク経路内の脱気モジュールが交換間近になった。(使用開始より1年が経過)	<ul style="list-style-type: none"> 脱気モジュールを交換する必要があります。販売店または弊社営業所、コールセンターへ問い合わせください。
〈ローカル〉 ソウチオント` / タカイ*** °C	装置の温度が高い。	<ul style="list-style-type: none"> 使用環境の温度を調整してください。(20 °C ~ 30 °C (68 °F ~ 86 °F))
〈ローカル〉 ソウチオント` / ヒクイ*** °C	装置の温度が低い。	
〈ローカル〉 Yモーター セイソウ [MNT]	Yモーターの清掃時期になった。	<ul style="list-style-type: none"> 電源を OFF にし、Yモーターの吸い出し窓から摩耗粉を吸い取ってください。(P.4-25) 清掃後、MAINT. キーを押しください。
〈ローカル〉 Yモーター フ`ラシ コウカン	Yモーターのブラシ交換時期になった。	<ul style="list-style-type: none"> Yモーターのブラシ交換時期になりました。販売店または弊社営業所、コールセンターへ問い合わせください。

表示	原因	対処方法
ミスト フィルター ラ コウカン シテクタ`サイ [ENT]	ミストフィルターの交換時期になった。	• 別冊の「日常のお手入れのお願い」を参照して、ミストフィルターの交換をしてください。

インクエラー

インクエラーは、ローカルガイダンスでも表示されます。(P.3-43)

表示	原因	対処方法
インク IC ナシ :---- 5678	インクボトルの IC チップが正常に読み込めない。	• ワーニングが発生している IC チップを再挿入してください。 ワーニングが解消しない場合は弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
インク IC イシ`ヨウ :---- 5678		
インク シュルイ :---- 5678	インクボトルのインク種類が、充填してあるインクと異なる。	• ワーニングが発生しているインクボトルのインク種類を確認してください。 • IC チップの確認をしてください。
インク カラー :---- 5678	インクボトルのインクカラーが充填してあるインクと異なる。	• ワーニングが発生しているインクボトルのインクカラーを確認してください。 • IC チップの確認をしてください。
インクボ`トル イシ`ヨウ :---- 5678	インクボトルの IC チップ情報に異常が生じた。	• ワーニングが発生しているインクボトルを交換してください。
インクボ`トル ナシ :---- 5678	インクボトルが外部インク供給ユニットにセットされていない。	• ワーニングが発生しているボトルホルダーにインクボトルをセットしてください。
インクボ`トル エント` :---- 5678	インクボトルのインクがなくなった。	• ワーニングが発生しているインクボトルを交換してください。
インクボ`トル ニア エント` :---- 5678	インクボトルのインクが少なくなった。	• ワーニングが発生しているインクボトルを交換してください。
インクボ`トル カクニ :---- 5678	十分なインク量があるのに、インクエンドが検出された。	• インクボトルのセット状態を確認してください。
インク キケ`ンキ`レ :---- 5678	インクボトルの使用有効期限が切れている。	• 消費期限を過ぎました。 ただし、翌月末まで使用することができます。
インク キケ`ンキ`レ(1カケ`ツ) :---- 5678	インクボトルの使用有効期限が切れている(期限切れから1ヶ月経過)。	• 消費期限より1か月以上過ぎています。 ただし、当月末まで使用することができます。(インクボトルランプが赤点減します)
インク キケ`ンキ`レ(2カケ`ツ) :---- 5678	インクボトルの使用有効期限が切れている(期限切れから2ヶ月経過)。	• 消費期限より2か月以上過ぎています。 ワーニングが発生しているカートリッジを交換してください。

エラーメッセージ

エラーメッセージを表示する場合は、下の表に従って、エラーを取り除いてください。
それでもメッセージを表示する場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

表示	原因	対処方法
ERROR 108 HD CONNECT[12345678]	ヘッドの接続が確認できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。再度、表示するときは弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
ERROR 108 HD THERMIS[12345678]	ヘッドの温度が読み取れなかった。	
ERROR 12a HDC SPEED	インク吐出波形に異常が発生した。	
ERROR 12e HeadFaild /HDC[xxxx]	ヘッド、波形ドライバの異常が発生した。	
ERROR 122 CHECK:SDRAM	PRAM がない。	
ERROR 128 HDC FIFO OVER	<ul style="list-style-type: none"> データ転送が速すぎる 制御基板に異常が発生した 	
ERROR 128 HDC FIFO UNDER	<ul style="list-style-type: none"> データ転送が遅すぎる 制御基板に異常が発生した 	
ERROR 129 バッテリー コウカン	内部時計の電池切れを検出した。	<ul style="list-style-type: none"> 弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
ERROR 130 HD DATA SEQ	ヘッドデータ 転送エラーが発生した。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。再度、表示するときは弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
ERROR 146 E-LOG SEQ	イベントログのシーケンシャルナンバー異常が発生した。	
ERROR 151 Main PCB V1R2	メイン基板 1.2V 電源に異常が発生した。	
ERROR 152 Main PCB V2R5	メイン基板 2.5V 電源に異常が発生した。	
ERROR 153 Main PCB V3R3	メイン基板 3.3V 電源に異常が発生した。	
ERROR 154 Main PCB V05	メイン基板 5V 電源に異常が発生した。	
ERROR 155 Main PCB V36-1	メイン基板 36-1V 電源に異常が発生した。	
ERROR 156 Main PCB V5B	メイン基板 5VB 電源に異常が発生した。	
ERROR 157 Main PCB VTT	メイン基板 VTT 電源に異常が発生した。	
ERROR 158 Main PCB V36-2	メイン基板 36-2V 電源に異常が発生した。	

表示	原因	対処方法
ERROR 16e Main PCB V3R3B	メイン基板 3.3VB 電源に異常が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。再度、表示するときは弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
ERROR 18a Main PCB V_CORE	メイン基板 VCORE 電源に異常が発生した。	
ERROR 18b Main PCB V1R5B	メイン基板 1.5V 電源に異常が発生した。	
ERROR 18c Main PCB V12	メイン基板 12V 電源に異常が発生した。	
ERROR 15f HEAD DRIVE HOT	COM ドライバが高温になっている。	
ERROR 171 NEW HEAD CONNECT	新しいヘッドの接続を認識した。	
ERROR 172 Main PCB Q6 Check	メイン基板 Q6 が故障 (ショートモード) している。	
ERROR 186 HDC OVERFLOW	印字している波形の異常を検出した。	
ERROR 186 HDC UNDERFLOW		
ERROR 187 HDC SLEW RATE		
ERROR 188 HDC MEMORY		
ERROR 18e FLS NOT COMP [12__]	フラッシング制御異常	
ERROR 18f OFFSET START [12__]	ヘッド電圧制御異常	
ERROR 18f OFFSET END [12__]		
ERROR 19d HDC V36 [xxxx]	HDC 基板電圧に異常が発生した。	
ERROR 201 COMMAND	コマンドデータ以外のデータを受信した。	<ul style="list-style-type: none"> インターフェイスケーブルを確実に接続してください。規格に適合したインターフェイスケーブルを使用してください。
ERROR 202 PARAMETER	数値範囲外のパラメーターを受信した。	
ERROR 203 Ment Command	メンテナンスコマンドの動作に失敗した。	
ERROR 304 USB INIT ERR	USB デバイスの初期化に失敗した。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。再度、表示するときは弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
ERROR 305 USB TIME OUT	USB デバイスにタイムアウトエラーが発生した。	

表示	原因	対処方法
ERROR 401 モーターアラーム X	X モーターに過大な負荷がかかった。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。 再度、表示するときは弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
ERROR 402 モーターアラーム Y	Y モーターに過大な負荷がかかった。	
ERROR 403 X オーバーカレント	X モーターの過電流エラーを検出した。	
ERROR 404 Y オーバーカレント	Y モーターの過電流エラーを検出した。	
ERROR 44d ステーション イチ イシ`ヨウ	ステーション位置に異常が発生した。	
ERROR 505 メディアシ`ヤム	メディア詰まりが発生した。	<ul style="list-style-type: none"> メディアを取り除き、再セットしてください。
ERROR 50c メディアハバ`センサー カクニン	メディア幅を正しく検出できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> メディアのセット位置を確認してください。(☞ P.2-17) メディアセンサーの清掃を行ってください。(☞ P.4-3)
ERROR 510 メディア アツサ ケンシュツ	メディアの厚みを正しく検出できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> メディアの厚みをマニュアルで入力してください。(☞ P.2-25) 再度、メディア検出を行ってください。
ERROR 509 HDC POSCNT	HDC ポジションカウンターエラーが発生した。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。 再度、表示するときは弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
ERROR 50a Y ケンテン ケンシュツ	Y 原点検出ができなかった。	
ERROR 50f L-SCALE BLACK	リニアスケール異常が発生した。	
ERROR 516 メディアイチ ヒタ`リ スキ`マス	メディアが範囲外にセットされている。	<ul style="list-style-type: none"> メディアのセット位置を確認してください。(☞ P.2-11)
ERROR 519 ファツ センサー イシ`ヨウ	負圧センサーの値が異常になっている	<ul style="list-style-type: none"> メンテナンスの「アツリョクチョウセイ (☞ P.5-8)」を実施してください。実施しても表示する場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターへ問い合わせください。
ERROR 51a セイヤツ センサー イシ`ヨウ	正圧センサーの値が異常になっている	
ERROR 53c Print Pos HDC	リニアスケール座標に異常が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。 再度、表示するときは弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
ERROR 617 サブ`タンク センサー: 12345678	サブタンクの液面センサ異常を検出した。	<ul style="list-style-type: none"> メンテナンスの「サブタンク (☞ P.5-5)」を実施してください。 実施しても表示する場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターへ問い合わせください。
ERROR 618 タンクサ`ンリョウH : 12345678	一定量の消費があったにもかかわらず、サブタンクセンサー High に変化がない。	
ERROR 619 タンクサ`ンリョウL : 12345678	一定量の消費があったにもかかわらず、サブタンクセンサー Low に変化がない。	
ERROR 61a インクオーバ`ーフロー: 12345678	サブタンクからのオーバーフローを検出した。	

表示	原因	対処方法
ERROR 61b インク キョウキュウ : 12345678	サブタンクへのインク供給ができなかった。	<ul style="list-style-type: none"> メンテナンスの「サブタンク (P.5-5)」を実施してください。またインクボトル内のインク残量も確認してください。実施しても表示する場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターへ問い合わせてください。
ERROR 61c ファツ セイクョ	負圧制御開始異常	<ul style="list-style-type: none"> メンテナンスの「アツリョクチョウセイ (P.5-8)」を実施してください。実施しても表示する場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターへ問い合わせてください。
ERROR 61d ファツ イシフソク	負圧を維持できなかった	
ERROR 61e ファツ イシオーハー		
ERROR 61f セイアツ セイクョ	正圧制御開始異常	
ERROR 620 セイアツ イシフソク	正圧を維持できなかった	
ERROR 621 セイアツ イシオーハー		
ERROR 627 インクボトル セット	一定時間以上インクボトルが挿入されていないスロットがある。	<ul style="list-style-type: none"> インクボトルをセットしてください。
ERROR 637 インクモレ 1--	インク供給経路内のインク漏れを検出した。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。再度、表示するときは弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
ERROR 649 ファツ チョウセイ	圧力調整が必要になっている。	<ul style="list-style-type: none"> メンテナンスの「アツリョクチョウセイ (P.5-8)」を実施してください。実施しても表示する場合は、販売店または弊社営業所、コールセンターへ問い合わせてください。
ERROR 702 サーミスタ イシヨウ	サーミスタ異常が発生している。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。再度、表示するときは弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
ERROR 707 !HD ヒータ タンセン	ヘッドのヒーターが断線している。	
ERROR 901 シッコウ テキマセン	実行できない操作を実行しようとした。	
ERROR 902 ミサクス データ アリ	プリントデータが残っている。	<ul style="list-style-type: none"> データクリアを実行してください。(P.2-39)
ERROR 90d ヘッド センタク ナシ	搭載ヘッド数が0となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。再度、表示するときは弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
ERROR 910 シツオン ヒクイ	環境温度が使用可能温度範囲外 (低い) になっている。	<ul style="list-style-type: none"> 設置環境の温度を調整してください。
ERROR 911 シツオン タカイ	環境温度が使用可能温度範囲外 (高い) になっている。	

SYSTEM HALT

表示	対処方法
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">SYSTEM HALT (*). 000: メッセージ</div>	<ul style="list-style-type: none">一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。番号を確認のうえ、弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。(“000” はエラー No.)

X ユニットエラー

表示	原因	対処方法
EMERGENCY ボタン押下	EMERGENCY ボタンが押された。または、電装 BOX のカバーが開いた。	• EMERGENCY ボタンを解除、または、電装 BOX のカバーを閉めてください。
PLC バッテリー寿命	PLC の電池切れを検出した。	• 弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。
エマージェンシーエラー	プリンタ部に異常が発生した。	• プリンタ部のエラーメッセージを確認してください。
メディアエンドエラー	メディアエンド機能が有効になっているが、メディア検出ができなかった。	• メディアエンドセンサが正しい位置にセットされているか確認してください。
洗浄ユニット メディア巻込み	洗浄ユニットにメディアが接近していることを検出した。	• 引き剥がしセンサのクリーニングを行ってください。
加圧ローラ位置異常	加圧ローラの位置の異常を検出した。	• 加圧ローラのストッパーピンが挿入されていないか確認してください。 加圧ローラの下に異物が挟まっていないか確認してください。
エア圧力低下	空気圧が 6 バール未満で、十分ではありません。	• エアが供給されているか確認してください。
メディアヒータ アラーム	メディアヒータが接続されていない。	<ul style="list-style-type: none"> 一度、すべての電源を OFF にしてしばらくたってから電源を ON にしてください。 再度、表示するときは弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。
コミュニケーションエラー	メディア搬送部とプリンタ部の通信に異常が発生した。	
巻取りモーターインバータフォルト	巻取りモーターインバータに異常が発生した。	
加圧ローラモーターインバータフォルト	加圧ローラモーターインバータに異常が発生した。	
洗浄ブラシモーターインバータフォルト	洗浄ブラシモーターインバータに異常が発生した。	
ベルトモーターインバータフォルト	ベルトモーターインバータに異常が発生した。	
エアブレードブロウフォルト	エアブレードブロウに異常が発生した。	
ベルトヒータフォルト	ベルトヒータに異常が発生した。	
センタリングモーターフォルト	センタリングモーターに異常が発生した。	
巻取りモーターファンフォルト	巻取りモーターに異常が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> 巻取りモーターに負荷がかかっていないか確認してください。 一度、すべての電源を OFF にしてしばらくたってから電源を ON にしてください。 再度、表示するときは弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。
洗浄ブラシモーターフォルト	洗浄ブラシモーターに異常が発生した。	<ul style="list-style-type: none"> ベルト洗浄ユニットにメディアが巻込まれていないか確認してください。 一度、すべての電源を OFF にしてしばらくたってから電源を ON にしてください。 再度、表示するときは弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。

第6章 付録



この章では ...

本機の仕様一覧表や、機能の一覧表を記載しています。

仕様	6-2
本体仕様	6-2
インク仕様	6-3
インク種によるセットの違いについて	6-4
インクボトルのセット順	6-4
お問い合わせシート	6-5
警告ラベルについて	6-6
機能フローチャート	6-8

本体仕様

項目		仕様
プリントヘッド部	方式	オンデマンドピエゾヘッド
	仕様	6ヘッド：3スタガ2インライン配列
プリントモード (スキャンxフィード)	4色	300x300：双方向/単方向 1/2/4 pass (ノーマルモードのみ) 300x300HQ：双方向/単方向 2/4/8 pass (ノーマルモードのみ) 300x450HQ：双方向/単方向 3/6/12 pass (ノーマルモードのみ) 600x600：双方向/単方向 4/8/16 pass 600x900：双方向/単方向 6/12/24 pass 600x1200：双方向/単方向 8/16/32 pass
	6色以上	300x300：双方向/単方向 2/4/8 pass (ノーマルモードのみ) 300x300HQ：双方向/単方向 4/8/16 pass (ノーマルモードのみ) 600x450：双方向/単方向 6/12/24 pass 600x600：双方向/単方向 8/16/32 pass 600x900：双方向/単方向 12/24/48 pass 600x1200：双方向/単方向 16/32/64 pass
使用可能インク	酸性染料インク	Ac300 インク (K, C, M, Y, Lk, Bl, R, Or)
	反応染料インク	Rc300 インク (K, C, M, Y, Lk, Bl, R, Or)
	昇華染料インク	Sb300 インク、Sb320 インク (KD, Bl, M, Y, Lb, Lm)
インク供給	2L x 8 ボトル供給 (4色時は UISS 切替可能 / 6色時は Y,K のみ UISS 切替可能 / 使用済みインクボトルの残インクは、新ボトルに継足可)	
インク容量	4色	2L ボトル各色 2本
	6色	M,B,Lm,Lb,:2L ボトル各色 1本 Y,K:2L ボトル各色 2本
	8色	2L ボトル各色 1本
使用可能メディア	綿、絹、ニット、ポリエステル、ストレッチなど	
最大プリント範囲	1850mm	
ロール メディアサイズ	最大幅	1860mm
	最小幅	210mm 以下
	厚さ	5.0mm 以下
	ロール外径	Φ420mm 以下
	ロール重量 *1	60kg 以下
	紙管内径	2~3 インチ
	プリント面	内巻き / 外巻き不問
巻終わり処理	紙管にテープ止め、または弱粘着	
プリントマージン	巻取ユニットセットまでの前端：1.7m 繰出ユニット紙管外れ後端：3.2m	
距離精度	絶対精度	±0.5 mm または指定距離の ±0.3 % の大きい方
	再現性	ただし、繰出、巻取ユニットに依存する
直角度	±0.5 mm / 1000 mm	
メディアスキュー	5 mm 以下 / 10 m	
ヘッド高さ調整	1.5mm ~ 7mm 無段階ユーザー設定	
廃インクタンク	ボトル式 (3200 cc) / センサーによる検出を行う	
インターフェイス	USB 2.0	
コマンド	MRL- III	
騒音	待機時	58 dB 以下 (FAST-A, 前後左右 1m)
	動作連続音	65 dB 以下
	動作不連続音	70 dB 以下

項目		仕様
適合規格		VCCI-classA, FCC ClassA, CE マーキング (EMC 指令、低電圧指令、機械指令), RoHS 対応
電源仕様		3 相 AC380 - 420V ± 10%, 50/60Hz±1Hz, 20A 以下*2, Y 結線
消費電力*2		10kVA 以下
設置環境	使用可能温度	20 °C ~ 30 °C (68°F ~ 86°F)
	相対湿度	35 ~ 65% Rh (結露なきこと)
	精度保証温度	20 °C ~ 25 °C (68°F ~ 77°F)
	温度勾配	±10 °C / h 以下
	粉塵	0.15mg/m ³ (オフィス相当)
	最高動作高度	2000 m
重量	プリンタ本体	1840 kg 以下
	外部インク供給ユニット	30 kg
外形寸法	プリンタ本体	3895 mm(W) x 2750 mm(D) x 1640mm(H)
	外部インク供給ユニット	775 mm(W) x 490 mm(D) x 785mm(H)

*1. ただしロールの左右を保持した時、ロールがたわまないこと。

*2. メディアヒータ (オプション) は除く。

インク仕様

項目		仕様
形態		2L インクボトル
色	酸性染料インク	ブラック/シアン/マゼンタ/イエロー/ライトブラック/ブルー/レッド/オレンジ
	反応染料インク	ブラック/シアン/マゼンタ/イエロー/ライトブラック/ブルー/レッド/オレンジ
	昇華染料インク	ブラック D/ブルー/マゼンタ/イエロー/ライトブルー/ライトマゼンタ
インク容量		2 リットル
有効期限		有効期限は、インクボトルに記載されている通り。 ただし、開封後は期限内であっても 3ヶ月以内。
保存温度	保存時	1 ~ 40 °C (40 °C の場合、1ヶ月以内)
	輸送時	1 ~ 60 °C (60 °C の場合 120 時間以内、40 °C の場合 1ヶ月以内)

重要!

●インクボトルを分解しないでください。

●インクは、寒い場所で長時間放置すると凍結する場合があります。

- 万が一インクが凍結したときは、室温 (25 °C) で 3 時間以上かけて解凍してから使用してください。ただし、解凍したインクを使用すると、インクの変質によりプリント品質が劣化します。インクが凍結しない環境で保管してください。

インク種によるセットの違いについて

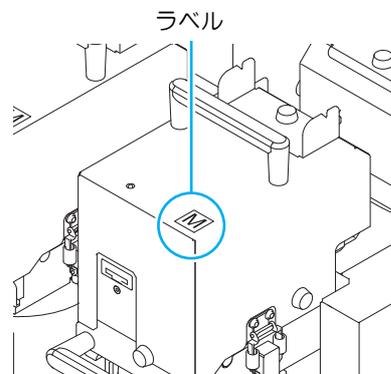
ご使用になるインク種によって、設定値やインクボトルのセット順が異なります。

インクボトルのセット順

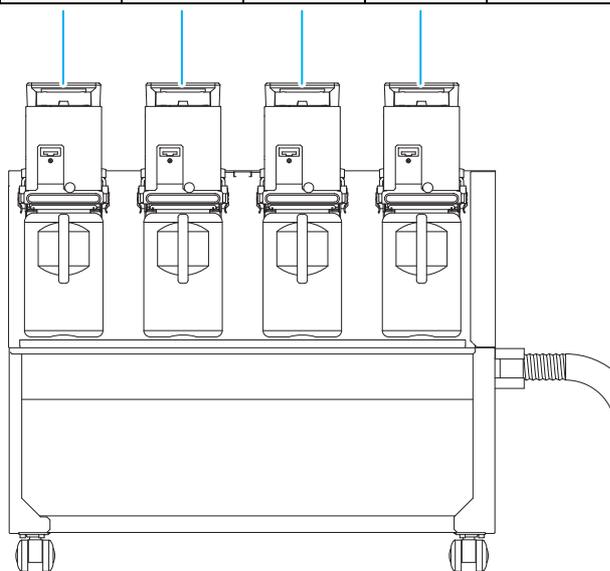
お使いになるインクセットによって、インクステーションにセットするインクボトルの順番が異なります。



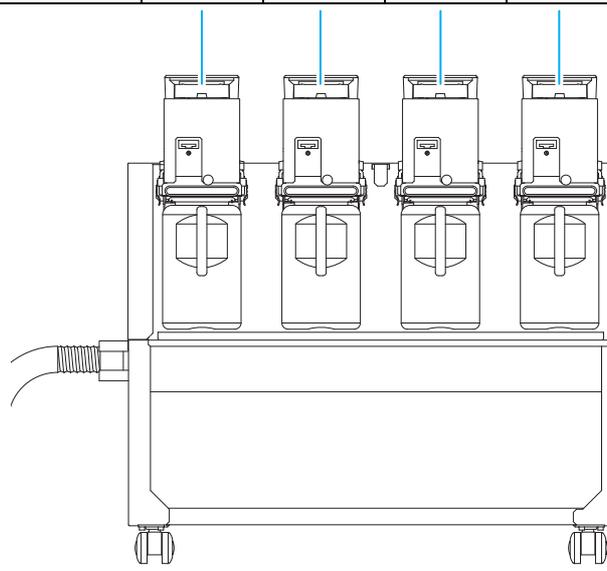
- インクカバーの天面に貼り付けてあるラベルに合わせ、インクボトルをセットしてください。
- お客様によるインク色の変更はできません。インク色を変更したいときは、弊社サービスまでご連絡ください。



②	②	①	①	4色モデル	④	④	③	③
④	③	②	①	6色モデル	⑥	⑤	⑥	⑤
④	③	②	①	8色モデル	⑧	⑦	⑥	⑤



正面側



背面側



- 4色/6色インクセット時は同色のインクボトルを必ず上記の順でセットしてください。

お問い合わせシート

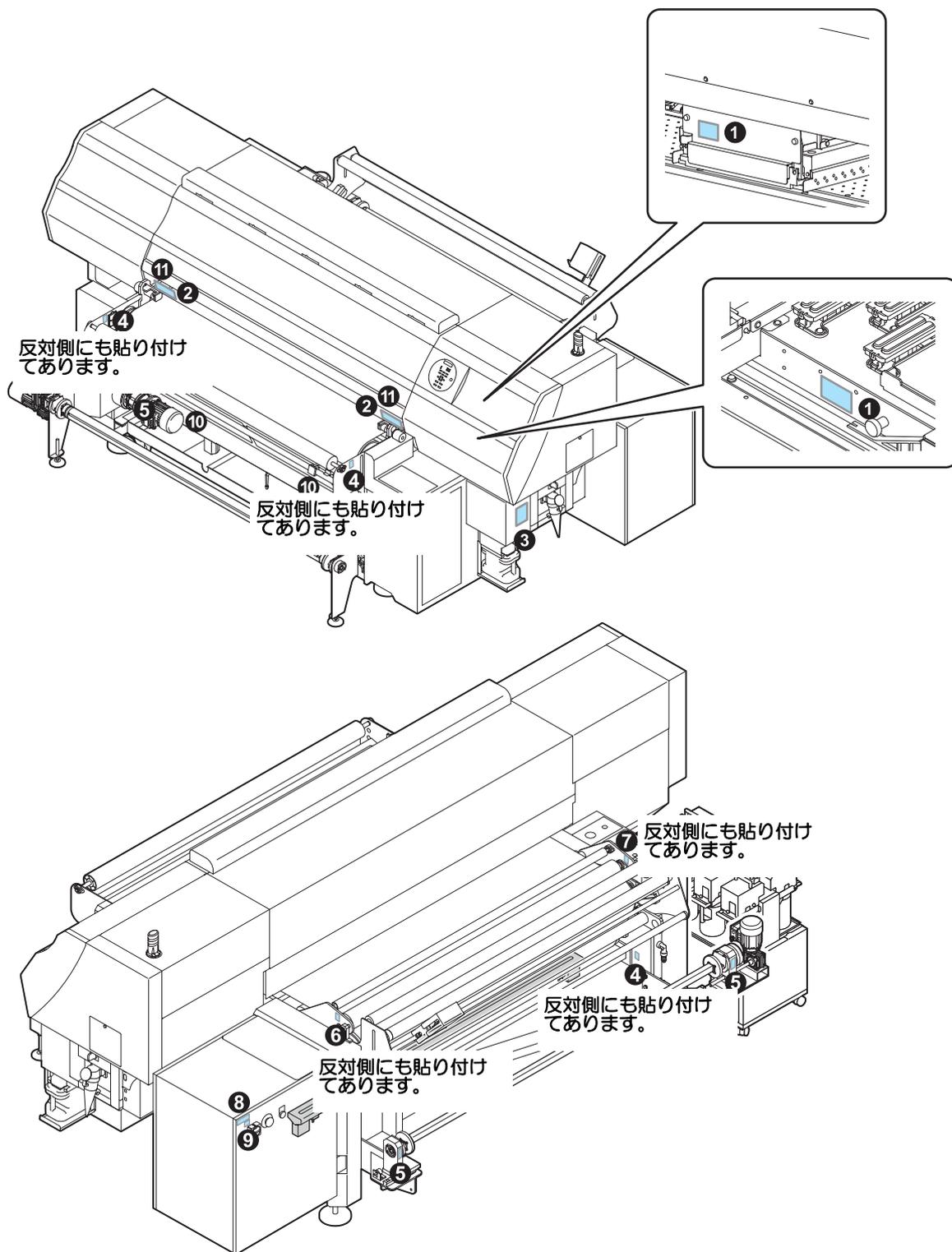
プリンタの故障、異常動作については、このシートをお使いください。
下記の必要事項をご記入の上、弊社営業所まで FAX でお送りください。

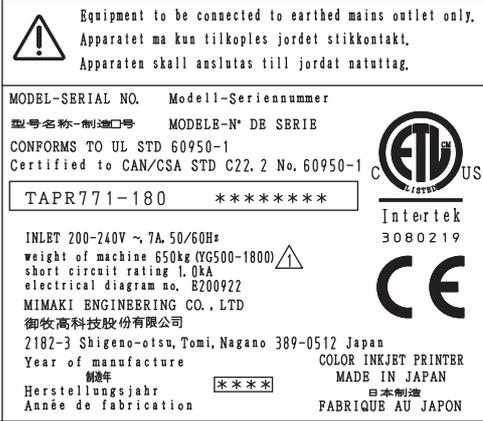
御社名	
ご担当者名	
お電話番号	
プリンタ機種名	
お使いの OS	
マシン情報*1	
エラーメッセージ	
お問い合わせ内容	

*1. 「第 3 章 便利な使い方」の、「装置情報を確認する」をご覧ください。 (P.3-40)

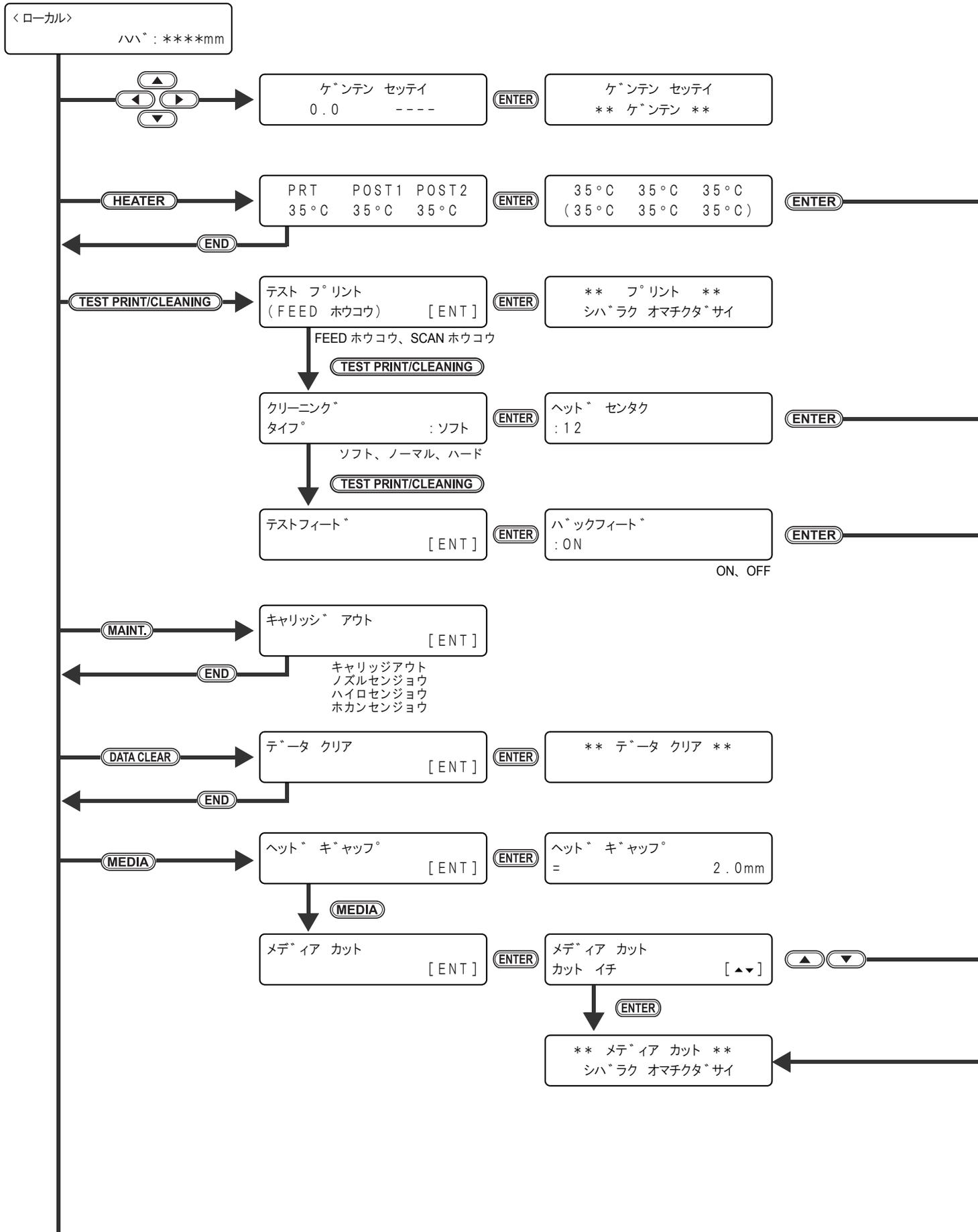
警告ラベルについて

本装置には、下記の警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。
なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり剥がれた場合は、新しい警告ラベルを販売店または弊社営業所にてお買い求めください。

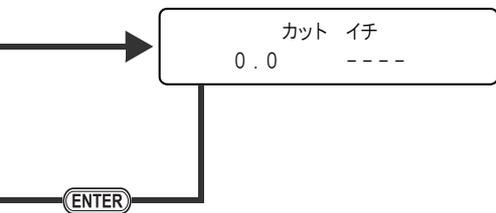


<p>1: 注文番号 .M903330</p>	<p>2: 注文番号 .M901549</p>											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>⚠ 注意</th> <th>⚠ 注意</th> <th>⚠ CAUTION</th> <th>⚠ ACHTUNG</th> <th>⚠ ATTENTION</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>滾転移動時、指物を手挿入 前面外面の内部。</td> <td>キャリッジ動作中は、フロン カーが使用中に指を入れない でください。</td> <td>-MOVING CARRIAGE- Do not put fingers inside this area</td> <td>-Beweglicher Wagen- Finger nicht in diesen Bereich bringen.</td> <td>-CHARIOT MOBILE- Ne pas mettre de doigts dans cette zone.</td> </tr> </tbody> </table>		⚠ 注意	⚠ 注意	⚠ CAUTION	⚠ ACHTUNG	⚠ ATTENTION	滾転移動時、指物を手挿入 前面外面の内部。	キャリッジ動作中は、フロン カーが使用中に指を入れない でください。	-MOVING CARRIAGE- Do not put fingers inside this area	-Beweglicher Wagen- Finger nicht in diesen Bereich bringen.	-CHARIOT MOBILE- Ne pas mettre de doigts dans cette zone.
⚠ 注意	⚠ 注意	⚠ CAUTION	⚠ ACHTUNG	⚠ ATTENTION								
滾転移動時、指物を手挿入 前面外面の内部。	キャリッジ動作中は、フロン カーが使用中に指を入れない でください。	-MOVING CARRIAGE- Do not put fingers inside this area	-Beweglicher Wagen- Finger nicht in diesen Bereich bringen.	-CHARIOT MOBILE- Ne pas mettre de doigts dans cette zone.								
<p>3: 注文番号 .M909026</p>	<p>4: 注文番号 .MTA-SJM0149</p>	<p>5: 注文番号 .MTA-SJM0151</p>										
												
<p>6: 注文番号 .MTA-SJM0132</p>	<p>7: 注文番号 .MTA-SJM0153</p>	<p>8: 注文番号 .</p>										
		 <p>9: 注文番号 .</p>										

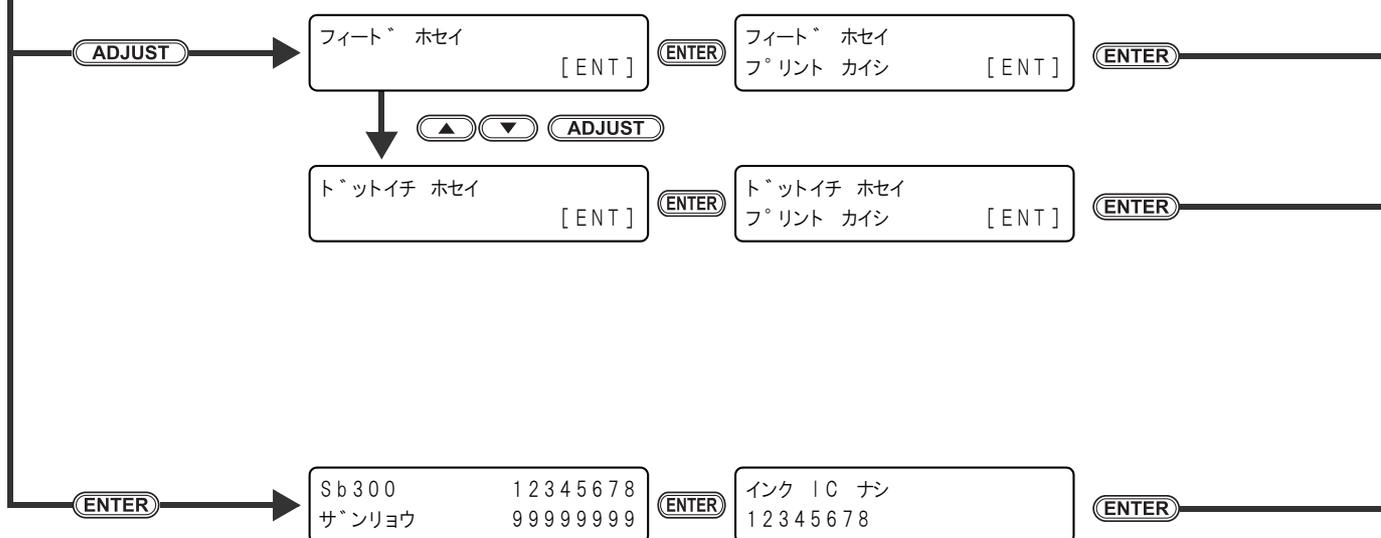
機能フローチャート

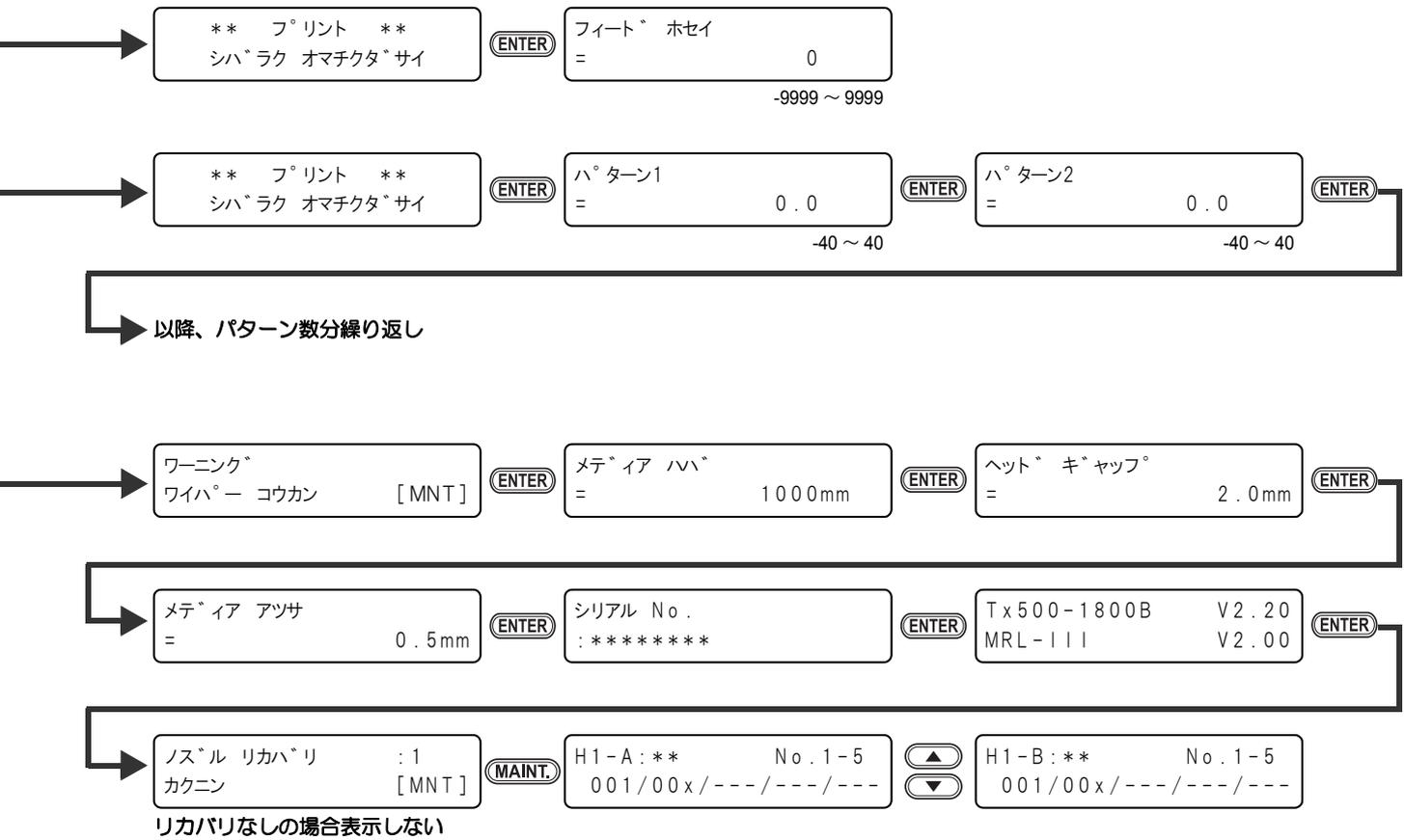


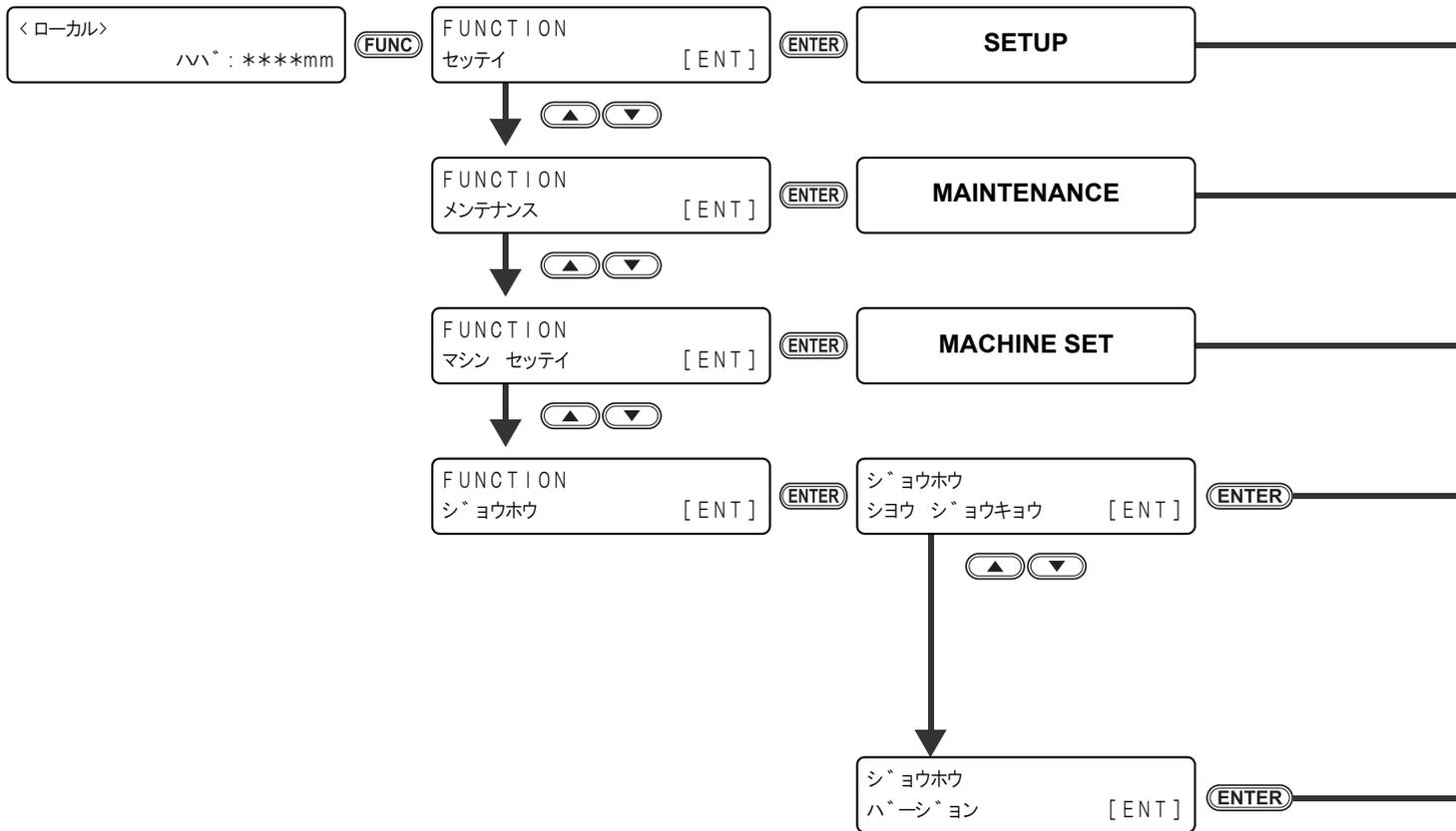
P.6-10 へ

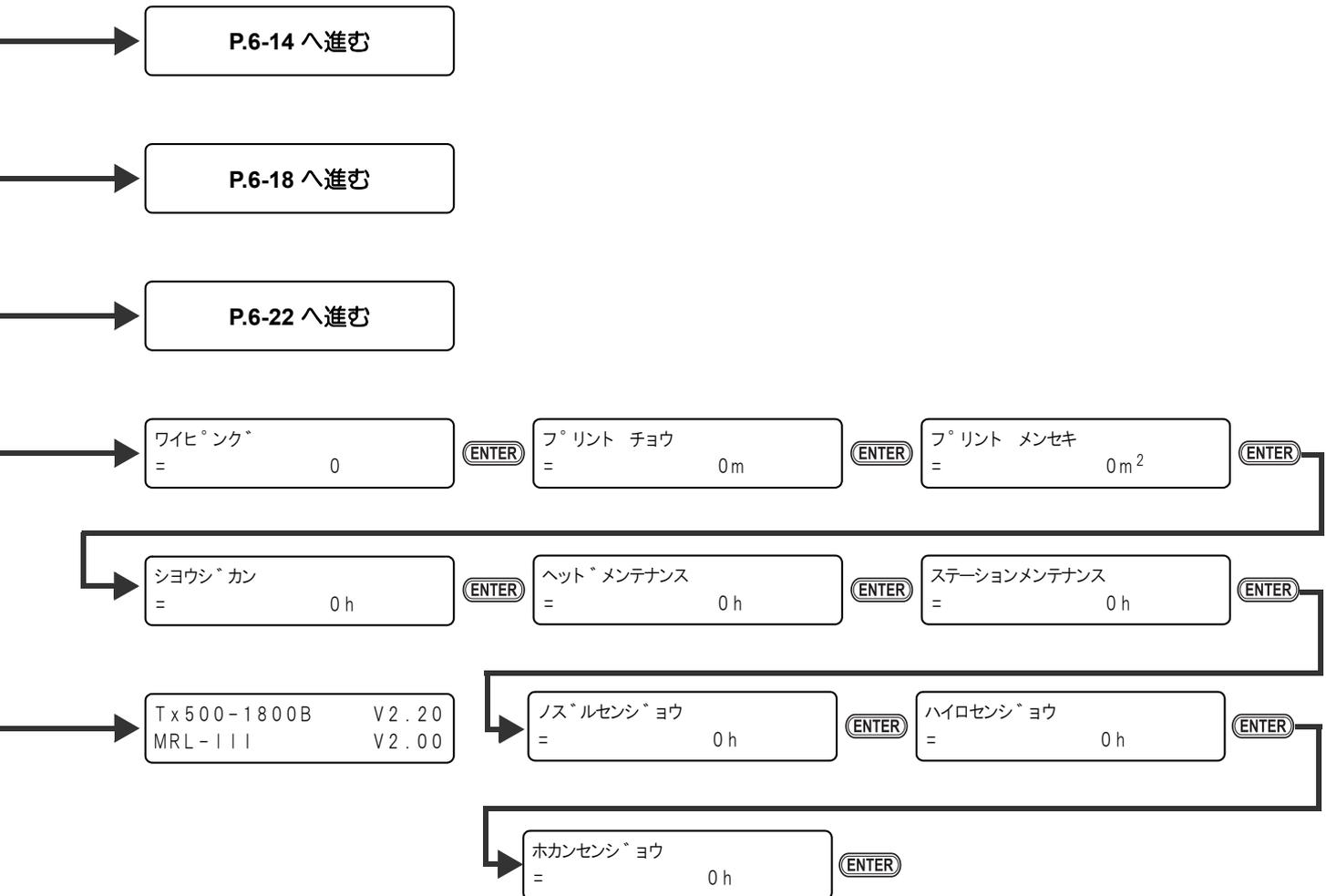


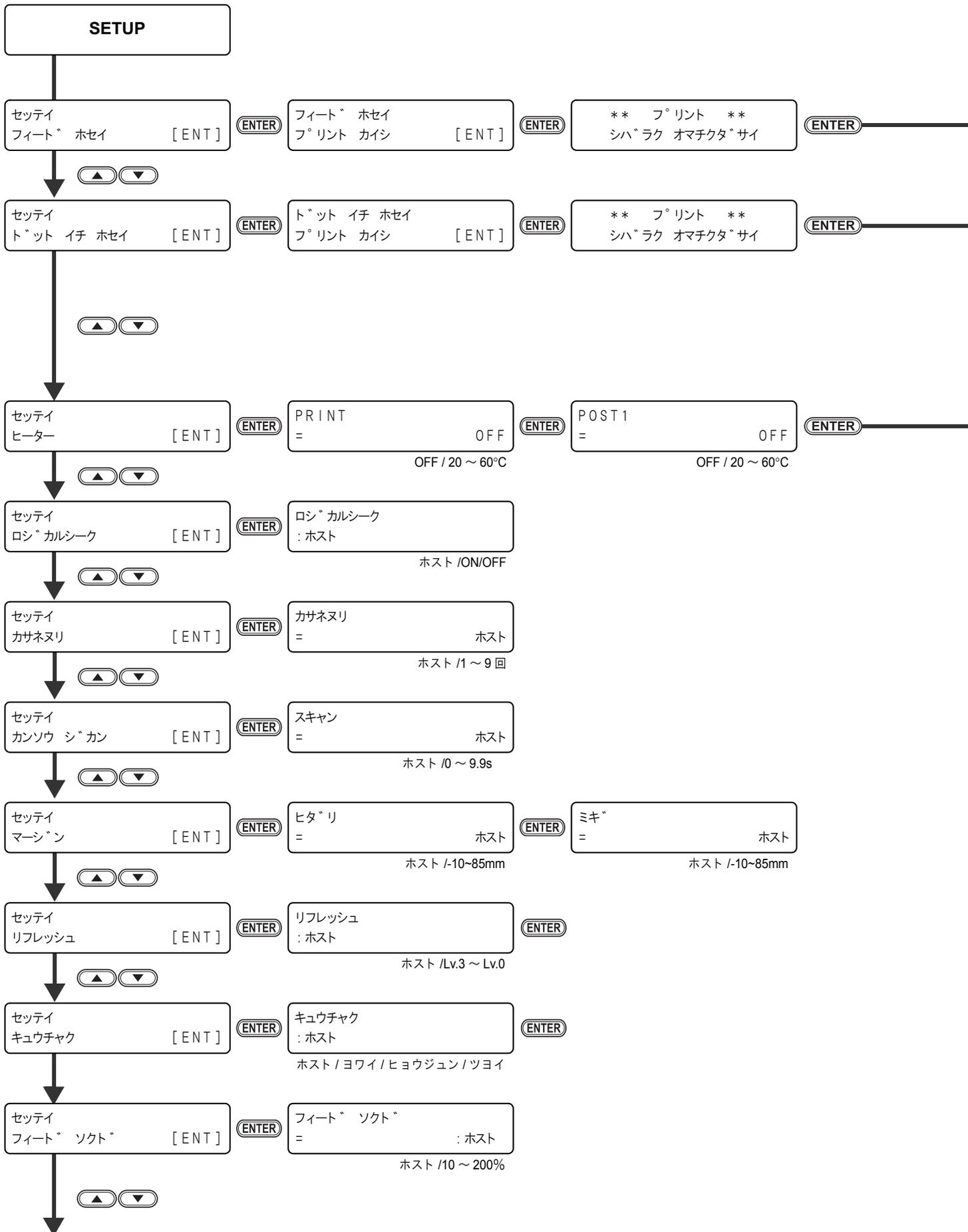
P.6-8 から



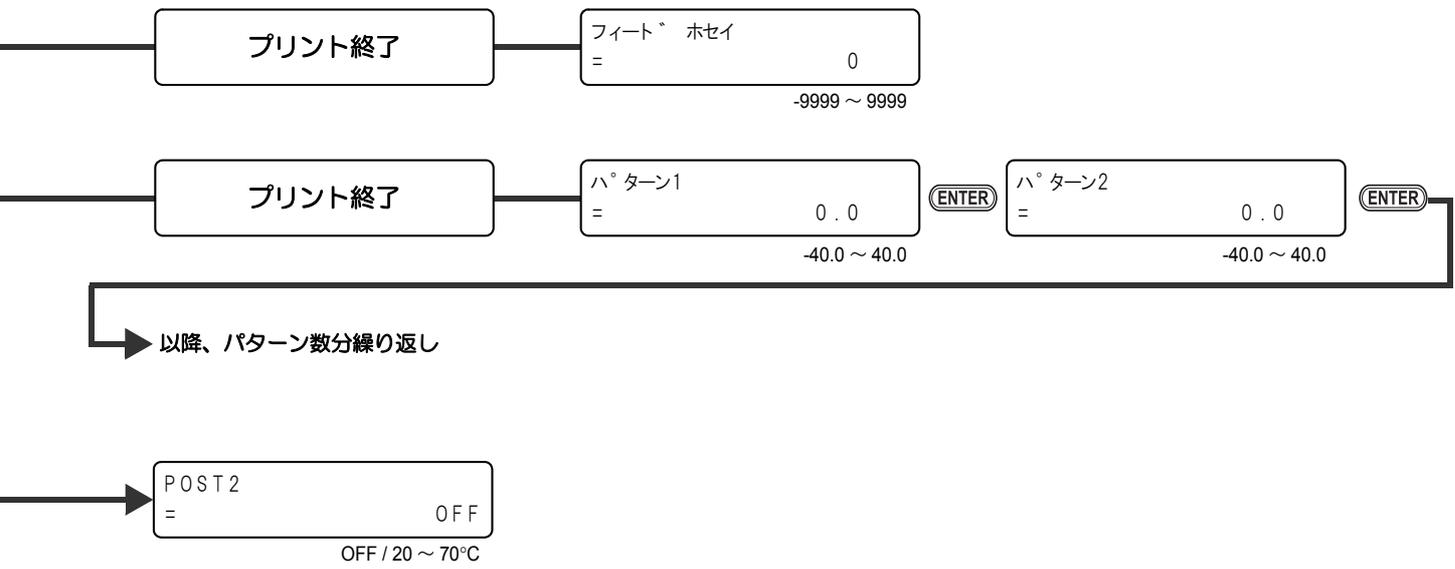




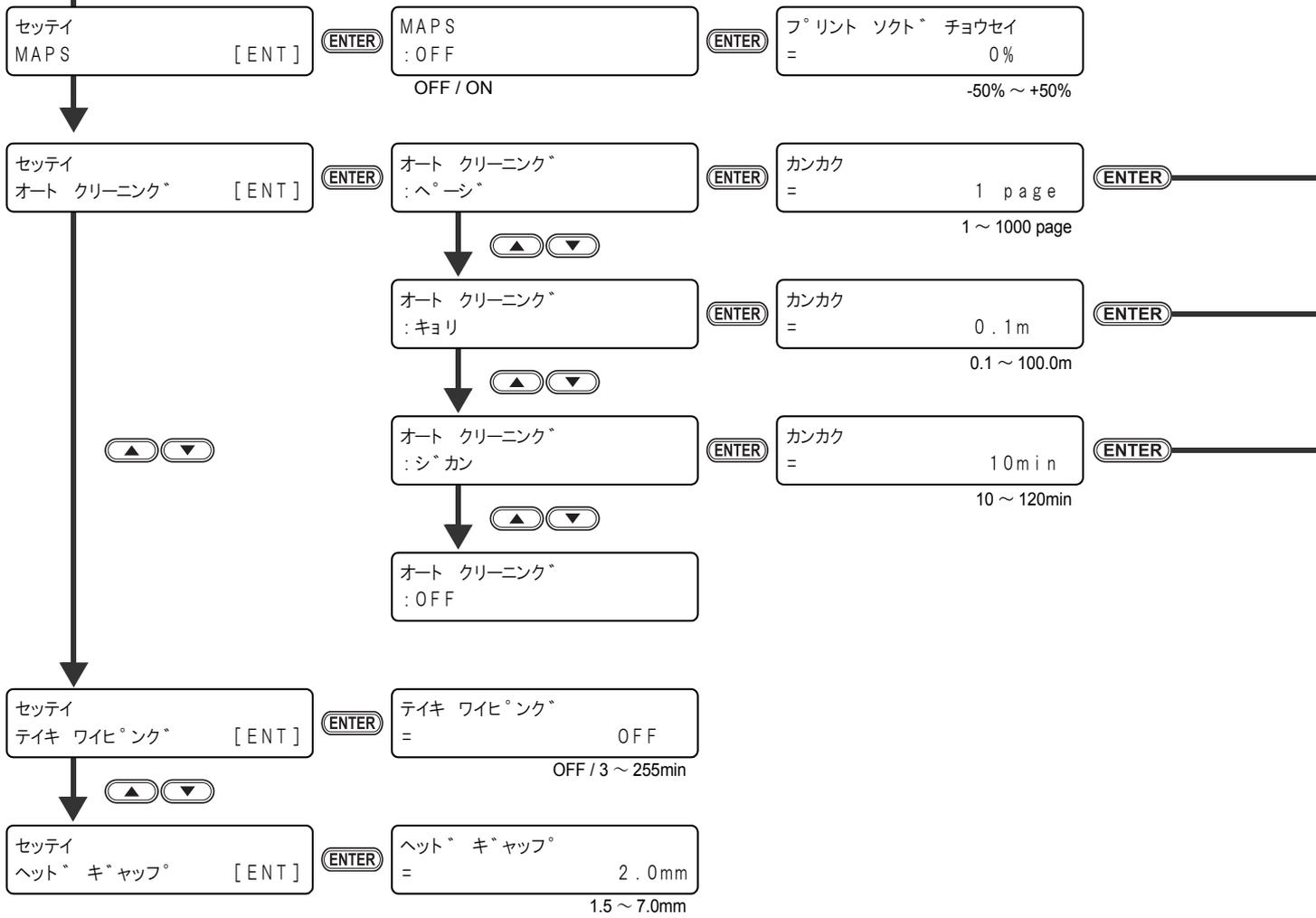




P.6-16 へ



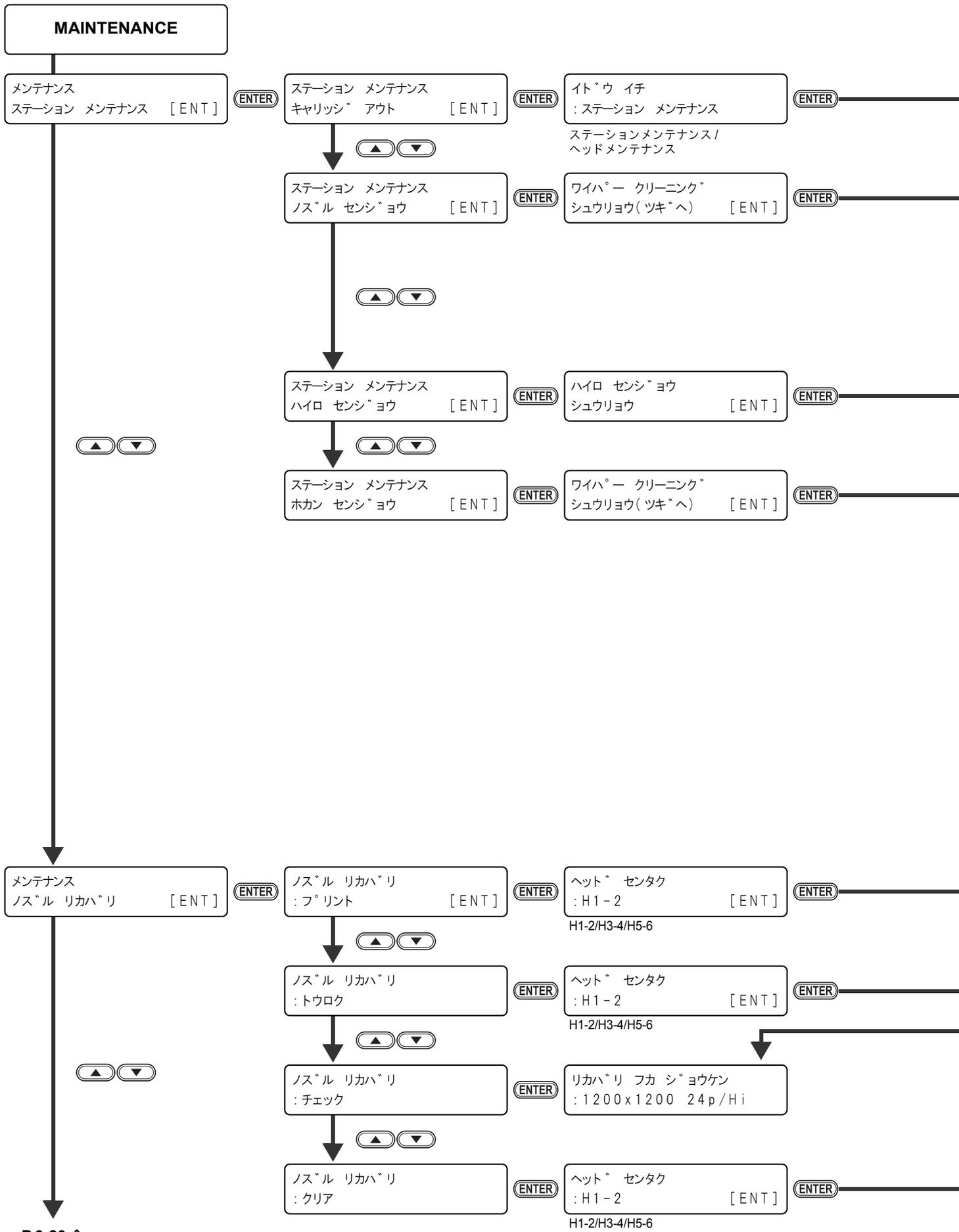
P.6-14 から



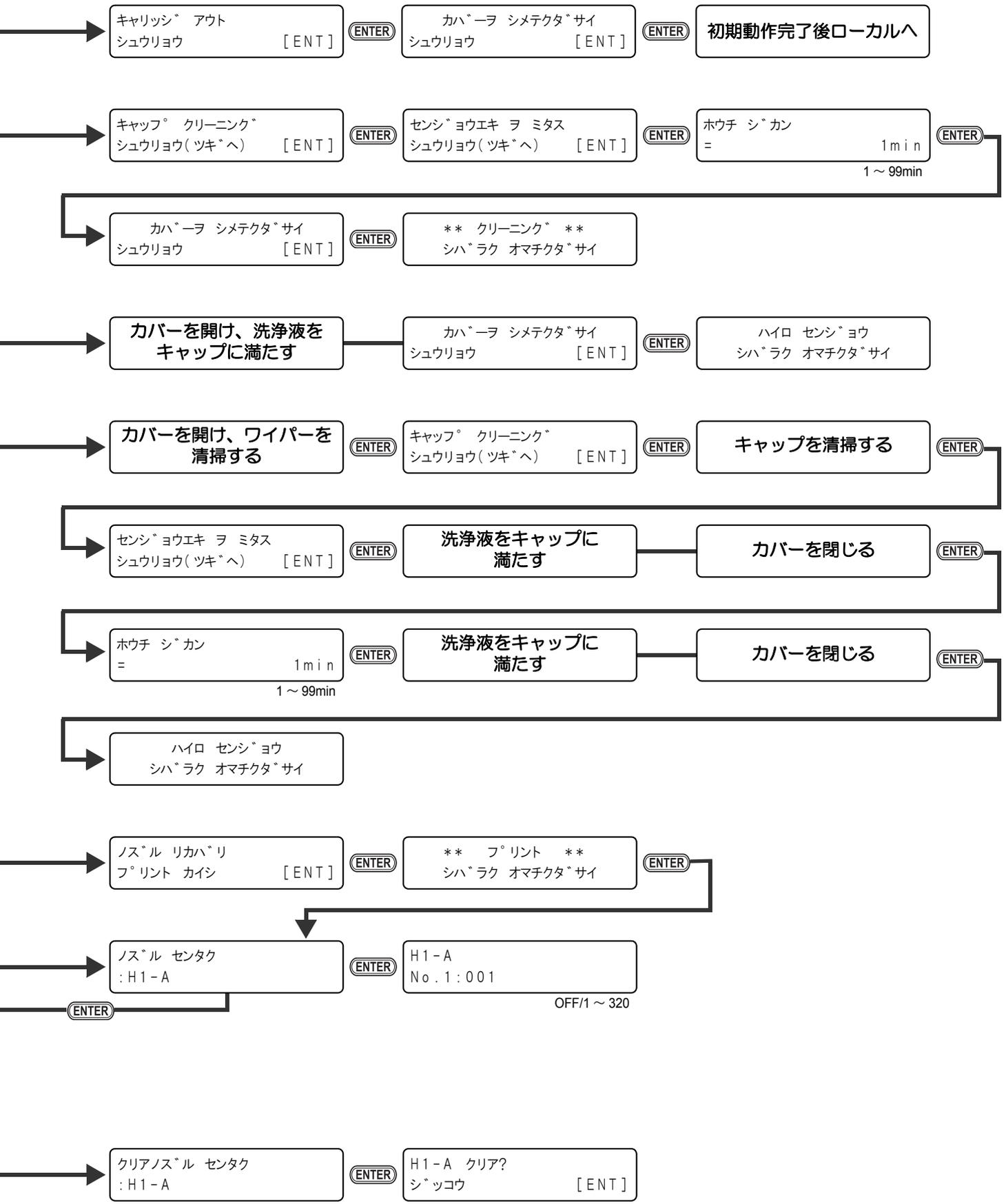
→ タイプ°
=ソフト
ソフト / ノーマル / ハード

→ タイプ°
=ソフト
ソフト / ノーマル / ハード

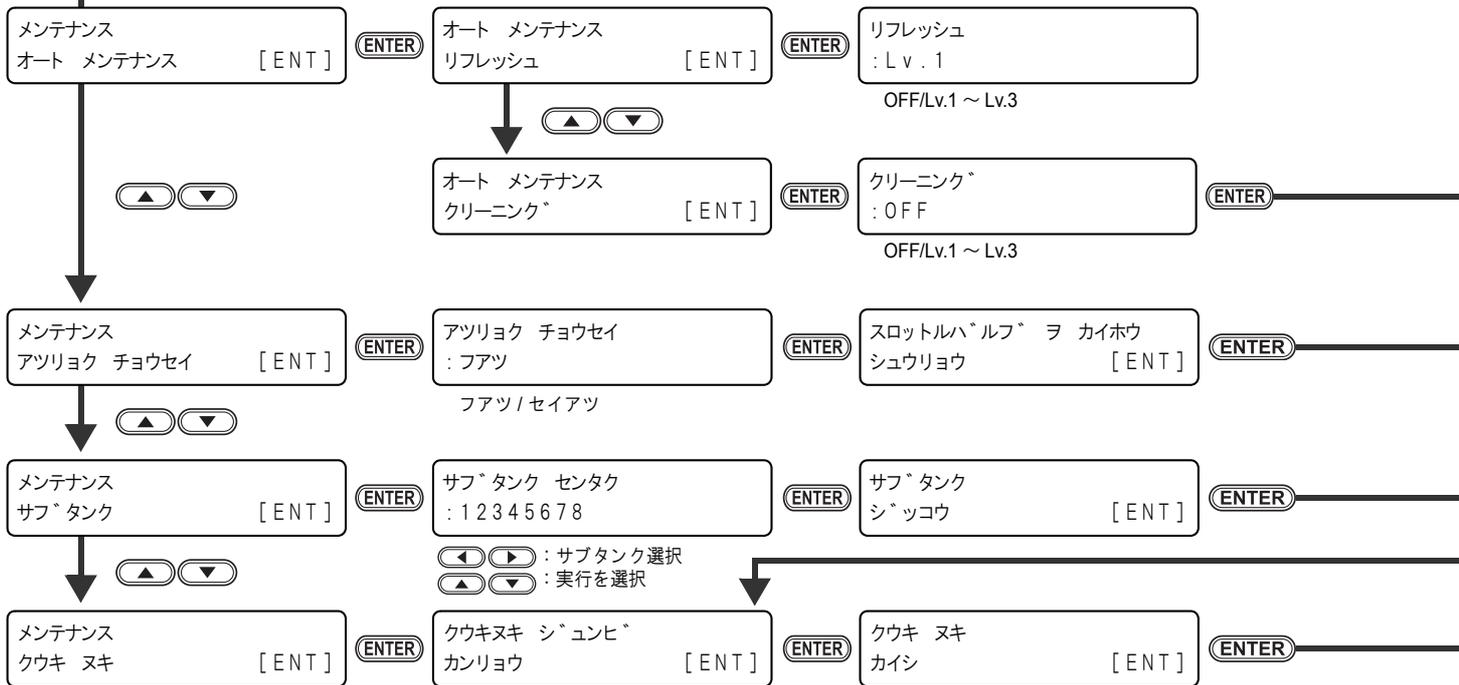
→ タイプ°
=ソフト
ソフト / ノーマル / ハード

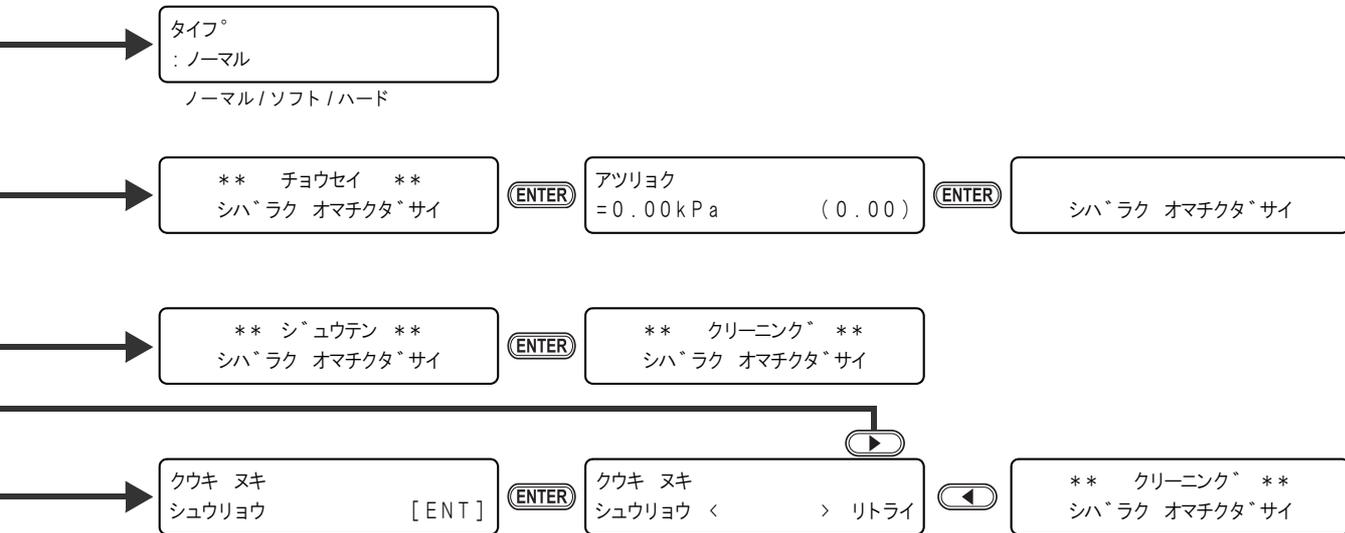


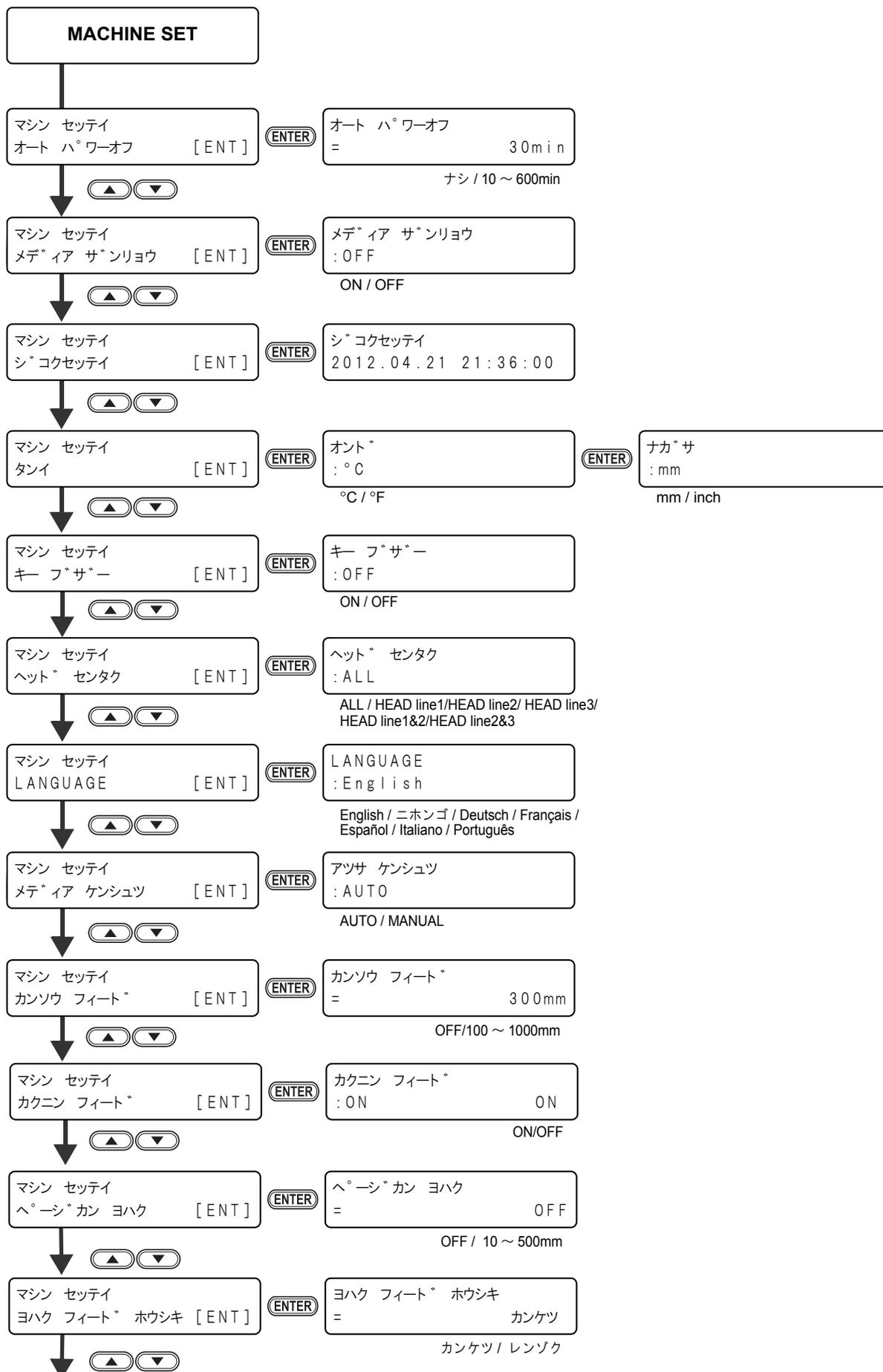
P.6-20 へ



P.6-18 から







P.6-24 へ

P.6-22 から

マシン セッテイ
ネットワーク&メール [ENT]

ENTER

ネットワーク&メール
ネットワーク [ENT]

ENTER

ネットワーク
IP アドレス カクニン [ENT]

ENTER

ネットワーク
MAC アドレス カクニン [ENT]

ENTER

ネットワーク
DHCP [ENT]

ENTER

ネットワーク
AutoIP [ENT]

ENTER

[DHCP][AutoIP] がともに
オフのとき設定可能

ネットワーク
IP アドレス [ENT]

ENTER

ネットワーク
デフォルト ゲートウェイ [ENT]

ENTER

ネットワーク
DNS アドレス [ENT]

ENTER

ネットワーク
サブネット マスク [ENT]

ENTER

ネットワーク&メール
イベントメール [ENT]

ENTER

イベントメール
メール ソウシン [ENT]

ENTER

イベントメール
ソウシン イベント センタク [ENT]

ENTER

P.6-26 へ

P.6-26 へ

P.6-26 へ

IP アドレス カクニン
10.16.168.235

MAC アドレス カクニン
00:0d:1b:00:00:00

DHCP
:オン

AutoIP
:オン

オン,オフ

IP アドレス
0.0.0.0

デフォルト ゲートウェイ
0.0.0.0

DNS アドレス
0.0.0.0

サブネット マスク
:24

プリントスタート イベント
:オフ

オン,オフ

ENTER

プリントイベント イベント
:オフ

オン,オフ

ENTER

エラー イベント
:オフ

オン,オフ

ENTER

ワーニング イベント
:オフ

オン,オフ

ENTER

ソノタ イベント
:オフ

オン,オフ

P.6-24 から



P.6-28 へ



P.6-24 から



P.6-28 へ



P.6-24 から

イベントメール
メール アドレス [ENT]

ENTER



イベントメール
ケンメイ [ENT]

ENTER



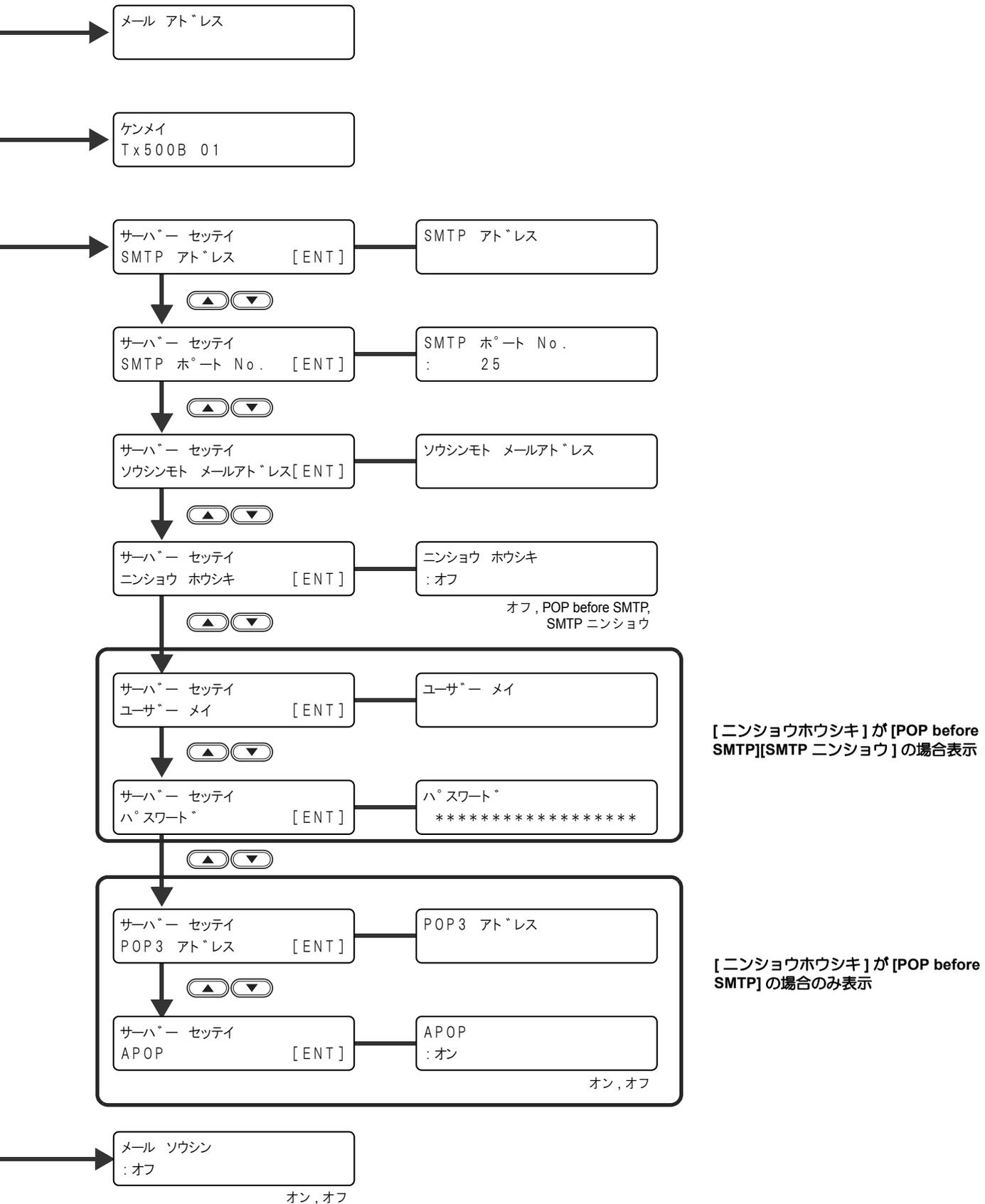
イベントメール
サーバー セッテイ [ENT]

ENTER



イベントメール
テストメール ソウシン [ENT]

ENTER



P.6-26 から



マシン セッテイ
リセット [ENT]



P.6-26 から



ネットワーク&メール
セッテイ ロック [ENT]



セッテイ ロック
ロック : 0000

セッテイチ スペ`テリセツトサレマス
ヨロシイデ`スカ? [ENT]



リセツト
シ`ツコウ [ENT]



設定リセット

索引

I	
IC チップ	1-19
カラー情報	1-19

L	
LANGUAGE	3-11

M	
MAPS	3-5

U	
USB2.0 インターフェイスケーブル	1-15

Y	
Y モーターの清掃	4-25

あ	
圧力異常が発生したら	5-8
安全インターロックについて	xi
安全にお使いいただくために	vii
ご注意とお願い	ix
使用上の警告	viii
使用上のご注意	viii
設置上のご注意	x

い	
イベントメール機能	3-27
イベントメール機能を有効にする	3-27
イベントを設定する	3-28
インクコウカンレポート	3-40
インクについて	
インクの種類	1-22
インクの混色や空気混入による	
ノズル抜けが発生した	5-6
インクボトル取り扱い上のご注意	1-22
インクボトルのセット順	6-4

え	
エラー 618 ~ 61b	5-5
エラーメッセージ	5-15

お	
オートパワーオフ	3-11, 3-13
オートメンテナンス	4-23
オートメンテナンス機能	
クリーニング間隔	4-24
リフレッシュ間隔	4-23
お問い合わせシート	6-5

か	
外装のお手入れ	4-3
各部の名称とはたらきについて	
キャリッジ	1-10
操作タッチパネル	1-7
操作パネル	1-6
操作パネル(メディア搬送部 前面)	1-8
操作パネル(メディア搬送部 背面)	1-9
装置前面	1-4
装置背面/側面	1-5
メディア搬送部電源	1-9
画質不良が発生したときは	5-3
乾燥時間の設定	3-4
乾燥フィード	3-22

き	
キーボード	3-11, 3-18
機能フローチャート	6-8
キャッピングステーション	1-10
キャッピングステーションのメンテナンス	
インク排出路の洗浄	4-11
長期間使用しない場合	
(ホカンセンジョウ)	4-12
ヘッドノズルの洗浄	4-17
ワイパインク受けの清掃	4-9
ワイパーとキャップの清掃	4-6
ワイパーを交換する	4-26

け	
警告ラベル	6-6
言語の設定	3-20
件名を設定する	3-30

こ	
故障?と思う前に	5-2
インクボトルに異常が発生したら	5-4
画質不良が発生したときは	5-3
サブタンク関連のエラー	5-5
電源が入らない	5-2
ノズル詰まりを解消したいとき	5-4
プリントできない	5-2
ヘッド故障エラーが表示したら	5-10
メディアに問題が発生した	5-3
ご注意	v

さ	
サーバーを設定する	3-31
最大プリントエリア	2-11
作業の流れ	2-2

し	
ジコクセッテイ	3-11
ジコクの設定	3-16
自動機能	2-6
受信障害	V
仕様	
インク仕様	6-3
本体仕様	6-2
使用環境温度	1-2
使用状況	3-40, 3-42
情報を表示させる	3-43
情報を表示する	3-43
初期状態に戻す	3-39

す	
ステーション メンテナンス	4-6

せ	
設置場所について	1-2
設定機能一覧	3-2
設定ロック	
パスワードを解除	3-38
パスワードを設定する	3-37

そ	
装置の固定	1-3
装置の使用状況を確認する	3-40
装置のバージョン情報を確認する	3-42
双方向プリントのドット位置を調整する	2-36

た	
タンイ	3-11, 3-17

ち	
地張り剤の接着力が弱くなったら	4-29, 4-31
長期間使用しないときは	4-4
長期間使用しなかった後に本機を 使うときは	4-5
本機を2日間使用しない場合	4-4
本機を3日以上使用しない場合	4-5

て	
データクリア	2-39
データをプリントする	2-38
テストフィード	2-30
テストプリント	2-31
テストメールを送信する	3-35
電源ケーブル	1-16
電源を入れる	2-3, 2-27
電源を切る	2-5, 2-27
電波障害自主規制	V

と	
ドット位置補正	2-36
取扱説明書について	vi

に	
日常のお手入れ お手入れ上のご注意	4-2

ね	
ネットワークの設定	3-25

の	
ノズル面の清掃頻度を設定する	3-9
ノズルリカバリ	4-19

は	
バージョン	3-40
バージョン情報	3-42
廃インクタンク確認メッセージ	4-27
廃インクタンクを交換する	4-27
ハイロセンジョウ	4-11
パス間のシマを軽減する	3-5

ひ	
引き剥がしセンサのクリーニング	4-30

ふ	
フィード補正の設定	2-34
電源を切る プリンタ部の電源を切るときのご注意	2-5
プリント結果	2-32
プリントを開始する	2-38
プリントを中断する	2-39

 へ

ヘッドメンテナンス	4-15
ヘッドギャップ	2-23
ヘッドクリーニング	2-33
ヘッドライン	3-19
ベルトエンコーダ	3-7

 ほ

ホカンセンジョウ	4-12
補助機能	2-7
エアブレード	2-9
センタリング機能	2-7
ベルト洗浄	2-9
ベルトヒータ	2-10
メディア検出機能	2-8
本装置の移動	1-3

 ま

マーク表示	vii
マシン設定	3-11, 3-24

 め

メールアドレスを設定する	3-29
メディア	
メディアをカットする	2-25
メディア残量	3-14
メディア送り量を変更	3-7
メディアケンシュツ	3-21
メディアザンリョウ	3-11
メディア残量表示	3-14
メディア残量表示の設定	3-14
メディアセットの概要	2-12
メディアセンサーの清掃	4-3
メディアについて	
使用可能メディア	1-23
使用制限のあるメディア	1-23
メディア厚さと残量の入力	2-25
メンテナンス洗浄液	4-2

 よ

余白部分のフィード方式	3-24
-------------	------

 り

リセット	3-39
------	------

 ろ

ロジカルシークの設定をする	3-3
---------------	-----

 わ

ワーニングメッセージ	5-12
ワイパーを交換する	4-26

Tx500-1800B 取扱説明書

2016 年 9 月

発行者 株式会社ミマキエンジニアリング
発行所 株式会社ミマキエンジニアリング
〒 389-0512
長野県東御市滋野乙 2182-3

